

# 研 究 編

第 1 章 研究抄録関係

第 2 章 研究発表関係



# 第1章 研究抄録関係

## 1. 病院における研究（課題別研究費）

### <研究課題1>

がん治療におけるインターベンショナル・ラジオロジーの応用についての研究

Clinical evaluation of interventional radiology in oncology

### <研究者氏名>

所属部 放射線診断・IVR部

研究者氏名 稲葉吉隆

共同研究者 村田慎一、佐藤洋造、山浦秀和、小野田 結、加藤弥菜、長谷川貴章、金原佑樹、守永広征、山口久志、今井勇伍

### 【目的】

がん診療における新規抗悪性腫瘍薬の開発は目覚ましく、特に分子標的治療薬の登場により、腫瘍病変の分子標的の探索が治療方針決定に際して必要不可欠となってきている。そのため、診断名の確定のためだけでなく、その都度の治療に際して遺伝子病理診断も必要となり、そのための組織検体が要求される。従来、検体採取のための生検は、初回治療前に患者の状態も比較的良好時に実施されることが殆どであったが、上記のように二次治療や三次治療以降の患者の状態が必ずしも良好とはいえない状況での生検を行わざるを得なくなってきている。いかに侵襲なく、かつ確実に生検を行うことができるかが課題となるが、治療歴のある症例でのIVRによる再生検の実行性を後方視的に検証した。

### 【方法】

平成27年1月～12月に生検を実施した化学療法歴のある131例を対象とした。症例の内訳は肺癌56例、悪性リンパ腫31例、消化器癌17例、その他27例であった。生検法としては、CT透視ガイドに生検針を穿刺し検体を採取したものが56例、超音波ガイドで実施したものが75例であった。全例で18G半自動型生検針を使用した。生検部位は、腫瘍形成が確認されたリンパ節が42例、肺が40例、肝が26例、その他が23例であった。

これら131例での生検手技の成功率、合併症の有無、生検検体における診断能について調査した。

### 【結果】

病理組織診断が可能な検体が採取できたのは131例中126例で、96%の症例で診断が得られた。さらに、免疫染色や遺伝子検査など詳細な検討を要した109例中108例（99%）で十分な検体が得られていた。手技に伴う合併症は131例中9例で生じており、発生率は7%であった。気胸が6例、血痰が3例であり、すべて肺病変に対する手技であったが、追加処置の必要なものはなかった。

### 【考察】

同時期に実施した化学療法歴のない183例に対する生検での、病理組織診断可能率は94%（172/183）で、合併症発生率は14%であり、処置を要するものも4例見られた。

検体採取率や診断能は化学療法歴の有無により変わりはなく、画像誘導下での生検では、画像的に穿刺可能な病変であれば、治療歴や病態の変化には影響されないものであった。合併症には差を認めたが、化学療法前は肺病変から、化学療法後はリンパ節転移等の体表に近い病変を標的することが多かったためと考えられた。化学療法後の患者は、病態的に進行した状況であるため、可能な限り安全な経路からの検体採取が求められ、それには十分対応できており、再発・治療不応症例での生検の実行性が確認された。

### <研究課題2>

治療感受性と再発リスクによる乳癌術後補助療法の選択に関する研究

The selection of adjuvant therapy for breast cancer, based on the treatment sensitivity and the relapse risk

### <研究者氏名>

所属部 乳腺科部

研究者氏名 岩田広治

共同研究者 澤木正孝、服部正也、吉村章代、石黒淳子

### 【1年間の総括】

この1年間で乳癌の術前後薬物療法に関して日常臨床を変えるような新たな臨床試験の結果はほとんど報告されなかった。

#### 1：術後内分泌療法

報告：閉経前乳癌に対してはTAMの5年投与、リスクの高い方や年齢の若い方（40歳以下）にはLH-RHa+TAMの併用が標準治療として定着し、カンファレンスでも議論になることは少ない。5年から10年の長期投与についても、リンパ節転移陽性など再発リスクの高い方へは積極的に長期投与を推奨している状況である。閉経後乳癌に対してはAI剤の5年から10年投与が標準治療であり、2016年のASCOでEBCTCGから40,000人を超える長期再発リスクに関するメタ解析のデータが報告された。術後5年間のホルモン療法では、その後20年までの間にT1N0のような低リスクのグループでも20年で14%（年1%の増加）の遠隔再発の危険性があることが示された。長期投与による有害事象の増加とのリスクベネフィットバランスを考慮した選択が必要である。

#### 2：術後化学療法に関する研究

報告：“luminal B like 乳がん”と定義される乳がんにおける化学療法の適応を判断するOncotypeDXの使用が徐々に増加してきた。早期の保険承認が望まれる。High risk患者に対して術

前化学療法を施行後non pCRであった方へのゼロダ投与が、既に標準治療と位置付けられるにいたっている。今後の課題として、G-CSF併用によるdose-dense therapyを導入するかどうかの検討が必要である。

### 3：術後分子標的治療に関する研究

報告：術後Trastuzumab 1年投与後が標準治療であることに変わりはない。併用する化学療法のレジメンは、再発リスクのあまり高くない方には、weekly Paclitaxel+Trastuzumabレジメンが積極的に導入された。アドリマイシンを省くことによる長期心毒性の回避が重要な観点である。

### 4：術前化学内分泌療法に関する研究

報告：閉経後ホルモン感受性乳癌では術前ホルモン療法の効果で術後の抗がん剤の必要性を検証する第III相多施設共同比較試験（NEOS study：PIは岩田）の登録が終了し、経過観察中である。術前化学療法を施行する患者の選択も、概ね確立された感があり、手術前にpCRの判断が正確にできるかどうか今後の課題である。

## <研究課題名3>

臨床検査における各種癌診断手法の改善、開発  
Investigation for methods of cancer diagnosis in clinical laboratories

## <研究者氏名>

所属部 臨床検査部  
研究代表者 谷田部 恭  
共同研究者 亀井慶子、尾関順子、長谷川かおり、柴田典子、藤田奈央、村上裕美、野中綾子

## 【研究成果】

臨床検査部では各部門別に、本年度に得られた成果および研究経過を報告する。

生化学部門では、アミラーゼ（AMY）と膵アミラーゼ（P-AMY）、PIVKA II の測定試薬に関する検討を行った。AMY、P-AMYについては、IFCCおよびJSCC勧告法と同一の基質を成分とする試薬に変更するため、現行試薬との相関をとった。相関は良好で、試薬を変更することとなった。測定試料の反応性が勧告法に対する互換性を有することとなり、施設間差の是正（標準化）もより確実となった。また、PIVKA II については、測定試薬を、同一メーカーが販売する改良試薬に変更するため、現行試薬との相関をとった。相関は良好で試薬を変更することとなった。現行試薬はポリクローナル抗体を使用していたが、新試薬はモノクローナル抗体を使用しており、特異度が上がり、より臨床症状に合致したものとなった。

血液検査部門では、新規に自動凝固線溶測定装置が追加導入されたことで時間外の凝固検査依頼に対応することができるようになった。以前はAPTTの的手法のみであったが、PT、APTT、フィブリノゲン、FDP、Dダイマーと時間外測定項目を増やすことが可能となり、手術後や緊急時の凝固検査依頼に迅速に対応することができ、臨床に大きく貢献できるようになった。また凝固検査用の採血時に、検体過少で再採血を依頼

することが多々あるが、血液検査室から採血方法についてのアドバイスを発信することで、凝固検査用検体の再採血件数を減らすことができた。

生理検査部門では、乳癌の腫瘍内血流から超音波ドプラ法で得られるPI（pulsatility index）、RI（resistance index）とリンパ節転移との関連性について検討した。【対象と方法】2013年から2015年に術前検査で超音波ドプラ法を行い、PIとRIが計測可能であった浸潤性乳管癌（99例）を対象とした。腫瘍内に入り込む血流にサンプルボリュームを置き、角度補正を行わず自動トレース機能を使用しPIとRIを測定した。PI、およびRIを数値順で10段階に分類し、リンパ節転移陽性率との関連性をスピアマンの順位相関係数を求め検定した。【結果と考察】PI、RIともに数値が高くなるとリンパ節転移陽性率が高くなる傾向があり、1%有意水準で関連性を認めた（PI：rs=0.92、RI：rs=0.89）。乳癌の新生血管は間質を伴って増生し、弾性に乏しく末梢血管抵抗が増大するため、PI、およびRIの数値が高くなると考えられている。今回の検討で、新生血管の発達がりんぱ節転移に関与する因子のひとつである可能性が示唆された。

病理検査室では、通常のHE染色に加え、癌の確定、補助診断さらには治療薬選択に欠かせない免疫組織化学染色（IHC）を行っている。今年度は肺癌の重要なドライバー遺伝子の一つであるROS1融合遺伝子を検出するIHC法について検討を行った。融合遺伝子の検出方法には直接融合遺伝子を検出するRT-PCR法とFISH法、NGS法などがあるが、費用、手間などの点ですべての検体に実施することは実用的ではない。そこで簡便な方法であるIHC法のスクリーニング法としての有用性および染色性を現在稼働している3種の自動染色装置を使用して比較検討した。その結果、Leica社の自動染色装置を用い、CST社の抗ROS1（D4D6）抗体を用いることにより、多数の検体を同時にスクリーニング可能であることが判明した。この結果を受け、肺癌症例に関して、遺伝子検査の依頼と同時にIHC法にてROS1融合遺伝子のスクリーニングを実施している。

細胞診検査部門では、体腔液における乳癌細胞の出現様式およびサブタイプとの関連について検討した。体腔液にはさまざまな腫瘍が浸潤するが、日常業務においては腫瘍細胞の出現様式や核異型を指標に反応性中皮細胞との鑑別や原発巣の推定を行っているのが現状である。対象とした乳癌はマリモ状の細胞集塊を形成することが特徴とされるが、今回の検討ではマリモ状集塊の出現頻度は約20%の症例にとどまり、多くは他臓器の腺癌と同様に小乳頭状集塊を主体とした。またほとんど細胞集塊を形成せず反応性中皮細胞との鑑別が問題となる孤立散在性症例も25%を占め、さまざまな出現形態をとることが示された。サブタイプとの関連においては、核異型が軽度なホルモンレセプター陽性のLuminal typeが約80%と最も多く、より注意深く観察する必要があると考えられた。今回の検討結果を日常の細胞診断業務に取り入れていく。

細菌検査部門では、血流感染症の診断精度を高めるため、血液培養の複数セット採取を推進した。血液培養を複数セット採取する意義は、起因菌の検出感度の向上、皮膚常在菌による汚染菌と起因菌の判断が容易になることが挙げられる。

当センターの複数セット率を、血液培養検体の検体ラベルの

発行時間が3時間までのものを2セットとし、血液培養2セットの保険点数算定が適応となった2014年4月から2017年7月まで調査した。各診療科別に実施率の状況、検出菌の割合などの提示も行った。

多くの施設では2セット率は70%以上である中、当センターでは、約35%であった。そのため、2016年に2月に感染防止委員会各診療科に2セットの採取を依頼し、2016年度には47%と改善した。さらに、2017年5月に実施率の低い診療科（病棟）を中心に、血液培養の勉強会を開催するなど、実施率の向上に取り組んだ。その結果、取り組み後の2セット率は、63%（2017年4月～7月）となっており、一定の成果を得た。引き続き、血流感染症の精度向上に向けて血液培養の複数セット採取を推進していく。

遺伝子検査部門では主に分子標的薬の効果予測としての遺伝子検査を行っており、その検査方法や、測定項目は年々変化している。平成27年度に導入した次世代シーケンサでは、DNAからは一度の測定で92の遺伝子変異について測定可能であり、これまで解析できなかった領域の遺伝子変異も検査可能となった。RNAからは83の遺伝子変異について測定でき、さらにALK, RET, ROS1のような融合遺伝子の検出も可能である。使用する試薬によっては、sarcoma遺伝子の解析も可能であることも確認し、日常検査に導入できるよう検討を続けている。遺伝子検査分野は新しい検査項目が増えているため、当検査室でもそれに対応出来るよう、新しい検査法の検討・導入を行っている。

#### <研究課題名4>

骨軟部悪性腫瘍におけるゲムシタピンとドセタキセル併用療法についての検討

Gemcitabine and Docetaxel therapy for bone and soft tissue sarcoma

#### <研究者氏名>

所属部 整形外科部

研究代表者 筑紫 聡

共同研究者 吉田雅博、小澤英史、鈴木周一郎

#### 【目的】

軟部肉腫の化学療法において、doxorubicinとIfosfamideは標準的治療薬として有効性と有害事象は多数の報告があるが、GemcitabineとDocetaxel併用療法（以下GD療法）に関する報告は少ない。今回、骨軟部悪性腫瘍のGD療法における有効性と有害事象について検討したので報告する。

#### 【方法】

2005年～2015年に当院および関連病院でGD療法を行った骨軟部悪性腫瘍27例につき検討した。内訳は男性11例、女性16例、平均年齢50歳（15-76歳）で、経過観察期間は5-123ヶ月であった。GD療法はday 1、day 8で投与して3～4週のサイクルで1クールとし、平均5.3クール（1～13クール）施行した。病理組織像、有効性、無増悪生存期間、有害事象（血液毒性、非

血液毒性）、転帰について調査した。

#### 【結果】

病理組織型は平滑筋肉腫8例、骨肉腫3例、粘液型脂肪肉腫、骨外性Ewing肉腫、未分化多型肉腫、血管肉腫各2例、その他8例であった。有効性はCR1例、PR1例、SD13例、PD12例であり、無増悪生存期間は平均7.7ヶ月（3～12ヶ月）であった。Grade 3以上の有害事象は好中球減少が14例（52%）、血小板減少が5例（19%）、貧血が5例（19%）、皮疹、下肢浮腫、間質性肺炎が各1例（11%）であった。転帰はNED3例、AWD15例、DOD9例であった。

#### 【考察】

自験例での骨軟部悪性腫瘍に対するGD療法の無増悪生存期間は7.7ヶ月で諸家の報告である6.2～12.1ヶ月と同様の有効性であった。有害事象に関しては好中球減少が52%と高頻度であったが、最近ではG-CSFの予防的投与で好中球減少の頻度は低下している。Grade 3以上の非血液毒性は皮疹、下肢浮腫、間質性肺炎の各1例であったが、休薬で対応が可能であった。GD療法は有害事象の頻度が低く、比較的使用しやすいレジメンと考えられた。

#### <研究課題5>

病理細胞診断における分子腫瘍診断法の研究

Development of molecular analysis on cancer diagnosis

#### <研究者氏名>

所属部 遺伝子病理診断部

研究代表者 谷田部 恭

共同研究者 佐々木英一、村上善子、羽根田正隆

#### 【背景】

近年の分子生物学の飛躍的な発達により、がんの発生・悪性度の評価・薬剤応答性などの知見が蓄積され、それは現在も増えつつある。これら情報の一部は実臨床に直結しており、その応用により適切な診断・治療に結びつくものも多い。そこで、これらの知見を検証した上で、実際の病理診断、細胞診断に導入、応用することを目標に掲げた。その際に、診断に用いられる臨床検体は、生検検体などの小さな組織を利用しなければならなかったり、正常細胞が多数混じっているなどの問題点も多い。そこで、それらの点を踏まえた新たなアッセイ系の確立を検討した。

#### 【方法】

本年度はROS1融合遺伝子検出アッセイ系について検討した。ROS1融合遺伝子については、近年この遺伝子変化に対するcrizotinib応答性が高いことが報告され、保険承認されている。しかしながら、非小細胞肺癌の1%程度の低い頻度であり、感度の良いスクリーニングを行った上での精密検査を行う方法の確立を試みた。我々の報告を含む研究によってROS1 IHCは感度が高いが特異性に問題のあるアッセイであることが知ら



れているが、その検出系の種類によっては感度を保ち、特異性を上げる工夫もできる。また、精密検査として、コンパニオン診断薬となっているRT-PCRキットを用いて次世代シーケンサーによる結果との一致率を検討した。

#### 【結果】

当施設にはVentana, Leica, Dakoの3つの自動免疫染色装置を保有しているが、それぞれの至適条件を確定した後、ROS1発現レベルの異なる19例を用いてそれぞれの検出系ごとの感度、特異度を検定した。その結果、Leica platformでの検出が最も効率よく検出できることがわかった。また、コンパニオン診断RT-PCRキットと次世代シーケンサーの結果の比較においては、概ね一致するものの、一部の症例ではコンパニオン診断RT-PCRキットでは検出できないサンプルもあることが判明した。偽陰性となった原因については、RNA量や質とも関係がなく、アッセイ系そのものに原因があることが示唆された。

#### 【考察】

ROS1融合遺伝子陽性肺癌に対するCrizotinibの高い効果を得るために、IHCによるスクリーニング、遺伝子検査による確認という検出系を確立した。体外診断薬として認可されているキットでは検出が不十分な場合があることが判明し、次世代シーケンサーを含む他の検出系との使い分けがこれからの課題であることがわかった。

#### <研究課題6>

トモセラピーを用いた強度変調放射線治療の臨床応用  
Clinical application of IMRT using Helical Tomotherapy

#### <研究者氏名>

所属部 放射線治療部  
研究者氏名 古平 毅  
共同研究者 立花弘之、富田夏夫、牧田智誉子

#### 【はじめに】

当院では2006/6にトモセラピー（TomoTherapy社 TomoTherapy Hi-Art System）が設置されて以来、臨床例のIMRTによる治療を開始してきた。今回われわれはIMRTの治療効果とその有用性の指標である唾液腺機能を評価検討し当院での頭頸部IMRTの臨床的評価を試み、臨床的有用性・妥当性の評価を行うことを目的とした。

#### 【方法】

我々は今回IMRTの臨床的評価の目的で咽頭がんおよび頭頸部リンパ腫症例に対し、治療前後での唾液腺機能評価の目的で唾液腺シンチグラフィを実施してきた。

2006/6-2016/12に頭頸部癌に対しヘリカルトモセラピーを用い815例の頭頸部癌へのIMRT治療の経験を得た。上咽頭および中咽頭はIMRTによる耳下腺の線量低減のメリットが大きいと考えられ、積極的にIMRTの適応を勧めてきた。誌面の関係で頸部食道癌の成績を紹介するにとどめる。対象は2002年以

降2014年までに化学放射線療法を行った頸部食道がん患者で年齢は中央値65歳（41-83）、男性57：23という内訳だった。予後調査の解析時点で観察期間中央値は24.6月、2年粗生存率はIMRT群で81.6%、三次元照射群で66.1%で2年無増悪生存率は45.7と36.5%であった。再発形式の分析では通常より上位頸部の再発が目立ち今後の治療計画に資する研究結果であった。

#### 【まとめ】

当院におけるトモセラピーを用いた頭頸部癌のIMRTにおいて治療効果および治療後QOL改善の点で、その高い臨床的有用性が示された。

## 2. 研究所における研究（人当研究費）

### 疫学・予防部

#### <研究課題> 1-1

(主題) がん対策の企画・評価に必要な地域がん登録資料を活用した、がんの流行と転帰の分析

(副題) 日本の肝がんの罹患動向の分析

#### <研究者氏名>

田中英夫、伊藤秀美<sup>1)</sup>、中川弘子<sup>2)</sup>、片野田耕太<sup>3)</sup>

#### <目的・概要・進捗状況>

日本の肝がんの罹患率の変化・推移は、C型およびB型肝炎ウイルス（以下、HCV、HBV）の一般集団での感染率で規定されると考えられる。精度の高い直近の地域がん登録資料を用いてその罹患動向を分析する。

厚労科研補助金事業「全国がん登録の活用によるがん及びがん診療動向把握」研究班により収集された山形、福井、長崎県の1993～2012年の肝がん（C22）のデータを用いた。罹患率の屈曲点（暦年）は、Joinpoint解析を用いた。また、死亡率のトレンドは人口動態死亡統計によった。

肝がんの年齢調整罹患率は、男女とも1990年代半ば頃をピークとして明らかに減少していた（年率、男-2.0%、女-1.6%）。このトレンドは、男女とも約4年のタイムラグを置いて死亡率のトレンドが後を追っていた。出生年代別の分析から、これらのトレンドをもたらした要因は、高いHCV保有率を有する世代の高齢化で説明が可能であった。また、1940年代生まれの男の死亡率が高い傾向を示したが、これは戦中～終戦直後の低栄養によるHBV垂直感染に起因すると推測した。

#### <今後の方向>

2002年以降のC型慢性肝炎に対する治療効果の向上の影響を加味した、肝がん罹患率の将来予測を行う。

<sup>1)</sup> 遺伝子医療研究部、<sup>2)</sup> リサーチレジデント、

<sup>3)</sup> 国立がん研究センター

#### <研究課題> 1-2

(主題) がん対策の企画・評価に必要な地域がん登録資料を活用した、がんの流行と転帰の分析

(副題) 愛知県における2012年のがん有病者数の推計

#### <研究者氏名>

中川弘子<sup>1)</sup>、伊藤秀美<sup>2)</sup>、松田智大<sup>3)</sup>、山口通代、小井手佳代子<sup>4)</sup>、近藤良伸<sup>4)</sup>、田中英夫

#### <目的・概要・進捗状況>

1980年代より、がんは日本の男性と女性の両方で死亡原因の

第1位である。がんの早期発見と治療進歩が近年のがん患者の予後を改善したことで、がんの有病数の増加が予想され、がん有病者数を把握することは医療資源の適正配分に基づく医療計画の策定などががん対策において極めて重要である。罹患率および生存率を用いて有病数の推計が可能であるが、地域ごとの有病数のモニタリングはほとんど行われていない。そこで、我々は愛知県地域がん登録データを用いて、2012年における愛知県のがん有病者数の推計を行った。愛知県地域がん登録は愛知県人口約740万人をカバーする。我々は、がん登録室よりデータ提供された罹患数、生存率データを利用した。5年有病数は、一定期間（5年）以内に診断され、生存している推計患者数と定義した。罹患は年央に生じると仮定し、罹患から1-5年時点での罹患率および5年生存率より、Pisaniらによる有病数推計に基づいた公式により5年有病者数を算出した。2012年末における有病者については、2008-12年の罹患数、生存率は2006-08年生存率データを用いカプランマイヤー法を使用することで実測生存率を算出した。2012年における愛知県内のがん患者の推計有病者数は、男性68,013人、女性52,490人、合計で120,503人であった。部位割合は、大腸がんが18.0%と最も多く、胃がん（13.4%）、乳がん（12.6%）、前立腺がん（12.1%）が続いた。男女別では、男性では前立腺がんが21.5%と最も多く、次いで大腸がん（18.5%）と胃がん（17.0%）であった。女性では、乳がんが28.6%と最も多く、次いで大腸がん（17.4%）、胃がんと子宮がん（8.8%）の順であった。65歳未満の若年有病者割合は、女性で全体の48.4%占めており、男性の32%と比較し、女性では若年のがん有病者が多い傾向であった。主要12部位のがんにおいて、年齢階級別では、乳がんと子宮がんは65歳未満に占められる割合が最も高い有病数のがんであった。一方で、男性の前立腺がんは65歳以上の高齢の有病者に占められる割合が最も高いがんであった。

#### <今後の方向>

有病数はがん対策を行う上でのモニタリングに有用な指標であり、今後もがん登録データを基に、罹患率および生存率の算出値に基づくがん有病数の推計を行う予定である。

<sup>1)</sup> リサーチレジデント、<sup>2)</sup> 遺伝子医療研究部、

<sup>3)</sup> 国立がん研究センターがん情報対策センター、

<sup>4)</sup> 愛知県健康福祉部保健医療局健康対策課

#### <研究課題> 1-3

(主題) がん対策の企画・評価に必要な地域がん登録資料を活用した、がんの流行と転帰の分析

(副題) 愛知県における国・県拠点病院の診療実態の把握  
一部位別、臨床進行度別5年相対生存率の比較一

#### <研究者氏名>

山口通代<sup>1)</sup>、伊藤秀美、中川弘子<sup>2)</sup>、田中英夫

### <目的・概要・進捗状況>

愛知県には、がん診療連携拠点病院（以下、「国指定」という。）が17施設、がん診療拠点病院（以下、「県指定」という。）が9施設あり、県におけるがん診療の中心的役割を担っている。その診療実態を把握することは、今後のがん対策の推進に向けて、早期診断・治療体制の提供に関する改善の余地を知るために重要である。我々は、愛知県がん登録資料から得られる初回治療医療機関情報（以下、「治療機関」という。）を「国指定」、「県指定」の区分を用いて分類し、主にがん検診を実施している主要5部位がんの5年相対生存率を、臨床進行度別に5年相対生存率（EdererII法）を比較し、がん診療均てん化の課題について確認した。

解析対象者83,875例の2006-09年に診断されたがん患者である。初回治療を「国指定」で実施したものは49,564例（59.1%）と最も多く、次に「拠点以外」19,733例（23.5%）、「県指定」14,578例（17.4%）であった。部位別にみても、5部位とも「国指定」で実施した割合が、他医療機関群に比べて最も高かった。また、臨床進行度別の治療機関割合については、「国指定」において、「隣接臓器浸潤」で全部位及び5部位ともに高かった。「国指定」における治療は、「県指定」及び「拠点以外」と比較し、5部位ともに5年相対生存率が高く、愛知県内のがん医療における診療連携拠点病院の機能を果たしていることが確認された。更に、臨床進行度別生存率では、胃（隣接臓器浸潤）、大腸（所属リンパ節転移）、肺（所属リンパ節転移・隣接臓器浸潤）、子宮頸部（隣接臓器浸潤）において、生存率が10%以上低い治療機関群が認められたことから、この分野でのがん医療の均てん化に課題がある可能性が示唆される。また、全部位及び5部位で「隣接臓器浸潤」での「国指定」の治療機関割合が高く、その5年相対生存率が高いことから、拠点病院の整備等により、がん診療の集約化が進み、拠点病院でより進行度の進んだ患者を積極的に治療し、生存率向上に寄与している実態が確認出来た。

本結果をもとに、がん診療の課題に関する要因分析を進め、今後、生存率に影響する要因について、より詳細な評価を進めることにより、医療計画に反映するなど、愛知県の医療の均てん化と、がん対策の効果的な実施に向けての資料として活用できると思われた。

### <今後の方向>

今後も、2013年12月より開始されている全国がん登録の仕組みで収集される精度の高いデータを継続的に活用し、愛知県のがん医療の質の評価、がん検診の精度評価等へと積極的な活用に繋げていきたい。

<sup>1)</sup> 研修生、<sup>2)</sup> リサーチレジデント

### <研究課題> 2-1

- (主 題) 効果的ながん予防法の開発および効果評価に関する行動科学研究
- (副 題) 疾患リスクの情報提供コンテンツ制作プロセス～科学コミュニケーションの視点から～

### <研究者氏名>

渡邊美貴、細野覚代、吉村章代<sup>1)</sup>、伊藤秀美<sup>2)</sup>、尾瀬 功、松尾恵太郎<sup>2)</sup>、田中英夫

### <目的・概要・進捗状況>

我々は、ゲノムワイド関連解析により乳がんとの関連が報告された遺伝子多型と生活習慣情報を組み合わせて、日本人に特化したリスク予測モデルを考案した。本モデルを用いたがん個別予防の実用化のためには、一般市民への情報提供のあり方を検討する必要がある。そこで、一般市民のニーズを明らかにし、情報提供コンテンツを一般市民と協同で制作した。

健診の場などでの実施を想定し、スライドを使ってグループ単位で説明できるようなコンテンツを考えた。主な内容は、①多因子疾患、②遺伝医学の基礎、③リスク予測検査、④乳がんの予防行動についてである。最初に研究者のみでコンテンツ（スライドと説明）を作成し、それを用いて、がん等の病歴のない女性ボランティア5名（50～63歳）に対して、1人ずつ説明を行った。その直後に、理解度、コンテンツの改善点等について半構造化インタビューの手法を用いて聞き取り調査を行い、ニーズ等を検討し修正を加えて、情報提供コンテンツを制作した。

一般市民が必要としている情報は、がん予防に関する具体的な説明であった。このコンテンツの目的は、一般市民ががん予防行動に向かうきっかけとすることである。そのためには、遺伝医学に関する情報よりがん予防に関する具体的な説明が重要であると考え、「多因子疾患」、「遺伝医学の基礎」についてはスライドや説明を減らし、「乳がん予防行動」について理解しやすくなるようなコンテンツを制作した。

### <今後の方向>

このコンテンツを用いて、一般住民にリスク予測を行い行動変容について検討する。さらに、対象者の特性の違いやニーズについても検討し、それに応じたコンテンツを制作する。

<sup>1)</sup> 中央病院乳腺科、<sup>2)</sup> 遺伝子医療研究部

### <研究課題> 2-2

- (主 題) 効果的ながん予防法の開発および効果評価に関する行動科学研究
- (副 題) 乳がん個別予防実用化への試み～リスク予測に対する認知と行動変容に関する長期追跡調査

### <研究者氏名>

細野覚代、渡邊美貴、尾瀬 功、伊藤秀美<sup>1)</sup>、松尾恵太郎<sup>1)</sup>、田中英夫

### <目的・概要・進捗状況>

当部では、common variantsである遺伝子多型と生活習慣情報を組み合わせ、個別乳がん罹患リスクを算出するリスク予測モデル構築と個別化予防法の実用化に取り組んでいる。しかし、一般市民への多因子疾患罹患リスクの伝え方と情報提供に関す



る課題はまだ解決されていない。

本研究は乳がん罹患リスクフィードバック後12ヵ月間のリスク認知と行動変容の有無を評価した。

がん等の重篤な疾患の既往が無い、名古屋市在住女性（44～64歳 [中央値55歳]）29名を対象とした。2014年12月に、我々が制作した多因子疾患罹患リスクの情報提供コンテンツを用いた説明を聞いた後、個別乳がんリスク予測を実施し、2015年2月にはリスクフィードバックを完了した。2015年2月、6月と12月にリスク予測に対する認知、理解度、生活習慣に関する調査票調査と電話インタビューを実施した。

対象者29例のうち24例は乳がん検診を数年に一度受けていた。3例は二親等以内に乳がん患者がいた。遺伝的リスクグループは高リスク9例、中リスク12例、低リスク8例であった。説明前に「自分ががんにかかる確率を知っておきたい」のは24例、「遺伝子検査を受けてみたい」のは21例、「自分ががんに罹る確率を知るの怖い」のは11例だった。フィードバック直後と一年後に、「がんにかかる確率を知っておきたい」のは24例と27例、「別の遺伝子検査を受けてみたい」のは23例と22例、「がんに罹る確率を知るの怖い」のは9例と8例、「今後の生活習慣改善に役立てたい」のはともに全例であった。しかし、リスク予測をきっかけに行動変容を起こした参加者は2例であった。

事前の適切な情報提供によって、12ヵ月後調査においても、リスクフィードバックによる心理的不安は増強せず、がん予防への意欲が保たれていた。行動変容を起こした参加者は少数であったが、もともと健康意識が高い集団なので、変化が明らかにならなかった可能性もある。

#### <今後の方向>

個別リスク予測実用化には、リスク認知から行動変容へスムーズにつなげられるような介入プログラムや介入ツール・コンテンツ作成が必要である。

1) 遺伝子医療研究部

#### <研究課題> 2-3

(主題) 効果的ながん予防法の開発および効果評価に関する行動科学的研究

(副題) 悪性胸膜中皮腫患者の生活の質横断調査

#### <研究者氏名>

尾瀬 功、長松康子<sup>1)</sup>、青江啓介<sup>2)</sup>、加藤勝也<sup>3)</sup>、堀田勝幸<sup>4)</sup>、中川淳子<sup>5)</sup>、原 桂子<sup>5)</sup>、岸本卓己<sup>6)</sup>、藤本伸一<sup>6)</sup>

#### <目的・概要・進捗状況>

悪性胸膜中皮腫 (MPM) は石棉曝露によって生じる予後不良の悪性腫瘍である。また、多くの患者は疼痛・呼吸困難などの強い症状を呈する。MPM患者の生活の質 (QOL) は良くないと思われるが、これまでに十分な調査が行われていない。

MPMと診断された患者を対象とした。2016年1月から3月にかけて、全国のがん専門病院等のMPM診療を行っている426病院と、中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会を通して質

問票を配布した。QOL尺度としてEORTC QLQ-C30およびCoQoLoを使用した。また、質問票でPerformance status (PS) や治療歴、労災申請状況などの情報を収集した。QOL指標の比較はWilcoxon順位和検定を用いた。重回帰分析を用いてQOLと関連する要因を求めた。

133人のMPM患者より回答を得た。QLQ-C30のスコアをPSによる層別化を行うと、PS良好群のほうが不良群より機能スコアが有意に不良であるが、症状スコアは有意に良好であった。CoQoLoでは、医師と良好な関係であったが、肉体的・心理的な苦痛や他人への迷惑をかけることを気にしていた。良好なQOLと関連する要因として、良好なPS、生存期間2年以上、女性が示された。

多くのMPM患者は肉体的、心理的困難を抱えている事が示唆された。MPM患者に対する個別の支援が必要であると考えられる。

#### <今後の方向>

多角的なQOLの把握を目指して、悪性胸膜中皮腫患者のQOLを縦断的に調査する。

1) 聖路加国際大学 国際看護学、

2) 山口宇部医療センター 腫瘍内科、

3) 川崎医科大学総合医療センター 放射線科、

4) 岡山大学病院 新医療研究開発センター、

5) 岡山労災病院 看護部、

6) 岡山労災病院 アスベスト関連疾患研究センター

## 分子腫瘍学部

#### <研究課題> 1

(主題) 肺がんの発症・進展機序の解明と分子標的療法の探索

(副題) 肺がんの浸潤・転移に関連する新規遺伝子CLCP1の機能解析と治療への応用

#### <研究者氏名>

長田啓隆、長谷川郁恵、関戸好孝、高橋 隆<sup>1)</sup>

#### <目的・概要・進捗状況>

多くの先進諸国においてがん死亡率第一位を占める肺がんの予後改善のために革新的な新規治療法の開発が求められている。肺がんの発生・進展機序に関する分子生物学的な解析が精力的に行われ、特徴的な遺伝子発現プロファイルが、肺がんの病理組織像や臨床予後と強い関連を持つことが明らかとなってきた。長年、我々は、高転移性の肺がん細胞株で高発現しているI型膜貫通型の新規転移関連遺伝子CLCP1の機能解析を進め、その知見を新規の肺がん診断法・治療法へ応用することを目的とし研究を進めてきた。この転移関連分子CLCP1についてこれまで、ホモ二量体及び受容体型チロシンキナーゼ (Receptor tyrosine kinase: RTK) とのヘテロ二量体を形成す

ることや、抗CLCP1抗体が上皮成長因子受容体(EGFR)の内在化と分解を惹起することを明らかとしてきた。

平成27年度、CLCP1は、EGFRやMET等のRTKが伝達するシグナルによってリン酸化を受けて制御を受けているとともに、逆に、そのリン酸化を介して、RTKシグナリングに促進的に働く機能を持つ分子であり、CLCP1とRTKとの間に機能的なクロストークが存在することを示唆する研究成果を得た。その成果を受け、平成28年度は、これらの点についてさらに詳細に解析を行うとともに、RTKの内在化・活性抑制を誘導する抗CLCP1抗体が、in vitro及びin vivoにおいて単独でどの程度、腫瘍増殖抑制及び浸潤・転移抑制作用を有するかについて検討していくことを計画していた。

#### <今後の方向>

残念ながら、本研究を中心的に遂行していた長田啓隆室長が8月23日に病気のため逝去したため、本研究は名古屋大学において研究を継続することとなり、論文投稿を目指すこととなった。

<sup>1)</sup> 名古屋大学大学院医学系研究科分子腫瘍学分野

#### <研究課題> 2-1

- (主題) 中皮腫の発がん機序の解明と細胞生物学的研究  
(副題) Merlin陰性悪性中皮腫において E-カドヘリンの発現は接着班キナーゼ阻害剤の耐性と相関する。

#### <研究者氏名>

加藤毅人、佐藤龍洋、横井香平<sup>1)</sup>、関戸好孝

#### <目的・概要・進捗状況>

悪性中皮腫は胸膜あるいは腹膜に存在する中皮から発生する腫瘍で、アスベスト曝露によって引き起こされる極めて予後不良の腫瘍である。診断時には既に進行していることが多く、現在、有効な標準治療法は確立していない。他の高頻度に発症する腫瘍に比べて、その分子病態の解析は極めて遅れており新規の診断法や分子標的治療法の開発への大きな障壁となっている。がん抑制遺伝子異常としては、CDKN2A、NF2、BAP1遺伝子の高頻度不活化変異が認められるが、がん遺伝子変異は稀である。NF2遺伝子産物(転写産物はMerlinと呼ばれる)は細胞内の増殖抑制性のHippoシグナル伝達系を制御し、転写コアクチベーターであるYAPの活性を抑制する。悪性中皮腫細胞はNF2やHippoシグナル伝達系の構成因子をコードするLATS2遺伝子等の変異により約70%の症例でYAPが恒常的に活性化していることを当部は明らかにしてきた。

Focal adhesion kinase (FAK)は接着斑に存在しインテグリンを介したシグナル伝達に重要な役割を果たす非受容体型チロシンキナーゼで、そのタンパク過剰発現が様々な癌で報告されている。VS-4718は可逆的なFAK阻害剤であり、その効果に関してはMerlinをコードするNF2遺伝子の変異との関連が報告されている。そのためNF2変異が約40%に存在する悪性中皮腫における奏効が期待されるが、中皮腫に対するVS-6063

(defactinibとして知られているFAK阻害剤)単独投与の第2相試験が効果不十分で中断しており不明な点も多い。われわれは悪性中皮腫におけるVS-4718の抗腫瘍効果に関連するバイオマーカーについて検討した。

悪性中皮腫細胞株に対してmatrigel on topによる培養を行った上でVS-4718を投与してIC<sub>50</sub>を算出し、Merlinとの関連性、及び、Merlin陰性株をMeT-5Aを基準にhigh IC<sub>50</sub>、low IC<sub>50</sub>に分類して検討した。low IC<sub>50</sub>株は、Merlin陽性株では3/8株(38%)、Merlin陰性株では8/13株(62%)存在し、Merlin陰性株でlow IC<sub>50</sub>の傾向にあった。またNF2遺伝子ホモザイガス欠失株であるY-MESO-22株に野生型NF2発現ベクター(Merlin WT)を導入したところVS-4718に対する感受性が低下した。

次に、Merlin陰性株の遺伝子の発現についてmicroarray及びGene Ontology解析を行った。統計解析の結果、278個の遺伝子がhigh IC<sub>50</sub>、low IC<sub>50</sub>の間で発現に有意差が認められた。Gene Ontology解析から278遺伝子の中では細胞間接着に関連する遺伝子の頻度が高かった。細胞接着に関わる遺伝子で且つRank products法におけるfold changeが最も高かったE-cadherinに着目して検討を進めた。まず、Merlin陰性株に対してReal-time PCRを行ったところE-cadherinの発現とIC<sub>50</sub>との間に高い正の相関を確認した。次にE-cadherinを高発現するMerlin陰性株であるY-MESO-25株に対してE-cadherinのknockdownを行ったところ、VS-4718に対する感受性の改善を認めた。またY-MESO-25株に対してE-cadherinをknockdownした株とコントロールベクターを導入した株でVS-4718の投与後のcleaved caspase 3(アポトーシスの指標)の発現を免疫蛍光染色で確認したところknockdown株においてcleaved caspase 3の増強が認められた。

#### <今後の方向>

本研究の結果からMerlin陰性悪性中皮腫株においてE-cadherinの発現はFAK阻害剤であるVS-4718に対する耐性と高い相関があることが分かった。Merlin陰性の悪性中皮腫においてE-cadherinの発現を検討することで、VS-4718の効果をより正確に予測できる可能性があると考えられた。E-cadherinのVS-4718に対する効果予測のバイオマーカーとしての有用性は、今後臨床試験にて確認する必要があると考えられた。

<sup>1)</sup> 名古屋大学大学院医学系研究科、呼吸器外科

#### <研究課題> 2-2

- (主題) 中皮腫の発がん機序の解明と細胞生物学的研究  
(副題) 合成致死表現型を指標とした新規悪性中皮腫治療薬標的探索

#### <研究者氏名>

村上優子、山岸良多、関戸好孝

#### <目的・概要・進捗状況>

悪性中皮腫はアスベスト曝露に起因する極めて予後不良の腫

瘍であり、現在も有効な治療法は確立されていない。悪性中皮腫の原因遺伝子はいずれもがん抑制遺伝子である。がん抑制遺伝子を活性化させる薬剤の開発は困難であるが、合成致死表現型を利用することで、がん細胞特異的に作用する、副作用の少ない阻害剤を作り得る分子標的の同定が可能である。本研究課題では、悪性中皮腫の原因遺伝子変異と合成致死表現型を示す遺伝子の網羅的探索と機能解析、その阻害剤の開発を目的とする。網羅的探索にはゲノムワイドのプール型レンチウイルスshRNAライブラリー及び名古屋大学ITbM化合物ライブラリーを用い、遺伝子及び化合物の両面からの探索を行う。shRNAライブラリースクリーニングから得られた候補遺伝子は合成致死表現型を示す分子機構を解析するとともに、構造をもとにした阻害剤のバーチャルスクリーニング、既存の阻害剤の最適化などを通じてリード化合物を得る。低分子化合物ライブラリーから得られた候補化合物は、化合物の最適化を行うとともに、標的タンパクを同定し、合成致死表現型を示す分子機構の解明も行う。

現在原因遺伝子のうちBAP1遺伝子、NF2遺伝子、LATS2遺伝子の変異に関してはshRNAライブラリースクリーニングが終了している。候補遺伝子の幾つかについては分子機構の解析を行い、また、阻害剤のインシリコスクリーニングを開始している。SETDB1、SETD2遺伝子については、スクリーニングの結果を解析中である。ITbM化合物ライブラリースクリーニングについては、スクリーニング用の細胞株を樹立中である。

#### <今後の展望>

それぞれの原因遺伝子を標的とした合成致死スクリーニング結果から共通の遺伝子や経路があるかどうかについて探索し、存在した場合はその経路を集中して解析を行う。同時に、それぞれの原因遺伝子と合成致死表現型を示す候補遺伝子について、その分子機構を解析する。候補遺伝子の阻害剤の合成を試みる(共同研究)。また、候補遺伝子の発現が予後マーカーになるかどうかについての検討を行う。

## 遺伝子医療研究部

#### <研究課題> 1-1

- (主題) がん罹患リスク・予後を決める遺伝子と環境要因の組合せの解明、並びに予防・医療への応用
- (副題) 乳がんに関する遺伝子多型を伴うリスク予測法の開発

#### <研究者氏名>

伊藤秀美、郡山千早<sup>1)</sup>、岩崎 基<sup>2)</sup>、谷山祐香里<sup>3)</sup>、大野ゆう子<sup>2)</sup>、松尾恵太郎

#### <目的・概要・進捗状況>

遺伝子多型が乳がんのリスクと関連する報告が積み重なって来たが、実際にそれをどう予防に応用するかに関しては確立さ

れていない。我々は、乳がんのリスク予測モデルを、当センターで実施してきた病院疫学データ、鹿児島大学・国立がん研究センターのデータを用いて検討した。本研究を通じて22個の遺伝子多型の情報と疫学情報の組合わせを用いたリスク予測モデルを構築した。また、遺伝子多型によるリスクに基づく生涯リスクの推定も行った。今後の個別リスクフィードバックを行う基盤が構築できた。

#### <今後の方向>

今後、二つの方向性を検討する必要がある。一つは、次世代シーケンサー等を用いた家族性乳がん関連遺伝子の情報も用いたリスク予測モデルの構築を進め、より精密な個別化予防につながるエビデンスを創出する事である。もう一つは、実際にリスク予測モデルを、予防行動に繋がるか否かの検証を予防介入研究を通じて行う事である。

1) 鹿児島大学、2) 国立がん研究センター、3) 大阪大学

#### <研究課題> 1-2

- (主題) がん罹患リスク・予後を決める遺伝子と環境要因の組合せの解明、並びに予防・医療への応用
- (副題) ALDH2遺伝子多型と禁煙行動との関連

#### <研究者氏名>

正岡寛之<sup>1)</sup>、伊藤秀美、尾瀬 功、渡邊美貴<sup>2)</sup>、松尾恵太郎

#### <目的・概要・進捗状況>

喫煙行動はがんリスクと大きな関連を示すものであり、がん予防としての禁煙は重要な課題である。喫煙行動は飲酒行動と強く交絡していることが報告されており、また飲酒行動はALDH2やADH1Bなどのアルコール代謝関連酵素の遺伝子多型と強く関連している。禁煙を誘導するに辺り、飲酒行動、ALDH2、ADH1B遺伝子多型の影響を同時に検討した研究により、禁煙しやすい集団がどのような遺伝的な特性を持つかを明らかにすることを明らかにすることを目的とした。2912名の喫煙歴ありの集団に対して、飲酒量、ALDH2、ADH1B遺伝子型、性、年齢を考慮した解析を行うことにより、ALDH2 Lys/Lys型を保持する事が、禁煙のしやすさに関連することが示された。

#### <今後の方向>

今後、禁煙指導において、ALDH2遺伝子型により層別する事の意義を見いだした。禁煙現場における有用性に関して検討する研究を実施する必要がある。

1) リサーチレジデント



### <研究課題> 1-3

(主題) がん罹患リスク・予後を決める遺伝子と環境要因の組合せの解明、並びに予防・医療への応用

(副題) 遺伝子多型情報を用いた大腸がんリスク予測モデルの構築

### <研究者氏名>

細野覚代、伊藤秀美、尾瀬 功、渡邊美貴、田中英夫、松尾恵太郎

### <目的・概要・進捗状況>

大腸がんは日本で男女ともに高い罹患率、死亡率を示す疾病である。有効ながん検診が存在するにも関わらず死亡率が高いことの背景にはがん検診受診率の低さが考えられる。がん検診の受診などの予防行動に対して、個々人のリスク情報の還元が影響を与える可能性が示唆されている。我々は、愛知県がんセンターで実施されている病院疫学研究データを用い、6個の遺伝子多型と、飲酒、喫煙などの環境要因情報と組み合わせることにより予測モデルを開発した。乳がんと異なり、遺伝子多型を加味したリスク予測の精度は高くなかった。

### <今後の方向>

今後、使用する遺伝子多型の数を増やすなどの工夫により予測モデルを改良していく必要がある。また、リスク群別の生涯リスクの算定などの展開をしていく必要がある。

### <研究課題> 2

(主題) 造血器細胞の分化、増殖に関与する遺伝子の血清学的、分子生物学的研究

(副題) マウスモデルを用いたDLBCL (Diffuse Large B Cell Lymphoma) 関連遺伝子の機能解析

### <研究者氏名>

高原大志<sup>1)</sup>、春日井由美子、都築 忍

### <目的・概要・進捗状況>

DLBCL (び慢性大細胞型B細胞性リンパ腫) は悪性リンパ腫の一亜型であり、その多くは遺伝子発現解析によりGerminal center B cell like (GCB)-DLBCLとActivated B cell like (ABC)-DLBCLに分類される。いずれも胚中心B細胞から発生するとされている。DLBCLについては多数の遺伝子異常がこれまでに報告されているものの、何れの遺伝子異常が発症に寄与しているのか、また複数の遺伝子異常の間に協調作用があるのかといった問題は十分に解明されていない。この問題を検証するため、以前我々が確立した、*in vitro*で成熟B細胞から胚中心B細胞を誘導し、レトロウイルスにより腫瘍関連遺伝子を導入して免疫不全マウスに移植する系を用いた。今回我々はDLBCLのリンパ腫関連遺伝子として知られている*Card11*<sup>L225L1</sup>、*Bcl2*、*Bcl6*について評価した。これらの3種の全てと、任意の2種の遺伝子を導入したところ、3種すべてを導入した群と*Card11*<sup>L225L1</sup>、*Bcl6*を導入した群においては、いずれの個体においても2か月以内にDLBCLの発症がみられ

た。一方、それ以外の群においては、リンパ腫の発症は大きく遅延するか、認められなかった。

腫瘍細胞における転写因子の発現を検討したところ、腫瘍細胞はABC-DLBCLのマーカーであるIRF4とFOXP1を発現していた。今回の結果により、NF- $\kappa$ B経路の恒常的な活性化をもたらす変異型*Card11*と、分化の停止をもたらす*Bcl6*の協調がABC-DLBCLの発症に重要な役割を果たしていることが示された。

### <今後の方向>

DLBCLにおいて報告されている多数の遺伝子異常に関しても今回の検討と同様の評価が可能と考えている。さらに治療薬の*in vivo*モデルとしての応用を期待している。

<sup>1)</sup> 研修生

## 腫瘍免疫学部

### <研究課題> 1

(主題) 腫瘍抗原の免疫学的、分子生物学的検索

(副題) がん細胞では異常なTAP分子によりエピトープを提示する

### <研究者氏名>

岡村文子、赤塚美樹<sup>1)</sup>、葛島清隆

### <目的・概要・進捗状況>

細胞傷害性Tリンパ球 (CTL) は受容体を介してがん細胞のヒト白血球抗原 (HLA) とペプチドの複合体を認識して、がん細胞を特異的に殺傷できる。しかしながらがん細胞にはしばしば免疫細胞からの攻撃から回避する免疫回避機構が備わっている。抗原提示機構でペプチドを小胞体内へ運んでいるtransporter associated with antigen processing (TAP) の欠損はがん細胞でのみ起こる。その結果、大部分のペプチドの供給が行われなくなり、CTLによる免疫監視から回避しやすくなる。しかしながら、TAP欠損時にどのような免疫応答が起こるか詳しくわかっていない。これまで、CRISPR/Cas9システムによりTAP2遺伝子を標的としてゲノム編集法により遺伝子改変がん細胞を作製し、CTLによる免疫応答を検討した。本年度は、作製したTAP遺伝子改変がん細胞からTAP遺伝子をクローニングして、TAP発現欠失細胞に戻すことで、TAPの発現や免疫応答が遺伝子をクローニングした元の細胞と同じ形質を示すかどうか調べたまた作製した遺伝子改変がん細胞から樹立したクローンにおける生化学的なTAP機能の解析およびTAP発現低下細胞に対するCTLによる免疫応答を行った。

TAP2遺伝子を標的としたCRISPR/Cas9システムによりゲノム編集した膀胱癌細胞株KP-3細胞由来のクローンからTAP2遺伝子をクローニングした。TAP2蛋白質を全く発現しないゲノム編集済みのKP3細胞にゲノム編集されたTAP2遺伝子を導入した。これらの細胞について、TAP2蛋白質の

発現を調べるとともに、CTL応答を解析した。また、TAP2 遺伝子をターゲットにしたゲノム編集済みのKP3細胞におけるTAPの機能を測定するためのpeptide transport assayを行った。

TAP2を発現しないゲノム編集済みのKP3細胞にゲノム編集されたTAP2遺伝子を導入したことで、導入したTAP遺伝子由来のTAP2発現が見られた。さらにそれらの細胞に対するCTL応答を調べたところ、元の細胞と同じ傾向のCTL応答が観察された。また、peptide transport assayにより、TAP2を発現しないゲノム編集済みのKP3細胞ではまったくペプチドを輸送せず、通常のTAP2を発現するKP3細胞ではペプチド輸送能が高いことがわかった。一方で、ゲノム編集したTAP2を持つKP3細胞では非常に弱いペプチド輸送が行われていた。

TAP2遺伝子を標的としてゲノム編集を行ったがん細胞株において、TAP2の発現により提示されるエピトープが異なることが明らかとなった。TAP2を発現している変異であっても、その発現量や変異によってはペプチド輸送の能力が低下するが、エピトープを提示することが判明した。これらのことから、TAP遺伝子に変異があるがんにおいてはペプチドレパートリーが変化することで、免疫監視を逃れる可能性が示唆された。

#### <今後の方向>

これまで明らかとなっていなかった、TAP遺伝子の変異による発現低下や抗原提示されるエピトープペプチドのレパートリーの変化について明らかにした。体内におけるこれらのエピトープの意義を今後解明していきたい。

<sup>1)</sup> 客員研究員、藤田保健衛生大学・血液内科

#### <研究課題> 2

(主題) 免疫診断及び免疫治療の前臨床的及び臨床的研究

(副題) ヒト培養細胞を用いたT細胞受容体・親和性成熟システムの樹立

#### <研究者氏名>

太田里永子、葛島清隆

#### <目的・概要・進捗状況>

がんに対する特異的な細胞傷害性Tリンパ球(CTL)の働きは、制御性T細胞や腫瘍等に発現しているPD-L1などの制御因子によって抑制されている。免疫チェックポイント阻害剤は多種のがんに有効であり、その効果が長期間持続するなど画期的な治療であるが、8割以上の患者には無効であることから、新たな治療法の開発が望まれている。

がん抗原に特異的なT細胞から単離した抗原受容体遺伝子(TCR)を、レトロウイルスベクターなどを用いて患者自己のTリンパ球に導入することが可能である。このようにして作製したCTLを用いるがん免疫療法は有望な治療法の一つであり、これまでも様々な抗原を標的として開発が行われて来た。臨

床的に最も成功しているTCRは、HLA-A\*02:01拘束性NY-ESO1特異的TCR $\alpha$ 鎖の相補性決定領域(CDR)3領域の2個のアミノ酸を変異して親和性を増強したものである。

また、TCRをあたかも抗体の様に使用する前臨床的な研究も報告されている。すなわち、がん特異的なTCRと抗CD3抗体を結合させた分子は、がん細胞の表面に体内のTリンパ球を動員・活性化して、がんを消退させる能力を有する。この場合にも、野生型のTCRの結合力では全く効果がなく、親和性(結合力)を抗体のレベルまで(100万倍程度)増強する必要がある。

ヒトTCRの親和性をin vitroで増強する最も効果的な方法はファージディスプレイ法であるが、報告はただ一つのグループ(英国)からに限られているのが現状である。免疫治療のこれからの展開を鑑みるに、効率の良いTCR親和性成熟(affinity maturation)システムを確立することは極めて重要である。そのため、我々はまずファージディスプレイ法に挑戦した。すでに報告済みのHTLV-1ウイルス抗原Taxに対するTCRを用いてCDRのアミノ酸にランダムに変異を導入したファージライブラリーを作製した。抗原に対して結合力の強いTCRをスクリーニングしたところ、高親和性TCRとして報告済みの変異に類似したアミノ酸配列を持つTCRの単離に成功した。しかし、我々の研究室で保有している3種類のHLA-A\*24:02拘束性TCR(hTERT, EpCAM, CMV pp65)の親和性の成熟を行ったが、目的とするTCRは得られなかった。原因として、ファージ表面に機能的なTCRが十分に表出していないことが考えられた。

そこで、ファージディスプレイ法に変わり、293T細胞を用いた新規のTCRディスプレイ法の樹立を試みた。この方法では、CD3遺伝子を導入した293T細胞表面にCDR領域にランダムな変異を導入したTCRライブラリーを表出させ、MHC tetramerにより強く結合する集団をフローサイトメーターで確認できる利点がある。hTERT-TCRについて16種類のライブラリーを作製し、MHC tetramerにCD8非依存的に結合するTCRの有無をスクリーニングした。その結果、このTCRでは $\beta$ 鎖のCDR1とCDR2に抗原とのアフィニティを決定する部位があることが示唆された。

#### <今後の方向>

今後は、このシステムを用いて高い親和性を有するTCR変異を同定していく予定である。

また、TCRを大腸菌リコンビナントタンパクとして作製するシステムを確立しているため、将来はBiacoreによる分子間相互作用解析も行う予定である。



## 感染腫瘍学部

### <研究課題> 1-1

(主題) がんにおけるシグナル制御破綻機構の解明および治療戦略創出への応用

(副題) 脂質ラフトによるシグナル分子の空間的制御とがん進展

### <研究者氏名>

小根山千歳、渡邊理沙代

### <目的・概要・進捗状況>

最初に同定されたがん原遺伝子産物であるチロシンキナーゼ c-Srcは、様々ながんにおいて発現や活性の亢進が認められる。しかし腫瘍組織においてもsrc遺伝子自体の変異はほとんど見られず正常型として発現している。即ち細胞にはSrcの恒常性を維持し、不要なSrcシグナルの伝播を阻止する巧妙な分子メカニズムがあり、その破綻ががん進展に深く関わっていると示唆されるが、その詳細は未だ明らかとなっていない。昨年までに、がんにおける異常なSrcシグナルが、非受容体型チロシンキナーゼFerにより中継される新たなメカニズムを見出した。そこで今年度は、正常細胞においてFerの活性を制御している分子を探索し、その役割を明らかにすることにより、Ferの制御機構の破綻とがん進展との関わりを解明することを目的として研究を進めた。正常細胞においてFerに結合する分子のプロテオミクス解析を行ない、見出された9種の分子についてFerとの結合を確認することにより、4種のFer制御因子候補を同定した。

### <今後の方向>

大腸がん細胞などSrc-Ferがんシグナルが活性化している細胞において、同定したFer制御因子候補の発現をノックダウンし、増殖能や浸潤能などのがん形質に対する作用を解析する。さらにFerのがん治療標的としての可能性を明らかにするため、Ferのリン酸化抗体を用いて様々な癌種におけるFer活性化を調べ、Ferが寄与する癌種を解析する。

### <研究課題> 1-2

(主題) がんにおけるシグナル制御破綻機構の解明および治療戦略創出への応用

(副題) microRNAによるシグナル分子の発現制御とがん進展

### <研究者氏名>

小根山千歳、渡邊理沙代、宮田真美子

### <目的・概要・進捗状況>

Src等によるがんシグナルの伝達やその制御機構については、主にリン酸化及びタンパク質間相互作用の側面から捉えられてきたが、我々はそれら直接的なシグナル伝達経路の陰に、複数

のmicroRNA (miRNA) が協調してシグナル分子の発現を制御する、いわば隠れたネットワークが存在することを示してきた。今年度は、Src自体の発現亢進におけるmiRNAの関与を解明するため、配列上c-src遺伝子を標的としうる複数のmiRNAについて解析した。その結果一つのmiRNAの発現量が、Srcの発現が高いことが知られる大腸がん細胞において顕著に低下していることを見出した。大腸がん細胞にこのmiRNAを導入するとSrcの発現が減少し、Srcノックダウン細胞と同様に、足場非依存的増殖能が抑制されると共に、ストレスファイバー及び細胞接着斑の形成が阻害され接着能や浸潤能が抑制された。これらの結果から、当該miRNAはSrcを中心としてSrc近傍に存在する因子の発現を同時に抑制することにより、がん形質発現を制御していることが示唆された。がんの初期における当該miRNAの発現低下がSrcシグナルの亢進を促し、がん悪性化に寄与していると考えられる。これまでの一連の研究と合わせて考えると、Srcシグナル経路では関連するタンパク質が複数のmiRNAによって同時に制御され細胞の恒常性の維持に寄与していると考えられるが、がんではその仕組みが破綻し、むしろ複数の機構がmiRNAを介して連携しがん進展を加速していると考えられる。

### <今後の方向>

がん進展過程におけるSrcシグナルネットワークを明らかにするため、これまでに作製したSrc発現誘導モデル細胞を用いて、がん形質の変化に伴うmiRNA発現プロファイルとそれらの役割を解析し、miRNAを介したSrcシグナルネットワークの破綻とがん進展メカニズムを明らかにする。

### <研究課題> 1-3

(主題) がんにおけるシグナル制御破綻機構の解明および治療戦略創出への応用

(副題) ノックアウトマウスを用いたSrcシグナルに関わるmicroRNAの生理的機能解析

### <研究者氏名>

八木玲子、渡邊理沙代、小根山千歳

### <目的・概要・進捗状況>

先の研究課題を含め、これまでの研究では、細胞レベルでがんにおけるSrcシグナルの亢進に関わるmiRNAとその機能について明らかとしてきた。しかし時空間的に遺伝子の発現が変化する生体において、それらのmiRNAがいつどのように機能しているかについては全く不明である。さらに実際にmiRNAが生体におけるがん化シグナルにどの程度関わっており、がんの治療ターゲットとなりうるのかについても明らかにする必要がある。そこで今年度は、我々が細胞接着斑のシグナルを制御する働きを見出したmiRNA二種について、それぞれの実験動物モデル(ノックアウトマウス)を作製した。ノックアウトマウスの表現型について解析を進めた結果、胎生期あるいは生後しばらくして異常が見られることが明らかとなり、これらのmiRNAが生体において重要な役割を担っていることが示唆さ

れた。

#### <今後の方向>

これまでに観察されている表現型について、より匹数を増やして同様の表現型が見られることを確認する。さらに表現型の発現に至るメカニズムを明らかにするため、組織染色や細胞接着斑形成に関わる遺伝子の発現や変異の有無を始め、組織内の分子メカニズムを明らかにする。

#### <研究課題> 2

(主題) 細胞間コミュニケーションによるがん進展メカニズムの解明

(副題) エクソソーム形成制御とがん進展

#### <研究者氏名>

正田智也、乗原 敦<sup>1)</sup>、宮田眞美子、渡邊理沙代、小根山千歳

#### <目的・概要・進捗状況>

エクソソームは、内部にタンパク質やRNA分子を含む直径30-100nm程度の膜小胞で、細胞から能動的に分泌され、不要物の排出に関わる他、体内を循環して他の細胞に取り込まれることで、細胞間コミュニケーションを担うと考えられている。がん細胞においては、エクソソーム形成・放出が亢進していることが知られており、細胞増殖性だけでなく、ニッチ形成を介して転移やその臓器指向性にも関与するなど多様な機能が明らかとなりつつある。しかし、エクソソームの形成や分泌の分子機構に関してはほとんど明らかとなっていない。今年度は、エクソソーム形成・分泌促進機構へのSrcの関与を明らかとするため、Srcがん化モデル細胞系から分泌されるエクソソームを解析したところ、Src活性化によりその粒子数が顕著に増加することを見出した。さらにSrcがん化細胞から分泌されるエクソソームに内包される分子についてプロテオーム解析を行い、エクソソーム形成・分泌に関与する候補分子を探索した。

#### <今後の方向>

これら候補分子のSrcによるエクソソーム形成・放出促進における役割やがん形質におけるエクソソーム放出の意義を明らかとするため、Srcがん化モデル細胞に候補分子の発現を変化させた細胞を樹立し、分泌されるエクソソーム量及び内包される分子群の変化、及びエクソソームを放出したSrcがん化細胞のがん形質について解析する。

<sup>1)</sup> 研修生 (大阪大学大学院理学研究科)

## 分子病態学部

#### <研究課題> 1-1

(主題) がんの発症・悪性化における微小環境の役割の解明

(副題) 腸管腫瘍形成におけるJNK/mTORC1経路の活性化機構

#### <研究者氏名>

梶野リエ、藤下晃章、武藤 誠<sup>1)</sup>、青木正博

#### <目的・概要・進捗状況>

大腸がんの多くで最初に生じる遺伝子レベルの変化は、APCがん抑制遺伝子の変異と考えられている。Apc遺伝子にヘテロ接合変異を持つ遺伝子改変マウス (以下Apc変異マウス) では、腸上皮細胞のApc遺伝子座でのヘテロ接合性の消失 (LOH) によりAPCタンパクの機能が失われる結果、Wnt経路が恒常的に活性化し、腺腫性ポリープを発症する。我々は、Apc変異マウスの腸管ポリープの成長にはWnt経路の活性化に加え、mammalian target of rapamycin complex 1 (mTORC1) 経路の活性化が重要な役割を果たすこと、mTORC1の活性化はその構成因子であるRaptorがJNKによってリン酸化されて引き起こされることなどを報告してきた。しかしながら、Apc変異マウスのポリープでJNKが活性化する機序については不明であった。我々は前年度までに、JNKの活性化を引き起こす因子の一つとしてIL-1 $\beta$ を見出した。また、野生型マウスの小腸正常陰窩およびApc変異マウスのポリープに由来するオルガノイド培養と、ヒト大腸がん細胞株を用いた解析から、IL-1 $\beta$ によるJNKの活性化はApcに変異が生じた細胞において引き起こされやすいことを見出した。IL-1 $\beta$ シグナル伝達経路の主要なアダプター因子であるMyD88の機能を腸管上皮特異的に欠損させ、Apc変異マウスにおけるポリープ形成への影響を検討したところ、MyD88の機能欠損によりポリープ形成数の減少傾向がみられたが、JNKの活性化は完全には抑制されなかった。このことは、生体内においてJNK-mTORC1がIL-1 $\beta$ 以外の因子によっても活性化されることを示唆している。平成28年度は、MyD88の機能欠損によるポリープ形成数の減少が、細胞増殖の減少とアポトーシスの増加によることを見出した。このMyD88の機能欠損によるアポトーシスは、腫瘍上皮細胞では誘導されるが、正常上皮細胞では誘導されなかった。このことは、MyD88の機能欠損がApcに変異を持つ細胞のみを死滅させる可能性を示唆している。

#### <今後の方向>

MyD88の機能欠損がApcに変異を持つ細胞のアポトーシスを誘導する分子機序、またJNK-mTORC1経路との関連について、明らかにしていきたい。また、これまでの結果では、MyD88の機能欠損による腸管正常上皮細胞への顕著な異常は見られていないので、腫瘍上皮細胞を標的とした治療戦略にMyD88が寄与できるかについても検討していきたい。

<sup>1)</sup> 京大・国際高等教育院

#### <研究課題> 1-2

- (主 題) がんの発症・悪性化における微小環境の役割の解明  
(副 題) 腸管腫瘍の悪性化におけるmTORC1経路の役割

#### <研究者氏名>

藤下晃章、梶野リエ、武藤 誠<sup>1)</sup>、青木正博

#### <目的・概要・進捗状況>

家族性大腸腺腫症の Mausモデルである*Apc*変異Mausは良性の腺腫性ポリープを発症し、さらに*Smad4* 遺伝子のヘテロ接合変異を併せ持つ*cis-Apc/Smad4* Mausは、局所浸潤性の腸がんを発症する。我々はこれまでに、*Apc*変異Mausの腸管ポリープおよび*cis-Apc/Smad4* Mausの腸がんの管腔側への成長にはmTORC1経路の活性化が重要な役割を果たし、mTORC1 選択的阻害薬everolimusによって腫瘍形成が顕著に抑制されることを明らかにした。一方、*cis-Apc/Smad4* Mausの腺がんの浸潤はeverolimusおよびmTORC1、mTORC2の両方を阻害するmTORキナーゼ阻害薬AZD8055でも抑制できないことを見出しており、その原因ががん細胞自身のmTOR阻害薬に対するフィードバック経路によるEGFR経路の活性化であることを明らかにした。さらに浸潤部がん細胞周辺の線維芽細胞様の間質細胞ではmTOR阻害薬によるフィードバック経路としてMEK/ERK経路の活性化が引き起こされることでTIMP-1などのサイトカイン・ケモカインの発現誘導し、浸潤しているがん細胞に対してmTOR阻害薬に抵抗性を与えていることを明らかにした。mTOR阻害薬抵抗性獲得におけるがん微小環境・間質細胞の役割を解明し、治療標的となる分子を探索するため、cDNAマイクロアレイ解析を行っている。mTOR阻害薬抵抗性腺がんが3倍以上発現が増大している遺伝子が100以上確認されたことから、これらの発現ががん細胞由来または間質細胞由来かを明らかにするためレーザーマイクロダイゼクションを用いて各細胞を分離回収し、RT-PCRにより検証を行っている。

#### <今後の方向>

mTOR経路阻害抵抗性大腸がんにおけるがん微小環境の役割を解明し、がん微小環境を標的とした克服戦略を確立したい。現在検証作業を行っている分子・シグナル経路を抑制できる阻害薬とmTOR阻害薬と併用することで評価を行っていく。

<sup>1)</sup> 京大・国際高等教育院

#### <研究課題> 1-3

- (主 題) がんの発症・悪性化における微小環境の役割の解明  
(副 題) Mausモデルを用いた大腸がんのがん関連線維芽細胞の解析

#### <研究者氏名>

藤下晃章、梶野リエ、小島 康、武藤 誠<sup>1)</sup>、青木正博

#### <目的・概要・進捗状況>

*KRAS*遺伝子の変異は大腸がんを含む多くのがんで確認されている。*KRAS*に変異のあるがんの治療標的として*KRAS*の下流の一つであるMEK/ERK経路に着目し、*KRAS*変異大腸がんモデルMausにおけるMEK/ERK経路の役割・MEK阻害薬の効果を検証することを最終目標としている。一方、生体レベルで*KRAS*野生型の大腸がんに対するMEK/ERK経路の役割も明らかではなかったことから、家族性大腸ポリープ症モデルMausである*Apc*変異Mausを用いて検証したところ、腸管ポリープにおけるMEK/ERK経路は主に間質で活性化しており、COX2/CCL2の発現を制御していること、MEK阻害薬trametinibの投与によりポリープ形成を抑制することをこれまでに明らかにした。本年度は悪性度が高く*KRAS*に変異のない大腸がんにおけるMEK/ERK経路の役割を検証するため、浸潤性大腸がんモデルMausである*cis-Apc/Smad4* Mausにtrametinibを投与し、腸管腺がん形成及び腺がんの浸潤に対する効果を検証した。MEK/ERK経路は*Apc*変異Mausと同様に間質細胞と腫瘍内の一部の腺がん細胞で活性化しており、間質細胞由来と考えられるCOX2の発現を強力に抑制した。さらに腺がん上皮細胞で発現しているERKの基質であるがん遺伝子*c-Fos*のリン酸化も抑制できたにも関わらず、*cis-Apc/Smad4* Mausの腺がん形成及び浸潤を抑制することはなかった。間質細胞のCOX2抑制だけでは*Smad4*の変異が加わった腸管腺がんを抑制するには不十分であることが示唆された。

#### <今後の方向>

大腸がんMausモデル (*cis-Apc/Smad4* Maus) の腸管腺がんはtrametinib単独投与では抑制効果が認められなかった。腸管良性腫瘍と比較し、浸潤性を抑制できない原因を追求すると同時に、*KRAS*変異大腸がんモデルMausにおけるMEK/ERK経路の役割を解明し、MEK阻害薬の効果を検証する。

<sup>1)</sup> 京大・国際高等教育院

#### <研究課題> 2-1

- (主 題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索  
(副 題) 新規大腸がん転移抑制遺伝子*HNRNPPLL*の機能解析

#### <研究者氏名>

佐久間圭一朗、佐々木英一<sup>1)</sup>、木村賢哉<sup>2)</sup>、清水泰博<sup>2)</sup>、谷田部 恭<sup>1)</sup>、青木正博

#### <目的・概要・進捗状況>

①*CD44*のpre-mRNAスプライシングを介する*HNRNPPLL*の大腸がん転移抑制機序の解明  
前年度までに、shRNAライブラリーを用いたMaus生体内スクリーニングによって、新規大腸がん転移抑制遺伝子*Hnrnp11*を同定した。*Hnrnp11*のノックダウンによってマトリ



ゲル浸潤能と生体内での肺転移能が亢進すること、HNRNPLLはCD44 pre-mRNAと結合しvariant exon 6のスプライシングを制御すること、大腸がん細胞の上皮間葉転換 (EMT) によってHNRNPLLの発現が低下することなどを明らかにした。平成28年度は、以上の研究成果を専門誌「Gut」に論文投稿し、アクセプトされた。

②がん転移においてHNRNPLLが果たすその他の役割の解明  
前年度までに、HNRNPLL cDNAあるいはHNRNPLL shRNAを導入した大腸がん細胞株SW480の次世代シーケンサー解析によって、HNRNPLLがDNA複製関連遺伝子の発現量を正に制御することが示唆された。平成28年度は、この現象の分子メカニズムを検討した。HNRNPLLをノックダウンあるいは強制発現した複数種の大腸がん細胞株を転写阻害剤アクチノマイシンDで処理し、DNA複製関連遺伝子群の発現量をリアルタイムPCRで経時的に定量した。複数の遺伝子においてHNRNPLLノックダウン細胞では半減期が短縮し、強制発現細胞では半減期が延長した。また、RNA免疫沈降法によってHNRNPLLがこれらの遺伝子のmRNAに結合することを見出した。以上の結果はHNRNPLLがDNA複製関連遺伝子のmRNAに結合することで安定化することを示唆しており、引き続き検証をおこなっている。

#### <今後の方向>

前述②の研究課題を推進するとともに、③EMTにおけるHNRNPLLの発現低下機序についても解明を進めたい。これらの研究を通して転移治療の分子標的候補を同定したい。

1) 遺伝子病理診断部、2) 消化器外科部

#### <研究課題> 2-2

- (主 題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索  
(副 題) トランスポゾンを用いた大腸がん転移制御因子の同定

#### <研究者氏名>

藤下晃章、梶野リエ、小島 康、青木正博

#### <目的・概要・進捗状況>

大腸がんの治療成績は、検出技術の発達や外科的切除・化学療法の進歩により顕著に向上しているものの、転移を伴う大腸がんについては依然として治療が困難なことが多い。我々は安定的に転移する大腸がんマウスモデルが作出することで、転移のメカニズムの解明及び、転移を標的とした治療法の確立を目指している。我々は、大腸がんの転移を制御する遺伝子を個体レベルで探索するために、PiggyBacトランスポゾンを用いたスクリーニングを開始しており、これまでに、大腸がんモデルとして腸管に良性の腺腫を発症するVillin-creER<sup>T2</sup>; Ctnnb<sup>+/loxEx3</sup>マウス (VBマウス) およびLgr5-creER<sup>T2</sup>; Ctnnb<sup>+/loxEx3</sup>マウス (LBマウス) にトランスポゾン (ATP1-S2) マウス、さらにトランスポゼース (Rosa-LSL-PBase) マウスを交配さ

せることにより (LBAPマウス)、タモキシフェン依存的に腸管ポリープを形成させると同時に、その細胞でトランスポゼースを発現させる系を構築した。作出したLBAPマウスにタモキシフェンを投与し、6ヶ月後に解析したところ、一部の腫瘍では浸潤が認められたものの、粘膜下層に到達する程度であり、大部分の腫瘍では浸潤が認められなかった。

本年度はヒト大腸がんで高頻度に変異や欠失が確認されているKras、p53、Smad4 遺伝子をタモキシフェン依存的に改変できるマウス (Kras<sup>LSL-G12V</sup>、p53<sup>flax/flax</sup>、Smad4<sup>flax/flax</sup>; KPSマウス) をVBAPと掛け合わせた。また、Lgr5は腸管以外の臓器に発現しており、腸管以外で腫瘍を形成する可能性を憂慮し、LBAPとの交配は除外した。作成過程で誕生したVBPSマウスやVBKPSマウスは腸管に間質増生を伴う浸潤性腺がんを形成した。現在、これらのマウスにおける転移の有無について解析するとともに、トランスポゾンの検証を行うため量産している。

#### <今後の方向>

Ctnnb/Kras/p53/Smad4 マウスにトランスポゾン/トランスポゼース (AP) マウスを交配し、腸腺がんの転移を促進させる遺伝子の同定を試みる。同時にオルガノイド培養したBAPKPSの大腸がん細胞を野生型マウスに同所移植を行い、肝臓に転移した細胞を回収し、転移に関与する遺伝子の同定を試みる。

#### <研究課題> 2-3

- (主 題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索  
(副 題) 高転移性肺がん細胞における一次線毛下流シグナル経路の役割の解明

#### <研究者氏名>

佐久間圭一郎、米村重信<sup>1)</sup>、青木正博

#### <目的・概要・進捗状況>

ヘッジホッグ (Hh) シグナル構成分子であるPTCH1やSMOの遺伝子変異によるHhシグナルの異常な活性化は基底細胞がんや髄芽腫の原因として知られている。一方、これらの変異に依存しないHhシグナルの活性化も肺がん、膵がん、大腸がん、前立腺がんなどで報告されており、これらの活性化にはHhシグナルの上流制御因子である一次線毛が関与する可能性が考えられる。しかし、一次線毛-Hh経路のがんの病態生理における役割、特に転移における役割はほとんど解明されていない。

前年度までに、ヒト肺腺がん細胞株のA549をTGF-βで処理すると一次線毛の発現が誘導されることを電顕レベルで確認した。平成28年度は、同じく肺腺がん細胞株であるPC-14を用いた検討をおこない、A549同様にTGF-β処理によって一次線毛が発現することを観察した。興味深いことに肺扁平上皮がん細胞株のEBC-1や肺大細胞がん細胞株のLu99ではTGF-βによる一次線毛の発現誘導を認めなかった。

## <今後の方向>

TGF- $\beta$  処理に伴う肺腺がん細胞の一次線毛発現機序を分子レベルで解明するとともに、がんの進行における一次線毛の役割を明らかにしたい。

<sup>1)</sup> 理研・ライフサイエンス技術基盤研究センター

## <研究課題> 3

(主題) がん悪液質の病態生理解明と治療戦略の基盤構築  
(副題) マウスモデルを用いた網羅的解析

## <研究者氏名>

小島 康、藤下晃章、梶野リエ、曾我朋義<sup>1)</sup>、武藤 誠<sup>2)</sup>、青木正博

## <目的・概要・進捗状況>

がん悪液質は、腫瘍の病期とは必ずしも関係なく発症し、筋肉萎縮を伴う進行性の体重減少を主徴とする。筋肉萎縮は、がん患者のPerformance Status (PS)、Quality of Life (QOL) を著しく低下させ、抗がん治療の障害になる。がん悪液質の病態解明は遅れており、治療法も殆ど進歩していない。我々は、悪液質の病態解明と治療法の基盤構築を目指して、悪液質マウスモデルの解析に取り組んでいる。

*Apc*変異マウスでは約20週齢から、*cis-Apc/Smad4* 変異マウスでは14週齢から悪液質様病態を呈して衰弱し、数日で瀕死の状態に至る。衰弱個体の肉眼解剖所見では、骨格筋の萎縮、白色脂肪組織の萎縮、脾腫が特徴的である。前年度までに、悪液質を発症した*Apc*変異マウスと*cis-Apc/Smad4* 変異マウスの肝臓、骨格筋、血漿、腫瘍組織の代謝変化に関して、キャピラリー質量分析法 (CE-MS) を用いた解析を行い、データに関して統計学的検討を加えて、肝臓、骨格筋に関して悪液質に特徴的な代謝プロファイルが存在することを確認した。平成28年度は、ヒトメラノーマSEKI細胞をヌードマウスに移植する悪液質モデルの肝臓、骨格筋においても、*cis-Apc/Smad4* 変異マウスと同様の特徴的な代謝変化が起こることを見出した。加えて、*cis-Apc/Smad4* 変異マウスとSEKI細胞モデルの血漿の解析から、悪液質発症に関連する可能性がある、有望な炎症関連物質を同定した。

## <今後の方向>

悪液質発症マウスの肝臓・骨格筋に特徴的な代謝プロファイルを生ずるメカニズムに関して検討を加える。また*cis-Apc/Smad4* 変異マウスとSEKI細胞モデルの血漿の解析から同定した悪液質発症に関連する可能性のある炎症関連物質の詳細についても検証を行う。

<sup>1)</sup> 慶應大・先端生命科学研究所、

<sup>2)</sup> 京大・国際高等教育院

## 腫瘍医化学部

## <研究課題> 1

(主題) がん細胞周期における新規キナーゼカスケイド  
(副題) Chk 1 のシグナル伝達経路を標的とした新たな治療戦略

## <研究者氏名>

後藤英仁、谷川順美、中井由希子<sup>1)</sup>、鐘巻将人<sup>2)</sup>、藤田雅俊<sup>3)</sup>、稲垣昌樹<sup>4)</sup>

## <目的・概要・進捗状況>

細胞の遺伝情報であるDNAは、外来性 (電離放射線、紫外線、DNA障害性薬物など) および内因性 (フリーラジカル、細胞内代謝産物など) の要因によって、絶え間なく、損傷されている。DNA障害を受けた細胞は、細胞周期の進行を停止させること (細胞周期チェックポイント) で、DNA修復に必要な時間を生み出している。また、修復機能を上回るDNA損傷や欠損の場合は、細胞周期の進行を半永久的に停止したり (細胞老化)、細胞死 (アポトーシス) を導いたりして、障害細胞を増殖細胞集団から排除する。

このようなDNA障害チェックポイントは、ATM-Chk 2-p53 経路とATR-Chk 1-Cdc25A経路の大きく二つのシグナル伝達経路によって制御されている。ATM-Chk 2-p53経路は、多くのがんにおいて (遺伝子変異や欠失などによって) 障害されていることが知られている。そのため、抗がん剤や放射線治療等でDNA障害を引き起こした後、Chk 1 阻害剤を併用することで細胞死をがん特異的に引き起こすことが期待され、多くの薬剤が臨床試験に入っている。

我々の研究グループは、これまでに、Chk 1 が、ATR以外のキナーゼからもリン酸化修飾を受けて機能変化していることが明らかにしてきた。そのなかで、Chk 1 がDNA障害チェックポイント応答だけでなく、外的なDNA損傷が引き起こされていない環境においても機能していることも明らかにしてきた。また、詳細は不明であるが、外的なDNA損傷がない状態においてもがん細胞のほうが正常細胞よりもChk 1 活性が高いことが数々のグループから報告されている。このことは、Chk 1 阻害剤が単剤でも抗がん治療に用いることを示唆しており、近年ではこの方向で薬剤開発がされつつある。

しかしながら、外的なDNA損傷がない状態におけるChk 1 の機能はほとんどわかっていないのが現状といえる。その一つの要因として、RNA干渉法などの手法では特定の細胞周期でのみChk 1 を阻害できないため、出てきた表現型がどの細胞周期におけるChk 1 阻害による影響かを検討できないことがあげられる。

我々は、CRISPR/Cas 9 を用いて*CHEK1* 遺伝子座に特定の遺伝子を挿入することで、内在性のChk 1 が薬剤依存性に分解されるHCT116 (大腸がん) 細胞株 (*CHEK1*<sup>mAID/mAID</sup>) を樹立することに成功した。親株のHCT116細胞 (*CHEK1*<sup>WT/WT</sup>) と比較して、外的DNA損傷刺激に対するチェックポイント応答に (内在性のChk 1 を分解していない条件下では) 大きな差



異を認めなかった。*CHEK1*<sup>mAID/mAID</sup>細胞では、オーキシンの付加後15-30分という比較的短いタイミングで効率的なChk1の分解が誘導された。*CHEK1*<sup>WT/WT</sup>細胞ではオーキシン添加によって細胞増殖にほとんど変化認められなかったにもかかわらず、*CHEK1*<sup>mAID/mAID</sup>細胞ではオーキシン添加後2-3日目より細胞増殖が低下し、その後、細胞死（アポトーシス）が誘導されることが判明した。

以上の結果は、がん細胞において、外的DNA損傷がない状態においてもChk1が細胞の生存に関与していること、Chk1阻害剤が単剤で十分にがん細胞に細胞死を誘導できることを示唆している。

#### <今後の方向>

最近、*CHEK1*<sup>mAID/mAID</sup>細胞にオーキシンを添加すると、比較的早い時期にCdc25Aの分解が抑制され、Cdc25Aのタンパク質量が増加してくることが判明した。このことは、外的DNA損傷がない時期においても、1) Cdc25Aをリン酸化し、分解へと誘導していること、2) Cdc25Aの分解により、細胞周期進行エンジンであるサイクリン依存性キナーゼ (Cdk) が異常に活性化していること、3) この異常活性化により、細胞死が誘導させている可能性がある。この仮説が正しいかを検証するため、現在、Cdkの活性を負に制御するCdc25Aまたはp53をChk1とともにオーキシン依存的に分解できるようにしたら、Chk1の分解による細胞死が減弱するのかを検証中である。また、*CHEK1*<sup>mAID/mAID</sup>細胞を用いて、Chk1の新規基質を探索し、この中に新たな抗がん治療の分子標的になるようなものはないかを検証している。

1) 中央実験室、2) 国立遺伝研、3) 九大・薬、

4) 三重大・分子生理

#### <研究課題> 2

(主題) 新しい中心体及び細胞間接着制御因子群の機能解析

(副題) trichoplein, Albatrossをはじめとした中心小体動態を制御する蛋白質群によるがん研究

#### <研究者氏名>

猪子誠人、林 裕子、五島直樹<sup>1)</sup>、清野 透<sup>2)</sup>、稲垣昌樹<sup>3)</sup>、加納英明<sup>4)</sup>

#### <目的・概要・進捗状況>

中心体は1umほどの小さな細胞内構造であるが、特徴的な動態変化として、①中心小体複製、②紡錘体形成、③一次線毛形成、の3つを示す。これらに付随する細胞分裂・増殖・分化は細胞の重要現象であるだけでなく、がん化の標的でもある。特にがんでは中心体数の異常や一次線毛形成能の欠失がみられる。このように小さい作用点で大きい現象効果を生む中心小体構造には、治療標的としての期待も持てる。一方で、その小ささゆえに困難な解析は、最近の高～超解像顕微鏡やオミックス解析技術の総合進歩による克服を待つ必要があった。

これまでに私どもは、一次線毛形成制御が細胞周期制御と連

動する発見をtrichoplein-オーロラA分裂期キナーゼ分子経路と共に示した(猪子ら、JCB2012; 猪子ら、化学と生物2013)。具体的には、①一次線毛を強制的に形成させた正常二倍体細胞は増殖培地中でも細胞増殖休止が誘導されることを発見し、②この線毛動態制御の内在性分子機構は中心小体内におけるtrichoplein蛋白質の微小局在の有無によるオーロラA分裂期キナーゼの活性切り替えであることを提示した。これにより、一次線毛が形成できない培養がん細胞はオーロラA阻害で特異的に分裂期障害を起こし死滅する可能性を同時に提示し得た。

これまでに、中心小体で動態制御にあずかる新規標的分子群を局在と機能の両面から検索し、新たに補填した。具体的には産総研が保有する蛋白質局在情報データベース (HGPD) に基づき、中心体局在を示す遺伝子約680個およびtrichoplein類似配列蛋白質約100個を抽出した。これらを配列特性やRPE1-hTRET細胞(不死化正常二倍体)を用いた遺伝子ノックダウンスクリーニングで絞り込み、trichopleinと類縁の機能蛋白質を数十個見出した段階にある。

昨年度以来、trichoplein類縁蛋白質であるAlbatross(猪子ら、JCB2008)が中心体の3機能を全て統括する新知見を得た。私どもが作成したAlbatross抗体は、生体組織において、気管多線毛の根元にある中心小体類似構造に加え、広く複製中の中心小体に局在を示した。そのため、正常二倍体培養細胞で以下の局在・機能相関実験を追加した。まず、詳細な局在観察では中心小体の遠位端と近位端の両方への局在を認めた。Albatrossノックダウンでは血清飢餓下での一次線毛形成が阻害されたが、これは先行報告で示唆のあった遠位端機能の障害による。一方で、血清存在下のAlbatrossノックダウンでは新たに中心小体複製の障害が明らかとなった。マーカーを用いた局在相関確認や・生化学的結合実験からは、これが近位端に局在するSAS6の障害によることが示唆された。さらにAlbatrossノックダウンでは紡錘体形成の障害が新たに見られた。こちらは近位端に局在するPlk1の障害との相関を示す強いデータを複数得ている。以上の結果は、Albatrossが3つの特徴的な中心体動態を統括するこれまでにない重要分子であることを示唆するものである。

本年度は、さらなる確証を複数の細胞種、生化学的手法、点変異導入、断片変異体解析、そしてレスキュー実験によって得ることができたため、最終投稿準備中にある。

また、国立大学法人筑波大学・数理物質系の加納英明准教授との共同研究では、白色レーザーを搭載した新しい顕微鏡を開発し、網膜内の重要構造であり、中心体に付随する「線毛根」が、第二次高調波発生で標識物質なしに可視化できることを、実験的に証明した。

#### <今後の方向>

Albatrossの中心体機能については、先行研究との比較でアドバンスを詳細に提示し、がんの基盤研究の論文報告としてまとめる。

また、共同研究で可視化に成功した「線毛根」は、実は幅広い生物の感覚に寄与することから、眼病の診断や広範な生物感覚研究への応用が期待される。トピックスである細胞力覚とがん化の関係なども見えてくるかもしれない。

- 1) 産総研・創薬分子プロファイリング、  
2) 国立がんセンター研、<sup>3)</sup> 三重大・分子生理、  
4) 筑波大 数理物質科学研究科 電子・物理工学専攻

を考察する。

- 1) 遺伝子医療研究部、<sup>2)</sup> 疫学・予防部、<sup>3)</sup> 三重大学医学部

## 中央実験室

### <研究課題>

(主題) 食道がん、頭頸部腫瘍の分子遺伝学的研究

(副題) ミトコンドリアDNAの多型と食道がん発がんリスク

### <研究者氏名>

組本博司、松尾恵太郎<sup>1)</sup>、田中英夫<sup>2)</sup>、田島和雄<sup>3)</sup>

### <目的・概要・進捗状況>

ミトコンドリアゲノムDNA (mtDNA) は核ゲノムDNAと比べ、一般に変異が生じやすいといわれている。また最近では老化やがん化に伴ってmtDNAに変異を生じることも報告されている。我々は、食道がんについて高頻度にmtDNAの変異が蓄積していることを以前明らかにした。もともと食道は、喫煙・飲酒の影響を直接受ける器官であり、これらの生活習慣によって発がんリスクも上昇することが示されている。mtDNAに多くの多型が存在することで、酸化的リン酸化の過程で電子が漏れ、活性酸素がより多く産生されることが考えられる。そこで、本研究では、mtDNAのD-loop領域に存在する多型の数を数え、食道がんの発がんリスクとの関連を解析することを計画した。また、生活習慣に関わる発がんリスクとmtDNAの多型の数との関連も解析する。

本研究には、HERPACC (the Hospital based Epidemiologic Research Program at the Aichi Cancer Center) のデータベースより食道がん患者185例、食道がん患者に性、および年齢を一致させた非がん患者対照185例を用いた。喫煙、飲酒習慣を含む生活習慣に関する情報、さらに、血液からDNA得た。

mtDNAのD-loop領域は、複製、転写をコントロールする領域であり、多型、変異が多数見つかっている領域でもある。現在、食道がん患者および、非がん患者由来のDNAの塩基配列を決定すると同時に、これらの解析した塩基配列と、mtDNAの基準配列であるrCRSと比較することによって、D-loop領域の多型を網羅的に検出しているが、塩基置換が全体の8割を占めた。現在のところ、平均で、食道がん患者で6.7多型/人、非がん患者で6.7多型/人の多型が検出されている。

### <今後の方向>

今後、多型の数と食道がんリスクとの関連、さらに飲酒・喫煙のリスクを修飾する多型の探索を行う。また、核だけでなくミトコンドリアでも働いていることが明らかとなっている修復遺伝子、hOGG-1の多型 (Ser326Cys) をそれぞれのサンプルについて解析し、mtDNAの変異と喫煙・飲酒との関連や、さらに、mtDNAの変異と飲酒・喫煙習慣との関連を明らかにし、食道がんにおけるmtDNAの変異がどのような過程で生じるか

### 3. 病院及び研究所における共同研究（共同研究費）

#### <研究課題 1>

悪性中皮腫の原因遺伝子の同定と臨床応用

Identification of genes responsible for the development and progression of mesothelioma and their clinical application

#### <研究者氏名>

所属部 分子腫瘍学部

研究者氏名 関戸好孝

共同研究者 樋田豊明、田中広祐、堀尾芳嗣、谷田部 恭、水野鉄也、坂尾幸則

#### <目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等>

悪性中皮腫のゲノム異常の本体を明らかにするために、愛知県がんセンターで樹立された悪性中皮腫細胞株および兵庫医科大学で集積された悪性中皮腫検体を用いて全エクソームシーケンシングを行い、ゲノム異常について解析を進めた。解析の結果、悪性中皮腫は、1) CDKN2A、NF2、BAP1、およびTP53といった腫瘍抑制遺伝子の変異・欠失がドミナントな腫瘍であることが明らかとなった。さらに、2) 他の固形腫瘍と比べ、遺伝子変異数は比較的少ないこと、3) 活性型のがん遺伝子変異（ドライバー変異）は稀であること、4) 染色体全般に広範囲に欠失が見られること、5) 遺伝子変異は、組織型（上皮型、二相型、肉腫型）によって頻度の違いが認められること、等が明らかとなった。

機能的な視点から遺伝子変異を分類したところ、共通するパスウェイにおける異常が検出されていた。すなわち、NF2遺伝子はHippo細胞内シグナル伝達系を制御するが、そのシグナル伝達系の構成因子であるLATS1/2の変異や欠失が同定された。一方、BAP1はヒストン脱ユビキチン化酵素をコードするが、同様にヒストン修飾に関わるSETDB1やSETD2の遺伝子変異も同定された。これらの結果から、ゲノム異常から統合される細胞内のシグナル伝達系異常としては A) NF2-Hippoシグナル伝達系の破綻と、その破綻によるYAP/TAZ転写コアクチベーターの恒常的活性化、及びその下流遺伝子の転写亢進、B) BAP1、SETDB1、SETD2変異を中心とするエピジェネティクス異常、遺伝子転写機構の調節異常、さらにはDNA損傷修復応答の異常、C) CDKN2AやTP53異常による、細胞周期調節、細胞老化・アポトーシス誘導機構の破綻、にまとめられた。これら3つのシグナル伝達系機構の破綻が悪性中皮腫の発生や進展に特に重要であることが示唆された。

以上の結果より、臨床応用の観点からは、悪性中皮腫で変異している遺伝子（腫瘍抑制遺伝子）を直接の標的として治療薬の開発を行うことは極めて困難であり、別の戦略を立てることの必要性が強く示唆された。NF2-Hippoパスウェイの破綻によるYAP/TAZの活性亢進については、これらが転写因子TEADとの結合を阻害する薬剤の開発が考えられる一方、NF2、BAP1と合成致死の表現型を示す遺伝子の同定が有力な戦略になりうるものと考えられた。本研究結果を基軸に新たな治療戦略の構築に向けた取組みが重要であることが強く示唆

された。

#### <研究課題 2>

頭頸部癌症例対照

A case-control study of head and neck cancer.

#### <研究者氏名>

所属部 疫学・予防部

研究者氏名 伊藤秀美

共同研究者 長谷川泰久、松尾恵太郎、尾瀬 功、小柳友理子

#### <目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等>

中央病院との共同で頭頸部がんの症例対照研究を実施した。飲酒習慣とALDH2遺伝子型の組み合わせによる生涯リスクの推計を行った。

#### <研究課題 3>

遺伝子多型を含めた乳がんリスク予測モデリング

Breast cancer risk prediction modeling using genetic polymorphisms information.

#### <研究者氏名>

所属部 遺伝子医療研究部

研究者氏名 松尾恵太郎

共同研究者 伊藤秀美、尾瀬 功、鶴飼知嵩、岩田広治

#### <目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等>

遺伝子多型が乳がんのリスクと関連する報告が積み重なって来たが、実際にそれをどう予防に応用するかに関しては確立されていない。我々は、乳がんのリスク予測モデルを病院疫学データを用いて構築してきた。本研究を通じて22個の遺伝子多型の情報と疫学情報の組み合わせを用いたリスク予測モデルを構築した。今後の個別リスクフィードバックを行う基盤が構築できた。

#### <研究課題 4>

すい臓がんに結合する高親和性抗体の樹立

#### <研究者氏名>

所属部 腫瘍免疫学部

研究者氏名 桑原一彦

共同研究者 葛島清隆、太田里永子、岡村文子、水野伸匡、原 和生、肱岡 範、清水泰博

#### <目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等>

1) 膵・胆管がん細胞表面に特異的に結合する高親和性のモノ



- クローナル抗体を取得すること。
- 2) 取得したハイブリドーマ（抗体産生細胞株）から抗体遺伝子を単離した後、免疫療法への応用のための改変を加えて、インビトロでの検討を実施すること。
  - 3) 取得した抗体について、診断への応用可能性の検討を実施すること。
- 以上を目的とした。

**背景：**我が国における急速な高齢人口の増加に伴い、高齢のがん患者の急増によってがん死亡者数は増加すること予想されている。一方、がん患者全体の5年生存率はやや改善傾向にあるものの、膵臓、胆管等の深部臓器に由来する早期発見の難しいがんにおいては、明らかな生命予後の改善が未だに得られていない。効果の高い免疫療法の構築は、難治性がんの新規治療として有望であると考えられる<sup>1)</sup>。このため、がん抗原を標的とした能動免疫あるいは受動免疫により、免疫を賦活化して腫瘍細胞の駆逐を行うようなさまざまな治療法に期待が集まっている。このためよりテーラーメイドで、副作用の少ない革新的な治療法の構築が望まれている。

我々は免疫応答で抗体の親和性成熟に機能する分子germinal center-associated nuclear protein (GANP) を過去に見出した。この分子を免疫グロブリンプロモーター／エンハンサー制御下で強制発現させた遺伝子導入マウス（以下GANPマウスと略）を作製したところ、抗原に対してKD値 =  $1 \times 10^{-9} \sim 10^{-11}$ M水準の超高親和性モノクローナル抗体を産生することが明らかとなった。このマウスを用いた抗体事業がすでに展開されており、従来法では作製することができなかった90種類以上の抗原に対して抗体作製に取り組み、90%の抗原に対して満足すべき抗体の作製に成功している。

**研究方法：**膵がん、胆管がん患者の腹水から、抗EpCAM抗体結合磁気ビーズなどを用いてがん細胞を単離する。単離したがん細胞をGANPマウスの腹腔内へ複数回接種し、脾臓細胞とミエロマ細胞を融合させる。HAT選択培地で増殖してきた細胞の培養上清を用いてがん細胞への反応性をELISAや免疫組織染色などにより選別し、候補クローンを限界希釈法によりクローニングする。

樹立したハイブリドーマから抗体をコードするmRNAを精製した後、逆転写酵素を用いてcDNAを作製する。PCR法を用いて抗体の重鎖、軽鎖それぞれの可変領域cDNAを融合し、single chain fragment variant (scFV) をコードするDNAを作製する。scFVは、当該抗体の抗原結合部位が1本のポリペプチドから構成されているものであるため、以下の応用が可能となる。すなわち、scFVからchimeric antigen receptor (CAR) およびbi-specific T cell engagers (BiTE) を作製する。CARとは、scFVにT細胞抗原受容体 (T cell antigen receptor, TCR) と鎖の細胞内シグナル伝達ドメインと、CD28および4-1 BBL等のTリンパ球共刺激分子の細胞内ドメインを融合した構造物である。BiTEとは、標的抗原に特異的なscFVと、CD3に特異的なscFVに融合した蛋白構造物である。CAR遺伝子を導入した活性化Tリンパ球およびBiTE蛋白の抗腫瘍機能は、インビトロにおける細胞傷害試験と腫瘍移植免疫不全マウスを用いたインビボ試験で評価する。

抗体が免疫診断へ応用可能かは得られた抗体の認識する抗原の性状（がん細胞表面にのみ発現するのか、あるいは血清中に分泌されるのか、など）に依存する。がん細胞表面にのみ発現する抗原を認識する場合は抗体を標識してがん細胞に取り込ませることで体外診断に応用できる。血清中に放出される抗原の場合はCA19-9などの腫瘍マーカーのように血清診断に応用できる。

**結果と考察：**文書による説明と同意が得られた後に、がん性腹水を有する膵がん患者腹腔内から注射器を使用して腹水を採取した。腹水中には、がん細胞、マクロファージ等の炎症細胞、リンパ球などが混在していたため以下の操作を行った。すなわち、腹水を遠心してペレット状に集積した細胞分画をリン酸緩衝液 (PBS) で洗浄・遠心操作を数回繰り返した後に、少量のPBSに懸濁し、磁気ビーズ標識した抗EpCAM抗体を加えて4℃、20分静置した。さらにPBSによる洗浄・遠心操作を加えた後、磁場を利用して磁気ビーズ標識抗EpCAM抗体が結合しているがん細胞を単離した。今年度に行われたがん性腹水は粘張度が高いものであったので、以上の操作を加えた後に得られたがん細胞数が、マウス免疫に必要な数に満たなかった。今後は、粘張度が低くがん細胞を比較的多く含むと予測される検体を用いて、必要な細胞数を確保する予定である。

#### <研究課題 5>

上咽頭がん組織に感染したEBウイルスゲノムの解析  
Analysis of Epstein-Barr virus genomes derived from nasopharyngeal carcinoma tissues

#### <研究者氏名>

所属部 感染腫瘍学部  
研究者氏名 神田 輝  
共同研究者 頭頸部外科 長谷川泰久

#### <目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等>

上咽頭がん組織にはほぼ100% EBウイルスの感染が認められ、細胞がん化におけるEBウイルスの関与が強く疑われている。近年のシーケンシング技術の進歩に伴い、EBウイルス株には多様性が存在することが明らかになったが、日本人上咽頭がん組織に感染しているEBウイルス株の解析の報告はきわめて限られている。そこで、日本人上咽頭がん組織に感染したEBウイルス株におけるウイルスがん遺伝子LMP1 (latent membrane protein 1) の塩基配列に着目して研究を行った。

インフォームドコンセント下において上咽頭がん生検組織3検体の提供を受け、それぞれの組織に感染したEBウイルス株のLMP1遺伝子塩基配列を決定した。これらの遺伝子がコードするLMP1蛋白質について、アミノ酸配列レベルで既知のLMP1蛋白質と比較する系統樹解析を行った。その結果、2検体は中国・東アジアの上咽頭がん・胃がんに感染しているEBウイルス株（中国・東アジア型）と同様のタイプであった。一方、1検体は中国・東アジア型と（伝染性単核症由来株であるB95-8株に代表される）欧米型の中間の位置に分類された。組換えEBウイルスを用いた実験系により、この中間型LMP1

遺伝子は、中国・東南アジア型のLMP1遺伝子と同様の機能を有することを明らかにした。以上より、がん組織に感染しているEBウイルス株LMP1遺伝子は機能的に同じグループに属することが示された。以上より、機能的に共通なLMP1遺伝子を持つEBウイルス株が上咽頭がん発がんに関与する可能性が示唆された。

#### <成果発表>

Sakuma K, Sasaki E, Kimura K, Komori K, Shimizu Y, Yatabe Y, and Aoki M. HNRNPLL, a newly identified colorectal cancer metastasis suppressor, modulates alternative splicing of *CD44* during epithelial-mesenchymal transition. *Gut*, in press.

#### <研究課題 6>

大腸がん転移抑制遺伝子の同定およびその機能解析

Identification and functional analysis of colon cancer metastasis suppressor genes

#### <研究者氏名>

所 属 部 分子病態学部

研究代表者 佐久間圭一郎

共同研究者 佐々木 英一、木村賢哉、清水泰博、  
谷田部 恭、青木正博

#### <目的>

大腸がんの罹患数は年々増え続けており、その死因の大半に転移が関与するといわれる。転移の機序は未解明の点が多く、転移促進因子は数多く報告されている一方で、転移抑制因子はほとんど同定されていない。我々は、低転移性マウス大腸がん細胞株CMT93とshRNAライブラリーを用いたマウス生体内スクリーニング法を確立し、新規大腸がん転移抑制遺伝子としてpre-mRNAスプライシングファクターをコードする*Hnrnp11*を同定した。ヒトにも*Hnrnp11*のオルソログ*HNRNPLL*が存在する。本研究課題では、HNRNPLLの機能および発現制御機構の解明をおこなう。

#### <研究成果>

平成28年度の成果として、①新規大腸がん転移抑制遺伝子*HNRNPLL*を同定したこと、②HNRNPLLは*CD44*のpre-mRNAスプライシングに関与すること、③HNRNPLLの発現低下は上皮間葉転換とリンクすることを専門誌「*Gut*」に論文発表した。さらにその続きとして、HNRNPLLによってスプライシング制御を受ける遺伝子群の網羅的同定を目的に、次世代シーケンシングとRNA免疫沈降法を用いた検討をおこなった。大腸がん細胞株SW480に*HNRNPLL* cDNAあるいは*HNRNPLL* shRNAを導入し、HiSeqを用いて両者のmRNA発現パターンを網羅的に比較した。2倍以上の発現増加を示したスプライスバリエーションを有する遺伝子群を抽出し、公共データベースDAVID (Database for Annotation, Visualization and Integrated Discovery) によるクラスタリング解析をおこなったところ、*HNRNPLL* cDNAを導入した細胞では“DNA replication”や“Cell cycle”などのパスウェイが上位に検出され、*HNRNPLL* shRNAを導入した細胞では“Regulation of actin cytoskeleton”、“Adherence junction”、“Focal adhesion”などのパスウェイが上位に検出された。現在、DNA replication関連遺伝子について、HNRNPLLによる発現量制御機序の詳細な検討をおこなっている。



## 4. プロジェクト研究（共同研究費）

### <研究課題 1>

*ganp* 遺伝子多型の非遺伝散発性乳癌発症及び悪性進展への寄与の検討

Contribution of *ganp* polymorphisms to the occurrence and malignant progression of sporadic breast cancers

### <研究者氏名>

所属部 腫瘍免疫学部  
研究者氏名 権藤なおみ  
共同研究者 伊藤秀美、吉村章代、桑原一彦

### <目的>

GANP分子の発現異常がマウスにおいては乳癌発症を引き起こすことが明らかとなった (Kuwahara *et al.*, 2016)。ヒト乳癌の発症や悪性進展にもこの分子が関与する可能性を考え、ヒト *ganp* 遺伝子多型 (single nucleotide polymorphisms; SNPs) に着目して「愛知県がんセンター病院疫学研究」(HERPACC) のデータを用いて症例対照研究を実施した。

### <方法>

「愛知県がんセンター病院疫学研究」(HERPACC) に参加した非がん対照者694名、乳癌患者1376名 (2001年から2005年に愛知県がんセンター中央病院で乳がんと診断された患者) のゲノム情報を検討した。イルミナ社iCOGSチップでジェノタイプされた約20万多型のうち、*ganp* 領域にあるタグSNPsを13カ所選定した。これらの遺伝子多型は、2個の連鎖不平衡ブロック内に存在していたので、各ブロックから1つずつSNPsを選出した (rs2839178とrs11702450)。統計解析は乳がんリスクとの関連をConditional logistic regression modelによるオッズ比 (OR) と95%信頼区間 (CI) にて評価し、乳癌症例での生存解析をKaplan-Meier methodとmultivariable Cox proportional hazard modelによるハザード比 (HR) と95% CIを用いて行った。

### <結果および進捗状況>

#### ① *ganp* 遺伝子多型と乳癌リスク

rs2839178とrs11702450は、両SNPでマイナーアレルの頻度は乳がん患者では対象者と比較して1/2以下であることがわかった。rs2839178では、Genotype modelで、GG型の人の乳がんリスクを1とした時、AA型の人のオッズ比は0.41であった (95% CI, 0.23-0.72,  $p=0.002$ )。またper allele modelにおけるオッズ比は、0.84 (0.72-0.99,  $P=0.038$ ) であった。一方、rs11702450では、rs2839186と同様の傾向を示したが、統計学的に有意ではなかった。

以上の結果から、rs2839178のAA型は、GG型と比べ、乳がんリスクを40%低下させることが示され、rs2839178をはじめとする*ganp* 遺伝子多型は乳がんリスクと関連していることが分かった。なお、この関連において、乳癌のサブタイプによる差はなかった。

#### ② *ganp* SNPsと乳癌患者予後

ヒト乳癌患者検体を用いた後向きコホート研究により、GANP低発現群は高発現群に比べて乳癌特異的生存期間、無再発生存期間の両方において予後が悪いことが明らかとなっている (Kuwahara *et al.*, 2016)。そこで*ganp* SNPsが発症のみならず予後にも影響するかどうかを解析した。

Per allele modelでrs2839178のG alleleを持つ患者は、無病生存期間が長かった [HR 0.70 (95%CI: 0.50-0.98)  $P=0.04$ ]。また統計学的に有意差はないものの、全生存期間も長い傾向にあった [HR 0.69 (95%CI: 0.44-1.08)  $P=0.11$ ]。rs11702450は予後との関連は認めなかった。

### <考察>

*ganp* 欠損マウスと乳癌発症との関連に基づき、本研究ではヒト乳癌発症におけるGANPの役割に関して*ganp* 遺伝子多型に着目して解析した。*ganp* 遺伝子多型は、乳癌リスクや予後と関連することが示されたが、この遺伝子多型がGANPタンパク発現にどのような影響を与えるかは本研究では明確にできていない。これまでGWASで同定された多くの乳癌疾患感受性遺伝子のオッズ比は2.0以下 (もしくは0.5以上) であることを考えると、本研究で解析した*ganp* 遺伝子多型のオッズ比は0.4であり、乳がん発症に大きな影響を与える遺伝子多型として大いに有望である。

### <研究課題 2>

大腸がん転移抑制遺伝子の同定およびその機能解析

Identification and functional analysis of colon cancer metastasis suppressor genes

### <研究者氏名>

所属部 分子病態学部  
研究代表者 佐久間圭一郎  
共同研究者 佐々木英一、木村賢哉、清水泰博、谷田部 恭、青木正博

### <目的>

大腸がんの罹患数は年々増え続けており、その死因の大半に転移が関するといわれる。転移の機序は未解明の点が多く、転移促進因子は数多く報告されている一方で、転移抑制因子はほとんど同定されていない。我々は、低転移性マウス大腸がん細胞株CMT93とshRNAライブラリーを用いたマウス生体内スクリーニング法を確立し、新規大腸がん転移抑制遺伝子としてpre-mRNAスプライシングファクターをコードする*Hnmp1l*を同定した。ヒトにも*Hnmp1l*のオルソログ*HNRNPLL*が存在する。本研究課題では、HNRNPLLの機能および発現制御機構の解明をおこなう。

### <研究成果>

平成28年度の成果として、①新規大腸がん転移抑制遺伝子 *HNRNPLL* を同定したこと、② *HNRNPLL* は *CD44* の pre-mRNA スプライシングに関与すること、③ *HNRNPLL* の発現低下は上皮間葉転換とリンクすることを専門誌「Gut」に論文発表した。さらにその続きとして、*HNRNPLL* によってスプライシング制御を受ける遺伝子群の網羅的同定を目的に、次世代シーケンシングとRNA免疫沈降法を用いた検討をおこなった。大腸がん細胞株SW480に *HNRNPLL* cDNAあるいは *HNRNPLL* shRNAを導入し、HiSeqを用いて両者のmRNA発現パターンを網羅的に比較した。2倍以上の発現増加を示したスプライスバリエーションを有する遺伝子群を抽出し、データベースDAVID (Database for Annotation, Visualization and Integrated Discovery) によるクラスタリング解析をおこなったところ、*HNRNPLL* cDNAを導入した細胞では“DNA replication”や“Cell cycle”などのパスウェイが上位に検出され、*HNRNPLL* shRNAを導入した細胞では“Regulation of actin cytoskeleton”、“Adherence junction”、“Focal adhesion”などのパスウェイが上位に検出された。現在、DNA replication関連遺伝子について、*HNRNPLL* による発現量制御機序の詳細な検討をおこなっている。

### <成果発表>

Sakuma K, Sasaki E, Kimura K, Komori K, Shimizu Y, Yatabe Y, and Aoki M. *HNRNPLL*, a newly identified colorectal cancer metastasis suppressor, modulates alternative splicing of *CD44* during epithelial-mesenchymal transition. *Gut*, in press.

### <研究課題 3>

HER2陽性胃癌患者のリキッドバイオプシーによるトラスツマブ耐性機序の解明とその克服法の検索

A pilot study to investigate the mechanisms of resistance to trastuzumab and promising combination therapy to overcome the resistance using liquid biopsy in HER2-positive gastric cancer

### <研究者氏名>

所属部 薬物療法部  
研究者氏名 谷口浩也  
共同研究者 宇良 敬、門脇重憲、田中 努 (内視鏡部)、  
中西速夫 (遺伝子病理診断部)、室 圭

### <目的>

切除不能進行・再発HER2陽性胃癌に対する標準治療は、抗HER2抗体薬トラスツマブを含む全身化学療法である。しかしながら、未だその治療成績は十分とは言えないのが現状である。本研究は、HER2陽性胃癌患者から採取した腫瘍由来血中遊離DNAおよび血液循環腫瘍細胞を用いてトラスツマブ獲得耐性機構を解明し、耐性克服を目標とした分子標的薬併用療法を企業・医師主導治験として提案することを目的とし

ている。

### <方法>

当院通院中のHER2陽性胃癌患者を含む胃・大腸癌患者に対し化学療法開始前、実施中、耐性後に血液採取を行い、腫瘍由来血中遊離DNA (cfDNA) ならびに血液循環腫瘍細胞 (CTC) を採取する。cfDNAを抽出しBioRad社QX100によるdroplet digital PCR法にてHER2, EGFR, KRAS, PIK3CA, METなどの遺伝子変異/遺伝子増幅の有無を測定し、抗HER2薬治療前後での変化を検討する。CTCは院内で開発した方法にて測定し、可能であればDNA/RNAを抽出、遺伝子発現解析を行う。

### <結果>

2017年3月末現在234検体の遺伝子変異解析を実施した。患者背景は年齢中央値 (範囲) 66 (24-88) 歳、男/女 57%/43%である。ほぼ全ての胃癌患者から採取した血液検体からcfDNAの抽出は可能であった。腫瘍組織のRAS/BRAF遺伝子状態との一致率を検討したところ、RAS遺伝子は感度56.2%、特異度85.4%であった。BRAF遺伝子変異は腫瘍組織由来のDNAでBRAF変異型と診断された6例中3例でcfDNAからのBRAF遺伝子変異が検出可能であった。一方、腫瘍組織からの診断にてHER2遺伝子増幅のある胃癌におけるcfDNAでのHER2 copy numberの検討を行ったが、copy numberの明らかな増加が認められたのは33.3%と低率であった。

### <考察>

本研究は腫瘍組織を (再) 生検することなく低侵襲に患者の癌の遺伝子状態を知り得る、いわゆる“リキッドバイオプシー”の臨床応用を目指す重要な研究として位置付けられる。血液 (血漿) から癌由来の核酸 (DNA) を抽出し、遺伝子状態を調べる技術は、近年急速に確立されつつあるが、未だ標準化されておらず発展途上である。本研究においても、遺伝子検査に十分なcfDNA量の抽出は可能であったものの、遺伝子変異/増幅の検出率は期待よりも低率であった。血液採取した患者の多くが、進行癌患者であるものの化学療法により癌のコントロールが出来ていたことも一因かもしれない。本法でcfDNAからHER2増幅を検出することは困難と考えられた。

### <研究課題 4>

悪性リンパ腫の治療効果・予後に関与する遺伝子変異の探索  
Investigation for genetic alterations associated with predictive and prognostic value in malignant lymphoma

### <研究者氏名>

所属部 血液・細胞療法部  
研究者氏名 加藤春美  
共同研究者 都築 忍、山本一仁、木下朝博

### <背景・目的>

悪性リンパ腫は多様な病型から成り立ち、病型ごとに分子生物学的・病理学的特徴および、臨床経過・予後が異なる。各病

型の分子病態に基づいた治療の最適化をはかるために、治療に先立ち薬剤反応性の事前予測および治療の最適化は重要な課題である。本研究では、悪性リンパ腫の一病型であり、希少疾患に属する成人リンパ芽球性リンパ腫における薬剤反応性を事前に予測するシステムを構築することを目的としている。

#### <方法および結果>

成人T細胞リンパ芽球性リンパ腫に対しては、2004年に米国より報告された治療強度の高い化学療法であるhyper CVAD/MA交代療法にひきつづき強化・維持療法での良好な治療成績(Thomas et al. Blood 2004)の報告結果を受けて、当院でも2005年以降、成人T細胞リンパ芽球性リンパ腫に対して、上記治療を継続的に実施している。今回の解析対象は、当院で診断およびhyper CVAD/MA療法をうけた成人T細胞リンパ芽球性リンパ腫8例。成人T細胞リンパ芽球性リンパ腫の診断にあたって、当院では骨髄腫瘍細胞の浸潤割合にかかわらず、リンパ節腫大または縦郭腫瘍を有する症例は、成人T細胞リンパ芽球性リンパ腫として連続的に治療をおこなっている。

まず細胞起源を同定するため、抗CD1a, CD2, cCD3, sCD3, CD7, CD34抗体を用いて腫瘍細胞の表現型の解析をおこなった。4症例はcortical T-cell type、2症例はmedullary T-cell type、2例はpro T/pre T-cell typesであった。これら8症例のうち、2例で再発をみとめ、再発を認めた症例はpro/pre T-cell typesと診断された症例であった。一方で、歴史的に成人T細胞リンパ芽球性白血病と定義され予後が不良であるため移植治療が適応考慮される2例(cortical T-cell type)については上記治療で長期寛解を得ることができている。

既報として、小児急性リンパ芽球性白血病では、細胞起源と予後との相関が検討されており、early T-cell precursor acute lymphoblastic leukemiaと診断される表現型を示す症例の存在が示されている(Coustan-Smith et al. Lancet Oncol 2009)。Early T-cell precursorsの表現型としては、T細胞表現型(CD1a陰性, CD8陰性, CD5 dim)を有する細胞において、myeloidまたはstem cell antigensとしてCD13, CD33, CD34, CD117, and/or HLA-DRを発現している細胞と定義されている(Bell et al. Nature 2008)。これらの症例では予後不良な経過を示すことが報告されていたが(Coustan-Smith et al. Lancet Oncol 2009)、その後、いくつかの研究グループより報告がおこなわれており、予後不良でないというデータも報告されている。今回、これらの表現型について検討を行ったところ、pro T-cell typeの症例がearly T-cell precursorsの表現型と診断された。本症例はhyper CVAD/MA交代療法中に早期再発を認め、治療抵抗性を有する症例であったことを示した(Kato H et al. *Hematology*. 2017; ahead of print)。

Early T-cell precursorsの表現型を含む上記8症例のうち、正常細胞からのDNAを抽出可能な症例について、腫瘍細胞における遺伝子変異解析の検討をおこなった。磁気細胞分離法を用いて細胞純化可能な症例について遺伝子の抽出を行い、次世代シーケンサーを用いた遺伝子変異の解析を行い3症例のデータを取得することができた。現在、詳細な解析を進めつつ、臨床情報との関連を検討し、予後・治療予測因子となるマーカーにつき統計学的解析を行っている。

#### <考察および結語>

本研究では、成人T細胞リンパ芽球性リンパ腫を対象として、正常T細胞の各分化段階を基に、腫瘍性T細胞における分化段階と臨床経過との関連性について解析を行った。小児急性リンパ芽球性白血病で示されているearly T-cell precursor phenotypeは、成人リンパ芽球性リンパ腫においても認められる表現型であり、治療抵抗性を示す症例であった。本研究で明らかにされた新たな特筆すべき知見としては、従来の定義では予後不良とされる成人T細胞リンパ芽球性白血病と診断されるリンパ節腫大または縦郭腫瘍を有する2例(cortical T-cell type)に対して、成人T細胞リンパ芽球性リンパ腫に対する強化型治療をおこなうことで、予後の改善が見込める可能性が示されたことである。現在、得られた遺伝子解析データについて、臨床情報を含めた詳細な検討を実施中であり、予後・治療予測因子となるマーカーの同定を試みている。

## 第2章 研究発表関係

### 1. 学会等における研究発表テーマ調べ（総長）

総長

- 001 *Kinoshita T* : The Para-Aortic Lymph Node Dissection in The Era of Neoadjuvant Chemotherapy. Korea International Gastric Cancer Week, 2017,(Korea)[招聘講演]
- 002 木下 平 : 噴門側胃切除術の再建方法と治療成績. 第78回日本臨床外科学会総会, 2016,(東京)[ビデオシンポジウム : 特別発言]
- 003 林 大介, 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川上次郎, 岩田至紀, 重吉 到, 筒山将之, 赤澤智之, 清水泰博, 木下 平 : 当院における膵中央切除術の検討. 第116回日本外科学会定期学術集会, 2016,(大阪)[ポスターセッション]
- 004 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川上次郎, 木下 平 : 膵癌手術における膵切除断端の術中迅速病理診断の意義. 第116回日本外科学会定期学術集会, 2016,(大阪)[ポスターセッション]
- 005 千田嘉毅, 清水泰博, 夏目誠治, 小森康司, 川上次郎, 木下 平 : 当科における腹腔鏡下膵尾側切除術の術式と手術適応の変遷. 第28回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2016,(大阪)[口演]
- 006 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博, 木下 平 : 通常ポートの腹腔鏡下胃切除術の技術で施行可能な胃癌 Reduced Port Surgery. 第71回日本消化器外科学会総会, 2016,(徳島)[ビデオセッション]
- 007 伊藤誠二, 伊藤友一, 三澤一成, 清水泰博, 木下 平 : 術後栄養指標からみた胃術後障害. 第46回胃外科術後障害研究会, 2016,(鳥取)[口演]
- 008 重吉 到, 伊藤友一, 三澤一成, 伊藤誠二, 木下 平 : 当院に於ける胃重全摘症例の検討. 第89回日本胃癌学会総会, 2017,(広島)[ポスターセッション]
- 009 伊藤誠二, 伊藤友一, 三澤一成, 清水泰博, 木下 平 : 腹腔鏡下胃切除と開腹手術における術中出血量と計算された出血量. 第89回日本胃癌学会総会, 2017,(広島)[ポスターセッション]



## 2. 学会等における研究発表テーマ調べ (病院)

消化器内科部

- 001 **Hara K** : EUS-BD. AEG Myanmar Workshop,2016, (YANGON),[特別講演]
- 002 **Hara K** : Interventional EUS Live Demo. AEG Myanmar Workshop,2016,(YANGON),[ワークショップ]
- 003 **Ueno M, Ozaka M, Ishii H, Sato T, Ikeda M, Uesugi K, Sata N, Miyashita K, Mizuno N, Tsuji K, Okusaka T, Furuse J** : Phase II study of modified FOLFIRINOX for chemotherapy-naïve patients with metastatic pancreatic cancer. ASCO 2016,2016,(Chicago, USA),[ポスター]
- 004 **Hara K** : What is the best route of EUS-BD? .T-CAP 2016,(名古屋),[講演]
- 005 **Okuno N, Hara, K, Yamao K, Mizuno N, Hijioka S, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Hirayama T, Shibuya H, Kondou H, Fujita A, Toriyama K, Suzuki H, Bhanthumkomol P, Niwa Y** : Efficacy of the 6-mm fully covered self-expandable metallic stent for EUS-guided hepaticogastrostomy : a prospective clinical study. Tokyo Conference of Asian Pancreato-biliary Interventional Endoscopy 2016,2016,(東京),[口演]
- 006 **Hara K** : Teaching Material of EUS. 2nd AEG subcommittee meeting,2016,(シンガポール),[口演]
- 007 **Hara K** : Goal of Teaching Subcommittee. 2nd AEG subcommittee meeting,2016,(シンガポール),[ワークショップ]
- 008 **Hijioka S** : The method of EUS screening and early detection of pancreatic cancer. EUS Course by Prof. Susumu Hijioka,2016,(モスクワ),[講演]
- 009 **Hijioka S, Hosoda W, Matsuo K, Ueno M, Furukawa M, Yoshitomi H, Ikeda M, Furuse J, Yatabe Y, Mizuno N** : Clinicopathological analyses in pancreatic neuroendocrine carcinoma (pNEC): a retrospective multicenter study. 第14回 日本臨床腫瘍学会学術集会,2016,(神戸),[シンポジウム]
- 010 **Mizuno N, Hijioka S, Ueno M, Furukawa M, Yoshitomi H, Ikeda M, Kobayashi N, Morizane C, Taguchi H, Kitano M, Komoto I, Kiojima Y, Matayoshi N, Murohisa T, Kanno A, Takagi T, Sakaguchi M, Furuse J, Yatabe Y** : Rb expression and KRAS mutation as predictors of response to platinum-based chemotherapy (PBC) of small and large cell neuroendocrine carcinoma (NEC): a subgroup analysis of the Japan pNEC study. Joint Conference of International Association of Pancreatology, Japan Pancreas Society and the Asian Oceanic Pancreatic Association 2016,2016, (仙台),[口演]
- 011 **Hirayama T, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Okuno N, Shibuya H, Kondou H, Fujita A, Natsume S, Senda S, Shimizu Y, Niwa Y, Yamao K** : Histological diagnosis with rapid on-site evaluation in endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration of pancreatic solid lesions. 第47回日本膵臓学会大会,2016,(仙台),[一般演題]
- 012 **Shibuya H, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Okuno N, Hirayama T, Kondo H, Fujita A, Shimizu Y, Senda Y, Natsume N, Niwa Y** : Utility of temporary deployment of fully covered self-expandable metal stents for post-operative benign bilioenteric anastomotic stricture. 第47回日本膵臓学会大会 第20回国際膵臓学会 第6回アジアオセアニア膵臓学会,2016,(仙台),[一般演題]
- 013 **Okuno N, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Hirayama T, Shibuya H, Kondou H, Fujita A, Toriyama K, Suzuki H, Niwa Y** : Efficacy of the 6-mm fully covered self-expandable metallic stent for EUS-guided hepaticogastrostomy. EUS2016,2016,(ハンガリー),[ポスター]
- 014 **Mizuno N, Todaka A, Mori K, Boku N, Ozaka M, Ueno H, Ktayashi S, Uesugi K, Kobayashi N, Hayashi H, Sudo K, Okano N, Horita Y, Kamae K, Yukisawa S, Nakamori S, Yachi Y, Henmi T, Kobayashi M, Fukutomi A** : Observational study of FOLFIRINOX (FFX) for unresectable/recurrent pancreatic cancer (PC) in Japanese patients(pts)(JASPAC 06): final results. ESMO 2016,2016,(Copenhagen, Denmark),[ポスター]
- 015 **Hara K** : EUS Intervention. 1st joint meeting between Siriraj GI Endoscopy Center & Nagoya University Hospital. Advanced in GI Endoscopy,2016,(バンコク),[講演]
- 016 **Hara K** : Pancreato-biliary Endoscopic therapy. 1st joint meeting between Siriraj GI Endoscopy Center & Nagoya University Hospital. Advanced in GI Endoscopy,2016,(バンコク),[Live Demo]
- 017 **Hara K** : Pancreato-biliary Endoscopic therapy DB-ERCP. 1st joint meeting between Siriraj GI Endoscopy Center & Nagoya University Hospital. Advanced in GI Endoscopy,2016,(バンコク),[Live Demo]
- 018 **Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama M, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Fujiyoshi T, Hieda N, Okuno N, Yoshida T, Yamao K, Bhatia V, Ando M, Niwa Y** : Optimal Intake of Clear Liquids during Preparation for Colonoscopy with Low Volume Polyethylene Glycol plus Ascorbic Acid (PEG-ASC). UEGW 2016,2016,(Vienna),[ポスター]
- 019 **Hijioka S** : ERCP. APDW2016,2016,(神戸),[Hands-on Seminar]
- 020 **Hijioka S** 他 : Ultrasound Fields : Liver, Pancreas and

- Biliary. APDW2016,2016,(神戸),[Hands-on Seminar]
- 021 **Ishihara M, Tanaka T, Hirayama Y, Ohnishi S, Mizuno N, Hijioka S, Okuno N, Hara K, Tajika M, Niwa Y** : Clinical outcome of salvage endoscopic submucosal dissection for esophageal squamous cell cancer after definitive chemoradiotherapy APDW 2016. 2016,(神戸),[一般演題]
- 022 **Hara K** : AEG Teaching Material EUS-FNA. AEG annual meeting,2016,(神戸),[ワークショップ]
- 023 **Mizuno N, Hijioka S, Okuno N, Hara K** : Evidence-based Chemotherapy for Pancreatic Cancer. APDW 2016,2016,(神戸),[シンポジウム]
- 024 **Hijioka S, Hanada K, Jang J** : Cutting-edge in Early Detection of Pancreatic Cancer. APDW 2016,2016,(神戸),[口演]
- 025 **Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Oonishi S, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Okuno N, Shimizu Y, Komori K, Kinoshita T, Bhatia V, Yatabe Y, Niwa Y** : Endoscopic submucosal dissection versus transanal endoscopic microsurgery and transanal resection for the treatment of lower rectal tumor. APDW 2016,2016,(神戸),[ポスター]
- 026 **Oonishi S, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Okuno N, Niwa Y** : Clinico-pathological features of H. pylori negative gastric mucosa-associated lymphoid tissue (MALT) lymphoma. APDW2016,2016,(神戸),[ポスター]
- 027 **Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Okuno N, Tajika M, Niwa Y** : Mucin phenotype and endoscopic features for early gastric cancer detected after H.pylori eradication. APDW2016,2016,(神戸),[ポスター]
- 028 **Hirayama Y, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Okuno N, Hieda N, Yoshida T, Kondou H, Hirayama T, Shibuya H, Suzuki H, Toriyama K, Fujita A, Yamao K, Niwa M** : Long-term clinical outcome of colorectal cancer with submucosal invasion after endoscopic resection. APDW2016,2016,(神戸),[ポスター]
- 029 **Tajika M, Toriyama K, Niwa Y** : The efficacy of The Japan NBI Expert Team (JNET) classification for endoscopically resectable lesions of colorectal tumors. JDDW2016,2016,(神戸),[Panel Discussion]
- 030 **Hara K** : Interventional EUS using AXIOS. EUS Medical Advisory Board in Galway, Ireland,2016,(アイルランド), [講演]
- 031 **Hara K** : Advance of EUS guided therapy. EUS Medical Advisory Board in Galway, Ireland,2016,(アイルランド), [講演]
- 032 **Hara K** : EUS-guided biliary drainage. 第9回新華医院学会,2016,(上海交通大学),[講演]
- 033 **Hara K** : Interventional EUS/ EUS-FNA. 第9回新華医院学会,2016,(上海交通大学),[講演]
- 034 **Hara K** : EUS/ EUS-FNA Hands-on, TTT course. 第9回新華医院学会,2016,(上海交通大学),[講演]
- 035 **Hara K** : Cholangioscopy SPY-DS through the EUS-HGS route. 4th APFF,2016,(東京),[講演]
- 036 **Morizane C, Ueno M, Sasahira N, Nagashima F, Mizuno N, Shimizu S, Hayata N, Ikezawa H, Suzuki T, Nakajima R, Ikeda M** : A Phase 2 Study of Lenvatinib in Unresectable Biliary Tract Cancer. 2017 Gastrointestinal Cancers Symposium,2017,(San Francisco, CA, USA),[ポスター]
- 037 **Hara K** : The impact of EUS and EUS-FNA in pancreatic cancer. Japan-Korea-Taiwan Joint Meeting for Pancreatic Cancer in Wakayama,2017,(和歌山),[講演]
- 038 **Hara K** : Interventional EUS. Yangon workshop & Live demo,2017,(Yangon),[特別講演]
- 039 **Hara K** : EUS, ERCP Live demo. Yangon workshop & Livedemo,2017,(Yangon),[ワークショップ]
- 040 **Toriyama K, Hijioka S, Komoto I, Kobayashi N, Okusaka T, Eisei G, Sudo K, Furukawa M, Tachibana Y, Ishioka C, Yasuda H, Mizuno N, Hara K, Imamura M, Ito T** : Prospective Observational Study 1 on the Prognosis of Patients with Unresectable Advanced Gastrointestinal and Pancreatic Neuroendocrine Tumors (PROP-UP 1 study) in Japan. 14th Annual ENETS Conference,2017,(バルセロナ),[ポスター]
- 041 **Hara K** : Techniques of EUS-FNA. 4th South China EUS summit AEG lecture,2017,(深州),[講演]
- 042 **Hara K** : EUS-guided pancreatobiliary intervention. 4th South China EUS summit,2017,(深州),[講演]
- 043 **Hara K** : Live demo. 4th South China EUS summit,2017,(深州),[ワークショップ]
- 044 **脇岡 範** : NET 2. 第102回 日本消化器病学会総会,2016,(東京),[座長]
- 045 **原 和生** : 膵癌診療. 臨床腫瘍学セミナー,2016,(名古屋),[講演]
- 046 **原 和生** : CLE. 日本病理学会,2016,(仙台),[講演]
- 047 **脇岡 範** : 高リスク群に対するスクリーニング(前向き臨床試験のデザイン). 家族性膵癌登録制度随時研究「膵がん早期発見のためのサーベイランスに関する研究」平成28年度第一回 コンセンサスミーティング,2016,(東京),[講演]
- 048 **田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 平山 裕, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田司, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 藤田 曜, 山雄健次, 丹羽康正** : 早期胃癌ESD症例に対するH.pylori除菌療法後に発症した異時性胃癌の検討. 第102回日本消化器病学会,2016,(東京),[口演]
- 049 **藤田 曜, 原 和生, 山雄健次** : EUSガイド下ランデブー法による胆道アプローチ. 第102回日本消化器病学会総会,2016,(東京),[シンポジウム]
- 050 **渋谷 仁, 脇岡 範, 原 和生** : 膵嚢胞性疾患における嚢

- 胞液分析の有用性と限界. 第102回日本消化器病学会総会, 2016.(東京),[一般演題]
- 051 石原 誠, 田近正洋, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 安部哲也, 室 圭, 古平 毅, 山雄健次, 丹羽康正: “MM以深食道表在癌に対する内視鏡切除 + 化学放射線療法の可能性. 第102回日本消化器病学会総会,2016.(東京),[一般演題]
- 052 鳥山和浩, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 藤田 曜, 丹羽康正: 狭窄症状で発見されたHyperplastic/serrated polyposis syndrome(HPS)の一例. 第3回消化管ポリポシス研究会,2016.(東京),[一般演題]
- 053 平山貴視, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 渋谷 仁, 近藤 尚, 徳久順也, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田 曜, 丹羽康正, 山雄健次: 経過観察中の膵神経内分泌腫瘍(pNET)の7例. 第102回日本消化器病学会総会,2016.(東京),[一般演題]
- 054 脇岡 範: 進化する内視鏡医療 —内視鏡学の未来へのかけ橋—. 第91回 日本消化器内視鏡学会総会,2016.(東京),[ハンズオンセミナー「EUS」トレーナー]
- 055 藤田 曜, 原 和生, 山雄健次: Convex型 EUSを用いた胆道癌の術前診断“EUS所見をどう理解し、いかに臨床に活かすか?”. 第91回 日本消化器内視鏡学会総会,2016.(東京),[プレナリーセッション]
- 056 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 吉田 司, 平山貴視, 近藤 尚, 渋谷 仁, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 藤田 曜, 徳久順也, 山雄健次, 丹羽康正: 超高齢者の下部消化管内視鏡検査におけるアスコルビン酸加高張性腸管洗浄液と等張性腸管洗浄剤の比較検討, 第91回日本消化器内視鏡学会総会,2016.(東京),[ポスター]
- 057 脇岡 範: 「胆膵」内視鏡治療困難例. 第91回日本消化器内視鏡学会総会,2016.(東京),[セッション(読影者)]
- 058 平山貴視, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 渋谷 仁, 近藤 尚, 徳久順也, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田 曜, 丹羽康正, 山雄健次: “EUS-FNAの迅速細胞診を最大限に活かすための試み. 第91回日本消化器内視鏡学会総会,2016.(東京),[一般演題]
- 059 鳥山和浩, 田近正洋, 丹羽康正: 下部消化管におけるAdvanced Diagnostic endoscopy for treatment 当院における大腸拡大NBI(JNET)分類の有用性に関する検討. 第91回日本消化器内視鏡学会総会,2016.(東京),[パネルディスカッション]
- 060 奥野のぞみ, 原 和生, 脇岡 範, 水野伸匡: 瘻孔形成術を応用した手技. 第5回 超音波内視鏡下穿刺術の手技標準化に関する研究会,2016.(東京),[附置研究会]
- 061 渋谷 仁, 原 和生, 山雄健次: 術後の良性胆管空腸吻合部狭窄に対する内視鏡的治療法の検討. 第91回日本消化器内視鏡学会総会,2016.(東京),[一般演題]
- 062 鈴木博貴, 田近正洋, 丹羽康正: 当院における食道ステント留置術の検討. 第91回日本消化器内視鏡学会総会, 2016.(東京),[ワークショップ]
- 063 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 平山 裕, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 藤田 曜, 山雄健次, 丹羽康正: H.pylori除菌療法後に発症した胃癌の臨床病理学的検討. 第91回日本消化器内視鏡学会,2016.(東京),[口演]
- 064 平山 裕, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 近藤 尚, 平山貴視, 渋谷 仁, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 藤田 曜, 山雄健次, 丹羽康正: 当院における大腸T1(SM)癌に対する内視鏡治療成績及び長期経過についての検討. 第91回日本消化器内視鏡学会総会,2016.(東京),[ポスター]
- 065 脇岡 範: 膵癌の診断と治療の最前線. Young Investigators Meeting Pancreatic Cancer-2016,(高松),[講演]
- 066 脇岡 範: 膵神経内分泌腫瘍の診断 update. 第28回 日本内分泌外科学会総会,2016.(横浜),[口演]
- 067 鈴木博貴, 脇岡 範, 近藤 尚, 山雄健次, 原 和生: EUSによる評価が有用であった嚢胞状リンパ節転移伴う進行胃癌の1例. 第89回日本超音波医学会学術集会,2016.(京都),[ポスター]
- 068 脇岡 範: 膵消化管神経内分泌腫瘍(GEP-NET)診断と治療の最前線. 第90回 東海核医学セミナー,2016.(名古屋),[講演]
- 069 脇岡 範: Borderline resectable 膵癌に対するSMIを用いたUS評価の有用性の検討. 第89回 日本超音波医学会 学術集会,2016.(京都),[口演]
- 070 脇岡 範, 原 和生, 山雄健次: 膵頭部スクリーニングにおける膵辺縁のメルクマールを用いた死角のない抽出法. 第89回 日本超音波医学会 学術集会,2016.(京都),[パネルディスカッション]
- 071 原 和生: 胆膵内視鏡.胆膵内視鏡研究会,2016.(沖縄),[ワークショップ]
- 072 鳥山和浩, 大瀬戸久美子, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 田近正洋, 原 和生, 丹羽康正: 膵神経内分泌腫瘍を契機に発端者として診断に至った多発性内分泌腫瘍症1型の2例. 第22回日本家族性腫瘍学会学術集会,2016.(松山),[一般演題]
- 073 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 小森康司, 木下敬史, 清水泰博, 丹羽康正: 大腸全摘術後の回腸嚢に発生する腫瘍の検討. 第22回日本家族性腫瘍学会,2016.(松山),[要望演題]
- 074 脇岡 範, 田中 努, 石原 誠, 丹羽康正, 山雄健次: 検診にて発見され術前診断し得た小型SPNの1例. 第55回日本消化器がん検診学会総会,2016.(鹿児島),[口演]
- 075 鈴木博貴, 田近正洋, 丹羽康正: 当院におけるH.pylori陰性胃MALTリンパ腫の臨床病理学的特徴. 第124回日本消化器病学会東海支部例会,2016.(浜松),[シンポジウム]



- 076 脇岡 範：膵・消化管神経内分泌腫瘍(NET)～診断と治療の最前線～. 消化器疾患医療連携の会,2016,(奈良)[講演]
- 077 原 和生：胆膵領域におけるInterventional EUS. 第116回日本消化器内視鏡学会 中国支部例会,2016,(島根)[教育講演]
- 078 脇岡 範：消化器内視鏡的治療の指導, 獨協胆膵US研究会,2016,(栃木)[講演]
- 079 脇岡 範, 山雄健次：ROLES OF EUS AND EUS-FNA IN DIAGNOSING PANCREATIC MALIGNANCY. The 19th International Congress of Cytology,2016,(横浜)[シンポジウム]
- 080 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 清水泰博, 丹羽康正：家族性大腸腺腫症患者の大腸切除術後の残存腸管に対するサーベイランスに関する検討. 第85回日本大腸癌研究会 主題I 遺伝性大腸癌,2016,(大阪)[口演]
- 081 原 和生：愛知県がんセンター中央病院 消化器内科の紹介. 第5回中部地区がん医療連携学術講演会,2016,(名古屋)[講演]
- 082 原 和生：EUSによる胆膵領域の内視鏡治療. 第16回日本消化器内視鏡学会東海支部ガイドライン研修会,2016,(名古屋)[講演]
- 083 原 和生：“胆膵内視鏡診療に関する心構え～初学者・指導者への学習・教育のコツ～. 第1回 内視鏡修練の会, 2016,(鳥取)[特別講演]
- 084 渋谷 仁, 原 和生, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 平山貴視, 近藤 尚, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田 曜, 佐々木英一, 谷田部 恭, 清水泰博, 丹羽康正：膵管内進展を認め、二期的膵全摘を行った膵腺房細胞癌の一例. 第17回臨床消化器病研究会,2016,(東京)[ポスター]
- 085 渋谷 仁, 大石敬之, 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 坂本康成, 近藤俊輔, 森実千種, 上野秀樹, 奥坂拓志：膵神経内分泌腫瘍に対するストレプトゾシン単剤治療の成績. 第14回臨床腫瘍学会学術集会,2016,(神戸)[ポスター]
- 086 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 山雄健次, 丹羽康正：レボホリナートでアナフィラキシー様症状を来した切除不能大腸癌の一例. 第13回日本臨床腫瘍学会総会,2016,(神戸)[ポスター]
- 087 伊東文子, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 丹羽康正, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 千田嘉毅, 夏目誠治, 清水泰博, 谷田部 恭, 原 和生：遠隔転移を伴う切除不能進行膵癌に対し、化学療法が奏功し根治切除可能となった三例. 第53回肝胆膵治療研究会,2016,(名古屋)[口演]
- 088 原 和生：EUS-BDについて. 仙台内視鏡治療ライブセミナー2016,2016,(仙台)[講演]
- 089 脇岡 範：膵癌の現状とその早期診断におけるUS, EUSの役割. 公立多良木病院胆膵超音波研究会,2016,(熊本)
- 090 脇岡 範：膵・消化管の神経内分泌腫瘍(NET)の診断・治療の最前線. Management of Neuroendocrine Tumors 学術講演会,2016,(大阪)[講演]
- 091 脇岡 範：EUS screening およびEUS-FNAのテクニック. 太田EUS研究会,2016,(群馬)[講演]
- 092 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 藤田 曜, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 丹羽康正：LSBEに発生したバレット食道癌の1例. 第13回拡大内視鏡研究会,2016,(東京)[口演]
- 093 脇岡 範：膵・消化管NETに対するストレプトゾシン. 第4回 日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会,2016,(東京)[シンポジウム]
- 094 渋谷 仁, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 平山貴視, 藤田 曜, 岩屋博道, 伊東文子, 松本慎平, 倉岡直亮, 丹羽康正, 原 和生：当院における進行膵消化管神経内分泌腫瘍(GEP-NET)に対するstreptozocin(STZ)の使用成績. 第4回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会,2016,(東京)[ポスター]
- 095 鳥山和浩, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木 博, 藤田 曜, 稲葉吉隆, 田近正洋, 原和生, 丹羽康正：当院におけるソマトスタチン受容体シンチグラフィの有用性に関する検討. 第4回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会,2016,(東京)[一般演題]
- 096 平山貴視, 原 和生, 奥野のぞみ, 脇岡 範, 水野伸匡, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 渋谷 仁, 藤田 曜, 岩屋博道, 伊東文子, 松本慎平, 倉岡直亮, 谷田部 恭, 丹羽康正, 清水泰博：“IPMN経過観察中に同時性多発膵管癌を来した1例. 第65回日本消化器画像診断研究会,2016,(福岡)[一般演題]
- 097 岩屋博道, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 藤田 曜, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 田近正洋, 丹羽康正：膵神経内分泌腫瘍(G1/G2)における非典型的な画像形態の臨床的意義についての検討. 第4回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会, 2016,(東京)[ポスター]
- 098 鈴木博貴, 原 和生, 脇岡 範, 近藤 尚：EUS、EUS-FNAが治療方針決定に有用であった転移性膵癌の1例. 第37回日本超音波医学会中部地方学術集会,2016,(名古屋)[一般口演]
- 099 原 和生：SPYglass DSを用いた胆膵腫瘍性疾患の診療. 胆道学会,2016,(横浜)[講演]
- 100 原 和生：EUS-BDガイドライン CQ3. 胆道学会,2016,(横浜)[ガイドライン公聴会]
- 101 奥野のぞみ, 原 和生, 脇岡 範：胆道疾患に対する超音波内視鏡下胆管胃吻合術(EUS-HGS)におけるトラブルシューティング. 第52回 胆道学会,2016,(横浜)[ビデオワークショップ]
- 102 藤田 曜, 奥野のぞみ, 原 和生：Convex型 EUSを用いた胆道癌の術前診断 “EUS所見をどう理解し、いかに臨



- 床に活かすか?第52回 胆道学会,2016,(横浜)[ワークショップ]
- 103 渋谷 仁, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 水野伸匡, 清水泰博, 村上善子, 谷田部 恭, 原 和生:十二指腸乳頭部Goblet cell carcinoidの一例. 第52回 胆道学会,2016,(横浜)[ポスター]
- 104 原 和生:Convex EUSの描出法,北陸EUS Hands-onセミナー,2016,(金沢)[講演]
- 105 脇岡 範:消化管NETに対する集学的治療における‘診断’の重要性~SRSを中心に~,オクトレオスキャン発売記念講演会,2016,(大阪)[講演]
- 106 脇岡 範:膵・消化管の神経内分泌腫瘍(NET)の診断・治療の最前線, Hokkaido Neuroendocrine Tumor FORUM, 2016,(札幌)[講演]
- 107 脇岡 範:pNET診断・治療の最前線. ALL KYUSHU pNET Practical Conference,2016,(福岡)[講演]
- 108 松本慎平, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 田近正洋, 原 和生:当院における膵神経内分泌腫瘍(pNET)に対するスニチニブの治療成績,第230回日本内科学会東海地方会,2016,(名古屋)[一般口演]
- 109 大西祥代, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 田近正洋, 丹羽康正, 水野伸匡, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 原 和生:H.pylori除菌療法により完全寛解が得られたAPI2-MALT 1陽性胃MALTリンパ腫の1例. 第230回日本内科学会東海地方会,2016,(名古屋)[一般演題]
- 110 岩屋博道, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 藤田 曜, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 田近正洋, 丹羽康正:膵神経内分泌腫瘍に対してエベロリムス投与後に発症した間質性肺炎が治療へ与える影響. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜)[ポスター]
- 111 伊東文子, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 千田嘉毅, 夏目誠治, 田近正洋, 清水泰博, 丹羽康正, 原 和生:切除不能膵癌に対するnab-PTX/GEM療法の単施設における後ろ向きコホート研究. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜)[ミニシンポジウム]
- 112 今岡 大, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 稗田信弘, 吉田 司, 奥野のぞみ, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次:転移性膵癌におけるCEAの予後予測因子としての有用性についての検討. 第54回日本癌治療学会総会,2016,(横浜)
- 113 脇岡 範:NETの画像診断—鑑別診断ポイント—. NET座談会 東海エリア,2016,(静岡)[座談会]
- 114 脇岡 範:NET 集学的治療の重要性. NET 座談会 東海エリア,2016,(静岡)[座談会]
- 115 奥野のぞみ, 原 和生, 山雄健次:悪性胆道狭窄に対する超音波内視鏡下胆管胃吻合術(EUS-HGS)の検討, JDDW2016,2016,(神戸)[デジタルポスター]
- 116 藤田 曜, 原 和生, 山雄健次:膵腫瘍性病変に対するEUS-FNA検体におけるK-ras遺伝子解析の有用性. JDDW2016,2016,(神戸)[デジタルポスター]
- 117 平山貴視, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 渋谷 仁, 藤田 曜, 徳久順也, 田近正洋, 丹羽康正, 山雄健次:膵臓癌に対するEUS-FNAの診断能の向上に向けた取り組み. 第58回日本消化器病学会大会,2016,(神戸)[デジタルポスター]
- 118 石原 誠, 田近正洋, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 山雄健次, 丹羽 康正:当院におけるESD非治癒切除例の検討. JDDW2016,2016,(神戸)[一般演題]
- 119 原 和生:基調講演 M-Throughの有用性. JDDW2016, 2016,(神戸)[講演]
- 120 奥野のぞみ, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田 曜, 丹羽康正, 山雄健次:悪性胆道狭窄に対する超音波内視鏡下胆管胃吻合術(EUS-HGS)の検討. 第92回日本消化器内視鏡学会総会,2016,(神戸)[ポスター]
- 121 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 藤田 曜, 安藤昌彦, 丹羽康正:大腸内視鏡検査における腸管洗浄剤の至適投与法の検討. 第92回日本消化器内視鏡学会総会, 2016,(神戸)[ポスター]
- 122 原 和生:.EUS/ERCP Hands-on. JDDW2016,2016,(神戸)[司会]
- 123 脇岡 範, 原 和生, 清水泰博:IPMNにおける壁肥厚所見の重要性. JDDW2016,2016,(神戸)[シンポジウム]
- 124 脇岡 範:膵・消化管の神経内分泌腫瘍(NET)の診断・治療の最前線—とっつきにくいNETを紐解きます—. JDDW2016,2016,(神戸)[セミナー]
- 125 脇岡 範:神経内分泌腫瘍の診断・治療のUpdate. JDDW2016,2016,(神戸)[セミナー]
- 126 渋谷 仁, 脇岡 範, 原 和生:P-NET, GEP-NETの治療方針. JDDW2016,2016,(神戸)[パネルディスカッション]
- 127 鈴木博貴, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 丹羽康正:当院における食道表在癌に対する内視鏡治療後非治癒切除に対する追加治療成績の検討. 第92回日本消化器内視鏡学会総会,2016,(神戸)[ポスター]
- 128 平山 裕, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 近藤 尚, 平山貴視, 渋谷 仁, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 藤田 曜, 山雄健次, 丹羽康正:当院における頸部食道表在癌の治療成績および長期経過. 第92回日本消化器内視鏡学会総会,2016,(神戸)[ポスター]
- 129 原 和生:超音波内視鏡を用いた胆膵診療. 浜松肝胆膵セミナー,2016,(浜松)[特別講演]
- 130 脇岡 範:膵癌の診断と治療の最前線. 第106回日本消化器病学会中国支部例会 第117回日本消化器内視鏡学会中国支部例会,2016,(岡山) [講演]

- 131 脇岡 範：膵癌の現状とその早期診断におけるEUSの役割. 胆膵研究会,2016,(埼玉),[講演]
- 132 藤田 曜, 奥野のぞみ, 原 和生：Convex型 EUSを用いた胆道癌の術前診断“EUS所見をどう理解し、いかに臨床に活かすか？日本消化器病学会東海支部第125回例会, 2016,(名古屋),[シンポジウム]
- 133 倉岡直亮, 田中 努, 田近正洋：中下咽頭表在癌に対するELPSの治療成績. 第125回日本消化器病学会東海支部例会, 2016,(名古屋),[シンポジウム]
- 134 原 和生：EUSを用いた消化器内科診療. EUS研究会,2016,(仙台),[特別講演]
- 135 脇岡 範：NET関連. 長野 北信NETフォーラム,2016,(長野)[講演]
- 136 原 和生：若手セッション・膵臓. 第59回日本消化器内視鏡学会東海支部例会,2016,(名古屋),[座長]
- 137 奥野のぞみ, 原 和生, 水野伸匡：良性胆道疾患に対する超音波内視鏡下瘻孔形成術を応用した手技. 第59回日本消化器内視鏡学会東海支部例会,2016,(名古屋),[シンポジウム]
- 138 藤田 曜, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 丹羽康正：胆道癌の術式決定におけるConvex型 EUSの有用性. 第59回日本消化器内視鏡学会東海支部例会,2016,(名古屋),[一般演題]
- 139 渋谷 仁, 原 和生, 奥野のぞみ, 脇岡 範, 水野伸匡, 大西祥代, 平山 裕, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 伊東文子, 岩屋博道, 倉岡直亮, 松本慎平, 藤田 曜, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 近藤 尚, 平山貴視, 夏目誠治, 千田嘉毅, 清水泰博, 丹羽康正：術後良性胆管空腸吻合部狭窄に対する短期的カバー付き金属製ステント留置の有用性. 第59回日本消化器内視鏡学会東海支部例会,2016,(名古屋),[一般演題]
- 140 鈴木博貴, 石原 誠, 田近正洋：MM以深食道表在癌に対するESD+追加CRTの治療成績. 第59回日本消化器内視鏡学会東海支部例会,2016,(名古屋),[シンポジウム]
- 141 平山貴視, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田 曜, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 丹羽康正：“EUS-FNAにおける迅速細胞診の可能性. 第59回日本消化器内視鏡学会東海支部例会,2016,(名古屋),[一般演題]
- 142 原 和生：EUS診断の基本とrisk management. 日本消化器内視鏡学会 近畿セミナー,2016,(大阪),[講演]
- 143 脇岡 範：進行膵消化管神経内分泌腫瘍(GEP-NET)に対するSTZの使用成績. ノーベルファーマ株式会社社内研修会, 2016,(名古屋),[講演]
- 144 脇岡 範：不随研究：高リスク群に対するスクリーニング(前向き臨床試験). 平成28年度第2回 家族性膵癌に関する小班会議,2016,(東京),[講演]
- 145 脇岡 範：膵神経内分泌腫瘍の全てを話します！第180回浜松胆膵疾患勉強会,2017,(静岡),[講演]
- 146 脇岡 範：①膵・消化管神経内分泌腫瘍治療に対するスト  
レプトゾシンその1 ②膵・消化管神経内分泌腫瘍治療に対するストレプトゾシンその2. 日経メディカル on line 配信ビデオ,2017,(名古屋),[講演]
- 147 原 和生：胆膵疾患に対するInterventional Endoscopy. 第3回横浜胆膵内視鏡手技交流研究会,2017,(横浜),[特別講演]
- 148 原 和生：胆膵疾患に対するInterventional Endoscopy. 京滋消化器内視鏡治療勉強会,2017,(京都),[特別講演]
- 149 原 和生：EUS-FNAの将来, My deram. 第6回 超音波内視鏡下穿刺術の手技標準化に関する研究会,2017,(東京),[講演]
- 150 原 和生：胆膵疾患に対する内視鏡診療の進歩. 第158回日本消化器内視鏡学会東北支部例会,2017,(仙台),[特別講演]
- 151 脇岡 範：消化管NETに対する集学的治療における‘診断’の重要性～SRSを中心に～. 第47回 茨城臨床核医学研究会, 2017,(茨城),[講演]
- 152 原 和生：膵癌診療に関する最新のトピックス. 第5回 FIGHT-Japan研究会,2017,(大阪),[特別講演]
- 153 原 和生：私のこだわりEUS & ERCP. 北野病院ライブセミナー,2017,(大阪),[特別講演]
- 154 原 和生：EUS, ERCP, 北野病院ライブセミナー,2017,(大阪),[ワークショップ]
- 155 脇岡 範：オクトレオスキャンの適応と課題. NEXT-Japan,2017,(東京),[講演]
- 156 平山 裕, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 大西祥代, 原和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 近藤 尚, 平山貴視, 渋谷 仁, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 藤田 曜, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 丹羽康正：当院におけるGIST診療の現状. 第13回日本消化管学会総会学術集会,2017,(名古屋),[ワークショップ]
- 157 松本慎平, 脇岡 範, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 平山貴視, 近藤 尚, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田 曜, 渋谷 仁, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 原 和生, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治：膵管狭窄を契機にEUSで同定されたT1a膵癌の1例. 第7回膵癌早期診断研究会,2017,(東京),[一般口演]
- 158 脇岡 範：オクトレオスキャンの臨床活用について. NET Progress Japan,2017,(東京),[講演]
- 159 藤田 曜, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 谷田部 恭, 清水泰博：術前の鑑別が困難であった膵神経内分泌腫瘍の一例. 第66回消化器画像診断研究会, 2017,(東京),[ポスター]
- 160 原 和生：膵小病変に対するEUS-FNA. FNA masters, 2017,(東京),[講演]
- 161 原 和生：Techniques of EUS-FNA. 群馬テクニカルセミナー,2017,(群馬),[特別講演]
- 162 原 和生：EUS, EUS-FNA, ライブセミナー. 群馬テクニカルセミナー,2017,(群馬),[ワークショップ]
- 163 原 和生：癌診療の実際. 東愛知新聞 サロン会,2017,(豊橋), [特別講演]
- 164 脇岡 範：膵神経内分泌腫瘍(NET)～診断と治療の最前線～. 第10回神戸胆膵研究会,2017,(神戸),[講演]
- 165 脇岡 範, 他：GEP-NET 治療選択 新WHO分類と治療へ

の影響. NET Advisory Board Meeting.(東京)[Board Meeting]  
 166 脇岡 範, 他 : 1)各NET関連薬剤の最適な適応症例 2)各NET関連薬剤の位置づけなど. Neuroendocrine Tumor Advisory Board Meeting (東京)[Board Meeting]

内視鏡部

- 001 *Okuno N, Hara, K, Yamao K, Mizuno N, Hijioka S, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Hirayama T, Shibuya H, Kondou H, Fujita A, Toriyama K, Suzuki H, Bhanthumkomol P, Niwa Y* : Efficacy of the 6-mm fully covered self-expandable metallic stent for EUS-guided hepaticogastrostomy: a prospective clinical study. Tokyo Conference of Asian Pancreato-biliary Interventional Endoscopy 2016,2016,(東京)[口演]
- 002 *Okuno N, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Hirayama T, Shibuya H, Kondou H, Fujita A, Toriyama K, Suzuki H, Niwa Y* : Efficacy of the 6-mm fully covered self-expandable metallic stent for EUS-guided hepaticogastrostomy. EUS2016,2016,(ハンガリー)[ポスター]
- 003 *Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Fujiyoshi T, Hieda N, Okuno N, Yoshida T, Yamao K, Bhatia V, Ando M, Niwa Y* : Optimal Intake of Clear Liquids during Preparation for Colonoscopy with Low Volume Polyethylene Glycol plus Ascorbic Acid (PEG-ASC). UEGW 2016,2016,(Vienna)[ポスター]
- 004 *Ishihara M, Tanaka T, Hirayama Y, Ohnishi S, Mizuno N, Hijioka S, Okuno N, Hara K, Tajika M, Niwa Y* : Clinical outcome of salvage endoscopic submucosal dissection for esophageal squamous cell cancer after definitive chemoradiotherapy. APDW2016, 2016,(神戸)[一般演題]
- 005 *Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Oonishi S, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Okuno N, Shimizu Y, Komori K, Kinoshita T, Bhatia V, Yatabe Y, Niwa Y* : Endoscopic submucosal dissection versus transanal endoscopic microsurgery and transanal resection for the treatment of lower rectal tumor. APDW2016,2016,(神戸)[ポスター]
- 006 *Oonishi S, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Okuno N, Niwa Y* : Clinico-pathological features of H. pylori negative gastric mucosa-associated lymphoid tissue (MALT) lymphoma. APDW2016,2016,(神戸)[ポスター]
- 007 *Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Okuno N, Tajika M, Niwa Y* :

- Mucin phenotype and endoscopic features for early gastric cancer detected after H.pylori eradication. APDW2016,2016,(神戸)[ポスター]
- 008 *Hirayama Y, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Okuno N, Hieda N, Yoshida T, Kondo H, Hirayama T, Shibuya H, Suzuki H, Toriyama K, Fujita A, Yamao K, Niwa Y* : Long-term clinical outcome of colorectal cancer with submucosal invasion after endoscopic resection. APDW2016,2016,(神戸)[ポスター]
- 009 *Tajika M, Toriyama K, Niwa Y* : The efficacy of The Japan NBI Expert Team (JNET) classification for endoscopically resectable lesions of colorectal tumors. J JDDW2016,(神戸)[International Session (Panel Discussion)]
- 010 *Toriyama K, Hijioka S, Komoto I, Kobayashi N, Okusaka T, Eisei G, Sudo K, Furukawa M, Tachibana Y, Ishioka C, Yasuda H, Mizuno N, Hara K, Imamura M, Ito T* : Prospective Observational Study 1 on the Prognosis of Patients with Unresectable Advanced Gastrointestinal and Pancreatic Neuroendocrine Tumors (PROP-UP 1 study) in Japan. 14th Annual ENETS Conference,2017,(バルセロナ)[ポスター]
- 011 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 平山 裕, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 藤田 曜, 山雄健次, 丹羽康正 : 早期胃癌ESD症例に対するH.pylori除菌療法後に発症した異時性胃癌の検討. 第102回日本消化器病学会,2016,(東京)[口演]
- 012 石原 誠, 田近正洋, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 安部哲也, 室 圭, 古平 毅, 山雄健次, 丹羽康正 : MM以深食道表在癌に対する内視鏡切除+化学放射線療法の可能性. 第102回日本消化器病学会, 2016,(東京)[一般演題]
- 013 田近正洋, 田中 努, 丹羽康正 : 当院における大腸腫瘍に対する診断や治療に画像強調観察(IEE)が及ぼす影響の検討. 第102回日本消化器病学会,2016,(東京)[パネルディスカッション]
- 014 平山貴視, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 渋谷 仁, 近藤 尚, 徳久順也, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田 曜, 丹羽康正, 山雄健次 : 経過観察中の睪神経内分泌腫瘍(PNET)の7例. 第102回日本消化器病学会, 2016,(東京)[一般演題]
- 015 鳥山和浩, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 藤田 曜, 丹羽康正 : 狭窄症状で発見されたHyperplastic/serrated polyposis syndrome(HPS)の一例. 第3回消化管ポリポーシス研究会,2016,(東京)[一般演題]
- 016 赤澤智之, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 田近正洋, 小森康司, 安部哲也, 千田嘉毅, 木村賢哉, 木下敬史, 植村



- 則久, 夏目誠治, 川上次郎, 田中 努, 石原 誠, 岩田至紀, 筒山将之, 重吉 到, 林 大介, 清水泰博: 75歳以上の高齢者における早期胃癌ESD非治療切除症例の検討. 第116回日本外科学会定期学術集会,2016(大阪).[ポスター]
- 017 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 吉田司, 平山貴視, 近藤 尚, 渋谷 仁, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 藤田 曜, 徳久順也, 山雄健次, 丹羽康正: 超高齢者の下部消化管内視鏡検査におけるアスコルビン酸加高張性腸管洗浄液と等張性腸管洗浄剤の比較検討. 第91回日本消化器内視鏡学会総会,2016,(東京).[ポスター]
- 018 平山貴視, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田司, 渋谷 仁, 近藤 尚, 徳久順也, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田 曜, 丹羽康正, 山雄健次: EUS-FNAの迅速細胞診を最大限に活かすための試み. 第91回日本消化器内視鏡学会総会,2016,(東京).[一般演題]
- 019 平山 裕, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 藤田 曜, 徳久順也, 山雄健次, 丹羽康正: 当院における大腸T1(SM)癌に対する内視鏡治療成績及び長期経過についての検討. 第91回日本消化器内視鏡学会総会,2016,(東京).[ポスター]
- 020 鳥山和浩, 田近正洋, 丹羽康正: 下部消化管におけるAdvanced Diagnostic endoscopy for treatment 当院における大腸拡大NBI(JNET)分類の有用性に関する検討. 第91回日本消化器内視鏡学会総会,2016,(東京).[パネルディスカッション]
- 021 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 平山 裕, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田司, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 藤田 曜, 山雄健次, 丹羽康正: H.pylori除菌療法後に発症した胃癌の臨床病理学的検討. 第91回日本消化器内視鏡学会総会,2016,(東京).[口演]
- 022 石原 誠, 田近正洋, 丹羽康正: 食道表在癌の内視鏡診断・治療の現状と限界 MM以深食道表在癌に対する内視鏡治療の治療成績、長期予後の検討. 第91回日本消化器内視鏡学会総会,2016,(東京).[パネルディスカッション]
- 023 鈴木博貴, 田近正洋, 丹羽康正: 当院における食道ステント留置術の検討. 第91回日本消化器内視鏡学会総会,2016,(東京).[ワークショップ]
- 024 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 小森康司, 木下敬史, 清水泰博, 丹羽康正: 大腸全摘術後の回腸嚢に発生する腫瘍の検討. 第22回日本家族性腫瘍学会,2016,(松山).[要望演題]
- 025 鳥山和浩, 大瀬戸久美子, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 田近正洋, 原 和生, 丹羽康正: 膵神経内分泌腫瘍を契機に発端者として診断に至った多発性内分泌腫瘍症1型の2例. 第22回日本家族性腫瘍学会学術集会,2016,(松山).[一般演題]
- 026 脇岡 範, 田中 努, 石原 誠, 丹羽康正, 山雄健次: 検診にて発見され術前診断し得た小型SPNの1例. 第55回日本消化器がん検診学会総会,2016,(鹿児島).[口演]
- 027 鈴木博貴, 田近正洋, 丹羽康正: 当院におけるH.pylori陰性胃MALTリンパ腫の臨床病理学的特徴. 日本消化器学会東海支部第124回例会,2016,(浜松).[シンポジウム]
- 028 田近正洋: 胃・十二指腸①. 日本消化器病学会東海支部第125回例会,(浜松).[座長一般演題]
- 029 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 清水泰博, 丹羽康正: 家族性大腸腺腫症患者の大腸切除術後の残存腸管に対するサーベイランスに関する検討. 第85回日本大腸癌研究会 主題I 遺伝性大腸癌,2016,(大阪).[口演]
- 030 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 山雄健次, 丹羽康正: レボホリナートでアナフィラキシー様症状を来した切除不能大腸癌の一例. 第13回日本臨床腫瘍学会総会,2016,(神戸).[ポスター]
- 031 渋谷 仁, 原 和生, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 平山貴視, 近藤 尚, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田 曜, 佐々木英一, 谷田部 恭, 清水泰博, 丹羽康正: 膵管内進展を認め、二期的膵全摘を行った膵腺房細胞癌の一例. 第17回臨床消化器病研究会,2016,(東京).[ポスター]
- 032 伊東文子, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 丹羽康正, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 千田嘉毅, 夏目誠治, 清水泰博, 谷田部 恭, 原 和生: 遠隔転移を伴う切除不能進行膵癌に対し、化学療法が奏功し根治切除可能となった三例. 第53回肝胆膵治療研究会,2016,(名古屋).[口演]
- 033 田近正洋: 第567回東海胃腸疾患研究会,2016,(名古屋).[座長]
- 034 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 藤田 曜, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 丹羽康正: LSBEに発生したバレット食道癌の1例. 第13回拡大内視鏡研究会,2016,(東京).[口演]
- 035 渋谷 仁, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 平山貴視, 藤田 曜, 岩屋博道, 伊東文子, 松本慎平, 倉岡直亮, 丹羽康正, 原 和生: 当院における進行膵消化管神経内分泌腫瘍(GEP-NET)に対するstreptozocin(STZ)の使用成績. 第4回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会,2016,(東京).[ポスター]
- 036 鳥山和浩, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木 博, 藤田 曜, 稲葉吉隆, 田近正洋, 原和生, 丹羽康正: 当院におけるソマトスタチン受容体シンチグラフィの有用性に関する検討. 第4回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会,2016,(東京).[一般演題]
- 037 平山貴視, 原 和生, 奥野のぞみ, 脇岡 範, 水野伸匡,



- 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 渋谷 仁, 藤田 曜, 岩屋博道, 伊東文子, 松本慎平, 倉岡直亮, 谷田部 恭, 丹羽康正, 清水泰博: "IPMN経過観察中に同時性多発膵管癌を来した1例. 第65回日本消化器画像診断研究会,2016,(福岡)[一般演題]
- 038 岩屋博道, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 藤田 曜, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 田近正洋, 丹羽康正: 膵神経内分泌腫瘍(G1/G2)における非典型的な画像形態の臨床的意義についての検討. 第4回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会, 2016,(東京)[ポスター]
- 039 田近正洋: 胃の腫瘍について. 愛知県がん登録研修会,2016,(名古屋)[講演]
- 040 田近正洋: 最新の内視鏡診断と内視鏡治療 胃癌と大腸癌. 総合講義: 最新医療と看護,2016,(愛知県立大学)[講演]
- 041 大西祥代, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 田近正洋, 丹羽康正, 水野伸匡, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 原 和生: H.pylori除菌療法により完全寛解が得られたAPI2-MALT1陽性胃MALTリンパ腫の1例. 第230回日本内科学会東海地方会,2016,(名古屋)[一般演題]
- 042 松本慎平, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 田近正洋, 原 和生: 当院における膵神経内分泌腫瘍(pNET)に対するスニチニブの治療成績. 第230回日本内科学会東海地方会,2016,(名古屋)[一般口演]
- 043 岩屋博道, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 藤田 曜, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 田近正洋, 丹羽康正: 膵神経内分泌腫瘍に対してエベロリムス投与後に発症した間質性肺炎が治療へ与える影響. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜)[ポスター]
- 044 伊東文子, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 千田嘉毅, 夏目誠治, 田近正洋, 清水泰博, 丹羽康正, 原 和生: 切除不能膵癌に対するnab-PTX/GEM療法の単施設における後ろ向きコホート研究. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜)[ミニシンポジウム]
- 045 今岡 大, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 稗田信弘, 吉田 司, 奥野のぞみ, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 転移性膵癌におけるCEAの予後予測因子としての有用性についての検討. 第54回日本癌治療学会総会,2016,(横浜)
- 046 杉山圭司, 成田有季哉, 門脇重憲, 三谷誠一郎, 本多和典, 舩石俊樹, 谷口浩也, 宇良 敬, 安藤正志, 田近正洋, 室 圭: 化学療法DIC合併進行胃癌に対する初回フッ化ピリミジン・プラチナ併用化学療法. 第54回日本癌治療学会総会, 2016,(横浜)
- 047 舩石俊樹, 谷口浩也, 杉山圭司, 三谷誠一郎, 本多和典, 成田有季哉, 門脇重憲, 宇良 敬, 安藤正志, 田近正洋, 室 圭: 一次治療dublet+bevacizumab療法はKRAS遺伝子型に関わらず大腸癌の予後を延長する. 日本癌治療学会総会,2016,(横浜)
- 048 神谷忠宏, 谷口浩也, 上原圭介, 中山裕史, 中山吾郎, 高橋卓嗣, 中野祐往, 松岡 宏, 宇都宮節夫, 坂本英至, 森義徳, 小森康司, 田近正洋, 室 圭, 谷田部 恭: 大腸がんのバイオマーカーBRAF/PIK3CA遺伝子変異と原発部位の関連 愛知大腸がん遺伝子プロファイル研究(第2報). 第54回日本癌治療学会総会,2016,(横浜)
- 049 宇良 敬, 田近正洋, 安部哲也, 室 圭, 門脇重憲, 谷口浩也, 成田有季哉, 田中 努, 石原 誠, 植村則久, 川上次郎: 食道がん治療の改善に向けて 食道癌術前化学療法から手術までの待期間が予後に及ぼす影響の検討. 第54回日本癌治療学会総会,2016,(横浜)
- 050 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正: 当院における食道癌根治的CRT後の遺残・再発に対するsalvage ESDの治療成績 第70回 日本食道学会学術集会,2016,(東京)[ポスター]
- 051 石原 誠, 田近正洋, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 山雄健次, 丹羽康正: 当院におけるESD非治癒切除例の検討. 第92回日本消化器内視鏡学会総会,2016,(神戸)[一般演題]
- 052 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正: 胃悪性リンパ腫の内視鏡像の検討. 第92回日本消化器内視鏡学会総会2016(神戸), [ワークショップ]
- 053 奥野のぞみ, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田 曜, 丹羽康正, 山雄健次: 悪性胆道狭窄に対する超音波内視鏡下胆管胃吻合術(EUS-HGS)の検討. 第92回日本消化器内視鏡学会総会,2016(神戸)[ポスター]
- 054 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 藤田 曜, 安藤昌彦, 丹羽康正: 大腸内視鏡検査における腸管洗浄剤の至適投与方法の検討. 第92回日本消化器内視鏡学会総会,2016,(神戸)[ポスター]
- 055 鈴木博貴, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 丹羽康正: 当院における食道表在癌に対する内視鏡治療後非治癒切除症例に対する追加治療成績の検討. 第92回日本消化器内視鏡学会総会,2016,(神戸)[ポスター]
- 056 平山貴視, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 渋谷 仁, 藤田 曜, 徳久順也, 田近正洋, 丹羽康正, 山雄健次: 膵臓癌に対するEUS-FNAの診断能の向上に向けた取り組み. 第58回日本消化器病学会大会,2016,(神戸)[デジタルポスター]
- 057 平山 裕, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 近藤 尚, 平山貴視, 渋谷 仁, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 藤田 曜, 山雄健次, 丹羽康正: "当院における頸部食道表在癌の治療成績および長期経過, 第58回日本消化器病学会大会,2016,(神戸)[ポスター]

- 058 舛石俊樹, 田近正洋, 室 圭: 切除不能進行・再発大腸癌一次治療におけるベバシズマブ併用は予後を改善しているか?. 第58回日本消化器病学会大会,2016,(神戸),[パネルディスカッション]
- 059 田近正洋: 早期大腸がん: 内視鏡診断・治療のための腸管洗浄. 名古屋市守山区医師会学術講演会,2016,(名古屋),[講演]
- 060 田近正洋: 正確な内視鏡診断のための最適な腸管洗浄法. 第71回日本大腸肛門病学会学術集会ランチタイムセミナー,2016,(伊勢),[講演]
- 061 倉岡直亮, 田中 努, 田近正洋: 中下咽頭表在癌に対するELPSの治療成績. 日本消化器病学会東海支部第125回例会,2016,(名古屋),[シンポジウム]
- 062 田近正洋: 日本消化器病学会東海支部第125回例会,2016,(名古屋),[座長 シンポジウム]
- 063 鈴木博貴, 石原 誠, 田近正洋: MM以深食道表在癌に対するESD+予防的CRTの治療成績. 第59回日本消化器内視鏡学会東海支部例会(名古屋),[シンポジウム]
- 064 田近正洋: 第59回日本消化器内視鏡学会東海支部例会(名古屋),[座長 シンポジウム]
- 065 藤田 曜, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 丹羽康正: 胆道癌の術式決定におけるConvex型 EUSの有用性. 第59回日本消化器内視鏡学会東海支部例会,2016,(名古屋),[一般演題]
- 066 渋谷 仁, 原 和生, 奥野のぞみ, 脇岡 範, 水野伸匡, 大西祥代, 平山 裕, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 伊東文子, 岩屋博道, 倉岡直亮, 松本慎平, 藤田 曜, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 近藤 尚, 平山貴視, 夏目誠治, 千田嘉毅, 清水泰博, 丹羽康正: 術後良性胆管空腸吻合部狭窄に対する短期的カバー付き金属製ステント留置の有用性. 第59回日本消化器内視鏡学会東海支部例会,2016,(名古屋),[一般演題]
- 067 平山貴視, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田 曜, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 丹羽康正: "EUS-FNAにおける迅速細胞診の可能性. 第59回日本消化器内視鏡学会東海支部例会,2016,(名古屋),[一般演題]
- 068 田近正洋: 早期咽頭癌・食道癌の診断と治療. 第27回日本消化器内視鏡学会東海セミナー,2017,(名古屋),[講演]
- 069 石原 誠, 田近 正洋, 田中 努, 平山 裕, 大西祥代, 加藤 忠, 丹羽康正: 症例検討1セッション「上部消化管」. "第13回日本消化管学会総会学術集会,2017,(名古屋),[症例検討セッション]
- 070 平山 裕, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 大西祥代, 原和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 近藤 尚, 平山貴視, 渋谷 仁, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 藤田 曜, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 丹羽康正: 当院におけるGIST診療の現状. 第13回日本消化管学会総会学術集会,2017,(名古屋),[ワークショップ]
- 071 田近正洋: 「大腸(消化管出血)」。第13回日本消化管学会総会,2017,(名古屋),[座長 一般演題]
- 072 石原 誠, 田近正洋, 田中 努, 丹羽康正: 胃切除後のバレット食道の検討. 第89回日本胃癌学会総会,2017,(広島),[ポスター]
- 073 杉山圭司, 成田有季哉, 三谷誠一郎, 本多和典, 舛石俊樹, 谷口浩也, 門脇重憲, 谷口浩也, 宇良 敬, 安藤正志, 田近正洋, 室 圭: サルコペニアが切除不能・再発胃癌の予後に及ぼす影響. 第89回日本胃癌学会総会,2017,(広島),[ポスター]
- 074 成田有季哉, 田近正洋, 河合貞幸, 松島知広, 飯泉 桜, 高島淳生, 室 圭, 安井博史, 高張大亮, 朴 成和: DCS療法後のタキサン再投与に関する後方視的検討. 第89回日本胃癌学会総会,2017,(広島),[ポスター]

#### 呼吸器内科部

- 001 Shimizu J, Oya Y, Tanaka T, Yoshida T, Horio Y, Hida T, Sakao Y, Yatabe Y: Clinical outcomes of patients with LS-SCLC treated with chemoradiotherapy. Can we find candidates for salvage surgery? WCLC 2016,2016,(Wein)[Poster]
- 002 Hida T, Kim HY, Imamura F, Fukino K, Akamatsu H: Osimertinib vs platinum+based chemotherapy in patients with EGFRm T790M-positive aNSCLC (AURA 3), 57th Japan Lung Cancer Society Annual Meeting,2016,(Fukuoka),[Plenary session]
- 003 Nishio M, Kiura K, Abe T, Imamura F, Matsumoto S, Okamoto I, Satouchi M, Takenoyama M, Nakagawa K, Kurata T, Fujisaka Y, Tokushige K, Natori H, Hida T: Global Phase III study of ceritinib in ALK+NSCLC patients previously treated with crizotinib (ASCEND-5): Japanese subset results, 57th Japan Lung Cancer Society Annual Meeting,2016,(Fukuoka),[アンコールセッション]
- 004 Nishio M, Azuma K, Hayashi H, Hida T, Inoue A, Iwamoto Y, Ikeda S, Kiura K, Satouchi M, Sugawara S, Takeda K, Bhardwaj D, Keating A, Komatsu K, Morishita M, Takeda K, Morita S, Fukuoka M, Nakagawa K: ASP8273 tolerability and antitumor activity in TKI-naïve Japanese subjects with EGFR mutation-positive non-small cell lung cancer: preliminary results, 57th Japan Lung Cancer Society Annual Meeting, 2016,(Fukuoka),[Oral session]
- 005 土屋雅子, 荒井保明, 堀尾芳嗣, 船崎初美, 青儀健二郎, 宮内一恵, 高橋 都: がん診断後の離職割合の経時的変化と要因分析: 多施設共同研究. 第29回日本サイコオンコロジー会,2016,(札幌),[口演]
- 006 大矢由子, 田中広祐, 古田裕美, 近藤千晶, 渡辺尚宏, 吉田達哉, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 樋田豊明, 谷田部 恭: Alectinib耐性時に小細胞肺癌へ形質転換したALK融合遺伝子陽性NSCLCの1例. 第57回日本肺癌学会学術集会,

- 2016,(福岡),[症例報告]
- 007 古田裕美, 吉田達哉, 大矢由子, 田中広祐, 近藤千晶, 渡辺尚宏, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 樋田豊明, 谷田部 恭 : Afatinib獲得耐性後、複数回の再生検にてT790M変異を検出した肺腺癌の1例. 第109回日本肺癌学会中部支部会, 2016,(名古屋),[症例報告]
- 008 渡邊清永, 黒田浩章, 水野 瞳, 稲吉三葉, 村井一輝, 山田知里, 足立明美, 吉田達哉, 坂尾幸則, 内藤由美子 : 肺がん胸腔鏡手術における術後回復強化プロトコール(ERAS)の評価, 第17回日本クリニカルパス学会学術集会, 2016,(石川) ,[シンポジウム]
- 009 中西速夫, 安立弥生, 出嶋 仁, 服部正也, 黒田浩章, 吉田達哉, 岩田広治, 谷田部 恭 : フィルタ型CTC分離デバイスを用いた肺がん、乳がん等のCTCに関する前臨床的および臨床的検討. 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜), [ポスター]
- 010 田中広祐, 長田啓隆, 村上優子, 堀尾芳嗣, 樋田豊明, 関戸好孝 : 悪性中皮腫においてHippo伝達経路の共役転写因子YAPがCD44の発現を制御し、これらはスタチンによって阻害される. 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜), [English Oral Sessions]
- 011 東 公一, 樋田豊明, 軒原 浩, 近藤征史, 金 永学, 瀬戸貴司, 滝口裕一, 西尾誠人, 吉岡弘鎮, 今村文生, 堀田勝幸, 渡部 聡, 後藤功一, 中川和彦, 光富徹哉, 山本信之, 田中智宏, 田村友秀 : ALK陽性肺癌を対象としたアレクチニブ(ALC)とクリゾチニブ(CRZ)の比較Ⅲ相試験(J-ALEX試験). 第57回日本肺癌学会学術集会,2016,(福岡), [アンコールセッション]
- 012 坂 英雄, 菅原俊一, 樋田豊明, 堀田勝幸, 山田一彦, 倉田宝保, 横山琢磨, 関 順彦, 川口知哉, 梅村茂樹, 西尾誠人, *Gregory M, Lubiniecki, Roy S, Herbst,* : PD-L1 発現陽性既治療非小細胞肺癌に対するペムプロリズマブのⅢ相試験(KEYNOTE-010)の日本人集団解析. 第57回日本肺癌学会学術集会,2016,(福岡),[口演]
- 013 大橋圭明, 杉山栄里, 松本慎吾, 葉 清隆, 富井啓介, 中川 拓, 吉田達哉, 原 聡志, 本庄 統, 杉本啓介, 久山彰一, 津田岳志, 後藤功一 : 分子標的治療開発を目指した肺扁平上皮癌の遺伝子スクリーニング(LC-SCRUM-Japan). 第57回日本肺癌学会学術集会,2016,(福岡) ,[一般演題(口演)]
- 014 田中広祐, 長田啓隆, 村上優子, 堀尾芳嗣, 樋田豊明, 関戸好孝 : Hippo伝達経路不活化悪性中皮腫細胞においてスタチンがYAP-CD44カスケード抑制を介して増殖を阻害する. 第57回日本肺癌学会学術集会,2016,(福岡),[一般演題(ポスター)]
- 015 大矢由子, 吉田達哉, 田中広祐, 古田裕美, 近藤千晶, 渡辺尚宏, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 樋田豊明, 坂尾幸則, 谷田部 恭 : 既治療非小細胞肺癌におけるNivolumabの使用成績と効果予測因子についての検討. 第57回日本肺癌学会学術集会,2016,(福岡) ,[一般演題(口演)]
- 016 古田裕美, 吉田達哉, 大矢由子, 田中広祐, 近藤千晶, 渡辺尚宏, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 樋田豊明, 坂尾幸則, 谷田部 恭 : 高齢者(75歳以上)におけるOsimertinibの安全性の検討. 第57回日本肺癌学会学術集会,2016,(福岡),[一般演題(口演)]
- 017 下村一景, 大矢由子, 吉田達哉, 伊藤宏佳, 水野靖也, 樋田豊明 : 再発小細胞肺癌患者に対する塩酸アムルピシン+ベグフィルグラスチム併用療法の骨髄抑制へ与える影響. 第57回日本肺癌学会学術集会,2016,(福岡),[一般演題(ポスター)]

#### 血液・細胞療法部

- 001 *Yamamoto K* : Immune checkpoint blockage in lymphoma(Immune Check Point Inhibitor; Promising Treatment for Cancer, 英語発表). 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会,2016,(神戸市),[International Symposium 2]
- 002 *Miyazaki K, Asano N, Yamada T, Takasaki H, Igarashi T, Nishikori M, Ohata K, Sunami K, Yoshida I, Niitsu N, Okamoto M, Yano H, Nishimura Y, Tamaru S, Izutsu K, Kinoshita T, Suzumiya J, Nishikawa M, Katayama N, Yamaguchi M* : Dose-Adjusted (DA) - EPOCH-R with High-Dose Methotrexate for Newly Diagnosed CD 5-Positive Diffuse Large B-Cell Lymphoma (CD 5+DLBCL): Interim Results from a Phase II Study. 58th American Society of Hematology Annual Meeting & Exposition,2016,(San Diego),[ポスター]
- 003 *Kato H., Yamamoto K, Higuchi Y, Saito T, Hori M, Taji H, Yatabe Y, Nakamura S, Kinoshita Y* : Mogamulizumab followed by GDP regimen in a patient with primary refractory angioimmunoblastic T-cell lymphoma. 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会,2016,(神戸市),[ポスターフリーディスカッション]
- 004 *Inagaki Y, Saito S, Yamamoto K, Usui E, Uchida T, Kinoshita T, Tamaki S, Sakai T, Kato T, Ono Y, Sawasa M, Ohashi H, Kakimoto Y, Imai K* : The retrospective analysis of the 69 cases of radioimmunotherapy by zevalin. 第78回日本血液学会学術集会,2016,(横浜),[口演]
- 005 *Maruyama D, Ogura M, Ishizawa K, Abe Y, Izutsu K, Ando K, Terui Y, Imaizumi Y, Tsukasaki K, Suzuki K, Izumi T, Usuki K, Kinoshita T, Taniwaki M, Uoshima N, Suzumiya J, Kurosawa M, Nagai H, Uchida T, Tobinai K* : Phase II trial of bendamustine-rituximab for untreated patients with indolent B-cell NHL or MCL. 第78回日本血液学会学術集会,2016,(横浜),[口演]
- 006 *Tobinai K, Maruyama D, Makita S, Kinoshita T, Yamamoto K, Higuchi Y, Murakami S, Terui Y, Yokoyama M, Uechi A, Ishida Y, Hatake K* : Japanese phase I study of polatuzumab vedotin in relapsed/refractory B-cell non-Hodgkin lymphoma. 第78回日本血液学会学術集会,2016,(横浜),[口演]
- 007 *Saito T, Kato H, Mihara H, Yamamoto K, Tange N, Taji H, Yatabe Y, Nakamura S, Kinoshita T* :



Incidence and clinical characteristics of nodular lymphocyte predominant Hodgkin lymphoma. 第78回日本血液学会学術集会,2016,(横浜),[口演]

- 008 **Kinoshita T, Hatake K, Fukuhara N, Choi I, Taniwaki M, Ando K, Maruyama D, Terui Y, Higuchi Y, Onishi Y, Yasunobu A, Kobayashi T, Yukari S, Tobinai K** : Phase 2 study of nivolumab in Japanese patients with relapsed or refractory Hodgkin lymphoma. 第78回日本血液学会学術集会,2016,(横浜),[口演]
- 009 **Kato H, Yamamoto K, Saito T, Tange N, Taji H, Yatabe Y, Nakamura S, Kinoshita T** : Clinical impact of early progression in patients with DLBCL after R-CHOP based therapy. 第78回日本血液学会学術集会,2016,(横浜),[口演]
- 010 **Tojo A, Kyo T, Yamamoto K, Takahashi N, Nakamae H, Kobayashi Y, Tauchi T, Okamoto S, Miyamura K, Iwasaki H, Hatake K, Matsumura I, Usui N, Yanase K,<sup>1</sup> Hu S, Farinh H, Naoe T, Ohyashiki K** : Ponatinib Phase 1/2 Study in Japanese Patients With Ph+ Leukemia. 第78回日本血液学会学術集会,2016,(横浜),[口演]
- 011 **Fujimoto F, Kawabata H, Takai K, Ide M, Tsukamoto N, Kinoshita T, Aoki S, Masaki Y** : A multicenter retrospective study of patients with TAFRO syndrome. 第78回日本血液学会学術集会,2016,(横浜),[ポスター]
- 012 山本一仁 : 悪性リンパ腫. 日本臨床腫瘍学会第28回教育セミナー-Bセッション,2016,(神戸市),[教育セミナー]
- 013 樋口悠介, 加藤春美, 山本一仁, 堀 南美, 齋藤統子, 田地浩史, 谷田部 恭, 中村栄男, 木下朝博 : 当院における Adolescent and Young Adult世代のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫及び縦隔原発大細胞型B細胞リンパ腫患者の後方視的検討. 第56回日本リンパ網内系学会総会,2016,(熊本市),[ポスター]

#### 薬物療法部

- 001 **Muro K, Uetake H, Tsuchihara K, Shitara K, Yamazaki K, Oki E, Sato T, Naitoh T, Komatsu Y, Kato T, Iwasaki K, Soeda J, Hihara M, Yamanaka T, Ochia I A, Yoshino T** : PARADIGM study: A multicenter, randomized, phase III study of mFOLFOX 6 plus panitumumab or bevacizumab as first-line treatment in patients with RAS (KRAS/NRAS) wild-type metastatic colorectal cancer. ASCO,2016,(シカゴ),[Poster Session]
- 002 **Masuishi T, Taniguchi H, Komori A, Mitani S, Hasegawa H, Narita Y, Kadowaki S, Ura T, Ando M, Muro K** : Phase I study of alternate-day administration of S-1, oral leucovorin, and bevacizumab for refractory metastatic colorectal cancer. ASCO,2016,(シカゴ),[publish only]
- 003 **Itabashi M, Tani K, Muro K, Masuishi T, Ohashi Y, Sugihara K** : Cetuximab observational study as first-line therapy in patients with metastatic colorectal cancer. ASCO,2016,(シカゴ),[publish only]
- 004 **Tahara M, Kiyota N, Yokota T, Hasegawa Y, Muro K, Takahashi S, Onoe T, Homma A, Taguchi J, Suzuki M, Minato K, Yane K, Ueda S, Hara H, Saijo K, Yamanaka T** : Phase II trial of combination treatment with paclitaxel, carboplatin and cetuximab (PCE) as first-line treatment in patients with recurrent and/or metastatic squamous cell carcinoma of the head and neck (CSPOR-HN02). ASCO,2016,(シカゴ),[Poster Session]
- 005 **Kato K, Kojima T, Yamazaki K, Muro K, Hara H, Chin K, Goddemeier T, Watanabe M, Doi T** : Phase I dose-escalation trial of Sym004, a mixture of two anti-EGFR antibodies, in Japanese patients with advanced solid tumors. ASCO,2016,(シカゴ),[Poster Discussion Session]
- 006 **Shah MA, Muro K, Shitara K, Tebbutt NC, Bang YJ, Lordick F, Borodyansky L, Li C** : The BRIGHTER trial: A phase III randomized double-blind study of BBI-608+ weekly paclitaxel versus placebo (PBO)+weekly paclitaxel in patients (pts) with pretreated advanced gastric and gastro-esophageal junction (GEJ) adenocarcinoma. ASCO,2016,(シカゴ),[Poster Session]
- 007 **Nishina T, Yoshino T, Shinozaki E, Yamazaki K, Komatsu Y, Baba H, Tsuji A, Yamaguchi K, Muro K, Sugimoto N, Tsuji Y, Moriwaki T, Esaki T, Hamada C, Tanase T, Ohtsu A** : Onset of neutropenia as an indicator of treatment response in the randomized phase II of TAS-102 vs placebo in Japanese patients with metastatic colorectal cancer (Study J003-10040030). ASCO,2016,(シカゴ),[Poster Session]
- 008 **Shitara K, Yonesaka K, Denda T, Yamazaki K, Moriwaki T, Tsuda M, Takano T, Okuda H, Nishina T, Sakai K, Nishio K, Tokunaga S, Yamanaka T, Boku N, Hyodo I, Muro K** : A randomized multicenter phase II study of FOLFIRI plus either panitumumab (Pmab) or bevacizumab (Bmab) as second-line treatment for wild-type KRAS exon 2 metastatic colorectal cancer (mCRC) with exploratory biomarker analysis by liquid biopsy: WJOG6210G. ASCO,2016,(シカゴ),[Poster Session]
- 009 **Mehra R, Seiwert TY, Mahipal A, Weiss J, Berger R, Eder JP, Burtness B, Tahara M, Keam B, Le DT, Muro K, Geva R, Chung HC, Lin CC, Meister A, Hille D, Cheng JD, Chow LQM, Haddad RI** : Efficacy and safety of pembrolizumab in recurrent/metastatic head and neck squamous cell carcinoma (R/M HNSCC): Pooled analyses after long-term follow-up in KEYNOTE-012. ASCO,2016,(シカゴ),[Clinical Science Symposium]
- 010 **Chow LQM, Mehra R, Haddad RI, Mahipal A, Weiss J, Berger R, Eder JP, Burtness B, Tahara M, Keam B, Le DT, Muro K, Geva R, Chung HC, Lin CC, Ayers M, Aurora-Garg D, Lunceford JK, Cheng JD, Seiwert TY** : Biomarkers and response to pembrolizumab



- (pembro) in recurrent/metastatic head and neck squamous cell carcinoma (R/M HNSCC). ASCO,2016,(シカゴ),[Clinical Science Symposium]
- 011 *Kato T, Okamoto W, Hamaguchi T, Hara H, Taniguchi H, Mizukami T, Denda T, Moriwaki T, Esaki T, Yuki S, Oki E, Kajiwara T, Kudo T, Naruge D, Tamura T, Fujii S, Doi T, Ohtsu A, Shitara K, Yoshino T* : The Nationwide Cancer Genome Screening Project in Japan, SCRUM-Japan GI-SCREEN: Efficient identification of cancer genome alterations in advanced colorectal cancer. ASCO,2016,(シカゴ),[Poster Session]
- 012 *Le DT, Andre T, Kim TW, Cutsem EV, Jäger D, Geva R, Hara H, Kim T-Y, Yoshino T, Burge ME, Taniguchi H, Elez E, Atreya CE, Bendell JC, Koshiji M, Wang R, Kang SP, Diaz LA* : KEYNOTE-164: Phase 2 study of pembrolizumab for patients with previously treated, microsatellite instability-high advanced colorectal carcinoma. ASCO,2016,(シカゴ),[Poster Session]
- 013 *Tokunaga M, Machida N, Mizusawa J, Katayama H, Taniguchi H, Shitara K, Tomita T, Yoshikawa T, Boku N, Sano T, Sasako M, Terashima M* : A randomized phase II trial of systemic chemotherapy with or without trastuzumab followed by surgery in HER 2 positive advanced gastric or esophagogastric junction adenocarcinoma with extensive lymph node metastasis: Japan Clinical Oncology Group study JCOG1301C (Trigger study). ASCO,2016,(シカゴ),[Poster Session]
- 014 *Taniguchi H, Uehara K, Nakayama H, Nakayama G, Takahashi T, Nakano Y, Matsuoka H, Utsunomiya S, Sakamoto E, Mori Y, Komori K, Tajika M, Muro K, Yatabe Y* : The location of colorectal cancer (right- vs. left-sided colon and rectum) affects the prevalence of BRAF V600E, non-V600E and PIK 3CA mutations: A prospective registration study in the Aichi Cancer Network. ESMO,2016,(コペンハーゲン),[poster]
- 015 *Mitani S, Kadowaki S, Oze I, Masuishi T, Narita Y, Taniguchi H, Ura T, Ando M, Tajika M, Makita C, Kodaira T, Uemura N, Abe T, Muro K* : Chemoradiotherapy versus surgery for clinical stage I esophageal squamous cell carcinoma: Along-term comparison. ESMO,2016,(コペンハーゲン),[poster]
- 016 *Yamazaki K, Yoshino T, Shinozaki T, Komatsu Y, Tsuji Y, Nishina T, Baba H, Denda T, Sugimoto N, Tsuji A, Yamaguchi K, Takayama T, Shimada Y, Hamamoto Y, Muro K, Gotoh M, Tanase T, Ohtsu A* : Clinical significance of thymidine kinase 1 expression on TAS-102 treatment in RECURSE phase III trial of TAS-102 versus placebo for metastatic colorectal cancer. ESMO,2016,(コペンハーゲン),[poster]
- 017 *Ciuleanu TE, Bodoky G, Garcia-Carbonero R, García Alfonso P, Cutsem EV, Muro K, Lipkovich MO, Ferry D, Sashegyi A, Nasroulah F, Tabernero J* : Is neutropenia a prognostic or a predictive factor for second line metastatic colorectal cancer (mCRC) patients (Pts)? Exploratory analysis from RAISE, a randomized, double-blind, phase III study of ramucirumab (RAM) + FOLFIRI vs placebo (PBO) + FOLFIRI. ESMO,2016,(コペンハーゲン),[poster]
- 018 *Sukawa Y, Noshio K, Miura Y, Takano T, Ito M, Yonesaka K, Mori M, Tokunaga S, Kawada J, Okuda H, Sakamoto T, Hirashima Y, Uchino K, Miyata Y, Yoshimura K, Yamazaki K, Hironaka S, Boku N, Hyodo I, Muro K* : Clinical significance of serum factors relating to ERBB signal pathways in a phase II trial of S-1 plus cisplatin combined with trastuzumab for HER 2-positive advanced gastric or esophagogastric junction cancer: WJOG7212G (T-SPACE) TR study. ESMO,2016,(コペンハーゲン),[poster]
- 019 *Bando H, Doi T, Muro K, Yasui H, Nishina T, Yamaguchi K, Takahashi S, Hasegawa H, Nomura S, Kuno H, Shitara K, Sato A, Ohtsu A* : The final results of a multicenter phase II study of TAS-102 monotherapy in patients with pre-treated advanced gastric cancer (EPOC1201). ESMO,2016,(コペンハーゲン),[poster]
- 020 *Corcoran R, André T, Yoshino T, Bendell J, Atreya C, Schellens J, Ducreux M, McRee A, Siena S, Middleton G, Gordon M, Humblet Y, Muro K, Elez E, Yaeger R, Sidhu R, Squires M, Jaeger S, Rangwala F, Cutsem EV* : Efficacy and circulating tumor DNA (ctDNA) analysis of the BRAF inhibitor dabrafenib (D), MEK inhibitor trametinib (T), and anti-EGFR antibody panitumumab (P) in patients (pts) with BRAF V600E-mutated (BRAFM) metastatic colorectal cancer (mCRC). ESMO,2016,(コペンハーゲン),[Oral Session]
- 021 *Fujiwara Y, Ishigami H, Fukushima R, Nashimoto A, Yabusaki H, Imamoto H, Imano M, Kadera Y, Uenosono Y, Amagai K, Kadowaki S, Miwa H, Yamaguchi H, Yamaguchi T, Kitayama J* : Phase III study comparing intraperitoneal paclitaxel plus S-1 / paclitaxel with S-1 / cisplatin in gastric cancer patients with peritoneal metastasis: PHOENIX-GC trial. ESMO, 2016,(コペンハーゲン),[Poster Discussion session]
- 022 *Tsuji A, Eto T, Masuishi T, Satake H, Segawa Y, Tanioka H, Hara H, Kotaka M, Sagawa T, Watanabe T, Nakamura M, Takahashi T, Negoro Y, Manaka D, Fujita H, Suto T, Ichikawa W, Fujii M, Takeuchi M, Nakajima T* : Phase II study of third-line cetuximab rechallenge in patients with metastatic wild-type K-RAS colorectal cancer who achieved a clinical benefit in response to first-line cetuximab plus chemotherapy (JACCRO CC-08). ESMO,2016,(コペンハーゲン),[Poster Discussion session]
- 023 *Ura T, Kato K, Koizumi W, Iwasa S, Katada C, Azuma M, Ishikura S, Nakao Y, Onuma H, Muro K* :

Phase 1 b study of nimotuzumab in combination with concurrent chemoradiotherapy in Japanese patients with locally advanced esophageal cancer. ESMO ASIA,2016,(シンガポール),[Poster]

- 024 **Taniguchi H, Narita Y, Kadowaki S, Ura T, Ando M, Muro K, Hamauchi S, Tsushima T, Yokota T, Todaka A, Machida N, Fukutomi A, Onozawa Y, Yasui H, Mori K, Yamazaki K** : A phase Ib study of irinotecan, bevacizumab and biweekly TAS-102 in Japanese patients with metastatic colorectal cancer refractory to fluoropyrimidine and oxaliplatin (MODURATE). ESMO ASIA,2016,(シンガポール),[Trial in Progress]
- 025 **Chung H, Chao Y, Lee K, Kudo M, Yen C, Kim T, Yamazaki K, Shih J, Kim S, Sohn J, Cheng R, Zhang Y, Binder P, Mi G, Orlando M, Muro K** : Ramucirumab safety in East Asian (EA) compared to non-EA patients: A meta-analysis of adverse events (AEs) in 6 global, randomized, double-blind, phase 3 clinical trials. ESMO ASIA,2016,(シンガポール),[Poster]
- 026 **Yamazaki K, Kito Y, Esaki T, Satake H, Taniguchi H, Tsuda T, Denda T, Moriwaki T, Mori K** : Dose-finding phase Ib study of FOLFOXIRI plus ramucirumab as first-line therapy for patients with metastatic colorectal cancer. ESMO ASIA,2016,(シンガポール),[Trial in Progress]
- 027 **Muro K, Cho JY, Bodoky G, Goswami C, Chao Y, Santos LV, Shimada Y, Topuzov E, Cutsem EV, Tabernero J, Zalcborg JR, Chau I, Cheng R, Hsu Y, Emig M, Orlando M, Wilke H, Fuchs CS** : Efficacy and safety of ramucirumab (RAM) for metastatic gastric or gastroesophageal junction (GEJ) adenocarcinoma across age subgroups in two global phase 3 trials. 2017 Gastrointestinal Cancers Symposium,2017,(サンフランシスコ),[Oral Abstract Session]
- 028 **Sugiyama K, Narita Y, Mitani S, Honda K, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Ando M, Tajika M, Muro K** : Impact of sarcopenia on survival outcomes in patients (pts) with metastatic gastric cancer (mGC). 2017 Gastrointestinal Cancers Symposium,2017,(サンフランシスコ),[Poster Session]
- 029 **Shinozaki E, Ishiguro M, Nakatani E, Yamaguchi T, Nakamura M, Miyamoto Y, Ojima H, Honma Y, Gotoh M, Ishikawa T, Takahashi K, Shimada Y, Yoshida K, Mizunuma N, Muro K, Komatsu Y, Yamaguchi K, Nakano H, Koike J, Sugihara K, PaFF-J Study Group** : A phase II study of panitumumab with FOLFOX or FOLFIRI as first-line chemotherapy for KRAS-wild type metastatic colorectal cancer: The PaFF-J study. 2017 Gastrointestinal Cancers Symposium,2017,(サンフランシスコ),[Poster Session]
- 030 **Yoshida S, Ishigami H, Muro K, Kadowaki S, Tsuji Y, Ohta Y, Yamashita H, Yamaguchi H, Kitayama J, Japan Intraoperative Chemotherapy Study Group (JIPG)** : Exploratory study of intraperitoneal paclitaxel plus mFOLFOX 6 for gastric cancer patients with peritoneal metastasis and inadequate oral intake. 2017 Gastrointestinal Cancers Symposium,2017,(サンフランシスコ),[Trials in Progress Poster Session]
- 031 **Yoshino T, Shinozaki E, Yamazaki K, Komatsu Y, Nishina T, Baba H, Tsuji A, Tsuji Y, Yamaguchi K, Sugimoto N, Denda T, Muro K, Takayama T, Esaki T, Hamamoto Y, Moriwaki T, Shimada Y, Goto M, Tanase T, Ohtsu A** : Effect of thymidine kinase 1 expression on prognosis and treatment outcomes in refractory metastatic colorectal cancer: Results from two randomized studies of TAS-102 versus a placebo. 2017 Gastrointestinal Cancers Symposium,2017,(サンフランシスコ),[Poster Session]
- 032 **Esaki T, Makiyama A, Kashiwada T, Hosokawa A, Kawada J, Moriwaki T, Horie Y, Satake H, Shinozaki K, Ishida H, Tanioka H, Tsukuda H, Uchino K, Nishikawa K, Sukawa Y, Yamanaka T, Nakamura S, Boku N, Hyodo I, Muro K** : T-ACT (WJOG7112G): A randomized phase II study of weekly paclitaxel ± trastuzumab in patients with HER2-positive advanced gastric or gastro-esophageal junction cancer refractory to trastuzumab combined with fluoropyrimidine and platinum. 2017 Gastrointestinal Cancers Symposium, 2017,(サンフランシスコ),[Trials in Progress Poster Session]
- 033 **Kang YK, Satoh T, Ryu MH, Chao Y, Kato K, Chung HC, Chen JS, Muro K, Kang WK, Yoshikawa T, Oh SC, Tamura T, Lee KW, Boku N, Chen LT** : Nivolumab (ONO-4538/BMS-936558) as salvage treatment after second or later-line chemotherapy for advanced gastric or gastro-esophageal junction cancer (AGC): A double-blinded, randomized, phase III trial. 2017 Gastrointestinal Cancers Symposium,2017,(サンフランシスコ),[Poster Session]
- 034 **Sakamaki K, Kito Y, Izawa N, Tsuda T, Morita S, Yamazaki K, Boku N, Muro K, Hyodo I** : Predictability of survival outcome by early tumor shrinkage (ETS) at 8 weeks with cutoff value of 20% in metastatic colorectal cancer (mCRC) patients treated with mFOLFOX 6 plus bevacizumab (bev) or FOLFIRI plus bev as first-line chemotherapy (1st-CTx): Validation in the phase III WJOG4407G trial. 2017 Gastrointestinal Cancers Symposium,2017,(サンフランシスコ),[Poster Session]
- 035 **Nakamura M, Kim TW, Xu Rh, Park YS, Hong YS, Zhang T, Kato T, Cho SH, Wang W, Matsuoka H, Han SW, Deng Y, Makiyama A, Lee KW, Ba Y, Ota M, Iwasa S, Morita S, Yamada Y, Muro K** : A multinational, randomized, phase III trial of XELIRI with

- or without bevacizumab versus FOLFIRI with or without bevacizumab as second-line therapy for metastatic colorectal cancer: Safety analysis of Asian XELIRI project (AXEPT). 2017 Gastrointestinal Cancers Symposium, 2017,(サンフランシスコ),[Poster Session]
- 036 **Komatsu Y, Muro K, Yamaguchi K, Satoh T, Uetake H, Yoshino T, Nishida T, Takikawa H, Kato T, Chosa M, Sunaya T, Yamamoto Y, Hamada Y, Watanabe T, Sugihara K** : Safety and efficacy of regorafenib post-marketing surveillance (PMS) in Japanese patients with metastatic colorectal cancer (mCRC). 2017 Gastrointestinal Cancers Symposium,2017,(サンフランシスコ),[Poster Session]
- 037 **Sugimoto N, Sakai D, Tamura T, Hara H, Nishina T, Esaki T, Okuda H, Denda T, Tsuda M, Satoh T, Makiyama A, Yamazaki K, Kuramochi H, Hosokawa A, Tsuda T, Taniguchi H, Kishimoto J, Boku N, Hyodo I, Muro K, West Japan Oncology Group (WJOG)** : Randomized phase II study of panitumumab (Pmab) + irinotecan (CPT-11) versus cetuximab (Cmab) + CPT-11 in patients (pts) with KRAS wild-type (WT) metastatic colorectal cancer (mCRC) after fluoropyrimidine (FU), CPT-11, and oxaliplatin (L-OHP) failure: WJOG6510G. 2017 Gastrointestinal Cancers Symposium,2017,(サンフランシスコ),[Poster Session]
- 038 **Satoh T, Denda T, Hamaguchi T, Sugimoto N, Ura T, Yamazaki K, Fujii H, Kajiwara T, Nakajima T, Takahashi S, Otsu S, Komatsu Y, Sasaki T, Sunaga Y, Yoshino T** : A phase II study of ziv-aflibercept (Z) + FOLFIRI in Japanese patients (pts) with metastatic colorectal cancer (mCRC). 2017 Gastrointestinal Cancers Symposium,2017,(サンフランシスコ),[Poster Session]
- 039 **Lenz HJ, Tabernero J, Yoshino T, Lonardi S, Falcone A, Mirón MLL, Saunders MP, Sobrero AF, Park YS, Monteagudo RF, Hong YS, Tomasek J, Taniguchi H, Ciardiello F, Sassi M, Peil B, Hastedt C, Studeny M, Cutsem EV** : Nintedanib (N) plus best supportive care (BSC) versus placebo plus BSC for the treatment of patients (pts) with metastatic colorectal cancer (mCRC) refractory to standard therapies: Health-related quality of life (HRQoL) results of the Phase III LUME-Colon 1 study. 2017 Gastrointestinal Cancers Symposium,2017,(サンフランシスコ),[Poster Session]
- 040 **Iwasa S, Taniguchi H, Yamazaki K, Yoshino T, Kiryu C, Liew EL, Naka Y, Sakata Y** : Phase 1 trial of OCV-C02, a peptide vaccine for metastatic colorectal cancer patients refractory to all standard chemotherapies. 2017 Gastrointestinal Cancers Symposium,2017,(サンフランシスコ),[Poster Session]
- 041 **Kawai S, Izumi S, Takashima A, Narita Y, Tajika M, Matsushima T, Yasui H, Muro K, Takahari D, Boku N** : Efficacy and safety of taxane-monootherapy in advanced gastric cancer refractory to triplet chemotherapy with docetaxel, cisplatin, and S-1: A multicenter retrospective study. 2017 Gastrointestinal Cancers Symposium,2017,(サンフランシスコ),[Poster Session]
- 042 **Murai K, Masuishi T, Taniguchi H, Hamauchi S, Sugiyama K, Tsushima T, Mitani S, Todaka A, Honda K, Yokota T, Narita Y, Machida N, Kadowaki S, Fukutomi A, Ura T, Onozawa Y, Ando M, Yasui H, Muro K, Yamazaki K** : Efficacy of bevacizumab in combination with doublet chemotherapy as first-line therapy in metastatic colorectal cancer according to KRAS status. 2017 Gastrointestinal Cancers Symposium, 2017,(サンフランシスコ),[Poster Session]
- 043 **Hayashi K, Mitani S, Taniguchi H, Hamauchi S, Sugiyama K, Tsushima T, Honda K, Todaka A, Masuishi T, Yokota T, Narita Y, Machida N, Kadowaki S, Fukutomi A, Ura T, Onozawa Y, Ando M, Yasui H, Muro K, Yamazaki K** : Efficacy of panitumumab plus irinotecan versus cetuximab plus irinotecan in patients with wild-type KRAS exon 2 metastatic colorectal cancer previously treated with bevacizumab within 6 months. 2017 Gastrointestinal Cancers Symposium,2017,(サンフランシスコ),[Poster Session]
- 044 **Oki E, Yoshino T, Muro K, Emi Y, Tsuji A, Yamasaki K, Yamanaka T, Sakisaka H, Kato T, Kanazawa A** : UGT1A1 genotype as an indicator of neutropenia for FOLFOXIRI with bevacizumab in patients with mCRC (QUATTRO study). 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2016,(神戸),[国際シンポジウム]
- 045 **Moriwaki T, Shitara K, Yonesaka K, Denda T, Yamazaki K, Tsuda M, Takano T, Okuda H, Nishina T, Muro K** : WJOG6210G: Randomized Phase II of 2nd-line FOLFIRI plus Panitumumab or Bevacizumab for KRAS Wild Colorectal Cancer. 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会,2016,(神戸),[口演]
- 046 **室 圭(演者)** : Biomarker analyses of second-line ramusirumab in patients with advanced gastric cancer from RAINBOW, a global, randomized, double-blind, phase 3 study. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜), [ミニシンポジウム]
- 047 **室 圭** : 消化管癌における免疫チェックポイント阻害薬の可能性. 第20回日本がん分子標的治療学会学術集会,2016,(大分),[ワークショップ]
- 048 **室 圭** : 高齢者に対して, どのようなレジメンを行い, どうベネフィットを評価すべきか. 第40回日本頭頸部癌学会, 2016,(埼玉),[シンポジウム]
- 049 **赤羽和久, 坂本英至, 室田かおる, 高原悠子, 角田伸行, 村田 透, 室 圭, 岩田広治** : 乳がん経験者への治療と仕事の両立支援～次の課題は何か?～. 第24回日本乳癌学会学術総会,2016,(東京),[パネルディスカッション]



- 050 室 圭：胃癌化学療法の最新情報～サイラムザの位置づけを中心に～. 第124回日本消化器病学会東海支部例会, 2016,(浜松),[ランチョンセミナー]
- 051 安藤正志：トリプルネガティブ乳癌に対する薬物療法. 第24回日本乳癌学会学術総会, (東京),[パネルディスカッション]
- 052 室 圭：食道扁平上皮癌におけるoncological treatmentの実際と今後の展望. 第58回日本婦人科腫瘍学会学術講演会,2016,(米子),[ワークショップ]
- 053 室 圭：切除不能進行・再発大腸癌治療の最前線～2016 Update～. 第85回大腸癌研究会,2016,(大阪),[ランチョンセミナー]
- 054 室 圭：大腸癌治療ガイドライン. 第85回大腸癌研究会, 2016,(大阪),[ガイドライン公聴会]
- 055 谷口浩也：大腸癌化学療法～10年間の歩みと今後の展望～. 第85回大腸癌研究会,2016,(大阪),[アフタヌーンセミナー]
- 056 室 圭：進行・再発大腸癌の最前線～2016Update～. JSMO's Best of ASCO® Conference,2016,(東京),[ランチョンセミナー]
- 057 谷口浩也：消化器がん—Colorectal Cancer. JSMO's Best of ASCO® Conference,2016,(東京),[口演]
- 058 室 圭：消化器癌薬物療法の今とこれから. 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会,2016,(神戸),[モーニングセミナー]
- 059 谷口浩也：大腸がんに対する薬物療法-最近の知見一課題. 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会,2016,(神戸),[教育講演]
- 060 三谷誠一郎, 門脇重憲, 尾瀬 功, 谷口浩也, 宇良 敬, 田近正洋, 牧田智誉子, 古平 毅, 植村則久, 安部哲也, 室 圭：Chemoradiotherapy versus surgery for clinical stage I esophageal squamous cell carcinoma: a long-term comparison. 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会,2016,(神戸), [口演]
- 061 長谷川裕子, 谷田部 恭, 安藤正志, 三谷誠一郎, 舛石俊樹, 小森 梓, 成田有季哉, 谷口浩也, 門脇重憲, 宇良 敬, 室 圭：The clinical importance of chemotherapy based on predicted primary sites for cancer of unknown primary. 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会,2016,(神戸),[口演]
- 062 室 圭(司会)：The new molecular target and treatment strategy for advanced gastric cancer. 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会,2016,(神戸),[国際シンポジウム]
- 063 門脇重憲(司会)：大腸がん①. 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会,2016,(神戸),[ポスター]
- 064 安藤正志(司会)：保険外併用療養費制度の現状と課題. 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会,2016,(神戸),[シンポジウム]
- 065 原 浩樹, 岡本 渉, 加藤健志, 濱口哲弥, 谷口浩也, 水上拓郎, 傳田忠道, 森脇俊和, 設楽紘平, 吉野孝之 **SCRUM-Japan GI-SCREEN**：Efficient Identification of Cancer Genome Alterations in Advanced Colorectal Cancer. 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会,(神戸),[口演]
- 066 原 浩樹, 小島隆嗣, 廣中秀一, 加藤 健, 對馬隆浩, 宇良 敬, 土岐裕一郎, 大津 敦, 浜本康夫, 北川雄光：食道がんに対するニボルマブ(ONO-4538/BMS-936558)の第Ⅱ相試験：PD-L1 発現に関する有効性の検討. 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会,2016,(神戸),[口演]
- 067 木藤陽介, 濱内 諭, 山崎健太郎, 小森 梓, 舛石俊樹, 谷口浩也, 盛 啓太, 室 圭, 安井博史：レゴラフェニブを含む標準治療に不応・不耐な切除不能進行・再発大腸癌に対するTAS-102の治療成績. 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会,2016,(神戸),[口演]
- 068 木藤陽介, 濱内 諭, 山崎健太郎, 小森 梓, 舛石俊樹, 谷口浩也, 盛 啓太, 室 圭, 安井博史：レゴラフェニブまたはTAS-102により4か月以上の無増悪生存が得られた切除不能進行・再発大腸癌患者の臨床的特徴. 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会,2016,(神戸),[口演]
- 069 室 圭(演者)：腫瘍縮小が必要と考えられる患者さんへの治療戦略. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[スポンサーシンポジウム]
- 070 室 圭(演者)：PD-L1陽性進行胃癌に対するペンプロリズムマブの第Ⅰ相臨床試験. 第54回日本癌治療学会学術集会, 2016,(横浜),[シンポジウム]
- 071 室 圭(演者)：大腸癌二次化学療法のいま～分子標的治療薬をどう使う?～. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[学術セミナー]
- 072 室 圭(演者)：消化管癌(食道・胃・大腸癌)における免疫チェックポイント阻害薬の可能性. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[教育シンポジウム]
- 073 宇良 敬, 田近正洋, 安部哲也, 室 圭, 門脇重憲, 谷口浩也, 成田有季哉, 田中 努, 石原 誠, 植村則久, 川上次郎：食道癌術前化学療法から手術までの待機期間が予後に及ぼす影響の検討. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[シンポジウム]
- 074 舛石俊樹, 谷口浩也, 杉山圭司, 三谷誠一郎, 本多和典, 成田有季哉, 門脇重憲, 宇良 敬, 安藤正志, 田近正洋, 室 圭：一次治療doublet+bevacizumab療法はKRAS遺伝子型に関わらず大腸がんの予後を延長する. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[ワークショップ]
- 075 杉山圭司, 成田有季哉, 門脇重憲, 三谷誠一郎, 本多和典, 舛石俊樹, 谷口浩也, 宇良 敬, 安藤正志, 田近正洋, 室 圭：DIC合併進行胃癌に対する初回フッ化ピリミジン・プラチナ併用化学療法. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[ワークショップ]
- 076 赤羽和久, 坂本英至, 室田かおる, 高原悠子, 角田伸行, 村田 透, 室 圭, 岩田広治：乳がん診療におけるがんサバイバーシップ支援～就労支援を中心として～. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[シンポジウム]
- 077 傳田忠道, 室 圭, 板橋道朗, 大橋靖雄, 杉原健一：切除不能な大腸癌症例におけるセツキシマブを含む一次治療の観察研究(CORAL). 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[ミニシンポジウム]
- 078 清田尚臣, 長谷川泰久, 室 圭, 高橋俊二, 尾上琢磨, 本間明宏, 鈴木政美, 家根且有, 原 浩樹, 西條 憲, 山中竹春, 田原 信：再発・転移頭頸部癌に対するPaclitaxel+Carboplatin+Cetuximab療法の第Ⅱ相試験. 第



- 54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[ワークショップ]
- 079 田原 信, 室 圭, 長谷川泰久, 山崎知子, 若杉哲郎, 門脇重憲, 花井義信, 今井健太郎, 嶋本隆司, *Jonathan Cheng D* : UPDATE : 進行性・転移性の日本人頭頸部扁平上皮癌患者に対するMK-3475の第I b相試験. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[ワークショップ]
- 080 神谷忠宏, 谷口浩也, 上原圭介, 中山裕史, 中山吾郎, 高橋卓嗣, 中野祐住, 松岡 宏, 宇都宮節夫, 森 義徳, 小森康司, 田近正洋, 室 圭 : BRAF/PIK3CA遺伝子変異と原発部位の関連—愛知大腸がん遺伝子プロファイル研究第2報—. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[ミニシンポジウム]
- 081 谷口浩也 : 大腸がん診療における遺伝子関連検査のガイドランス. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[スポンサーシンポジウム]
- 082 高畑知帆子, 宇良 敬, 小原真紀子 : PS不良の外來化学療法例に対する電話によるアクティブアセスメントの効果. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[ワークショップ]
- 083 中島貴子, 野田順子, 朝井哲也, 牧田智誉子, 西川大輔, 宇良 敬 : 予防的胃瘻造設が頭頸部癌に対する化学放射線療法の臨床経過に及ぼす影響の検討. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[ワークショップ]
- 084 富田寿彦, 石神浩徳, 藤原義幸, 門脇重憲, 小寺泰弘, 今本治彦, 今野元博, 福島亮治, 秀村晃生, 上田修吾, 梨本篤, 藪崎 裕, 楠本哲也, 上之園芳一, 北山丈二 : 腹膜播種陽性胃癌に対するS-1/oxaliplatin+paclitaxel腹腔内投与併用療法の第II相試験. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[ミニシンポジウム]
- 085 福島亮治, 石神浩徳, 藤原義幸, 梨本 篤, 藪崎 裕, 今本治彦, 今野元博, 小寺泰弘, 上之園芳一, 天貝賢二, 門脇重憲, 三輪洋人, 山口拓洋, 山口博紀, 北山丈二 : 腹膜播種陽性胃癌に対するパクリタキセル腹腔内投与併用療法を検証する第III相試験. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[ミニシンポジウム]
- 086 野村基雄, 安藤正志, 横田知哉, 宮崎拓也 : 根治切除不能・転移性粘膜炎黒色腫に対するニボルマブの第II相試験(Trial in progress). 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[ポスター]
- 087 服部正也, 吉村章代, 澤木正孝, 権藤なおみ, 石黒淳子, 小谷はるる, 片岡愛弓, 大西 桜, 岩瀬まどか, 杉野香世子, 安藤正志, 岩田広治 : ベルツズマブ治療後のHER2陽性進行再発乳癌に対するT-DM1の有効性. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[ワークショップ]
- 088 室 圭 : 切除不能進行・再発大腸癌における薬物療法の進歩と展望. 第24回日本消化器関連学会週間,2016,(神戸),[教育講演]
- 089 舩石俊樹, 田近正洋, 室 圭 : 切除不能進行・再発大腸癌一次治療におけるペバシズマブ併用は予後を改善しているか?. 第24回日本消化器関連学会週間,2016,(神戸),[パネルディスカッション]
- 090 室 圭(司会) : StageIV大腸がんの治療. 第71回日本大腸

- 肛門病学会学術集会,2016,(三重),[パネルディスカッション]
- 091 室 圭(演者) : 消化管癌(食道癌, 胃癌, 大腸癌)における目根気チェックポイント阻害薬の可能性. 第5回日本免疫・細胞治療学会学術集会,2016,(東京),[シンポジウム]
- 092 室 圭 : チームで取り組む大腸がん薬物療法の実践とがん薬物療法における曝露対策. 第34回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会,2017,(名古屋),[ランチョンセミナー]
- 093 室 圭(演者) : Clinical outcomes in patients with advanced gastric cancer treated with pembrolizumab (MK-3475) in KEYNOTE-012. 第89回日本胃癌学会総会,2017,(広島),[教育講演]
- 094 室 圭(演者) : Oncological treatment for gastroesophageal junction (GEJ) adenocarcinoma across the world. 第89回日本胃癌学会総会,2017,(広島),[ワークショップ]
- 095 杉山圭司, 成田有季哉, 三谷誠一郎, 本多和典, 舩石俊樹, 谷口浩也, 門脇重憲, 宇良 敬, 安藤正志, 室 圭 : Impact of sarcopenia on survival outcomes in patients (pts) with metastatic gastric cancer (mGC). 第89回日本胃癌学会総会,2017,(広島),[口演]
- 096 成田有季哉, 田近正洋, 河合貞幸, 松島知広, 飯泉 桜, 高島敦生, 室 圭, 安井博史, 高張大亮, 朴 成和 : Impact of sarcopenia on survival outcomes in patients (pts) with metastatic gastric cancer (mGC). 第89回日本胃癌学会総会,2017,(広島),[ポスター]

#### 遺伝子病理診断部・臨床検査部

- 001 *Yasushi Y* : Genetic of pulmonary adenocarcinoma presenting with GGNs;What genetic changes lead to grow up?, Fleischner Society,2016,(USA, NY),[口演]
- 002 *Yasushi Y* : Biologand Heterogene of EGFR-mutated NSCLC, KALC Fall Conference,2016,(Korea, Seoul),[シンポジウム]
- 003 *Yasushi Y* : Proposal for a consensus report on IHC from the IASLC path panel, IASLC Pathology Panel Meeting,2016,(Austria, Vienna),[ワークショップ]
- 004 *Yaushi Y* : Molecular Testing Guideline for Selection of Lung Cancer Patients, World Lung Cancer Conference, 2016,(Austria, Vienna),[シンポジウム]
- 005 谷田部 恭 : 病理におけるバイオマーカー診断の実際. 第105回日本病理学会総会,2015,(仙台),[講演]
- 006 谷田部 恭 : 腫瘍における分子病理診断の基本原則. 第105回日本病理学会総会,2015,(仙台),[講演]
- 007 谷田部 恭 : 病理・生検①. 第39回日本呼吸器内視鏡学会学術集会,2016,(名古屋),[座長]
- 008 谷田部 恭 : 臨床試験における病理裏事情. 虎の穴プレレクチャー2016,2016,(大阪),[講演]
- 009 谷田部 恭 : ALK肺がんにおける最新の話. 第3回呼吸器病理カンファレンス,2016,(滋賀),[特別講演]

- 010 谷田部 恭：肺がん診療における新しいCAP/IASLC/AMP Molecular Testing Guideline. 第55回日本肺癌学会東北支部学術集会,2016,(仙台)[特別講演]
- 011 谷田部 恭：肺がん診療におけるALK検査の実施. Chugai Lung Cancer Seminar in Kagoashima,2016,(鹿児島)[特別講演]
- 012 谷田部 恭：新しい肺がんにおけるバイオマーカーガイドライン～診断薬とガイドラインの最前線～. 第62回日本病理学会秋期特別総会,2016,(金沢)[ランチョンセミナー]
- 013 谷田部 恭：新薬の登場により病理医に求められること. 第62回日本病理学会秋期特別総会,2016,(金沢)[コンパニオンミーティング・座長]
- 014 谷田部 恭：新しい病理分野. 第57回日本肺癌学会学術集会,2016,(福岡)[講演]
- 015 三窪将史：原発性肺癌における治療後再生検検体の組織学的特徴の検討. 第105回日本病理学会総会,2015,(仙台)[講演]
- 016 森 俊輔：肺原発リンパ上皮様癌の臨床病理学的検討. 第59回関西胸部外科学会学術集会,2016,(三重県)[講演]
- 017 柴田典子：遺伝子検査のための病理標本の作り方ー注意すべきことー. H28年度日臨技中部圏支部医学検査学会(第55回),2016,(石川)[口演]
- 018 所 嘉朗, 藤田奈央, 太田裕子, 植田菜々絵, 尾関順子, 柴田典子, 村上善子, 佐々木英一, 橋本光義, 山雄健次, 越川 卓, 谷田部 恭：膣EUS-FNAにおける細胞像の見方について. 平成28年度日臨技中部圏支部病理細胞検査研修会,2017,(三重)[口演]
- 019 藤田奈央, 植田菜々絵, 太田裕子, 村上善子, 谷田部 恭：胸水・心嚢水に出現した乳癌の細胞学的検討. 第56回東海・北陸支部総会,2017,(愛知)[口演]
- 020 藤田奈央, 植田菜々絵, 太田裕子, 村上善子, 谷田部 恭：胸水・心嚢水に出現した乳癌の細胞学的検討. 第36回東海連合会総会,2017,(愛知)[口演]
- 004 *Hanai N, Terada H, Shimode Y, Furukawa MK, Sato Y, Hasegawa Y* : The utility of ultrasound in the diagnosis of cervical lymph nodes after chemoradiotherapy. 5th Congress of Asian Society for Head and Neck Oncology,2017,(バリ島)[ポスター]
- 005 鈴木秀典, 花井信広, 西川大輔, 福田裕次郎, 長谷川泰久：頭頸部癌に対するプラチナ併用とセツキシマブ併用放射線治療後の救済手術後における合併症と手術部位感染症. 第117回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会,2016,(名古屋)[ポスター]
- 006 高野 学, 鈴木秀典, 花井信広, 福田裕次郎, 小出悠介, 西川大輔, 的場拓磨, 寺田星乃, 長谷川泰久：頭頸部原発悪性粘膜黒色腫症例の検討. 第117回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会,2016,(名古屋)[ポスター]
- 007 花井信広, 寺田星乃, 長谷川泰久：超音波検査による化学放射線療法後の頸部リンパ節診断に関する検討. 第89回日本超音波医学会,2016,(京都)[口演]
- 008 寺田星乃：頸部リンパ節転移における化学放射線治療後の超音波検査を用いた評価. 第89回日本超音波医学会,2016,(京都)[口演]
- 009 花井信広, 寺田星乃, 長谷川泰久：超音波検査による化学放射線療法後の頸部リンパ節診断に関する検討. 第36回日本乳腺甲状腺超音波医学界学術集会,2016,(京都)[シンポジウム]
- 010 花井信広：頭頸部外科手術における最新テクニック～コックとピットフォール～. 第40回日本頭頸部癌学会,2016,(大宮)[学術セミナー]
- 011 福田裕次郎, 長谷川泰久, 鬼塚哲郎, 丹下健一, 川端一嘉, 岩江信法, 本間明宏, 鈴木政美, 家根且有, 山中竹春, 田原 信：再発・転移頭頸部扁平上皮癌に対するPCE併用療法第Ⅱ相試験(CSPOR-HN02). 第40回日本頭頸部癌学会,2016,(大宮)[口演]
- 012 小出悠介, 福田裕次郎, 西川大輔, 鈴木秀典, 花井信広, 的場拓磨, 寺田星乃, 高野 学, 長谷川泰久：甲状腺乳頭癌の外側咽頭後リンパ節転移. 第40回日本頭頸部癌学会,2016,(大宮)[口演]
- 013 松居秀敏, 林 隆一, 鬼塚哲郎, 藤井 隆, 加藤孝邦, 岩江信法, 長谷川泰久, 寺尾恭一, 門田信也, 小川武則, 米澤宏一郎, 藤井正人：早期下咽頭癌の治療成績 多施設共同による後方視的研究. 第40回日本頭頸部癌学会,2016,(大宮)[口演]
- 014 伊地知圭, 的場拓磨, 花井信広, 鈴木秀典, 西川大輔, 福田裕次郎, 小出悠介, 高野 学, 寺田星乃, 村上信五, 長谷川泰久：原発不明頸部リンパ節転移症例の検討. 第40回日本頭頸部癌学会,2016,(大宮)[口演]
- 015 平川 仁, 花井信広, 鈴木秀典, 西川大輔, 鈴木幹男, 長谷川泰久：頸部食道がんに対する術前化学療法の病理学的効果と意義. 第40回日本頭頸部癌学会,2016,(大宮)[ポスター]

#### 頭頸部外科部

- 001 *Hanai N* : Larynx-sparing treatment based on induction chemotherapy and its response in hypopharyngeal cancer. 19th WCBIP/WCBE World Congress,2016,(イタリア)[口演]
- 002 *Hasegawa Y, Kiyota N, Takahashi S, Yokota T, Yen C.-J, Iwae S, Shimizu Y, Hong R.-L, Goto M, Namba Y, Ferris R.L, Monga M, Lynch M, Hagihara S, Tahara M* : Efficacy and safety of nivolumab for recurrent or metastatic (R/M) squamous cell carcinoma of the head and neck (SCCHN) in Asia: CheckMate 141 subgroup analysis. ESMO Asia 2016 Congress,2016,(シンガポール)[口演]
- 003 *Tahara M, Muro K, Hasegawa Y, Chung H.C, Lin C.-C, Keam B, Cheng J, Bang Y.-J* : Efficacy and safety of pembrolizumab (MK-3475) in recurrent/metastatic head and neck squamous cell carcinoma (R/M HNSCC): Subset

- 016 花井信広：化学放射線療法後の頸部リンパ節診断に関する検討. 第13回頭頸部超音波研究会,2016,(大宮),[口演]
- 017 花井信広：超音波検査による化学放射線療法後の頸部リンパ節診断に関する検討 進捗状況報告. 第13回頭頸部超音波研究会,2016,(大宮),[口演]
- 018 寺田星乃：頸部リンパ節転移における化学放射線療法後の超音波検査を用いた評価. 第13回頭頸部超音波研究会,2016,(大宮),[口演]
- 019 花井信広：切除可能頭頸部がんの治療戦略. 福岡頭頸部癌セミナー,2016,(福岡),[特別講演]
- 020 松塚 崇, 長谷川泰久：口腔癌におけるSentinel Node Navigation Surgery. 第78回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会,2016,(鹿児島),[シンポジウム]
- 021 花井信広：耳鼻咽喉科・頭頸部外科医による頭頸部がん集学的治療の実践. 第78回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会,2016,(鹿児島),[学術セミナー]
- 022 鈴木秀典, 花井信広, 西川大輔, 福田裕次郎, 小出悠介, 寺田星乃, 高野 学, 長谷川泰久, 奥村誠子, 橋 五月, 角谷 聡, 兵藤伊久夫：口腔悪性腫瘍における気管切開を考える. 第11回頭頸部癌術後機能研究会シンポジウム,2016,(名古屋),[シンポジウム]
- 023 加藤 健, 小島隆嗣, 大幸宏幸, 花井信広, 泉佐知子, 全田貞幹：切除可能頸部食道癌に対する5-FU/CDDP/RTの多施設共同臨床第II相試験(Ce-CRT P-II). 第70回日本食道学会学術集会,2016,(東京),[ポスター]
- 024 花井信広：個別化と低侵襲を目指す頭頸部癌治療. 第4回北河内頭頸部癌治療セミナー,2016,(大阪),[特別講演]
- 025 花井信広, 寺田星乃：超音波検査による化学放射線療法後の頸部リンパ節診断に関する検討. 第14回頭頸部超音波研究会,2016,(加賀),[口演]
- 026 花井信広：化学放射線療法と頸部郭清術. 第31回耳鼻科腫瘍セミナー,2016,(大阪),[特別講演]
- 027 長谷川泰久：頭頸部がんの機能温存手術. 第24回福島県耳鼻咽喉科臨床懇話会,2016,(郡山),[特別講演]
- 028 花井信広：頭頸部癌手術のcontroversy. 第6回南大阪頭頸部腫瘍フォーラム,2016,(大阪),[特別講演]
- 029 田原 信, 室 圭, 長谷川泰久, 山崎知子, 榎田智弘, 若杉哲郎, 門脇重憲, 花井義信, 田中義信, 今井健太郎, 嶋本隆司, *Cheng Jonathan D*：頭頸・口腔 頭頸部がんに対する治療戦略 UPDATE 進行性・転移性の日本人頭頸部扁平上皮癌患者に対するMK-3475の第Ib相試験. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[口演]
- 030 清田尚臣, 横田知哉, 長谷川泰久, 室 圭, 高橋俊二, 尾上琢磨, 本間明宏, 鈴木政美, 家根旦有, 原 浩樹, 西條 憲, 山中竹春, 田原 信：頭頸・口腔 頭頸部がんに対する治療戦略 再発・転移頭頸部癌に対するPaclitaxel+Carboplatin+Cetuximab療法の第II相試験. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[口演]
- 031 高橋俊二, 清田尚臣, 長谷川泰久, 横田知哉, 岩江信法, 清水 康, 後藤昌弘, 灘波良信, *Ferris Robert L, Monga Manish*, 田原 信：頭頸・口腔 頭頸部がんに対する治療戦略 再発性または転移性(R/M)頭頸部扁平上皮癌(HNSCC)に対するnivolumab療法と検査者選択療法の比較. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[口演]
- 032 全田貞幹, 小島隆嗣, 大幸宏幸, 加藤 健, 泉佐知子, 花井信広, 堅田親利, 清田尚臣, 對馬隆浩, 藤井正人：食道食道がんに対する治療戦略 頸部食道癌に対するCDDP/5-FU併用化学放射線療法の実施施設共同臨床第II相試験. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[口演]
- 033 花井信広：局所進行頭頸部癌 一切除する？しない？— 第4回西日本中部地区頭頸部腫瘍研究会,2016,(岡山),[特別講演]
- 034 長谷川泰久, 塩谷彰浩, 吉本世一, 本間明宏, 横山純吉, 菅澤 正, 楯谷一郎, 塚原清彰, 尾瀬 功：頭頸部癌におけるICG 蛍光法を用いたセンチネルリンパ節生検術. 第18回SNNS研究会学術集会,2016,(東京),[シンポジウム]
- 035 甲能直幸, 長谷川泰久, 吉本世一, 松塚 崇, 本間明宏, 塩谷彰浩, 横山純吉, 小須田茂, 近松一郎, 吉崎智一, 上村裕和, 三浦弘規, 菅澤 正, 鈴木幹男, 丸尾貴志, 楯谷一郎, 尾瀬 功, 谷田部 恭, 川北大介, 鈴木基之, 塚原清彰, 村上善子：頭頸部癌センチネルリンパ節生検術臨床試験 頭頸部癌センチネルリンパ節生検術共同研究班. 第18回SNNS研究会学術集会,2016,(東京),[シンポジウム]
- 036 花井信広：頸部リンパ節診断における厚みの測定の定義. 第15回頭頸部超音波研究会,2016,(名古屋),[口演]
- 037 向山宣昭, 曾根三千彦, 鈴木秀典, 花井信広, 長谷川泰久：口腔癌の臨床病理学的検討. 第167回東海地方部会連合講演会,2016,(津),[口演]
- 038 藤井香那, 別府慎太郎, 村瀬貴幸, 伊地知圭, 草深公秀, 長谷川泰久, 稲垣 宏：唾液腺腺様嚢胞癌におけるMYB, MYBL 1, MYBL 2, NFIBのFISH解析による検討. 第61回日本唾液腺学会総会ならびに学術集会,2016,(東京),[口演]
- 039 別府慎太郎, 伊藤洋平, 村瀬貴幸, 草深公秀, 長谷川泰久, 伊地知圭, 稲垣 宏：唾液腺腺様嚢胞癌における癌精巣抗原の発現. 第61回 日本唾液腺学会総会ならびに学術集会,2016,(東京),[口演]
- 040 齋田昂佑, 村瀬貴幸, 藤井香那, 伊地知圭, 長谷川泰久, 草深公秀, 稲垣 宏：唾液腺腺様嚢胞癌におけるRAS遺伝子変異の臨床病理学的意義. 第61回 日本唾液腺学会総会ならびに学術集会,2016,(東京),[口演]
- 041 萩原純孝, 兵藤伊久夫, 西川大輔, 山本憲幸, 日比英晴, 長谷川泰久：広範な下顎切除と腭骨皮弁再建を行った小児Ewing肉腫の1例. 第35回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会,2017,(福岡),[口演]
- 042 花井信広：頸部手術 頭頸部がん専門医の立場から. 第3回日本脊椎前方側方進入手術研究会,2017,(名古屋),[シンポジウム]
- 043 花井信広：化学放射線療法後の頸部リンパ節診断に関する検討. 第16回頭頸部超音波研究会,2017,(東京),[口演]
- 044 鈴木秀典, 的場拓磨, 花井信広, 西川大輔, 福田裕次郎, 小出悠介, 長谷川泰久：リンパ節転移陽性下咽頭癌においてLymph node densityは生存を予測する. 第27回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会,2017,(東京),[口演]
- 045 西川大輔, 花井信広, 鈴木秀典, 福田裕次郎, 小出悠介,



寺田星乃, 高野 学, 小栗恵介, 長谷川泰久: 頭頸部扁平上皮癌患者におけるL3骨格筋面積指数の臨床的意義. 第27回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会,2017,(東京),[口演]

- 046 高野 学, 鈴木秀典, 花井信広, 福田裕次郎, 西川大輔, 小出悠介, 寺田星乃, 小栗恵介, 長谷川泰久: 小唾液腺癌における頸部リンパ転移領域と予後について. 第27回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会,2017,(東京),[口演]
- 047 鈴木秀典, 西尾正美, 玉木恒男, 中多祐介, 花井信広, 西川大輔, 福田裕次郎, 小出悠介, 寺田星乃, 高野 学, 小栗恵介, 長谷川泰久: 下咽頭喉頭癌の救済手術症例におけるFDG-PET/CTによる予後予測. 第34回東海頭頸部腫瘍研究会,2017,(名古屋),[口演]
- 048 福田裕次郎, 花井信広, 鈴木秀典, 西川大輔, 小出悠介, 寺田星乃, 高野 学, 小栗恵介, 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 橋 五月, 角谷 聡, 長谷川泰久: 頭頸部再建手術中の電気メス高周波分注による熱傷例. 第34回東海頭頸部腫瘍研究会,2017,(名古屋),[口演]
- 049 鈴木秀典, 玉木恒男, 西尾正美, 向山宣昭, 別府慎太郎, 花井信広, 西川大輔, 福田裕次郎, 小出悠介, 長谷川泰久: 口腔癌の腫瘍体積による癌進展・転移メカニズムに関する研究. 第50回制癌剤研究会,2017,(徳島),[口演]
- 050 小栗恵介, 花井信広, 鈴木秀典, 西川大輔, 福田裕次郎, 小出悠介, 寺田星乃, 高野 学, 長谷川泰久: 頻回のプロボックス交換を要した症例とその対処. 第34回東海頭頸部腫瘍研究会,2017,(名古屋),[口演]

#### 形成外科部

- 001 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 角谷 聡, 亀井 譲: 頭頸部「機能再建」を考える. 第59回日本形成外科学会総会・学術集会, 2016,(福岡),[シンポジウム]
- 002 奥村誠子, 角谷 聡, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 乳房インプラント再建におけるripplingの1次1期・1次2期および2次2期での比較. 第59回日本形成外科学会総会・学術集会,2016,(福岡),[一般演題]
- 003 角谷 聡, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 武石明精, 亀井 譲: 乳房再建における胸骨傍リンパ節の影響. 第59回日本形成外科学会総会・学術集会,2016,(福岡),[ポスター]
- 004 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 角谷 聡, 亀井 譲: 当院における舌垂全摘・全摘再建における皮弁縫着の工夫. 第40回頭頸部癌学会,2016,(大宮),[シンポジウム]
- 005 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 角谷 聡, 亀井 譲: 当院における放射線療法治療歴を有する遊離皮弁再建例の検討. 第40回頭頸部癌学会,2016,(大宮),[シンポジウム]
- 006 角谷 聡, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 頭頸部複合組織欠損に対する再建の検討. 第40回頭頸部癌学会,2016,(大宮),[一般演題]
- 007 奥村誠子, 角谷 聡, 兵藤伊久夫, 武石明精, 亀井 譲: 当院における年代別1次再建率と再建方法の検討. 第24回日本乳癌学会学術総会,2016,(東京),[ポスター]

- 008 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 橋 五月, 角谷 聡, 亀井 譲: 当院における骨軟部腫瘍に関連する再建の検討. 第51回中部形成外科学会学術集会,2016,[一般演題]
- 009 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 角谷 聡, 亀井 譲: 高齢者における頭頸部再建. 第8回日本創傷外科学会総会・学術集会, 2016,(東京),[シンポジウム]
- 010 *Complications of breast reconstruction with TE/SBI: infection* 【How to solve】奥村誠子, 角谷 聡, 橋 五月, 兵藤伊久夫, 片岡愛弓, 石黒淳子, 岩田広治, 亀井 譲: 第4回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会総会,2016,(東京),[パネルディスカッション]
- 011 奥村誠子, 角谷 聡, 兵藤伊久夫, 武石明精, 亀井 譲: free TRAM flapによる1次1期乳房再建におけるIMFの位置の検討. 第4回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会総会,2016,(東京),[一般演題]
- 012 角谷 聡, 橋 五月, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 局所陰圧閉鎖療法による閉鎖が得られなかった咽頭皮膚瘻の一例. 第68回東海形成外科学会,2016,(長久手),[一般演題]
- 013 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 橋 五月, 角谷 聡, 亀井 譲: 当院における遊離皮弁による骨軟部再建の検討. 第43回日本マイクロサージャリー学会学術集会,2016,(広島),[一般演題]
- 014 橋 五月, 角谷 聡, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 肋骨付き前鋸筋+広背筋連合皮弁における術中ICG評価. 第43回日本マイクロサージャリー学会学術集会,2016,(広島),[一般演題]
- 015 角谷 聡, 橋 五月, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: エナメル上皮腫切除後の下顎広範囲欠損に対し,二つの遊離皮弁による再建を行った一例. 第43回日本マイクロサージャリー学会学術集会,2016,(広島),[一般演題]
- 016 奥村誠子, 石黒淳子: 乳房再建における乳腺外科の役割. 第2回東海乳房再建研究会,2016,(名古屋),[パネリスト]
- 017 橋 五月, 角谷 聡, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 舌再建に深下腹壁動脈穿通枝皮弁(DIEP皮弁)を用いた2例.2017,(名古屋),[一般演題]
- 018 橋 五月, 角谷 聡, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 先天性水疱症に伴う口腔癌に対し,遊離皮弁再建を行った1例. 第69回東海形成外科学会,2017,(浜松),[一般演題]

#### 呼吸器外科部

- 001 *Kuroda H, Tanaka H, Yoshida T, Mizuno T, Sakakura N, Yatabe Y, Iwata H, Sakao Y*: Prognostic Significance of Combined Radiologic Imaging Modalities for Prognosis of Clinical IA Adenocarcinomas. *Esmo Asia*,2016, (Singapore),[ポスター]
- 002 *Kuroda H, Dejima H, Sakata S, Mizuno T, Sakakura N, Sakao Y*: Profiling of indocyanine green for segmental boundary visibility during fluorescence imaging in thoracoscopic anatomical segmentectomy; -Conventional indocyanine green mode versus Spectra-A. *ASCVTS*,2016,



- (Seoul),(Oral).
- 003 Mizuno T, Yatabe Y, Kuroda H, Sakakura N, Sakao Y : Impact of the oncogenic status on the mode of recurrence in resected non-small cell lung cancer. World Conference on Lung Cancer, 17th World Conference on Lung Cancer,2016(Vienna),[ポスター]
- 004 Mizuno T, Yatabe Y, Sakata S, Seto K, Dejima H, Kuroda H, Sakakura N, Sakao Y : Post-recurrent survival outcomes according to the oncogenic status in patients with resected NSCLC. 24th European Conference on General Thoracic Surgery 2016(Naples),[ポスター]
- 005 Dejima H, Sakata S, Arimura T, Mizuno T, Kuroda H, Sakakura N, Sakao Y : Diagnosis of right upper lobar lymph node metastasis by modified TLG. ESMO asia, 2016,(シンガポール),[ポスター]
- 006 坂尾幸則, 坂倉範昭, 水野鉄也, 黒田浩章, 谷田部 恭 : 新たなpT因子とcT因子の整合性 肺腺癌の病理学的 invasive sizeとCT腫瘍径. 第57回日本肺癌学会学術集会, 2016,(福岡),[シンポジウム]
- 007 坂尾幸則, 坂田省三, 出嶋 仁, 黒田浩章 : 進行肺癌における外科治療はどうあるべきか 当院におけるサルベージ手術の治療成績. 第78回日本臨床外科学会,2016,(東京),[シンポジウム]
- 008 瀬戸克年, 黒田浩章, 出嶋 仁, 坂田省三, 水野鉄也, 坂倉範昭, 坂尾幸則 : VATS lobectomyのトレーニングレジデントの立場から見た当院の完全胸腔鏡下肺葉切除のトレーニング法. 第29回日本内視鏡外科学会,2016,(横浜),[要望演題]
- 009 大出泰久, 葉 清隆, 菱田智之, 宿谷威仁, 高持一矢, 櫻井裕幸, 後藤 悌, 池田徳彦, 奥村 栄, 伊藤宏之, 坂尾幸則, 伊達洋至, 大橋靖雄, 坪井正博, 國頭英夫 : 肺がん化学療法の最適化と均てん化 病理病期I期(T 1 > 2 cm)非小細胞肺癌完全切除例における術後治療に関する観察研究. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[口演]
- 010 尾前美友貴, 黒田浩章, 出嶋 仁, 水野 瞳, 渡邊清永, 山田知里, 足立明美, 坂尾幸則, 内藤由美子 : 胸腔鏡手術後のトラマドールの効果解析から得たワントラムの急性期疼痛管理の有用性の検討. 第57回日本肺癌学会学術集会, 2016,(福岡),[ポスター]
- 011 古田裕美, 吉田達哉, 大矢由子, 田中広祐, 近藤千晶, 渡辺尚之, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 樋田豊明, 坂尾幸則, 谷田部 恭 : 高齢者(75歳以上)におけるOsimertinibの安全性の検討. 第57回日本肺癌学会学術集会,2016,(福岡),[口演]
- 012 大矢由子, 吉田達哉, 田中広祐, 古田裕美, 近藤千晶, 渡辺尚宏, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 樋田豊明, 坂尾幸則, 谷田部 恭 : 既治療非小細胞肺癌におけるNivolumabの使用成績と効果予測因子についての検討. 第57回日本肺癌学会学術集会,2016,(福岡),[口演]
- 013 渡邊清永, 黒田浩章, 水野 瞳, 稲吉三葉, 村井一輝, 山田知里, 足立明美, 吉田達哉, 坂尾幸則, 内藤由美子 : 患者さんにやさしいパス 早期回復, 早期離床のための工夫実践を組み込んだパス 肺がん胸腔鏡手術における術後回復強化プロトコール(ERAS)の評価. 第17回日本クリニカルパス学会,2016,(石川),[シンポジウム]
- 014 山田 健, 坂尾幸則, 大出泰久, 横井香平, 丹羽 宏, 須田 隆, 岩田 尚, 吉田和夫 : 肺癌に対する胸腔鏡下手術の実態調査 中部肺癌手術研究会アンケート結果より. 第33回日本呼吸器外科学会,2016,(京都),[口演]
- 015 水野 瞳, 渡邊清永, 黒田浩章, 足立明美, 山田知里, 尾前美友貴, 稲吉三葉, 浅海くるみ, 坂尾幸則, 内藤由美子 : 胸腔鏡術後のNRS SCOREに準じた薬剤使用経験からみた疼痛管理の必要性の検討. 第38回日本疼痛学会,2016,(北海道),[口演]
- 016 坂倉範昭, 出嶋 仁, 瀬戸克年, 飯塚修平, 直海 晃, 水野鉄也, 黒田浩章, 坂尾幸則 : 隣接臓器浸潤肺癌に対する術前導入療法において高い組織学的効果はどのような症例で得られるのか. 第33回日本呼吸器外科学会総会,2016,(京都),[口演]
- 017 坂倉範昭, 坂田省三, 出嶋 仁, 瀬戸克年, 水野鉄也, 黒田浩章, 坂尾幸則 : 新TNM分類を考える—PL因子と隣接臓器浸潤癌の群別から— 第57回日本肺癌学会総会,2016,(福岡),[シンポジウム口演]
- 018 黒田浩章, 飯塚修平, 出嶋 仁, 瀬戸克年, 直海 晃, 水野鉄也, 坂倉範昭, 坂尾幸則 : 右S 6 /底区の区域面形成を利用した胸腔鏡下右S10区域切除の1 症例 第33回呼吸器外科学会総会,2016,(京都),[要望ビデオ]
- 019 黒田浩章, 出嶋 仁, 坂田省三, 水野鉄也, 坂倉範昭, 坂尾幸則 : 間質性肺炎合併肺癌に対する胸腔鏡下手術 当院におけるKL 6 高値の間質性肺炎合併患者に対する胸腔鏡下手術の工夫. 第78回日本臨床外科学会総会,2016,(東京),[シンポジウム]
- 020 水野鉄也, 瀬戸克年, 飯塚修平, 直海 晃, 出嶋 仁, 谷田部 恭, 黒田浩章, 坂倉範昭, 坂尾幸則 : 小細胞肺癌に対する外科治療の経験. 第33回日本呼吸器外科学会総会, 2016,(京都),[要望演題]
- 021 水野鉄也, 瀬戸克年, 飯塚修平, 直海 晃, 出嶋 仁, 谷田部 恭, 黒田浩章, 坂倉範昭, 坂尾幸則 : 当院における肺癌に対するサルベージ手術の経験と課題. 第59回関西胸部外科学会学術集会,2016,(津),[ビデオシンポジウム]
- 022 水野鉄也, 坂田省三, 瀬戸克年, 出嶋 仁, 谷田部 恭, 黒田浩章, 坂倉範昭, 坂尾幸則 : cN 1 肺癌切除例におけるpN 2 予測因子の検索. 第69回日本胸部外科学会定期学術集会,2016,(岡山),[一般口演]
- 023 水野鉄也, 谷田部 恭, 坂田省三, 瀬戸克年, 出嶋 仁, 黒田浩章, 坂倉範昭, 坂尾幸則 : 非小細胞肺癌切除後再発例における遺伝子変異型による再発形式の相異. 第56回日本肺癌学会学術集会,2016,(福岡),[一般示説]
- 024 出嶋 仁, 瀬戸克年, 水野鉄也, 黒田浩章, 坂倉範昭, 坂尾幸則 : 左肺動脈の分岐様式と左肺舌区域容積の関連性. 日本外科学会総会,2016,(大阪),[ポスター]
- 025 坂田省三, 水野鉄也, 瀬戸克年, 出嶋 仁, 黒田浩章, 坂倉範昭, 谷田部 恭, 坂尾幸則 : pN 2 肺腺癌切除例における遺伝子変異型と無再発期間に関する検討. 第57回日本肺癌学会学術集会,2016,(福岡),[ポスター]

- 026 坂田省三, 瀬戸克年, 出嶋 仁, 水野鉄也, 黒田浩章, 坂倉範昭, 坂尾幸則, 森 俊輔, 村上善子, 谷田部 恭: 肺腺癌の局所再発を疑われた病変が遺伝子検査で二次癌と診断された1例. 第109回日本肺癌学会中部支部学術集会, 2016,(名古屋),[口演]
- 027 坂田省三, 坂倉範昭, 出嶋 仁, 瀬戸克年, 水野鉄也, 黒田浩章, 坂尾幸則: 肺葉切除後の有癭性膿胸に対して一期的根治術: 有茎骨格筋弁充填+胸郭形成+持続胸腔洗浄を施行した1例. 第29回中部肺癌手術研究会,2016,(名古屋),[口演]

#### 乳腺科部

- 001 *Loibl S, Turner NC, Ro J, Cristofanilli M, Iwata H, Im S, Masuda N, Loi S, Andre F, Harbeck N, Verma S, Folkerd E, Theall K, Zhang K, Bartlett C, Dowsett M*: Palbociclib (PAL) in combination with fulvestrant (F) in pre- / peri-menopausal (PreM) women with metastatic breast cancer (MBC) and prior progression on endocrine therapy: Results from Paloma-3. ASCO 2016,(2016),(シカゴ),[ポスター]
- 002 *Andre F, Campone M, Ciruelos E, Iwata H, Loibl S, Rugo HS, Wilke C, Mills D, Choi M, Longin A-S, Juric D*: SOLAR-1: A phase III study of alpelisib + fulvestrant in men and postmenopausal women with HR + / HER 2- advanced breast cancer (BC) progressing on or after prior aromatase inhibitor therapy. ASCO 2016,(2016),(シカゴ),[ポスター]
- 003 *Yamamoto Y, Iwata H, Ueno T, Kashiwaba M, Taira N, Takahashi M, Tada H, Tsugawa K, Toyama T, Niikura N, Hara F, Fujisawa T, Yoshinami T, Saji S, Takano T, Masuda N, Morita S, Toi M, Ohno S*: PRECIOUS: A randomized, open-label phase III trial of pertuzumab retreatment in HER 2-positive locally advanced/metastatic breast cancer patients who were previously treated with pertuzumab, trastuzumab, and chemotherapy. ASCO 2016,(2016),(シカゴ),[ポスター]
- 004 *Andre F, Kaufman B, Juric D, Ciruelos EM, Iwata H, Mayer IA, Rugo HS, Conte P, Liobl S, Rubovszky G, Inoue K, Tesch H, Lu Y-S, Ryvo L, Longin A-S, Mills D, Wilke C, Gema C, Campone M*: SOLAR-1: A phase III study of alpelisib and fulvestrant in men and postmenopausal women with hormone receptor-positive (HR+), human epidermal growth factor receptor 2-negative (HER 2-) advanced breast cancer (BC) progressing on or after aromatase inhibitor (AI) therapy. Sanantonio Breast Cancer Symposium,(2016),(サンアントニオ),[ポスター]
- 005 *Turner NC, Andre F, Cristofanilli M, Verma S, Iwata H, Loi S, Harbeck N, Ro J, Colleoni M, Zhang K, Bartlett C, Giorgetti C, Slamon D*: Treatment postprogression in women with endocrine-resistant HR-/HER 2- advanced breast cancer who received palbociclib plus fulvestrant in PALOMA-3. Sanantonio Breast Cancer Symposium,(2016),(サンアントニオ),[ポスター]
- 006 *Hattori M, Sugino K, Yoshimura A, Ishiguro J, Sawaki M, Kotani H, Gondo N, Kataoka A, Ohnishi S, Iwase M, Shinkai F, Iwata H*: Patient-reported assessment and objective assessment of edema among breast cancer patients receiving docetaxel plus cyclophosphamide (TC). 15th St. Gallen International Breast Cancer Conference,(2017),(ウィーン),[ポスター]
- 007 *Kotani H, Ito H, Kuwahara K, Kuzushima K, Iwata H, Tsunoda N, Nagino M, Tanaka H, Matsuo K*: Impact of germinal center-associated nuclear protein polymorphisms on breast cancer risk and prognosis in a Japanese population. Sanantonio Breast Cancer Symposium,(2016),(サンアントニオ),[ポスター]
- 008 *Kataoka A, Sawaki M, Hattori M, Yoshimura A, Gondo N, Kotani H, Ishiguro J, Iwase M, Onishi A, Sugino K, Iwata H*: The prediction of pathological margin using preoperative contrast-enhanced MRI for early breast cancer who performed skin-sparing mastectomy with immediate reconstruction. 15th St. Gallen International Breast Cancer Conference,(2017),(ウィーン),[ポスター]
- 009 *Hattori M*: Updates Therapeutic Strategies in HER 2-Positive Breast Cancer. The 14th Asian Breast Diseases Association Meeting & Symposium,(2016),(福岡),[口演]
- 010 澤木正孝: Intraoperative radiation therapy (IORT). 第4回日本乳房オンコプラスチックサージェリー学会総会,(2016),(千葉),[口演]
- 011 澤木正孝: 癌薬物療法の近未来ー, Current Primary Systemic Therapy and Future Perspectives in patients with HER 2-positive Breast Cancer. 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会,(2016),(神戸),[口演]
- 012 澤木正孝: 周術期トラスツズマブ治療歴を有する再発乳癌におけるトラスツズマブ投与の観察研究(JBCRG-C02). 第24回日本乳癌学会学術総会,(2016),(東京),[口演]
- 013 澤木正孝: 教育セミナー 診断・治療. 第13回日本乳癌学会中部地方会,(2016),(名古屋),[口演]
- 014 服部正也, 川口英俊, 増田慎三, 中山貴寛, 青儀健二郎, 阿南敬生, 伊藤良則, 大谷彰一郎, 佐藤信昭, 佐治重衡, 徳永えり子, 中村清吾, 長谷川善枝, 藤澤知巳, 山口美樹, 山下年成, 山本 豊, 森田智視, 大野真司, 戸井雅和: フルベストラントの長期奏効群を探索する多施設共同後方視コホート研究(JBCRG-C06 Safari試験). 第24回日本乳癌学会学術総会,(2016),(東京),[口演]
- 015 服部正也: ER陽性進行再発乳癌治療: 分子標的薬の登場はプラクティスから endocrine mono-therapy をなくすのか?. 第24回日本乳癌学会学術総会,(2016),(東京),[口演]
- 016 服部正也, 吉村章代, 澤木正孝, 石黒淳子, 権藤なおみ, 小谷はるる, 片岡愛弓, 岩瀬まどか, 大西 桜, 杉野香世

子, 安藤正志, 岩田広治: ベルツズマブ治療後のHER2陽性進行再発乳癌に対するT-DM1の有効性. 第54回日本癌治療学会学術集会,(2016),(横浜),[口演]

- 017 吉村章代: 地域がん登録データに基づく乳癌の長期予後の検討. 第24回日本乳癌学会学術総会,(2016),(東京),[ポスター]
- 018 小谷はるる, 石黒淳子, 吉村章代, 服部正也, 澤木正孝, 岩田広治: 当院におけるアンケートを用いた乳がん患者の就労調査. 第24回日本乳癌学会学術総会,(2016),(東京),[ポスター]
- 019 大西 桜: 乳房温存術後早期に残存乳房内再発、同側腋窩リンパ節転移をきたした粘液癌の1例. 第13回日本乳癌学会中部地方会,(2016),(名古屋),[口演]
- 020 杉野香世子: 術前化学療法中に再増大をきたし、局所治療を考慮したが全身治療を優先した左乳癌の1例. 第13回日本乳癌学会中部地方会,(2016),(名古屋),[口演]
- 021 片岡愛弓, 澤木正孝, 服部正也, 吉村章代, 石黒淳子, 久田知可, 瀧 由美子, 岩田広治: 閉経前ホルモン受容体陽性乳癌患者の術後治療の現状(SOFTTEXT試験結果公表前後の比較). 第24回日本乳癌学会学術総会,(2016),(東京),[ポスター討議]
- 022 片岡愛弓, 服部正也, 杉野香世子, 岩瀬まどか, 大西 桜, 小谷はるる, 権藤なおみ, 石黒淳子, 吉村章代, 澤木正孝, 岩田広治: 腋窩郭清後温存乳房内再発に対しセンチネルリンパ節生検を施行し対側腋窩センチネルリンパ節転移陽性であった1例. 第13回日本乳癌学会中部地方会,(2016),(名古屋),[口演]
- 023 片岡愛弓, 澤木正孝, 杉野香世子, 大西 桜, 岩瀬まどか, 小谷はるる, 権藤なおみ, 石黒淳子, 吉村章代, 服部正也, 奥村誠子, 佐々木英一, 吉村健一, 大見久美子, 岩田広治: 術前MRI検査は皮膚温存乳房手術における病理学的皮膚断端距離を予測できるか. 第4回日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会総会,(2016),(千葉),[口演]

#### 消化器外科部

- 001 *Uemura N, Abe T, Kawakami J*: Clinicopathological Analysis of Lymph Node Metastases in Patients with cN0M0 Esophageal Cancer. 15th World Congress of the International Society for Diseases of the Esophagus, 2016,(Singapore),[示説]
- 002 *Hiroshi Imaoka, Takayuki Kou, Masao Tanaka, Shinichi Egawa, Nobumasa Mizuno, Susumu Hijioka, Kazuo Hara, Shujiro Yazumi, Yasuhiro Shimizu, Kenji Yamao*: Clinical outcome of elderly patients with unresectable pancreatic cancer: subgroup analysis of GEST study. 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会,2016,(神戸),[シンポジウム]
- 003 *Shimizu Y, Yamaue H, Maguchi H, Yamao K, Hirono S, Hijioka H, Hara K, Sano T, Senda Y, Natsume S, Yanagisawa A*: Predictors of malignancy in branch duct intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas

(BD-IPMN)-analysis of 100 pancreatic resection patients at multiple centers. 第47回日本膵臓学会大会・第20回国際膵臓学会・第6回アジアオセアニア膵臓学会,2016,(仙台),[口演]

- 004 *Hijioka S, Shimizu Y, Hara K*: Diagnostic strategy for TS1a PDAC using EUS-FNA. 第47回日本膵臓学会大会・第20回国際膵臓学会・第6回アジアオセアニア膵臓学会,2016,(仙台),[口演]
- 005 小森康司: オストメイトの尿路感染予防について. 日本オストミー協会 愛知県支部 医療講演会,2016,(名古屋),[講演]
- 006 安部哲也: 食道術後疼痛管理に困ったら〜アセトアミノフェン静注液使用のポイント〜. 第116回日本外科学会定期学術集会,2016,(大阪),[ランチョンセミナー]
- 007 赤澤智之, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 田近正洋, 小森康司, 安部哲也, 千田嘉毅, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 田中 努, 石原 誠, 岩田至紀, 筒山将之, 重吉 到, 林 大介, 清水泰博: 75才以上の高齢者における早期胃癌ESD非治癒切除症例の検討. 第116回日本外科学会定期学術集会,2016,(大阪),[示説]
- 008 林 大介, 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川上次郎, 岩田至紀, 重吉 到, 筒山将之, 赤澤智之, 清水泰博, 木下 平: 当院における膵中央切除術の検討. 第116回日本外科学会定期学術集会,2016,(大阪),[示説]
- 009 筒山将之, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 岩田至紀, 重吉 到, 赤澤智之, 林 大介, 清水泰博: Oxaliplatin導入後における側方リンパ節転移陽性Stagellb下部直腸癌症例の検討. 第116回日本外科学会定期学術集会,2016,(大阪),[示説]
- 010 岩田至紀, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 清水泰博: 膿瘍形成性直腸癌の治療方針. 第116回日本外科学会定期学術集会,2016,(大阪),[示説]
- 011 伊藤誠二: 第116回日本外科学会定期学術集会,2016,(大阪),[座長]
- 012 伊藤誠二: 「どこまで郭清する? 上部進行胃癌 脾門部郭清—エキスパートの目線を覗く—. 第116回日本外科学会定期学術集会,2016,(大阪),[ランチョンセミナー]
- 013 梶原由規, 上野秀樹, 小林宏寿, 山口達郎, 石田文生, 小西 毅, 金光幸秀, 檜井孝夫, 井上靖浩, 富田尚裕, 松原長秀, 小森康司, 固武健二郎, 永坂岳司, 長谷川博俊, 小山 基, 赤木由人, 赤木 究, 渡邊聡明, 杉原健一, 石田秀行: 本邦における大腸癌を伴う家族性大腸腺腫症(FAP)に対する外科的治療の現状および治療成績. 第116回日本外科学会定期学術集会,2016,(大阪),[口演]
- 014 石田文生, 上野秀樹, 小林宏寿, 山口達郎, 小西 毅, 金光幸秀, 檜井孝夫, 井上靖浩, 富田尚裕, 松原長秀, 小森康司, 固武健二郎, 永坂岳司, 長谷川博俊, 小山 基, 赤城由人, 赤城 究, 渡邊聡明, 杉原健一, 石田秀行: 本邦における家族性大腸腺腫症(FAP)切除大腸癌病変の形態学的解析. 第116回日本外科学会定期学術集会,2016,(大阪),[口



- 演]
- 015 上野秀樹, 小林宏寿, 山口達郎, 石田文生, 小西 毅, 金光幸秀, 檜井孝夫, 井上靖浩, 富田尚裕, 松原長秀, 小森康司, 固武健二郎, 永坂岳司, 長谷川博俊, 小山 基, 赤城由人, 赤城 究, 池田正孝, 渡邊聡明, 杉原健一, 石田秀行: 本邦における家族性大腸腺腫症(FAP)手術の経年的変化. 第116回日本外科学会定期学術集会,2016,(大阪),[口演]
- 016 小林宏寿, 上野秀樹, 山口達郎, 石田文生, 小西 毅, 金光幸秀, 檜井孝夫, 井上靖浩, 富田尚裕, 松原長秀, 小森康司, 固武健二郎, 長坂岳司, 長谷川博俊, 小山 基, 赤木由人, 赤木 究, 池田正孝, 渡邊聡明, 杉原健一, 石田秀行: 本邦における家族性大腸腺腫症(FAP)術後の妊孕性に関する検討. 第116回日本外科学会定期学術集会,2016,(大阪),[口演]
- 017 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川上次郎, 清水泰博: 臍頭十二指腸切除術後における胆管拡張と胆管気腫の臨床的意義. 第116回日本外科学会定期学術集会,2016,(大阪),[口演]
- 018 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 岩田至紀, 筒山将之, 重吉 到, 赤澤智之, 林 大介, 清水泰博: 充分なradial margin確保をめざした再発直腸癌手術の工夫とトラブルシューティング. 第116回日本外科学会定期学術集会,2016,(大阪),[ワークショップ]
- 019 三澤一成, 稲田 シュンコ アルバーノ, 淵 真悟, 長谷川純一, 森 健策, 中西速夫: ガラス蛍光体クリップを用いた胃内腔病変位置描出システムの開発. 第116回日本外科学会定期学術集会,2016,(大阪),[口演]
- 020 木下敬史, 小森康司, 木村賢哉, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 夏目誠治, 植村則久, 川上次郎, 清水泰博: 局所進行大腸癌に対する骨盤内臓全摘術の治療成績. 第116回日本外科学会定期学術集会,2016,(大阪),[示説]
- 021 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川上次郎, 木下 平: 臍癌手術における臍切除断端の術中迅速病理診断の意義. 第116回日本外科学会定期学術集会,2016,(大阪),[示説]
- 022 重吉 到, 夏目誠治, 千田嘉毅, 清水泰博, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川上次郎, 岩田至紀, 筒山将之, 赤澤智之, 林 大介: 80歳以上の高齢者に対する臍切除症例の検討. 第116回日本外科学会定期学術集会,2016,(大阪),[示説]
- 023 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川上次郎, 清水泰博: 主膵管型IPMNの残臍再発予測因子の検討. 第116回日本外科学会定期学術集会,2016,(大阪),[示説]
- 024 小林大介, 三澤一成, 田中千恵, 神田光郎, 岩田直樹, 林真路, 山田 豪, 中山吾郎, 杉本博行, 小池聖彦, 藤井 努, 藤原道隆, 小寺泰弘: 腹腔洗浄細胞診陽性胃癌に対する治療戦略の構築. 第116回日本外科学会定期学術集会,2016,(大阪),[口演]
- 025 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 岩田至紀, 筒山将之, 重吉 到, 赤澤智之, 林 大介, 清水泰博: 直腸癌局所再発手術症例における病理組織学的所見からみた予後についての検討. 第102回日本消化器病学会総会,2016,(東京),[口演]
- 026 大内 晶, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 清水泰博: 家族性大腸腺腫症(FAP)に伴った手術歴のないデスマイド腫瘍の1例. 第291回東海外科学会,2016,(名古屋),[口演]
- 027 重吉 到, 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川上次郎, 清水泰博: 同時性多発臍癌に対して臍全摘術を施行した一例. 第291回東海外科学会,2016,(名古屋),[口演]
- 028 清水泰博: 第28回日本肝胆膵外科学会,2016,(大阪),[座長]
- 029 千田嘉毅, 清水泰博, 夏目誠治, 小森康司, 川上次郎, 木下 平: 当科における腹腔鏡下臍尾側切除術の術式と手術適応の変遷. 第28回日本肝胆膵外科学会,2016,(大阪),[ビデオ]
- 030 夏目誠治, 千田嘉毅, 小森康司, 清水泰博: 臍頭十二指腸切除における連続胆管空腸吻合. 第28回日本肝胆膵外科学会,2016,(大阪),[ビデオ]
- 031 重吉 到, 夏目誠治, 千田嘉毅, 林 大介, 小森康司, 清水泰博: 当院における高齢者悪性疾患に対する臍切除症例の検討. 第28回日本肝胆膵外科学会,2016,(大阪),[示説]
- 032 林 大介, 夏目誠治, 千田嘉毅, 小森康司, 重吉 到, 原和生, 山雄健次, 清水泰博: 臍頭十二指腸切除術後, 臍空腸吻合部狭窄による残臍炎に対する膵管ドレナージ術の臨床経験. 第28回日本肝胆膵外科学会,2016,(大阪),[示説]
- 033 大内 晶, 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川上次郎, 清水泰博: 大腸癌肝転移における3回目のrepeat hepatectomyの安全性と意義. 第28回日本肝胆膵外科学会,2016,(大阪),[示説]
- 034 清水泰博, 山上裕機, 真口宏介, 山雄健次, 廣野誠子, 佐野 力, 千田嘉毅, 夏目誠治, 柳澤昭夫: 膵管内乳頭腫瘍(IPMN)癌予測ノモグラムの診断能—多施設, 多数切除例におけるexternal validity—. 第28回日本肝胆膵外科学会, 2016,(大阪),[パネルディスカッション]
- 035 筒山将之, 安部哲也, 川上次郎, 植村則久, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 清水泰博: 食道癌術後乳糜胸に対するリビオドールリンパ管造影を用いた治療戦略. 第59回関西胸部外科学会学術集会,2016,(津),[パネルディスカッション]
- 036 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 筒山将之, 重吉 到: がん治療専門病院における家族性大腸腺腫症の外科治療の変遷. 第85回大腸癌研究会,2016,(大阪),[示説]
- 037 川上次郎, 安部哲也, 植村則久, 筒山将之, 林 大介, 青山寿昭, 八重樫裕, 北川功二, 清水泰博: 胸部食道癌術後CTによる縫合不全スクリーニングと嚥下評価による早期



- 経口摂取の試み. 第70回日本食道学会学術集会,2016,(東京)[示説]
- 038 植村則久, 安部哲也, 川上次郎, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 清水泰博: 胸骨後経路再建胃管の胸腔内脱出の検討. 第70回日本食道学会学術集会,2016,(東京)[Special Forum]
- 039 安部哲也, 今井健晴, 植村則久, 川上次郎, 篠田雅幸, 清水泰博: 胸部食道癌術後早期抜管は術後回復促進に重要である. 第70回日本食道学会学術集会,2016,(東京)[示説]
- 040 安部哲也: 第70回日本食道学会学術集会,2016,(東京)[座長]
- 041 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 清水泰博: Conversion surgery for pancreatic cancer treated by FOLFIRINOX or nab-paclitaxel. 第71回日本消化器外科学会,2016,(徳島)[シンポジウム]
- 042 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博, 木下平: 通常ポートの腹腔鏡下胃切除術の技術で施行可能な胃癌 Reduced Port Surgery. 第71回日本消化器外科学会,2016,(徳島)[ビデオ]
- 043 大内 晶, 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 清水泰博: 大腸癌肝転移切除後におけるrepeat hepatectomy～治療成績と問題点～. 第71回日本消化器外科学会,2016,(徳島)[示説]
- 044 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史: 脾臓手術における術中腹腔洗浄細胞診の意義. 第71回日本消化器外科学会,2016,(徳島)[示説]
- 045 赤澤智之, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博: がん High-volume Centerにおける緊急手術の現状. 第71回日本消化器外科学会,2016,(徳島)[示説]
- 046 伊藤誠二, 佐野 武, 高張大亮, 円谷 彰, 片山 宏, 笹子三津留: 高度リンパ節転移陽性胃癌の術前治療レジメと大動脈周囲リンパ節郭清術の意義. 第71回日本消化器外科学会,2016,(徳島)[ワークショップ]
- 047 清水泰博: 第71回日本消化器外科学会,2016,(徳島)[座長]
- 048 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 清水泰博: 病理組織学的所見から検討したISR手術手技の重要点. 第71回日本消化器外科学会,2016,(徳島)[ワークショップ]
- 049 植村則久, 安部哲也, 川上次郎, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 清水泰博: 食道癌におけるリンパ節転移偽陰性症例の臨床病理学的特徴と予後予測因子. 第71回日本消化器外科学会,2016,(徳島)[示説]
- 050 林 大介, 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 清水泰博: 脾臓に対する尾側脾切除術後脾液瘻の危険因子と補助化学療法導入に及ぼす影響. 第71回日本消化器外科学会,2016,(徳島)[示説]
- 051 重吉 到, 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 清水泰博: 当院における高齢者脾切除症例の検討. 第71回日本消化器外科学会,2016,(徳島)[示説]
- 052 筒山将之, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 清水泰博: 側方郭清を施行した下部直腸癌に対するadjuvant CapeOXの治療成績. 第71回日本消化器外科学会,2016,(徳島)[示説]
- 053 安部哲也, 植村則久, 川上次郎, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 清水泰博: 腹臥位胸腔鏡下食道切除術における気管食道動脈の微細解剖を意識した安全かつ根治性のある反回神経周囲郭清. 第71回日本消化器外科学会,2016,(徳島)[示説]
- 054 木下敬史, 小森康司, 木村賢哉, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 安部哲也, 伊藤誠二, 清水泰博: 下部進行直腸癌に対する開腹腹膜外アプローチ併用側方骨盤リンパ節郭清術. 第71回日本消化器外科学会,2016,(徳島)[シンポジウム]
- 055 川上次郎: 第71回日本消化器外科学会,2016,(徳島)[座長]
- 056 大島 貴, 吉川貴己, 宮城洋平, 森田智規, 田邊和照, 西川和宏, 伊藤友一, 青山 徹, 横瀬智之, 坂本純一: 局所進行胃癌に対する術前補助化学療法の効果予測バイオマーカー検索(COMPASS試験バイオマーカー研究). 第71回日本消化器外科学会,2016,(徳島)[ワークショップ]
- 057 赤澤智之, 安部哲也, 植村則久, 川上次郎, 小森康司, 伊藤誠二, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平, 清水泰博: 食道癌術後多発肝転移に対し2度の肝切除後長期生存中の1例. 第46回愛知臨床外科学会,2016,(名古屋)[口演]
- 058 安部哲也: 第46回愛知臨床外科学会,2016,(名古屋)[座長]
- 059 田中秀治, 重吉 到, 伊藤友一, 三澤一成, 伊藤誠二, 林大介, 赤澤智之, 筒山将之, 大内 晶, 大城泰平, 川上次郎, 夏目誠治, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 木下朝博, 清水泰博: 濾胞性リンパ腫を合併した胃癌の1例. 第46回愛知臨床外科学会,2016,(名古屋)[口演]
- 060 林 大介, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 清水泰博: 鼠径ヘルニア嚢転移をきたした直腸癌の1例. 第46回愛知臨床外科学会,2016,(名古屋)[口演]
- 061 小森康司: 消化管ストーマ造設法と合併症, 直腸癌手術の実際. 第28回東海ストーマリハビリテーション講習会,2016,(名古屋)[口演]
- 062 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 夏目誠治, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博, 木下平: 通常ポータLAGの技術・手技のできる胃癌Reduced Port Surgery. 5th Reduced Port Surgery Forum 2016 in Osaka 第15回Needlescopic Surgery Meeting 第10回単孔式内視鏡手術研究会,2016,(大阪)[シンポジウム]
- 063 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博, 木下平: Reduced port gastrectomyにおけるsolo surgeryの経験と今後の可能性. 5th Reduced Port Surgery Forum 2016 in Osaka 第15回Needlescopic Surgery Meeting 第10回単孔

- 式内視鏡手術研究会,2016,(大阪),[ワークショップ]
- 064 夏目誠治, 千田嘉毅, 脇岡 範, 原 和生, 清水泰博: 切除不能膵癌に対するナブパクリタキセル投与後手術症例の検討. 第43回日本膵切研究会,2016,(東京),[示説]
- 065 伊東文子, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 丹羽康正, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 清水泰博, 谷田部 恭, 原 和生: 遠隔転移を伴う切除不能進行膵癌に対し, 化学療法が奏効し根治切除可能となった3例. 第53回肝胆膵治療研究会,2016,(名古屋),[口演]
- 066 清水泰博: 第65回日本消化器画像診断研究会,2016,(福岡),[座長]
- 067 平山貴視, 原 和生, 奥野のぞみ, 脇岡 範, 水野伸匡, 谷田部 恭, 清水泰博: IPMN経過観察中に同時性多発膵管癌を来した一例. 第65回日本消化器画像診断研究会,2016,(福岡),[口演]
- 068 清水泰博: 第52回日本胆道学会学術集会,2016,(横浜),[座長]
- 069 渋谷 仁, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 清水泰博, 村上善子, 谷田部 恭, 原 和生: 十二指腸乳頭部Goblet cell carcinoid の一例. 第52回日本胆道学会学術集会,2016,(横浜),[示説]
- 070 夏目誠治, 千田嘉毅, 原 和生, 脇岡 範, 小森康司, 清水泰博: 膵頭十二指腸切除術後における良性胆管空腸吻合部狭窄症例の検討. 第52回日本胆道学会学術集会,2016,(横浜),[口演]
- 071 安部哲也, 植村則久, 川上次郎, 細井敬泰, 清水泰博, 篠田雅幸: 胸腔鏡下切除術における定型化とその課題. 第69回日本胸部外科学会定期学術集会,2016,(岡山),[パネルディスカッション]
- 072 夏目誠治, 千田嘉毅, 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 清水泰博: 局所進行膵癌に対するFOLFILINOX, ナブパクリタキセル投与後手術症例の検討. 第11回膵癌術前治療研究会,2016,(仙台),[示説]
- 073 小森康司: 第292回東海外科学会,2016,(岐阜),[座長]
- 074 田中秀治, 伊藤友一, 三澤一成, 伊藤誠二, 川上次郎, 大城泰平, 夏目誠治, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: CapeOX+Trastuzumab療法にてCRが得られた高度リンパ節転移を伴う進行胃癌の1例. 第292回東海外科学会,2016,(岐阜),[口演]
- 075 三澤一成: 第292回東海外科学会,2016,(岐阜),[座長]
- 076 細井敬泰, 安部哲也, 植村則久, 川上次郎, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平, 大内 晶, 筒山将之, 重吉 到, 赤澤智之, 林 大介, 田中秀治, 清水泰博: 食道癌術後孤立性副腎転移の1切除例. 第292回東海外科学会,2016,(岐阜),[口演]
- 077 大内 晶, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久, 大城泰平, 川上次郎, 清水泰博: 膵管内腫瘍栓及び上腸管膜静脈腫瘍栓を伴った膵ガストリノーマの1例. 第292回東海外科学会,2016,(岐阜),[口演]
- 078 筒山将之, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 大内 晶, 重吉 到, 細井敬泰, 赤澤智之, 林 大介, 田中秀治, 清水泰博: 巨大腫瘍として切除された大腸癌卵巣転移の2例. 第292回東海外科学会,2016,(岐阜),[口演]
- 079 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 大内 晶, 筒山将之, 重吉 到, 清水泰博: 大動脈～総腸骨動脈分岐部周囲の大腸癌術後リンパ節再発手術の要点. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[ミニシンポ]
- 080 伊東文子, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 千田嘉毅, 夏目誠治, 田近正洋, 清水泰博, 丹羽康正, 原 和生: 切除不能膵癌に対するnabPTX+gemcitabine療法の単施設における後向きコホート研究. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[ミニシンポ]
- 081 今岡 大, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 稗田信弘, 吉田 司, 奥野のぞみ, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 転移性膵癌におけるCEAの予後予測因子としての有用性についての検討. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[示説]
- 082 岩屋博道, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 千田嘉毅, 夏目誠治, 田近正洋, 清水泰博, 丹羽康正, 原 和生: 膵神経内分泌腫瘍に対してエベロリムス投与後に発症した間質性肺炎が治療へ与える影響. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[示説]
- 083 伊藤誠二: 第46回胃外科・術後障害研究会,2016,(米子),[座長]
- 084 伊藤誠二, 伊藤友一, 三澤一成, 清水泰博, 木下 平: 術後栄養指標からみた胃術後障害. 第48回胃外科・術後障害研究会,2016,(米子),[口演]
- 085 小林大介, 石樽 清, 望月能成, 中山裕史, 阪井 満, 伊藤誠二, 小島 宏, 梶川真樹, 小寺泰弘: 胃切除後の体重減少に対する経口栄養補助療法の有効性について. 第46回胃外科・術後障害研究会,2016,(米子),[口演]
- 086 夏目誠治, 清水泰博, 脇岡 範: 切除不能膵癌に対するFOLFILINOX, ナブパクリタキセル療法の現状conversion rateと治療成績. JDDW2016KOBE第24回日本消化器関連学会週間,2016,(神戸),[口演]
- 087 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 岩田至紀, 筒山将之, 重吉 到, 赤澤智之, 林 大介, 大内 晶, 清水泰博: 直腸癌局所再々発の手術手技. JDDW2016KOBE 第24回日本消化器関連学会週間,2016,(神戸),[示説]
- 088 脇岡 範, 原 和生, 清水泰博: IPMNにおける壁肥厚所見の重要性. 第回JDDW2016KOBE 第24回日本消化器関連学会週間,2016,(神戸),[シンポジウム]
- 089 清水泰博, 山上裕機, 真口宏介: IPMNにおける新たな癌予測モデル作成の取り組み. JDDW2016KOBE 第24回日本消化器関連学会週間,2016,(神戸),[シンポジウム]
- 090 清水泰博: JDDW2016KOBE 第24回日本消化器関連学会週間,2016,(神戸),[座長]

- 091 大城泰平, 上原圭介, 神谷忠宏, 向井俊貴, 筒山将之, 木下敬史, 小森康司, 柳野正人: 下部進行直腸癌に対する術前化学療法とRAS/BRAF解析. 第71回日本大腸肛門病学会学術集会,2016.(伊勢)[口演]
- 092 木下敬史, 小森康司, 大城泰平: 当院における腹腔鏡下側方リンパ節郭清の手術手技. 第71回日本大腸肛門病学会学術集会,2016.(伊勢)[口演]
- 093 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 筒山将之, 重吉 到, 清水泰博: cStageII大腸癌に対する中枢側D3リンパ節郭清の意義. 第71回日本大腸肛門病学会学術集会,2016.(伊勢)[口演]
- 094 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 筒山将之, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 重吉 到, 細井敬泰, 赤澤智之, 林 大介, 田中秀治, 清水泰博: 当院過去51年間における家族性大腸腺腫症の手術療法の変遷. 第71回日本大腸肛門病学会学術集会,2016.(伊勢)[口演]
- 095 筒山将之, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 重吉 到: 骨盤内蔵全摘術後の骨盤死腔炎に対する治療方針の検討. 第71回日本大腸肛門病学会学術集会,2016.(伊勢)[口演]
- 096 小森康司: 無再発を目指した大腸がん手術. 第5回 愛知県がんセンター中央病院 公開講座「大腸がんの治療の進歩」, 2016.(名古屋)[講演]
- 097 清水泰博: 第78回日本臨床外科学会,2016.(東京)[座長]
- 098 伊藤誠二: 第78回日本臨床外科学会,2016.(東京)[座長]
- 099 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久, 大城泰平, 川上次郎, 林 大介, 大内 晶, 筒山将之: 2014年以降における切除不能腫瘍に対するconversion surgeryの現況. 第78回日本臨床外科学会,2016.(東京)[シンポジウム]
- 100 大城泰平, 上原圭介, 神谷忠宏, 向井俊貴, 清水泰博, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久, 夏目誠治, 柳野正人: 下部進行直腸癌に対するRAS/BRAF変異解析とNAC効果の検討. 第78回日本臨床外科学会,2016.(東京)[シンポジウム]
- 101 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 大内 晶, 筒山将之, 重吉 到, 清水泰博: 直腸癌骨盤内再々発手術手技の要点. 第78回日本臨床外科学会, 2016.(東京)[シンポジウム]
- 102 大内 晶, 清水泰博, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久, 夏目誠治, 大城泰平, 川上次郎: 大腸癌同時性両葉多発肝転移の治療成績～新規抗癌剤は予後に寄与したか～. 第78回日本臨床外科学会,2016.(東京)[パネルディスカッション]
- 103 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 清水泰博: 下部進行直腸癌に対する側方郭清. 第78回日本臨床外科学会,2016.(東京)[パネルディスカッション]
- 104 赤澤智之, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 清水泰博: がんhigh volume cancerにおける緊急手術の現状と動向. 第78回日本臨床外科学会,2016.(東京)[ワークショップ]
- 105 千田嘉毅, 清水泰博, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久, 大城泰平, 川上次郎, 大内 晶, 筒山将之, 細井敬泰: 主腸管型IPMNにおける至適切除範囲の検討～特に主腸管全長拡張症例について～. 第78回日本臨床外科学会,2016.(東京)[ワークショップ]
- 106 筒山将之, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 清水泰博: 当院における一時的回腸人工肛門造設の工夫と成績. 第78回日本臨床外科学会,2016.(東京)[口演]
- 107 伊藤友一, 伊藤誠二, 三澤一成, 川上次郎, 大城泰平, 夏目誠治, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博, 木下 平: 胃癌内視鏡治療非治癒切除後の追加手術症例に関する検討. 第78回日本臨床外科学会, 2016.(東京)[示説]
- 108 重吉 到, 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久, 大城泰平, 川上次郎, 清水泰博: 高齢者(80歳以上)に対する脾頭十二指腸切除症例の検討～その治療成績と意義～. 第78回日本臨床外科学会,2016.(東京)[ワークショップ]
- 109 林 大介, 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久, 大城泰平, 川上次郎, 清水泰博: 当院における脾全摘術の検討. 第78回日本臨床外科学会,2016.(東京)[口演]
- 110 賽珠山裕, *Holger R. Roth*, 小田昌宏, 中村嘉彦, 三澤一成, 藤原道隆, 森 健策: Structured Random Forestを用いた3次元腹部CT像からのリンパ節自動検出に関する初期的検討～統計的特徴量を利用したリンパ節検出率の改善～. 第25回日本コンピューター外科学会大会,2016.(東京)[口演]
- 111 張 曉楠, 加賀城充, 小田昌宏, 林 雄一郎, 三澤一成, 森 健策: 血管木構造構築手法の改善とその血管名称自動対応付けへの応用. 第25回日本コンピューター外科学会大会,2016.(東京)[口演]
- 112 林 雄一郎, 三澤一成, 森 健策: 腹腔鏡下胃切除術におけるポート位置決定支援のためのポート位置プランニングシステムの開発. 第25回日本コンピューター外科学会大会, 2016.(東京)[口演]
- 113 王 成, *Mohammad Eshghi*, 小田昌宏, 林 雄一郎, 三澤一成, 蔣 振剛, 森 健策: 腹腔鏡ナビゲーションシステムにおけるORB-SLAMの適用に関する初期的検討. 第25回日本コンピューター外科学会大会,2016.(東京)[口演]
- 114 清水南月, 小田昌宏, 三澤一成, 藤原道隆, 森 健策: 回帰木を用いたCT画像における臓器の局所化に関する特徴量の検討. 第25回日本コンピューター外科学会大会,2016.(東京)[口演]
- 115 柴田睦実, 林 雄一郎, 小田昌宏, 三澤一成, 森 健策:



- ステレオ内視鏡画像からの臓器形状復元手法における誤対応点削減処理の提案と手術画像への適用. 第25回日本コンピュータ外科学会大会,2016,(東京),[口演]
- 116 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 大内 晶, 筒山将之, 重吉 到, 清水泰博: 腹腔鏡下結腸右半切除後にport site recurrenceおよび吻合部再発を認めた上行結腸癌の1例. 第29回日本内視鏡外科学会総会,2016,(横浜),[示説]
- 117 伊藤友一, 三澤一成, 伊藤誠二, 望月能成, 川上次郎, 大城泰平, 夏目誠治, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博, 木下 平: 腹腔鏡下胃切除術の治療成績. 第29回日本内視鏡外科学会,2016,(横浜),[口演]
- 118 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 清水泰博: 腹腔鏡下側方リンパ節郭清の手術手技. 第29回日本内視鏡外科学会,2016,(横浜),[口演]
- 119 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 川上次郎, 大城泰平, 夏目誠治, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博, 木下 平: 通常ポート胃切除の手技で行う胃癌 Reduced Port Surgery 一傾向スコアマッチング解析による短期成績の検討. 第29回日本内視鏡外科学会,2016,(横浜),[ワークショップ]
- 120 大城泰平, 小森康司, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 大内 晶, 筒山将之, 重吉 到, 清水泰博: ISR手術に必要なリンパ節郭清範囲の検討と腹腔鏡手術手技. 第29回日本内視鏡外科学会,2016,(横浜),[口演]
- 121 筒山将之, 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 清水泰博: 当科における進行横行結腸癌に対する中結腸動脈領域D3郭清の定型化. 第29回日本内視鏡外科学会,2016,(横浜),[口演]
- 122 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 筒山将之, 重吉 到: 浸潤先進部分の病理組織学的所見に基づいた予後不良因子のスコア計算による大腸pMP(pT2)癌の層別化. 第86回大腸癌研究会,2017,(岩手),[口演]
- 123 大城泰平, 木下敬史, 筒山将之, 大内 晶, 重吉 到, 小森康司: 安全で確実な側方リンパ節郭清の手術手技. 第86回大腸癌研究会,2017,(岩手),[示説]
- 124 筒山将之, 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 清水泰博: 当院における腹腔鏡下直腸切断~安全な切離・吻合のために. 第86回大腸癌研究会,2017,(岩手),[示説]
- 125 細井敬泰, 安部哲也, 植村則久, 川上次郎, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平, 清水泰博: 肝硬変を伴う腹部食道癌に対して左開胸下経横隔膜のアプローチが有用であった1例. 第47回愛知臨床外科学会,2017,(名古屋),[口演]
- 126 田中秀治, 小森康司, 大城泰平, 木下敬史, 赤澤智之, 林 大介, 重吉 到, 細井敬泰, 筒山将之, 大内 晶, 川上次郎, 夏目誠治, 植村則久, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 安部哲也, 伊藤誠二, 清水泰博: 経肛門の切除後10年を経
- て局所再発を来した直腸SM癌の1例. 第47回愛知臨床外科学会,2017,(名古屋),[口演]
- 127 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 大内 晶, 筒山将之, 細井敬泰, 重吉 到, 赤澤智之, 林 大介, 田中秀治, 清水泰博: 大腸癌術後リンパ節再発(大動脈~総腸骨動脈分岐部周囲)手術の要点. 第13回日本消化管学会総会学術集会,2017,(名古屋),[口演]
- 128 小森康司: 第34回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会,2017,(名古屋),[座長].
- 129 清水泰博: 第66回日本消化器画像診断研究会,2017,(東京),[座長]
- 130 藤田 曜, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 谷田部 恭, 清水泰博: 術前の鑑別が困難であった膵神経内分泌腫瘍の1例. 第66回日本消化器画像診断研究会,2017,(東京),[ポスターシンポジウム]
- 131 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 清水泰博: 救命しえた腹腔内出血を来した性腺外胚細胞腫瘍(Extragenital Germ Cell Tumor)後腹膜転移の1例. 第53回日本腹部救急医学会総会,2017,(横浜),[口演]
- 132 伊藤誠二: 第89回日本胃癌学会総会,2017,(広島),[座長]
- 133 *Seiji Ito, Yuichi Ito, Kazunari Misawa, Yasuhiro Shimizu, Taira Kinoshita* 伊藤誠二, 伊藤友一, 三澤一成, 清水泰博, 木下 平: Estimated blood loss and calculated blood loss in laparoscopic and open gastrectomy(腹腔鏡下胃切除と開腹手術における術中出血量と計算された出血量). 第89回日本胃癌学会総会,2017,(広島),[口演]
- 134 *Ito Y, Miawa K, Cho H, Seiji I, Yoshikawa T*, 伊藤友一, 三澤一成, 長 晴彦, 伊藤誠二, 吉川貴己: Evaluation of PGA-reinforced tri-staple in gastrectomy by comparison D2 and D1+胃切除術におけるリンフォーストライステーブルの安全性, 有効性に関する多施設前向き観察登録研究. 第89回日本胃癌学会総会,2017,(広島),[示説]
- 135 *Tanaka H, Misawa K, Ito Y, Kawakami J, Ooshiro T, Natsume S, Uemura N, Kinoshita T, Sendu Y, Abe T, Komori K, Shimizu Y*, 田中秀治, 三澤一成, 伊藤友一, 伊藤誠二, 川上次郎, 大城泰平, 夏目誠治, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: Reduced port surgery for gastric cancer-Propensity score matching analysis of short-term outcome. 胃癌Reduced Port Surgeryの傾向スコアマッチングを用いた短期成績の検討. 第89回日本胃癌学会総会,2017,(広島),[示説]
- 136 *Nakanishi H, Ikehara Y, Ito S*, 中西速夫, 池原 譲, 伊藤誠二: Novel therapeutic approach with PAM for peritoneal micrometastasis of gastric cancerプラズマ活性化培地を用いた胃癌腹膜転移に対する新規治療法の開発. 第89回日本胃癌学会総会,2017,(広島),[示説]
- 137 *Shigeyoshi, Ito Y, Misawa K, Ito S, Kinoshita T*, 重吉到, 伊藤友一, 三澤一成, 伊藤誠二, 木下 平: Surgical



outcomes of subtotal gastrectomy 当院に於ける胃重全摘症例の検討. 第89回日本胃癌学会総会,2017,(広島),[示説]

- 138 小森康司：大腸がん手術. 平成28年度第6回愛知県院内がん登録研修会,2017,(名古屋),[講演]

#### 整形外科部

- 001 *Tsukushi S, Masahiro Y, Hiroaki H, Nishida Y* : Analysis of local control and patterns of local relapse in soft tissue sarcoma. The 11th Meeting of The Asia Pacific Musculoskeletal Tumour Society, 2016, (シンガポール), [口演]
- 002 *Hiroaki H, Tsukushi S, Masahiro Y, Yoshitaka I, Yasuhiro S* : Clinical features of Bone metastasis from Hepatocellular Carcinoma. The 11th Meeting of The Asia Pacific Musculoskeletal Tumour Society, 2016, (シンガポール), [ポスター]
- 003 筑紫 聡, 吉田雅博, 長谷川弘晃, 西田佳弘, 浦川 浩, 杉浦英志：非小円形細胞肉腫の治療成績 補助化学療法の意義. 第89回日本整形外科学会学術総会, 2016, (横浜), [ポスター]
- 004 秋山 達, 五木田茶舞, 小倉浩一, 筑紫 聡, 岩田慎太郎, 中村知樹, 松峯昭彦, 米本 司, 西田佳弘, 川井 章, 松本誠一：脊索腫切除検体の病理学的特徴と術後成績についての解析. 第89回日本整形外科学会学術総会, 2016, (横浜), [ポスター]
- 005 生田国大, 西田佳弘, 筑紫 聡, 山田健志, 山田芳久, 浦川 浩, 小澤英史, 濱田俊介, 今井礼子, 鎌田 正, 石黒直樹：骨・軟部肉腫に対する重粒子線治療成績の検討. 第89回日本整形外科学会学術総会, 2016, (横浜), [ポスター]
- 006 筑紫 聡, 吉田雅博, 長谷川弘晃：初診時原発不明癌骨転移の治療戦略. 第49回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2016, (東京), [口演]
- 007 筑紫 聡, 吉田 雅博, 長谷川弘晃, 西田佳弘, 浦川 浩, 石黒直樹：切除可能非小円形細胞肉腫に対する補助化学療法の意義. 第49回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2016, (東京), [口演]
- 008 吉田雅博, 筑紫 聡, 長谷川弘晃, 山田健志, 杉浦英志：骨・軟部悪性腫瘍におけるgemcitabineとdocetaxel併用療法についての検討. 第49回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2016, (東京), [口演]
- 009 大田剛広, 山田健志, 筑紫 聡, 山田芳久, 浦川 浩, 小澤英史, 生田国大, 濱田俊介, 石黒直樹, 西田佳弘：骨巨細胞腫に対する手術治療成績の検討. 第49回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2016, (東京), [ポスター]
- 010 杉浦英志, 西田佳弘, 浦川 浩, 筑紫 聡, 吉田雅博, 山田芳久, 山田健志：初回広範切除後の局所再発例に対する手術治療. 第49回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2016, (東京), [口演]
- 011 生田国大, 杉浦英志, 筑紫 聡, 山田健志, 山田芳久, 浦川 浩, 小澤英史, 濱田俊介, 石黒直樹, 西田佳弘：骨・

軟部腫瘍切除後のintercalary graftによる加温処理骨再建の成績. 第49回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2016, (東京), [口演]

- 012 筑紫 聡, 吉田雅博, 長谷川弘晃, 鈴木周一郎：初診時原発不明癌骨転移の治療戦略. 第54回日本癌治療学会学術集会, 2016, (横浜), [口演]
- 013 鈴木周一郎, 筑紫 聡, 吉田雅博, 長谷川弘晃：腫瘍用人工関節感染に対して再置換術を行った6例の治療経験. 第127回中部日本整形外科学会災害外科学会・学術集会, 2016, (松本), [口演]

#### リハビリテーション部

- 001 高津 淳, 青山寿昭, 山本正彦：喉頭重全摘術後の嚥下機能に対する定量的解析. 第28回日本嚥下障害臨床研究会, 2016, (愛知), [一般口頭演題]
- 002 高津 淳, 青山寿昭, 山本正彦：喉頭重全摘術後の嚥下機能に対する定量的解析. 第22回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 2016, (新潟), [一般口頭演題]
- 003 伊藤敬太, 吉田雅博, 前田明弘, 伊坪浩幸, 高津 淳, 杉浦英志：リハビリテーションが介入したがん患者の内訳と転帰について. 第6回日本がんリハビリテーション研究会, 2017, (神奈川), [口述発表]

#### 泌尿器科部

- 001 曾我倫久人, 景山拓海, 小倉友二, 林 宣男：2015年度, 愛知県がんセンター中央病院の手術統計. 第59回三重泌尿器科医会, 2016, (津), [口演]
- 002 曾我倫久人, 景山拓海, 小倉友二：ダヴィンチXiを使用した、RARP導入初期の報告：ミニマム創手術との比較及び、膀胱前立腺離断時の膀胱側evertingの工夫. The 7th Tokai Robotic Urology Symposium, 2016, (名古屋), [口演]
- 003 景山拓海, 曾我倫久人, 小倉友二, 林 宣男：自然消褪した膀胱浸潤性骨盤内腫瘍の1例. 第271回日本泌尿器科学会東海地方会, 2016, (名古屋), [口演]
- 004 曾我倫久人, 景山拓海, 小倉友二, 林 宣男：前立腺全摘除術の候補者に対する、偶然性膀胱癌の発見を目的とした下部尿路スクリーニングの有益性. 第104回日本泌尿器科学会総会, 2016, (仙台), [口演：総会賞]
- 005 景山拓海, 曾我倫久人, 小倉友二：副腎に発生した脂肪肉腫の1例. 第60回三重泌尿器科医会, 2016, (津), [口演]
- 006 曾我倫久人, 景山拓海, 小倉友二：ダヴィンチXiを使用した、ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術の初期経験. 第60回三重泌尿器科医会, 2016, (津), [口演]
- 007 曾我倫久人, 景山拓海, 小倉友二：前立腺がんの手術療法とホルモン療法：前立腺9：前立腺がんのホルモン治療CRPCに対するエンザルタミドの効果予測因子としての、投与前テストステロン値の意義. 第54回日本癌治療学会学術集会, 2016, (横浜), [口演, ワークショップ]

- 008 小倉友二, 景山拓海, 曾我倫久人: 前立腺癌に対する放射線外照射療法後に発症した膀胱癌の検討. 第54回日本癌治療学会,2016,(横浜),[示説]
- 009 曾我倫久人, 景山拓海, 小倉友二: ダヴィンチXiを使用した、RARP導入初期の経験: ミニマム創手術との比較. 第66回日本泌尿器科学会中部総会,2016,(四日市),[口演]
- 010 曾我倫久人, 景山拓海, 小倉友二: ロボット支援下前立腺全摘除アドバンスコース—困難症例への対応—Da vinci Xiの利点と欠点. 第66回日本泌尿器科学会中部総会,2016,(四日市),[口演, シンポジウム]
- 011 景山拓海, 曾我倫久人, 小倉友二: 前立腺癌に対する放射線治療の予後予測因子としてのGP scoreの有用性. 第66回日本泌尿器科学会中部総会,2016,(四日市),[口演]
- 012 曾我倫久人, 景山拓海, 小倉友二: 腎部分切除術時における、腫瘍部位認識補助としての近赤外蛍光法の有効性. 第30回日本泌尿器内視鏡学会,2016,(大阪),[ビデオ口演, 学会賞]
- 013 景山拓海, 曾我倫久人, 小倉友二: ホルモン療法併用放射線治療後に、PSAが測定感度以下に維持されながらも、再発したと考えられる前立腺癌の1例. 第273回日本泌尿器科学会東海地方会,2016,(名古屋),[口演]
- 014 曾我倫久人, 景山拓海, 小倉友二: ミニマム創内視鏡補助下腎部分切除術時における、腫瘍部位認識補助としての近赤外蛍光法の有効性. 第9回日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会,2016,(東京),[口演, パネルディスカッション]
- 5-aminolevulinic acid for ovarian cancer cells in vitro and in vivo). 第58回日本婦人科腫瘍学会学術講演会,2016,(米子),[ポスター]
- 007 宇野あす香, 清水裕介, 森 正彦, 近藤紳司, 細野覚代, 水野美香: 尿路生殖器への広範なpagetoid spreadを伴った子宮頸部腺癌の1例. 第58回日本婦人科腫瘍学会学術講演会,2016,(米子),[ポスター]
- 008 清水裕介, 宇野あす香, 森 正彦, 近藤紳司, 細野覚代, 水野美香: 進行卵巣癌のBevacizumab併用の術前化学療法における治療成績. 第58回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2016,(米子),[口演]
- 009 勅使河原利哉, 水野美香, 石井琢也, 三井寛子, 内海 史, 関谷龍一郎, 鈴木史朗, 梶山広明, 柴田清住, 高橋 究, 石塚昌宏, 吉川史隆: 抗癌剤耐性ヒト卵巣癌細胞株における5-アミノレブリン酸を用いた光線力学療法の検討. 第58回日本婦人科腫瘍学会学術講演会,2016,(米子),[ポスター]
- 010 水野美香: 5-Aminolevulinic Acidを用いた光線力学療法. 第37回日本レーザー医学会総会シンポジウム,2016,(旭川), [ランチョンセミナー]
- 011 水野美香: 婦人科疾患のレーザー医療の新たな展開 5-Aminolevulinic Acidを用いた光線力学療法 子宮頸がんにおける基礎研究から臨床応用まで. 第37回日本レーザー医学会総会,2016,(旭川),[口演]
- 012 宇野あす香, 清水裕介, 森 正彦, 近藤紳司, 水野美香: 尿路生殖器への広範なpagetoid spreadを認めた子宮頸部腺癌の一例. 第137回東海産科婦人科学会,2017,名古屋,[口演]

#### 婦人科部

- 001 水野美香: 子宮頸部上皮腫瘍に対する光線力学療法の可能性. 第26回日本光線力学学会学術講演会,2016,(横浜),[口演]
- 002 宇野あす香, 清水裕介, 森 正彦, 近藤紳司, 水野美香: 円錐切除術後に子宮を温存したI期子宮頸癌93例の予後. 第68回日本産科婦人科学会学術講演会2016,(東京),[ポスター].
- 003 宇野あす香, 清水裕介, 森 正彦, 近藤紳司, 水野美香: 急激な転帰を辿った外陰epithelioid sarcomaの1例. 第57回日本臨床細胞学会総会春期大会,2016,(横浜),[ポスター]
- 004 岩崎慶大, 藪下廣光, 荒川敦志, 中西 透, 河井通泰, 水野美香, 鈴木史朗, 牧野 弘, 若槻明彦, 近藤紳司, 西川隆太郎, 河合要介, 笹本香織, 上野大樹: 子宮体部漿液性腺癌と明細胞腺癌の臨床的背景および生存予後の比較. 第68回日本産科婦人科学会学術講演会,2016,(東京),[ポスター]
- 005 水野美香, 竹島信宏, 青木陽一, 櫻井 学, 西川忠暁, 上田英典, 田嶋幸聖, 杉山 徹: 子宮頸癌の化学療法 日本の進行・再発子宮頸癌患者に対するbevacizumab併用化学療法の第II相試験(JO29569). 第58回日本婦人科腫瘍学会学術講演会,2016,(米子),[口演, ワークショップ]
- 006 水野美香, 勅使河原俊哉, 関谷龍一郎, 三井寛子, 鈴木史朗, 梶山広明, 柴田清住, 吉川史隆, 井上克司, 高橋 究, 中島元夫: ヒト卵巣癌細胞株を用いたin vitroおよびin vivoにおける5-aminolevulinic acidによる光線力学療法の有効性の検討(Effect of photodynamic therapy using 放射線診断 IVR部
- 001 *Morinaga H, Sato Y, Inaba Y, Yamaguchi H, Hasegawa T, Murata S, Kato M, Onoda Y, Yamaura H*: Hepatic arterial infusion chemotherapy with low-dose 5-fluorouracil and cisplatin for advanced hepatocellular carcinoma. World Conference on Interventional Oncology, 2016,(Boston,USA),[Poster]
- 002 *Inaba Y, Arai Y, Sone M, Aramaki T, Osuga K*: Development of the steering microcatheter. 30th Meeting of Cardiovascular and Interventional Radiological Society of Europe,2016,(Barcelona,Spain),[Poster]
- 003 *Sato Y, Inaba Y, Abe T*: Interventional management of postoperative fistula and leak (upper GI tract). 10th Meeting of Society of Gastrointestinal Intervention,2016, (Seoul,Korea),[Oral presentation]
- 004 *Kimbara Y, Sato Y, Inaba Y, Yamaura H, Onoda Y, Kato M, Murata S, Hasegawa T, Morinaga H, Yamaguchi H, Imai Y*: Hepatic arterial infusion chemotherapy for patients with unresectable liver metastases from colorectal cancer refractory to standard systemic chemotherapy: 10th Meeting of Society of Gastrointestinal Intervention,2016,(Seoul,Korea),[Poster]

- 005 *Morinaga H, Sato Y, Inaba Y, Shimizu Y, Ouchi A, Natsume S, Yamaura H, Onoda Y, Kato M, Murata S, Hasegawa T, Kimbara Y, Yamaguchi H, Imai Y* : Aspiration thrombectomy for acute portal vein thrombosis: a case report. 10th Meeting of Society of Gastrointestinal Intervention,2016,(Seoul.Korea),[Poster]
- 006 *Hasegawa T* : Adrenal ablation. 3rd Asian Conference on Tumor Ablation,2016,(Seoul.Korea),[Lecture]
- 007 *Hasegawa T, Kondo C, Sato Y, Inaba Y, Yamaura H, Kato M, Murata S, Onoda Y, Yatabe Y* : Possibility of pathological and genetic analysis of percutaneous needle biopsy performed immediately after lung radiofrequency ablation. 102nd Meeting of Radiological Society of North America,2016,(Chicago .USA),[Oral presentation]
- 008 *Kimbara Y, Sato Y, Inaba Y, Murata S, Morinaga H, Senda Y* : Percutaneous recovery of a migrated AMPLATZER vascular plug (AVP) in arterial redistribution (preoperative embolization) before distal pancreatectomy with en-bloc celiac axis resection. 2nd Global Embolization Symposium and Technologies in Asia,2016,(Tokyo. Japan),[Poster]
- 009 *Morinaga H, Sato Y, Inaba Y, Murata S, Kimbara Y, Hara K* : Endovascular treatment for ruptured jejunal varices due to portal vein occlusion after pancreatoduodenectomy: a case report. 2nd Global Embolization Symposium and Technologies in Asia,2016, (Tokyo. Japan),[Poster]
- 010 *Murata S, Inaba Y, Sato Y, Kimbara Y, Morinaga H* : Embolization for tumor of the brachiocephalic artery area. Global Embolization Symposium and Technologies in Asia,2016,(Tokyo. Japan),[Oral presentation]
- 011 *Sato Y, Inaba Y, Murata S, Hasegawa T, Morinaga H, Kimbara Y* : AMPLATZER vascular plug for interventional oncology. 2nd Global Embolization Symposium and Technologies in Asia,2016,(Tokyo. Japan), [Oral presentation]
- 012 *Sato Y, Morinaga H, Inaba Y, Yamaura H, Onoda Y, Kato M, Murata S, Hasegawa T, Kimbara Y, Yamaguchi H* : Hepatic arterial infusion chemotherapy with low-dose 5-fluorouracil and cisplatin for advanced hepatocellular carcinoma. 14th Meeting of Japanese Society of Medical Oncology,2016,(Kobe.Japan),[Oral presentation]
- 013 *長谷川貴章* : 肺・副腎腫瘍に対するRFA. 第27回日本医学放射線学会総会,2016,(横浜),[教育講演]
- 014 *佐藤洋造* : CT透視ガイド下IVR用ロボット(Zerobot)の開発. 第2回日本穿刺ドレナージ研究会,2016,(大阪),[座長]
- 015 *稲葉吉隆, 村田慎一, 金原佑樹, 守永広征, 長谷川貴章, 山口久志, 加藤弥菜, 小野田 結, 佐藤洋造, 山浦秀和* : 肝細胞癌に対するTACE後に合併したESBL大腸菌による難治性肝膿瘍の1例. 第2回日本穿刺ドレナージ研究会,2016,(大阪),[口演]
- 016 *村田慎一, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 加藤弥菜, 小野田 結, 長谷川貴章, 金原佑樹, 守永広征, 山口久志* : 腕頭動脈領域の出血に対し塞栓術を行った5例. 第45回日本IVR学会,2016,(名古屋),[口演]
- 017 *稲葉吉隆* : Angio CTの最新Topics. 第45回日本IVR学会, 2016,(名古屋),[座長]
- 018 *守永広征, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山口久志, 金原佑樹, 長谷川貴章, 村田慎一, 加藤弥菜, 小野田 結, 山浦秀和* : 当院における進行肝細胞癌に対するlow dose FP療法の検討. 第45回日本IVR学会,2016,(名古屋),[口演]
- 019 *金原佑樹, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 小野田 結, 加藤弥菜, 村田慎一, 長谷川貴章, 守永広征, 山口久志, 室 圭* : 進行再発大腸癌の肝転移における全身化学療法不応例に対する肝動注化学療法の意義. 第45回日本IVR学会,2016,(名古屋),[口演]
- 020 *長谷川貴章, 近藤千晶, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 加藤弥菜, 村田慎一, 小野田 結, 守永広征, 金原佑樹, 山口久志, 谷田部 恭* : 肺RFA直後の経皮的針生検による組織診断能評価. 第45回日本IVR学会,2016,(名古屋),[口演]
- 021 *稲葉吉隆, 荒井保明, 曾根美雪, 新嶺 剛, 大須賀慶悟* : ステアリングマイクロカテーテル開発試験. 第45回日本IVR学会,2016,(名古屋),[口演]
- 022 *佐藤洋造, 稲葉吉隆, 村田慎一, 山浦秀和, 加藤弥菜, 小野田 結, 長谷川貴章, 金原佑樹, 守永広征, 山口久志* : Interventional oncologyにおけるAmplatzer vascular plugの有用性の検討. 第45回日本IVR学会,2016,(名古屋),[口演]
- 023 *稲葉吉隆* : これからのCVポートにおける適正使用と合併症対策. 第45回日本IVR学会,2016,(名古屋),[座長]
- 024 *新嶺 剛, 稲葉吉隆* : 疼痛に対するIVR. 第45回日本IVR学会,2016,(名古屋),[座長]
- 025 *福嶋敬子, 松尾育未, 小沢あゆみ, 奥田孝光, 山田英光子, 山浦秀和, 佐藤洋造, 稲葉吉隆* : チームでみるTACE. 第45回日本IVR学会,2016,(名古屋),[口演]
- 026 *佐藤洋造* : BCLC stage Cの進行肝細胞癌を対象としたソラフェニブと肝動脈化学塞栓療法(TACE)の併用療法の第II相試験: STAB study. 第21回肝動脈塞栓療法研究会, 2016,(名古屋),[口演]
- 027 *稲葉吉隆* : 肝細胞癌のTACEによる治療戦略. 第21回肝動脈塞栓療法研究会,2016,(名古屋),[座長]
- 028 *佐藤洋造* : ビーズ導入後のTACEの現状. 第21回肝動脈塞栓療法研究会,2016,(名古屋),[座長]
- 029 *山口久志, 稲葉吉隆, 今井勇伍, 守永広征, 金原佑樹, 長谷川貴章, 村田慎一, 加藤弥菜, 小野田 結, 佐藤洋造, 山浦秀和, 脇岡 範* : 神経内分泌腫瘍に対するソマトスタチン受容体シンチグラフィの初期経験. 第83回中部地方会, 2016,(金沢),[口演]
- 030 *佐藤洋造, 稲葉吉隆, 長谷川貴章, 金原佑樹, 山浦秀和, 小野田 結, 加藤弥菜, 村田慎一, 守永広征, 山口久志, 今井勇伍, 千田嘉毅* : 術前血流改変事に逸脱したAMPLATZER vascular plugを回収した1例. 第60回中部IVR研究会,2016,(金沢),[口演]
- 031 *守永広征, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 小野田 結,*



- 加藤弥菜, 村田慎一, 長谷川貴章, 金原佑樹, 山口久志, 今井勇伍, 原 和生: 臍頭十二指腸切除後の門脈閉塞に伴う空腸静動脈瘤に対してIVR治療が奏効した1例. 第60回中部IVR研究会,2016,(金沢),[口演]
- 032 金原佑樹, 山浦秀和, 稲葉吉隆, 佐藤洋造, 小野田 結, 加藤弥菜, 村田慎一, 長谷川貴章, 守永広征, 山口久志, 今井勇伍: 肝細胞癌の肝外供血に対してバルーンTACEが有用であった1例. 第60回中部IVR研究会,2016,(金沢),[口演]
- 033 佐藤洋造, 山門享一郎, 西尾福英之, 保本 卓, 中塚豊真, 松尾国弘, 児玉芳尚, 大久保裕直, 阿保大介, 加古泰一, 廣田省三: BCLC stage Cの進行肝細胞癌を対象としたソラフェニブと肝動脈化学塞栓療法の併用療法の第II相試験(STAB study). 第14回日本肝がん分子標的治療研究会,2016,(大阪),[口演]
- 034 村田慎一, 佐藤洋造, 長谷川貴章, 山浦秀和, 加藤弥菜, 小野田 結, 金原佑樹, 守永広征, 山口久志, 稲葉吉隆: 化学療法後の画像下針生検の実行可能性. 第14回日本臨床腫瘍学会,2016,(神戸),[ポスター]
- 035 稲葉吉隆: CVポートを活用したCT造影の有効性—それぞれの立場から—. 第41回リザーバー研究会,2016,(岡山),[座長]
- 036 佐藤洋造, 金原佑樹, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 小野田 結, 加藤弥菜, 村田慎一, 長谷川貴章, 守永広征, 山口久志, 室 圭: 進行再発大腸癌の肝転移における全身化学療法不応例に対する肝動注化学療法の意義. 第41回リザーバー研究会,2016,(岡山),[口演]
- 037 稲葉吉隆, 佐藤洋造, 新榎 剛, 田中利洋, 西尾福英之, 松枝 清: 全身化学療法不応後の切除不能大腸癌肝転移に対する肝動注化学療法の実態調査. 第41回リザーバー研究会,2016,(岡山),[口演]
- 038 村田慎一, 佐藤洋造, 山浦秀和, 加藤弥菜, 小野田 結, 長谷川貴章, 金原佑樹, 守永広征, 山口久志, 稲葉吉隆: 肥満患者へのCVポート. 第41回リザーバー研究会,2016,(岡山),[口演]
- 039 佐藤洋造: がん患者に対する緩和IVR. 第2回岐阜放射線医学セミナー,2016,(岐阜),[講演]
- 040 村田慎一: 肥満患者へのCVポート. 第2回中部IVRミーティング,2016,(名古屋),[口演]
- 041 稲葉吉隆: がん診療におけるIVR. 第16回サマーセミナー,2016,(名古屋),[講演]
- 042 長谷川貴章, 山中隆嗣, 中塚豊真, 郷原英夫, 宮崎将也, 山門享一郎: T1b腎癌に対するラジオ波凝固療法と凍結療法: 後方視的研究. 第17回RFA・凍結療法研究会,2016,(鳥取),[口演]
- 043 長谷川貴章, 近藤千晶, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 加藤弥菜, 小野田 結, 村田慎一, 守永広征, 金原佑樹, 山口久志, 谷田部 恭: 肺RFA直後の経皮的針生検における病理診断および遺伝子学的評価の可能性. 第17回RFA・凍結療法研究会,2016,(鳥取),[口演]
- 044 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 村田慎一, 小野田 結, 長谷川貴章, 新榎 剛, 竹内義人, 荒井保明: オンコロジックエマージェンシーにおけるIVRの役割. 第54回日本癌治療学会,2016,(横浜),[口演]
- 045 村田慎一, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 加藤弥菜, 小野田 結, 長谷川貴章, 金原佑樹, 守永広征, 山口久志: 化学療法後再燃症例における画像ガイド下再生検の有効性の検討. 第54回日本癌治療学会,2016,(横浜),[口演]
- 046 佐藤洋造, 西尾福英之, 保本 卓, 中塚豊真, 松尾国弘, 児玉芳尚, 大久保裕直, 阿保大介, 高木治行, 稲葉吉隆, 山門享一郎, 廣田省三: BCLC stage Cの進行肝細胞癌を対象としたソラフェニブとTACEの併用療法の第II相試験. 第54回日本癌治療学会,2016,(横浜),[口演]
- 047 金原佑樹, 村田慎一, 守永広征, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 樋口悠介: 原因不明のリンパ節腫大・胸水貯留から急性呼吸不全を来した1例. 第44回日本救急学会,2016,(東京),[ポスター]
- 048 村田慎一, 金原佑樹, 守永広征: 腕頭動脈領域の止血塞栓術. 第44回日本救急学会,2016,(東京),[口演]
- 049 長谷川貴章, 山中隆嗣, 郷原英夫, 宮崎将也, 山門享一郎: T1b腎癌に対するアブレーション治療: 多施設共同後方視的研究. 第3回日本泌尿器癌局所療法研究会,2017,(東京),[口演]
- 050 村田慎一: 症例カンファレンス~マイクロソフィアTACEの可能性と限界. マイクロソフィアExpertカンファレンス,2017,(東京),[症例報告]
- 051 稲葉吉隆: がん診療におけるIVR. 第9回静岡血管撮影研究会,2017,(静岡),[講演]
- 052 稲葉吉隆: TACE治療法の工夫. 第23回肝血流動態・機能イメージ研究会,2017,(大阪),[座長]
- 053 稲葉吉隆: がん診療におけるIVR. 第30回香川Interventional Radiology研究会,2017,(香川),[講演]
- 054 山口久志, 稲葉吉隆, 今井勇伍, 守永広征, 金原佑樹, 長谷川貴章, 村田慎一, 加藤弥菜, 小野田 結, 佐藤洋造, 山浦秀和, 倉岡直亮, 脇岡 範, 原 和生, 伊藤友一: 123I-MIBGの集積を認めた胃GISTの1例. 日本核医学会第84回中部地方会,2017,(三重),[口演]
- 055 金原佑樹, 佐藤洋造, 守永広征, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 小野田 結, 加藤弥菜, 村田慎一, 長谷川貴章, 山口久志, 今井勇伍, 原 和生, 奥野のぞみ, 渋谷 仁: 進行臍頭部癌に伴う上腸間膜動脈出血を血管内ステント留置にて救命した1例. 第61回中部IVR研究会,2017,(三重),[口演]
- 056 守永広征, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 小野田 結, 加藤弥菜, 村田慎一, 長谷川貴章, 金原佑樹, 山口久志, 今井勇伍, 清水泰博, 大内 晶, 夏目誠治: 肝切除術後の肝外門脈狭窄と門脈血栓にIVRが奏効した1例. 第61回中部IVR研究会,2017,(三重),[口演]
- 057 村田慎一: 非血管IVR. 第61回中部IVR研究会,2017,(三重),[座長]
- 058 今井勇伍, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 小野田 結, 加藤弥菜, 村田慎一, 長谷川貴章, 金原佑樹, 守永広征, 山口久志, 原 和生: 胆管ステント留置後の胆嚢炎に対して行ったPTGBAとPTGBDの比較検討. 第61回中部IVR研究会,2017,(三重),[口演]
- 059 長谷川貴章, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 加藤弥菜,



村田慎一, 谷田部 恭 : 肺RFA直後の経皮的針生検における遺伝子学的評価の可能性. 第61回中部IVR研究会,2017,(三重).[口演]

放射線治療部

- 001 *Takeshi Kodaira, Yoshikazu Kagami, Taro Shibata, Naoto Shikama, Masahiro Hiraoka, Yasumasa Nishimura, Satoshi Ishikura, Kenichi Nakamura, Yoshihiro Saito, Yasuo Matsumoto, Koji Konishi, Yoshinori Ito, Tetsuo Akimoto, Kensei Nakata, Takeshi Toshiyasu, Keiichi Nakagawa, Yasushi Nagata, Tetsuo Nishimura, Takashi Uno, Masaaki Kataoka.* : Final Analysis of a Randomized Phase III Trial of Accelerated versus Conventional Fractionation Radiotherapy for Glottic Cancer of T1-2N0M0 (JCOG0701). 58<sup>th</sup> Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology 2015,2016, (Boston).[口演]
- 002 *Y Nishimura, T Kodaira, Y ito, K tuschiya, Y Murakami, T Akimoto, K Nakata, M Yoshimura, T Teshima, Y ota, K Ishikawa, H Shimizu, T Minemura, S Ishikura, K Nakamura, T Shibata, M Hiraoka* : A phase II study of intensity modulated radiation therapy (IMRT) with chemotherapy for locally advanced nasopharyngeal cancer (NPC) JCOG1015: Acute toxicity and treatment compliance. 58<sup>th</sup> Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology 2015,2016,(Boston).[ポスター]
- 003 *M.Ito, Y.Koide, M.Yoshida, K.Kimura, T.Makita, N.Tomita, H.Tachibana, T.Kodaira, M.Tajika, Y.Niwa, T.Abe, Y.Hasegawa, and K.Muro* : Clinical results of definitive chemoradiotherapy for cervical esophageal cancer: Comparison of failure pattern and toxicities between IMRT and 3 DCRT group. 58<sup>th</sup> Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology 2015,2016,(Boston).[口演]
- 004 *Y. Koide, K. Kimura, M. Yoshida, M. Ito, C. Makita, N. Tomita, H. Tachibana, T. Kodaira, T. Abe, K. Muro, M. Tajika, Y. Niwa* : Clinical Outcome of Definitive Radiation Therapy for superficial Esophageal Cancer. 58<sup>th</sup> Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology 2015,2016,(Boston).[ポスター]
- 005 *Seiichiro Mitani<sup>1</sup>, Shigenori Kadowaki<sup>1</sup>, Isao Oze<sup>2</sup>, Hiroya Taniguchi<sup>1</sup>, Takashi Ura<sup>1</sup>, Masashi Ando<sup>1</sup>, Masahiro Tajika<sup>3</sup>, Chiyoko Makita<sup>4</sup>, Takeshi Kodaira<sup>4</sup>, Norihisa Uemura<sup>5</sup>, Tetsuya Abe<sup>5</sup>, Kei Muro<sup>1</sup>* : Chemoradiotherapy versus surgery for clinical stage I esophageal squamous cell carcinoma: a long-term comparison. 2016 ESMO congress,2016,(Copenhagen Denmark).

- 006 *Hidetoshi Shimizu<sup>1</sup>, Koji Sasaki<sup>2</sup>, Takashi Kubota<sup>1</sup>, Kentaro Sugi<sup>3</sup>, Hiroshi Fukuma<sup>4</sup>, Tadashi Nakabayashi<sup>5</sup>, Taiki Isomura<sup>1</sup>, Kuniyasu Nakashima<sup>1</sup>, Hiroyuki Tachibana<sup>1</sup>, Takeshi Kodaira<sup>1</sup>* : The variation in beam output of the tomotherapy: Investigation in multiple facilities.. Annual meeting of International conference on medical physics,2016, (Bangkok).
- 007 *Taiki Isomura, Hidetoshi Shimizu, Koji Sasaki, Kentaro Sugi, Hiroshi Fukuma, Yoshiyuki Takaishi, Morihiko Uchida, Tadashi Nakabayashi, Kuniyasu Nakashima, Takeshi Kodaira* : Comparison of dose distributions calculated by three gold models for helical tomotherapy. Annual meeting of International conference on medical physics,2016,(Bangkok).
- 008 *Takeshi Kodaira* : Tomotherapy. IAEA-HICARE-CC international training course on advance radiation therapy, 2017,(Hiroshima).
- 009 *Koji Konishi, Takeshi Kodaira, Taro Shibata, Naoto Shikama, Yoshikazu Kagami, Yoshihiro Saito, Yasuo Matsumoto, Yoshinori Ito, Masahiro Hiraoka, Yasumasa Nishimura Japan Clinical Oncology Group* : Final Report of Accelerated vs. Conventional Fractionation RT for Early Glottic Cancer (JCOG 0701). 第29回日本放射線腫瘍学会,2016,(京都).
- 010 *Takeshi Kodaira* : FARO Scientific Session 1 “Head & Neck 1” Chairperson. 第29回日本放射線腫瘍学会,2016,(京都).[座長]
- 011 古平 毅 : 教育講演 頭頸部癌放射線治療の進歩と今後の展望. 第40回日本頭頸部癌学会,2016,(大宮).[口演]
- 012 牧田智誉子, 古平 毅, 立花弘之, 富田夏夫, 小出雄太郎, 伊藤 誠, 加藤大貴 : 上顎洞癌に対する放射線治療の治療成績. 日本医学放射線学会第160回中部地方会,2016,(金沢).[口演]
- 013 伊藤 誠, 加藤大貴, 小出雄太郎, 牧田智誉子, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅 : 頸部食道癌IMRTにおける肺線量低減に向けたBlock照射法の検討. 日本医学放射線学会第160回中部地方会,2016,(金沢).[口演]
- 014 小出雄太郎, 伊藤 誠, 加藤大貴, 牧田智誉子, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅, 木下朝博, 山本一仁 : Extranodal NK/T-cell lymphoma nasal typeに対するIMRTの治療成績. 日本医学放射線学会第160回中部地方会,2016,(金沢).[口演]
- 015 立花弘之 : セッション10 前立腺. 日本医学放射線学会第160回中部地方会,2016,(金沢).[座長]
- 016 古平 毅 : 教育講演座長 IMRTを含めた放射線治療技術の進歩(演者 伊藤 芳紀). 第14回日本臨床腫瘍学会,2016,(神戸).[座長]
- 017 三谷誠一郎, 門脇重憲, 尾瀬 功, 谷口浩也, 宇良 敬, 田近正洋, 牧田智誉子, 古平 毅, 植村則久, 安部哲也, 室 圭 : Chemoradiotherapy versus surgery for clinical stage I esophageal squamous cell carcinoma: a long-term comparison. 第14回日本臨床腫瘍学会,2016,(神戸).[口演]

- 018 立花弘之：「支持療法」. 第18回日本放射線腫瘍学会 夏季セミナー,2016,(名古屋),[講演]
- 019 古平 毅：頭頸部癌の放射線治療 集学的治療の中での役割. 産業医科大学大学院講義,2016,(北九州),[講演]
- 020 古平 毅：セツキシマブ併用放射線療法に対する支持療法のコツ 皮膚炎, 粘膜炎の管理を中心に. Head and Neck Summit 2016,2016,(東京),[講演]
- 021 古平 毅：頭頸部癌の放射線治療. 愛知医科大学放射線治療講演会,2016,(名古屋),[講演]
- 022 古平 毅：トモセラピーを用いた強度変調放射線治療の実際 一頭頸部癌を中心に. 札幌医科大学腫瘍診療センター講演会,2016,(札幌),[講演]
- 023 古平 毅：シンポジウム5 頭頸部癌治療アップデート. 第29回日本放射線腫瘍学会,2016,(京都),[座長]
- 024 伊藤 誠, 加藤大貴, 小出雄太郎, 吉田舞子, 木村香菜, 牧田智誉子, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅, 田近正洋, 安部哲也, 長谷川泰久, 室 圭：頸部食道癌に対する化学放射線治療成績(IMRTと3DCRT比較. 第29回日本放射線腫瘍学会,2016,(京都),[口演]
- 025 小出雄太郎, 古平 毅, 立花弘之, 富田夏夫, 牧田智誉子, 伊藤 誠, 加藤大貴, 木村香菜, 吉田舞子, 安部哲也, 室圭, 田近正洋, 丹羽康正：Stage I 食道癌に対する放射線治療の成績. 第29回日本放射線腫瘍学会,2016,(京都),[口演]
- 026 牧田智誉子, 古平 毅, 立花弘之, 富田夏夫, 小出雄太郎, 伊藤 誠, 加藤大貴：上顎洞癌に対する放射線治療症例の検討. 第29回日本放射線腫瘍学会,2016,(京都),[口演]
- 027 富田夏夫, 加藤大貴, 伊藤 誠, 小出雄太郎, 牧田智誉子, 立花弘之, 古平 毅：超高リスク前立腺癌の定義：外部照射と内分泌治療併用の結果による初期的検討. 第29回日本放射線腫瘍学会,2016,(京都),[口演]
- 028 立花弘之：「放射線腫瘍学」. 日本病院薬剤師会が認定する癌領域の講習会,2017,(名古屋),[講演]
- 029 古平 毅：セッションI. 第35回頭頸部腫瘍研究会,2017,(名古屋),[座長]
- 030 富田夏夫, 牧田智誉子, 立花弘之, 伊藤 誠, 小出雄太郎, 加藤大貴, 古平 毅：超高リスク前立腺癌の定義：外照射+長期内分泌療法の結果による初期的検討. 日本医学放射線学会161回中部地方会,2017,(津),[口演]
- 031 伊藤 誠, 清水秀年, 加藤大貴, 小出雄太郎, 牧田智誉子, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅：肺定位照射放射線治療計画の検討：固定多門照射とVMATの比較. 日本医学放射線学会161回中部地方会,2017,(津),[口演]
- 032 牧田智誉子, 古平 毅, 立花弘之, 富田夏夫, 小出雄太郎, 伊藤 誠, 加藤大貴：頭頸部扁平上皮癌の術後症例の検討. 日本医学放射線学会161回中部地方会,2017,(津),[口演]
- 033 立花 弘之：セッション7 治療(前立腺). 日本医学放射線学会161回中部地方会,2017,(津),[座長]
- 034 伊藤 誠, 清水秀年, 加藤大貴, 小出雄太郎, 牧田智誉子, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅：TomoTherapy®を用いた頸部食道癌IMRTにおける肺線量低減に向けたBlock照射法の検討. 第30回日本高精度放射線外部照射研究会,2017,(仙台),[口演]

## 外来部

- 001 土屋雅子, 荒井保明, 堀尾芳嗣, 船崎初美, 青儀健二郎, 宮内一恵, 高橋 都：がん診断後の離職割合の経時的变化と要因分析：多施設共同研究. 第29回日本サイコオンコロジー学会,2016,(札幌),[口演]

## 緩和ケア部

- 001 小森康永, 宋 敏鎬：ナラティブ・メディスン. 日本家族研究・家族療法学会ワークショップ,2016,(長崎),[ワークショップ]
- 002 小森康永, 奥野 光, 矢原隆行：ナラティブ・セラピー入門. 日本家族研究・家族療法学会ワークショップ,2017,(東京),[ワークショップ]
- 003 小森康永：がん患者をもつ家族の心理教育. 日本心理教育・家族ネットワーク第20回研究集会,2017,(新潟),[招聘講演]
- 004 小森康永：医学と文学の出会いの場所. 第5回ナラティブ・コロキウム,2017,(東京),[招聘講演]

## 看護部

### [学会発表]

- 001 南谷志野, 宮谷美智子, 野口見知子：応援業務報告書分析に基づく応援体制マニュアル遵守率向上の取り組みと評価. 第20回日本看護管理学会学術集会,2016,(横浜),[口演]
- 002 中島貴子, 野田順子, 朝井哲也, 牧田智誉子, 西川大輔, 宇良 敬：予防的胃瘻増設が頭頸部がんに対する化学放射線療法の臨床経過に及ぼす影響の検討. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(神奈川),[口演]
- 003 高畑知帆子, 小原真紀子, 宇良 敬：PS不良の外来化学療法例に対する電話によるアクティブアセスメントの効果. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[口演]
- 004 新貝夫弥子：進行・再発乳がん患者のドセタキセル長期投与によるFluid retention syndrome. 第24回日本乳がん学会学術集会,2016,(東京),[示説]
- 005 福永彩乃, 上田麻衣子, 中村直幹, 藤井博子：PNS導入のプロセスと今後の課題. 看護管理研究会,2016,(愛知),[口演]
- 006 桑原恵美, 岩井美世子, 加藤千晴, 水野美貴, 山下由紀穂, 青山寿昭：舌切除術を受けた患者の切除範囲と食形態の関係. 第22回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 2016,(新潟),[口演]
- 007 稲吉三葉, 山田知里, 黒田浩章, 足立明美, 渡邊清永, 尾前美友貴, 水野 瞳, 坂尾幸則, 内藤由美子：胸腔鏡下手術後の早期経口摂取開始に対するアイスクリームの使用経験と有用性の検討. 第47回日本看護学会 急性期看護,2016,(沖縄),[示説]
- 008 尾前美友貴, 黒田浩章, 出嶋 仁, 水野 瞳, 渡邊清永, 山田知里, 足立明美, 坂尾幸則, 内藤由美子：胸腔鏡手術後のトラマドールの効果解析から得たワントラム®の急性

- 期疼痛の有用性の検討. 第57回日本肺癌学術集会,2016,(福岡)[ポスター]
- 009 水野 瞳, 渡邊清永, 黒田浩章, 稲吉三葉, 尾前美友貴, 山田知里, 足立明美, 浅海くるみ, 坂尾幸則, 内藤由美子: 胸腔鏡術後のNRS SCOREに準じた薬剤使用経験からみた疼痛管理の必要性の検討. 第38回日本疼痛学会,2016,(北海道)[口演]
- 010 水野 瞳, 黒田浩章, 渡邊清永, 吉田達哉, 内藤由美子, 坂尾幸則: A retrospective study on analgesic requirements for thoracoscopic surgery postoperative pain. ESMO ASIA,2016,(シンガポール)[示説]
- 011 高畑知帆子, 小原真紀子, 宇良 敬: 外来で化学療法を行うPS 2以上の患者に対するアクティブアセスメントの効果と問題点.第31回日本がん看護学会学術集会,2017,(高知),[口演]
- 012 山田周平, 深堀慎一郎, 山口真由美, 南谷志野: がん専門病院ICUにおける人工呼吸器装着患者に対する段階的早期離床プロトコルの確立. 第31回日本がん看護学会学術集会,2017,(高知),[口演]
- 013 深堀慎一郎, 山口真由美, 南谷志野, 山田周平: 人工呼吸器装着中のがん患者における段階的早期離床プロトコルの有効性の検討—患者が参画でき安全・安楽に取り組めた1例—. 第31回日本がん看護学会学術集会,2017,(高知),[口演]
- 014 吉川 恵, 吉田達哉, 大矢由子, 山田知里, 永田智子: 進行肺癌患者の就労を阻害する要因と支援の検討(第一報). 第31回日本がん看護学会学術集会,2017,(高知),[ポスター]
- 015 中山衣代: 内視鏡看護師の時間外勤務削減への取り組み～変則勤務を導入して～. 第28回愛知県消化器内視鏡技師懇話会,2017,(愛知),[口演]
- 016 安形真由美, 小森康司, 小島 瞳, 佐々木照美, 伊藤理恵: 器具選択に難渋した空腸ストーマ造設症例について. 第34回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会,2017,(愛知),[ポスター]
- 017 岩井美世子, 桑原恵美, 水野未貴, 加藤千春, 山下由紀穂, 青山寿昭: 舌部分切除術を受けた患者の術後日数による食形態の変化.第31回日本がん看護学会,2017,(高知),[ポスター]
- 018 堀田枝里, 小原真紀子, 高畑知帆子: Grade 2以上のレゴラフェニブ手足症候群の危険因子の検討. 第31回日本がん看護学会学術集会,2017,(高知),[示説]
- 019 佐々木照美, 安形真由美, 小島 瞳, 井上さよ子, 小森康司: ベバシズマブによりストーマ粘膜に潰瘍を生じた一例. 第34回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 2017,(愛知),[ポスター]
- [講演講師]
- 001 亀島里美: 病院における認定看護師の役割, 愛知県立大学看護師教育課程,2016,(愛知),[講師]
- 002 翠邦 治: 看護管理, 愛知県看護教員養成講習会,2016,(愛知),[講師]
- 003 翠邦 治: 人材育成論「人事育成の基礎知識」, 愛知県認定看護管理者研修ファーストレベル,2016,(愛知),[講師]
- 004 小原真紀子: 外来化学療法における副作用マネジメント～経口抗がん剤治療患者の介入の実際～, 第23回東北臨床腫瘍セミナー,2016,(宮城),[講演]
- 005 小原真紀子: 外来化学療法における副作用マネジメント～愛知県がんセンターでの取り組み～, 消化器外科オンコロジーセミナー,2016,(愛知),[講演]
- 006 小原真紀子: 皮膚障害の発現を押さえるための取り組み～外来化学療法センターでのマネジメント～, Team Management Seminar,2016,(愛知),[講演]
- 007 小原真紀子: 肺癌治療におけるEGFR-TKI治療の副作用マネジメント, 大分適正使用セミナー,2016,(大分),[講演]
- 008 小原真紀子: 免疫チェックポイント阻害薬投与管理の実際, 大鵬薬品工業社員研修,2016,(愛知),[講師]
- 009 小原真紀子: 患者サポート体制, がん看護ジェネラリスト研修公開講座,2016,(愛知),[講師]
- 010 小原真紀子: 消化器癌化学療法の副作用マネジメント～FOLFIRI+Bevacizumabを例～, 第19回医系薬業連携研究会,2016,(愛知),[座長]
- 011 日置みさき: がん治療における意思決定支援の重要性と退院支援における看護師の役割, 労働衛生講習会,2016,(愛知),[講師]
- 012 宮谷美智子: 日本の院内でのアピランスサポートの取り組み, アピランスサポートセミナーあいち,2016,(愛知),[講師]
- 013 中山衣代: 内視鏡検査・治療の看護, 愛知県立大学,2016,(愛知),[講師]
- 014 青山寿昭: 覚醒が悪い患者への対応, 症例から学ぶ摂食嚥下障害, 2016,(神奈川・京都),[講師]
- 015 青山寿昭: 気管切開されている患者への対応, 症例から学ぶ摂食嚥下障害,2016,(神奈川・京都),[講師]
- 016 青山寿昭: コミュニティにおける摂食嚥下の支援～これまでの進化と今後の展望～, 渡部商事セミナー,2016,(神奈川),[講師]
- 017 青山寿昭: 摂食・嚥下障害看護認定看護師これまでの10年とこれから, 日本摂食嚥下障害看護研究会,2016,(愛知),[講師]
- 018 青山寿昭: 摂食嚥下の基礎, 名古屋市介護施設看護職員研修会,2017,(愛知),[講師]
- 019 小島 瞳: 予防的スキンケア, 尾張三河地区在宅研修会,2016,(愛知),[講師]
- 020 小島 瞳: 抗がん剤治療がストーマケアに及ぼす影響, 第28回東海ストーマリハビリテーション講習会,2016,(愛知),[講師]
- 021 小島 瞳: 褥瘡ケアについて, 南生協病院NST/褥瘡に関するスキルアップ座,2016,(愛知),[講師]
- 022 中島貴子: がん性疼痛に対する放射線療法と看護, 愛知県立大学がん性疼痛看護認定看護師教育課程,2016,(愛知),[講師]
- 023 中島貴子: 放射線療法における看護, 小牧市民病院,2016,(愛知),[講師]
- 024 土屋大樹: 感染対策について, 看護職復職支援交流会, 2016,(愛知),[講師]



- 025 向井未年子：コンサルテーション論，日赤豊田看護大学大学院,2016,(愛知),[講師]
- 026 向井未年子：緩和ケアについて理解しよう！，春和会もくれんクリニック,2016,(愛知),[講師]
- 027 向井未年子：臨床倫理への取り組みと実践に向けて，足助病院,2017,(愛知),[講師]
- 028 向井未年子：講義Ⅱ「がん」，あいち医療通訳システムフォローアップ研修,2017,(愛知),[講師]
- 029 吉川 恵：看護研究における倫理(応用編)看護研究倫理審査の実際，愛知県看護協会,2016,(愛知),[講師]
- 030 吉川 恵：がんリハビリの看護，東海オンコロジー応用セミナー,2016,(愛知),[講師]
- 031 吉川 恵：がん看護専門看護師による緩和ケア勉強会(入門・基礎・応用)，医療法人陽明会まごころの社訪問看護ステーション,2017,(愛知),[講師]
- 032 岩井美世子：臨床における教育・指導，愛知県立大学認定看護師教育課程がん性疼痛看護分野,2016,(愛知),[講師]
- 033 岩井美世子：がん看護(専門看護師)の役割と活動，愛知医科大学看護学部,2016,(愛知),[講師]
- 034 岩井美世子：看護外来の実際，愛知県立大学看護学部,2016,(愛知),[講師]
- 035 岩井美世子：がん診療拠点病院におけるCNSの取り組み，緩和ケアスタッフ人材育成セミナー,2016,(愛知),[講師]
- 036 岩井美世子：頭頸部がん患者への就労支援，がん就労を考える会,2016,(愛知),[講師]
- 037 山田健司：手術室における看護について，愛知県立大学,2016,(愛知),[講師]
- 038 柴田亜弥子：がんの親を持つ子どものケア～臨床での事例を通して考える～，第21回日本緩和医療学会学術集会,2016,(京都),[シンポジスト]
- 039 柴田亜弥子：がん診療連携拠点病院におけるがん患者サロンの現状，第1回緩和ケアスタッフ人材育成セミナー,2016,(愛知),[講師]
- 040 新田都子：骨転移のある患者さんのケアのコツ、血液がんの治療を考える会,2016,(三重),[講師]
- 041 新田都子：痛みのアセスメントと看護ケアについて，名古屋医専,2016,(愛知),[講師]
- 042 新田都子：がん性疼痛がある患者の看護、豊橋Nurse Skill Up Seminar,2016,(愛知),[講師]
- 043 新田都子：がん看護総論 演習 がん性疼痛を有する患者のアセスメントと計画立案，愛知県立大学認定看護師教育課程,2016,(愛知),[講師]
- 044 新田都子：がん看護総論 がん医療チームにおける看護の役割，愛知県立大学認定看護師教育課程,2016,(愛知),[講師]
- 045 八重樫 裕：認知症患者さんの食支援を考える，七宝病院,2016,(愛知),[講師]
- 046 美濃屋亜矢子：「初心者向け」緩和ケア研修会，西尾市民病院,2016,(愛知),[講師]
- 047 井上さよ子：在宅医療病態論，愛知県看護協会訪問看護認定看護師教育課程,2016,(愛知),[講師]
- 048 井上さよ子：看護倫理研修，愛知県心身障害コロニー,2016,(愛知),[講師]
- 049 久保 知：頭頸部癌のアービタックス併用放射線療法の当院での副作用管理，頭頸部がんWebコンテンツ,2016,(東京),[講師]
- 050 久保 知：当院における粘膜炎対策，頭頸部がん化学療法副作用対策セミナー,2016,(愛知),[講師]
- 051 久保 知：支持療法，第18回放射線腫瘍学夏季セミナー,2016,(愛知),[講師]
- 052 久保 知：頭頸部がんの放射線治療に伴う急性有害事象の患者ケア，東海がんプロフェッショナル養成推進プラン 放射線治療セミナー,2016,(愛知),[講師]
- 053 高木礼子：「乳がんをもっと知ろう」あなたの生活を守ります，愛知県がんセンター第1回公開講座,2016,(愛知),[講師]
- 054 濱口由美子：患者入力型タブレット端末によるベッドサイドシステムの看護業務効率化と展望，第172回医療情報システム研究会,2017,(大阪),[講師]
- 055 永田智子：がん性疼痛緩和における非薬物的アプローチ，愛知県看護大学がん性疼痛看護認定看護師教育課程,2017,(愛知),[講師]
- 056 藤下 礼：緩和ケアについて，名古屋医専,2016,(愛知),[講師]

#### 薬剤部

- 001 橋本直弥，長谷川彩子，立松三千子，脇岡 範，岩田修一：消化器症状、血管炎を中心としたストレプトゾトシン投与における副作用マネジメント。日本癌治療学会学術集会,2016,(神奈川),[ポスター]
- 002 徳永素子，立松三千子，松崎雅英，井上さよ子，新田都子，向井未年子，下山理史，小森康永：タベンタドール徐放錠へのオピオイドスイッチングの現状調査。日本緩和医療薬学会年会,2016,(静岡),[口演]
- 003 前田章光：レゴラフェニブの肝障害に及ぼすSLCO1B1とABCG2遺伝子多型の影響。日本臨床薬理学会,2016,(鳥取),[口演]
- 004 前田章光：JSCPT認定薬剤師としての活動(2)。日本臨床薬理学会,2016,(鳥取),[シンポジウム]
- 005 下村一景：EGFR遺伝子変異陽性NSCLC患者におけるアファチニブによる有害事象の発現頻度の推移。第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[ミニシンポジウム]
- 006 下村一景：再発小細胞肺癌患者に対する塩酸アムルピシン+ペグフィルグラスチム併用療法の骨髄抑制へ与える影響。第57回日本肺癌学会学術集会,2016,(福岡),[ポスター]
- 007 立松三千子：病院薬剤師がつなぐ医看薬連携。第10回日本緩和医療薬学会年会,2016,(浜松),[口演]
- 008 立松三千子：医療現場で薬剤師が目指すべきもの～その先に患者さんの笑顔がある～。第10回日本緩和医療薬学会年会,2016,(浜松),[オーガナイザー・座長]
- 009 立松三千子：ひと声かけることから始まる緩和ケア～患者さんの“つらい”を見逃ごさないために～。第21回日本緩和医療学会学術大会,2016,(京都),[口演]
- 010 立松三千子，佐藤由美，金田典雄，岩田広治：がんプロの

- 取り組み～診察室で薬剤師が医師から学んだこと～. 第54  
回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[ポスター]
- 011 立松三千子：がん患者さんのために薬剤師だからできるこ  
と～あなたのひとことが患者さんを笑顔にする～. 第10回  
日本薬局学会学術総会,2016,(京都),[デザートセミナー]
- 012 立松三千子：明日からチャレンジ！臨床現場の疑問を研究  
に！. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会,2017,(新潟),[オーガナ  
イザー・座長]
- 013 立松三千子：チームでサポートCINV～患者さんの“つら  
い”を見過ごさないために～. 薬剤師のためのCINV勉強会,  
2016,(広島),[講演]
- 014 立松三千子：薬剤師がつなぐチーム医療の輪～患者さんの  
“つらい”を見過ごさないために～. 第157回岐阜県病院薬  
剤師会東濃ブロック研修会,2016,(岐阜),[講演]

### 3. 学会等における研究発表テーマ調べ (研究所)

#### 疫学・予防部

- 001 *Ito H, Oze I, Hosono S, Watanabe M, Tanaka H, Matsuo* : Risk prediction for stomach cancer using helicobacter pylori infection and atrophic gastritis, fruits and vegetables, smoking and GWAS-identified genetic polymorphism (PSCA-rs2294008) in a Japanese population. American Association for Cancer Research ANNUAL MEETING 2016,2016,(NEW ORLEANS)[ポスター(示説)]
- 002 *Nakagawa H, Ito H, Hosono S, Oze I, Mikami H, Hattori M, Nishino Y, Sgiyama H, Nakata K, Tanaka H* : Changes in trends in colorectal cancer incidence rate by anatomicsite between 1978 and 2004 in Japan. American Association for Cancer Research ANNUAL MEETING 2016,2016,(NEW ORLEANS)[ポスター(示説)]
- 003 *Oze I, Nakagawa H, Shimada S, Akiyama Y, Yatabe Y, Ito H, Tanaka H, Matsuo K, Yuasa Y* : Plasma miR-103, miR-107, and miR-194 levels are not associated with human diffuse Gastric cancer. 26th Seoul International Cancer Symposium,2016,(韓国)[口演]
- 004 *Nakagawa H, Ito H, Hosono S, Oze I, Mikami H, Hattori M, Nisinio Y, Sugiyama H, Nakata K, Tanaka H* : Changing trends in colorectal cancer incidence by anatomic site in Japan from 1978 to 2004, The 38th Annual IACR conference,2016(Marrakech)[口演]
- 005 山口通代, 伊藤秀美, 中川弘子, 小井手佳代子, 近藤良伸, 田中英夫 : 愛知県の二次医療圏別主要部位がんの生存率較差-進行度分布による検討, 一地域がん登録全国協議会第25回学術集会,2016,(金沢)[ポスター(示説)]
- 006 中川弘子, 伊藤秀美, 松田智大, 山口通代, 小井手佳代子, 近藤良伸, 田中英夫 : 愛知県における2012年のがん有病数の推計,2016,(金沢)[ポスター(示説)]
- 007 尾瀬 功, 細野覚代, 渡邊美貴, 伊藤秀美, 松尾恵太郎, 伊藤誠二, 田中 努, 田中英夫 : 愛知がんセンター胃がん、大腸がんサバイバーコホート研究, がん予防学術大会2016名古屋,2016,(名古屋)[ポスター(示説)]
- 008 中川弘子, 伊藤秀美, 松田智大, 山口通代, 小井手佳代子, 近藤良伸, 田中英夫 : 愛知県における2012年の肝がん5年有病数の推計, がん予防学術大会2016名古屋,2016,(名古屋)[ポスター(示説)]
- 009 伊藤秀美 : 増える乳がん、予防と早期発見, 平成28年度愛知県がんセンター公開講座講演「乳がんをもっと知ろう」, 2016,(名古屋)[招請講演(教育講演)]
- 010 伊藤秀美 : Molecular epidemiology and risk prediction using genomic information in cancer, 名古屋大学大学院医学系研究科平成28年度特徴あるプログラムキャンサーサイエンスコース,2016,(名古屋)[招請講演(教育講演)]
- 011 尾瀬 功 : 公開シンポジウム「融合を問う: 学問の消滅と生成の系譜学から」・若手科学者サミット,2016,(東京)[ポスター(示説)]
- 012 中川弘子, 伊藤秀美, 松田智大, 田中英夫 : 愛知県における2012年のがん有病数の推計, 第75回日本癌学会学術総会, 2016,(横浜)[ポスター(示説)]
- 013 細野覚代, 松尾恵太郎 : 卵巣がんリスクと飲酒、ALDH遺伝子多型との関連 : アジア人のプール解析結果, 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜)[口演]
- 014 山口通代, 伊藤秀美, 中川弘子, 近藤良伸, 田中英夫 : 愛知県における医療の均てん化と早期診断によるがん5年相対生存率改善度の試算, 第75回日本公衆衛生学会総会, 2016,(大阪)[ポスター(示説)]
- 015 森島泰雄, 東 史啓, 柏瀬貢一, 折原 武, 峯元睦子, 矢部普正, 加藤俊一, 加藤剛二, 松本加代子, 甲斐俊朗, 森鉄男, 高橋美乃子, 佐竹正博, 屋部登志雄 : HLA ホモ接合体さい帯血が生着に与える影響 : iPS細胞バンク・移植のモデルになり得るか, 第39回日本造血細胞移植学会総会, 2017,(鳥根)[口演]
- 016 尾瀬 功, 細野覚代, 渡邊美貴, 伊藤秀美, 田中英夫 : がん長期生存者の喫煙率の変化, 第27回日本疫学会学術総会, 2017,(山梨)[ポスター(示説)]
- 017 中川弘子, 伊藤秀美, 松田智大, 田中英夫 : 地域がん登録データを用いた結腸がん原発部位別の生命予後の分析, 第27回日本疫学会学術総会,2017,(山梨)[ポスター(示説)]

#### 分子腫瘍学部

- 001 *Sekido Y* : Constitutive YAP activation induces malignant phenotypes of immortalized mesothelial cells. iMig,2016, (Birmingham)[講演]
- 002 *Tanaka K, Kato T, Matsushita A, Furuta H, Murakami Y, Osada H, Sekido Y* : Statin inhibits malignant mesothelioma cell growth by inactivating YAP1. AACR 107th Annual Meeting,2016,(New Orleans), [ポスター]
- 003 *Murakami Y* : SGO1 is involved in DNA damage response in MYCN amplified neuroblastoma cells. Gordon Research Conference. genomic instability,2016,(香港)[ポスター]
- 004 *Wang S, Jiang L, Han Y, Chew HS, Ohara Y, Akatsuka S, Weng L, Kawaguchi K, Fukui T, Sekido Y, Yokoi K, Toyokuni S* : Urokinase-type plasminogen activator receptor increases proliferation, invasion and reduces cisplatin sensitivity in malignant mesothelioma. 第7回JMIG研究会,2016,(名古屋)[講演]
- 005 *Ohta C, Sasakura T, Okuzaki D, Fukushima K, Mukai S, Yabuta N, Nojima H* : TAp63 phosphorylated by GAK specifically induces LCE1C expression. 第39回日本分子生物学会年会,2016,(横浜)[ポスター]



- 006 *Mukai S, Yabuta N, Tanino M, Sekido Y, Tanaka S, Nojima H* : LATS 1 suppresses E-cadherin expression through phosphorylation of its transcription regulators in invasive breast cancer. 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜),[口演]
- 007 *Murakami Y* : The relationship between DNA damage response and MYCN amplification in neuroblastoma cells. 名古屋グローバルリトリート,2017,(大府),[招待講演]
- 008 *Kato T* : E-cadherin expression correlates with the resistance to focal adhesion kinase inhibitor in Merlin-negative malignant mesothelioma cells. 名古屋グローバルリトリート,2017,(大府),[ポスター]
- 009 *Matsushita A* : Transcriptional co-activator TAZ which is regulated by Hippo signaling pathway enhances malignant phenotypes of mesothelioma cells. 名古屋グローバルリトリート,2017,(大府),[ポスター]
- 010 *Yamagishi R* : Screening of synthetic lethal gene to causative gene of mesothelioma. 名古屋グローバルリトリート,2017,(大府),[ポスター]
- 011 村上優子 : MYCN増幅型神経芽腫細胞においてSGO1はDNA損傷応答に関与する. 第20回日本がん分子標的治療学会学術総会,2016,(別府),[ポスター]
- 012 堀田昂志, 山岸良多, 細田直, 星野真一 : 脊髄小脳変性症の原因因子Ataxin-2によるストレス顆粒形成のメカニズム. 第62回日本薬学会東海支部総会・大会,2016,(名古屋),[口演]
- 013 古館和也, 山岸良多, 星野真一 : 統合失調症関連因子QKI-7はp27kip1 mRNAのポリA鎖伸長を制御する. 第62回日本薬学会東海支部総会・大会,2016,(名古屋),[口演]
- 014 関戸好孝 : 悪性中皮腫における遺伝子異常. 第7回JMIG研究会,2016,(名古屋),[教育講演]
- 015 加藤毅人, 長田啓隆, 佐藤龍洋, 山岸良多, 松下明弘, 向井智美, 村上優子, 関戸好孝 : 悪性中皮腫細胞株に対するVS-4718の治療効果に関連するバイオマーカーについての研究. 第7回JMIG研究会,2016,(名古屋),[口演]
- 016 佐藤龍洋 : 中皮腫におけるTORの解析. 第6回TOR研究会,2016,(東京),[講演]
- 017 佐藤龍洋 : SmgGDSによるmTORC1活性化がん細胞の調節. 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜),[ポスター]
- 018 山岸良多, 村上優子, 関戸好孝, 星野真一 : STARファミリー蛋白質QKIによるポリA鎖伸長を介した遺伝子発現の転写後調節機構. 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜),[口演]
- 019 竹下純平, 関戸好孝, 油谷浩幸 : 悪性胸膜中皮腫の分子プロファイル. 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜),[ポスター]
- 020 長田啓隆, 関戸好孝 : 肺癌発症におけるASH1シグナル下流のLncRNAの役割の検討. 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜),[口演]
- 021 田中広祐, 長田啓隆, 村上(渡並)優子, 堀尾芳嗣, 樋田豊明, 関戸好孝 : 悪性中皮腫においてHippo伝達経路の共役転写因子YAPがCD44の発現を制御し、これらはスタチンによって阻害される. 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜),[口演]
- 022 関戸好孝 : 中皮腫発生に関わる遺伝子学的アプローチ. 一中皮腫シンポジウム—悪性胸膜中皮腫の診断/治療の最前線,2016,(兵庫),[口演]
- 023 穴戸裕子, 藤川遥加, 木村康明, 友池史明, 桑田啓子, 矢野貴人, 福井健二, 関戸好孝, 村上優子, 周東智, 阿部洋 : 共有結合型グルタチオンS-転移酵素阻害剤の創薬研究. 第32回メディシナルケミストリーシンポジウム,2016,(つくば),[ポスター]
- 024 村上優子 : MYCN増幅型神経芽腫細胞においてSGO1はDNA損傷応答に関与する. 第39回日本分子生物学会年会,2016,(横浜),[ポスター]
- 025 村上優子 : MYCN増幅型神経芽腫細胞においてSGO1はDNA損傷応答に関与する. 先進ゲノム支援国際シンポジウム,2017,(東京),[ポスター]
- 026 穴戸裕子, 藤川遥加, 木村康明, 友池史明, 桑田啓子, 矢野貴人, 福井健二, 関戸好孝, 村上優子, 周東智, 阿部洋 : 共有結合型グルタチオンS-転移酵素阻害剤の創薬研究. 日本薬学会,2017,(つくば),[口演]

#### 遺伝子医療研究部

- 001 *Ugai T, Milne R, Ito H, Matsuo K* : A genetic polymorphism of ALDH2 and breast cancer risk: an analysis of 6624 case and 5750 controls from the Breast Cancer Association Consortium. AACR Annual Meeting 2016,2016,(New Orleans),[一般口演]
- 002 *Inoue S, Hosono S, Ito H, Oze I, Nishino Y, Hattori M, Ioka A, Nakayama T, Matsuo K, Mizuno M, Kato K, Tanaka H, Ito Y* : Trends in a survival of cancer of the coupus uteri in Japan 1993-2006 (J-CANSIS). AACR Annual Meeting 2016,2016,(New Orleans),[一般口演]
- 003 *Kakiuchi T* : Modeling Mesothelioma initiation thorough disruption of the Hippo oathway revealed involvement of PLCB4 in YAP-driven mesothelioma cell proliferation. AACR Annual Meeting 2016,2016,(New Orleans),[ポスター]
- 004 *Toyooka S, Okumura N, Nakamura H, Nakata M, Yamashita M, Hirohito T, Shinsuke K, Watanabe N, Okada M, Matsuo K, Aoe M, Hotta K, Sakamoto J, Miyoshi S, Date H, Setouchi Lung Cancer Study Group* : A multi-center phase III study of carboplatin/paclitaxel versus oral uracil-tegafur as the adjuvant chemotherapy in resected non-small cell lung cancer. American Society of Clinical Oncology 2016,2016,(Chicago),[ポスター]
- 005 *Inoue S, Hosono S, Ito H, Oze I, Nishino Y, etc* : Clinical features and survival of Japanese elderly women with gynecologic cancer in 1993-2006. 第58回日本婦人科腫瘍学会学術講演会,2016,(米子),[一般口演]

- 006 *Masaoka H, Ito H, Soga N, Yokomizo A, Eto M, Matsuo K* : Aldehyde dehydrogenase 2 (ALDH 2) and alcohol dehydrogenase 1B (ALDH 1B) polymorphisms exacerbate bladder cancer risk associated with alcohol drinking: Gene-environment interaction. 24th Biennial Congress of the European Association for Cancer Research,2016,(Manchester),[一般口演]
- 007 *Matsuo K, koyanagi Y, Ito H* : Development of prediction model and estimation of cumulative risk for upper aerodigestive tract cancer based on aldehyde dehydrogenase 2 (ALDH 2) genotype and alcohol consumption in a Japanese population. 24th Biennial Congress of the European Association for Cancer Research,2016,(Manchester),[一般口演]
- 008 *Aoki K, Suzuki H, Matsuo K, Kataoka K, Shimamura T, Nagata Y, Yoshizato T, Sanada M, Miyano S, Wakabayashi T, Ogawa S, Natsume A* : Prognostic implications of genetic alterations from comprehensive genetic profiling in lower-grade gliomas. 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜),[一般口演]
- 009 *Kuwahara K, Ito H, Kotani H, Tsunoda N, Kuzushima K, Iwata H, Nagino M, Tanaka H, Matsuo K* : Identification of gap SNPs affecting both the development and malignant progression in human sporadic breast cancer. 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜),[一般口演]
- 010 *Matsuo K* : Alcohol and Cancer Risk. 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜),[一般口演]
- 011 *Yasuda T, Tsuzuki S, Kawazu M, Hayakawa F, Kojima S, Ueno T, Kiyoi H, Naoe T, Mano H* : Comprehensive fusion gene analysis of acute lymphoblastic leukemia of adolescents and young adults. 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜),[一般口演]
- 012 *Ito H, Oze I, Hosono S, Watanabe M, Tanaka H, Matsuo K* : Risk Prediction for gastric cancer using the PSCA-rs2294008, H.pylori infection and lifestyle-related risk factor. 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜),[一般口演]
- 013 *Hosono S, Matsuo K* : Association between Ovarian cancer risk and a polymorphism in ALDH 2 and alcohol intake: a pooled analysis in Asian. 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜),[一般口演]
- 014 *Morishima S, Shiina T, Ogawa S, Suzuki S, Sato-Otsubo S, Kashiwase K, Azuma F, Yabe T, Matsuo K, Saji H, Kato S, Kodera Y, Sasazuki T, Morishima Y* : Evolutionary basis of HLA alleles affects acute GVHD in unrelated donor stem cell transplantation. 第78回日本血液学会学術集会,2016,(横浜),[一般口演]
- 015 *Uchino K, Matsuo K, Onizuka M, Kashiwase K, Morishima Y, Fukuda T, Kodera Y, Miyamura K, Mori T, Takami A* : Toll-like receptor genetic variations in bone marrow transplantation. 第78回日本血液学会学術集会,2016,(横浜),[ポスター]
- 016 *Yoshizato T, Shiozawa Y, Yoshida K, Atsuta Y, Nannya Y, Suzuki H, Matsuo K, Onizuka M, Kataoka K, Chiba K, Tanaka H, ShiraiShi Y, Aoki K, Sanada M, Itonaga H, Kanda Y, Miyazaki Y, Makishima H, Miyano S, Ogawa S* : Impact of somatic mutations on outcome in patients with MDS after Stem-cell transplantation. 第78回日本血液学会学術集会,2016,(横浜),[一般口演]
- 017 *Takenaka K, Shimoda K, Uchida N, Shimomura T, Nagafuji K, Kondo T, Shibayama H, Dairaku H, Kitanaka A, Matsuo K, Ozawa K, Kurokawa m, Arai S, Akashi K* : Clinical outcome of patients with primary myelofibrosis: a nationwide survey in Japan. 第78回日本血液学会学術集会,2016,(横浜),[一般口演]
- 018 *Ugai T, Morishima Y, Matsuo K* : ALDH 2 genotype has a significant impact on TRM after HLA-matched unrelated bone marrow transplant. 第78回日本血液学会学術集会,2016,(横浜),[一般口演]
- 019 *Kotani H, Ito H, Kuwahara K, Kuzushima K, Iwata H, Tsunoda B, Nagino M, Tanaka H, Matsuo K* : Impact of germinalcenter-associated nuclear protein polymorphisms on breast cancer risk and prognosis in a Japanese population. San antonio Breast Cancer Sinposium,2016,(San Antonio),[ポスター]
- 020 *Ugai T, Matsuo K, Morishima Y* : ALDH 2 Polymorphism Has a Significant Impact on Transplant Related Mortality after HLA-Matched Bone Marrow Transplantation. ASH Annual Meeting 2016,2016,(San Diego),[一般口演]
- 021 松尾恵太郎 : 遺伝子環境要因交互作用は遺伝情報を用いたがん予防を考える上で必須か? . がん予防学術大会,2016,(名古屋),[口演]
- 022 正岡寛之, 伊藤秀美, 曾我倫久人, 細野覚代, 尾瀬 功, 渡辺美貴, 田中英雄, 横溝 晃, 江藤正俊, 松尾恵太郎 : アルデヒド脱水素酵素 2 (ALDH 2) とアルコール脱水素酵素 1 B (ADH 1 B) 遺伝子多型は飲酒による膀胱がんリスクを上昇させる. がん予防学術大会,2016,(名古屋),[口演]
- 023 尾瀬 功, 細野覚代, 渡辺美貴, 伊藤秀美, 松尾恵太郎, 伊藤誠二, 田中 努, 田中英夫 : 愛知県がんセンター胃がん・大腸がんサバイバーコホート研究. がん予防学術大会, 2016,(名古屋),[ポスター]
- 024 松尾恵太郎 : 愛知県がんセンター病院疫学研究(HEPACC). 第2回クニカルバイオバンク研究会シンポジウム,2016,(札幌),[セッション]
- 025 松尾恵太郎 : がんリスクを推測する一遺伝情報を交えた個別化予防. 第54回日本癌治療学会学術集会,2016,(横浜),[招請口演]
- 026 正岡寛之, 伊藤秀美, 渡辺美貴, 松尾恵太郎 : アルコール代謝酵素関連遺伝子が喫煙開始に与える影響. 第27回日本疫学会学術総会,2017,(甲府),[ポスター]
- 027 細野覚代, 渡辺美貴, 尾瀬 功, 伊藤秀美, 松尾恵太郎,

田中英夫：乳がん個別実用化への試み〜リスク予測に対する認知と行動変容に関する追跡調査. 第27回日本疫学会学術総会,2017,(甲府),[ポスター]

- 028 高地リベカ, 井上真奈美, 菅原由美, 辻 一郎, 津金昌一郎, 伊藤秀美, 松尾恵太郎, 田中恵太郎, 玉腰暁子, 溝上哲也, 若井健志, 永田知里, 笹月 静: 野菜・果実摂取と全がん罹患率との関係: 日本人における大規模コホートのプール解析. 第27回日本疫学会学術総会,2017,(甲府),[ポスター]
- 029 渡邊美貴, 細野覚代, 吉村章代, 伊藤秀美, 尾瀬 功, 松尾恵太郎, 田中英夫: 多因子疾患リスクの情報提供コンテンツ制作プロセスの報告〜科学コミュニケーション的視点から〜. 第27回日本疫学会学術総会,2017,(甲府),[ポスター]
- 030 鶴飼知嵩, 松尾恵太郎, 澤田典絵, 岩崎 基, 山地太樹, 島津太一, 笹月 静, 井上真奈美, 津金昌一郎: 喫煙と白血病罹患との関連: 多目的コホート研究. 第27回日本疫学会学術総会,2017,(甲府),[一般口演]
- 031 藤澤 信, 鶴飼知嵩, 大橋一輝, 小澤幸泰, 福田隆浩, 内田直之, 金森平和, 一戸辰夫, 田中淳司, 熱田由子, 水田秀一: 寛明期で造血肝細胞移植を施工された成人フィラデルフィア染色体陰性急性リンパ性白血病におけるgraft-versus-host-disease-free, relapse-free survival(GRFS)の検討〜JSHCT成人ALLWG研究. 第39回日本造血細胞移植学会総会,2017,(島根),[一般口演]

#### 腫瘍免疫学部

- 001 *Kuwahara K, Ito H, Kuzushima K, Iwata H, Tanaka H, Matsuo K*: Molecular Epidemiological Studies Of Germinal Center-Associated Nuclear Protein (GANP) In the Development Of Sporadic Breast Cancers. AACR Annual Meeting 2016,2016,(New Orleans, USA),[ポスター]
- 002 *Imai M, Odanaka M, Takayama S, Ohta R, Yamazaki S*: The complement anaphylatoxin C5adesArg still induce the acute inflammatory response. The XXVI International Complement Workshop,2016,(Kanazawa),[ポスター]
- 003 *Imai M, Odanaka M, Takayama S, Ohta R, Yamazaki S*: The complement anaphylatoxin C5adesArg still induce the acute inflammatory response. The Cold Spring Harbor Asia conference on Frontiers of Immunology in Health & Disease,2016,(Awaji),[ポスター]
- 004 *Rezano A, Gondo N, Kuwahara K*: Development Of dss1 Si-RNA-Based Therapy For Sporadic Breast Cancers. BIBMC 2016,2016,(Bandung, Indonesia),[口演]
- 005 *Tanimoto K, Fujiwara K, Tawara I, Masuya M, Kageyama S, Nishida T, Murata M, Terakura S, Akatsuka Y, Ikeda H, Miyahara Y, Nukaya I, Takesako K, Emi N, Katayama N, Shiku H, Yasukawa M*: Phase 1 Clinical Trial of Adoptive Immunotherapy for Acute Myelogenous Leukemia and

Myelodysplastic Syndrome, Using Gene-Modified Autologous Lymphocytes Expressing WT 1-Specific T-Cell Receptor. The 58th ASH Annual meeting,2016,(San Diego, USA),[口演].

- 006 *Ohta R, Imai M, Kuwahara K, Teizo F, Okada H, Kuzushima K*: Enhancement of Complement-Dependent Mechanisms of Tumor Cell Lysis by Targeted Bispecific Antibodies. 第45回日本免疫学会学術集會,2016,(宜野湾),[ポスター]
- 007 桑原一彦, 黒瀬 颯, 近藤英作: 奇形腫自然発症モデルマウスの作製. 第105回日本病理学会総会,2016,(仙台),[口演]
- 008 桑原一彦, 近藤英作: 乳癌細胞においてTREG 2 複合体構成分子は薬剤感受性誘導の標的となる. 第20回日本がん分子標的治療学会学術集會,2016,(別府),[ポスター]
- 009 川瀬孝和, 坂本 葵, 樗木 鍊, 美山貴彦, 柴田真志, 田中清人, 北浦一孝, 大島久美, 浜名 洋, 岸 裕幸, 葛島清隆, 佐治博夫, 鈴木隆二, 一戸辰夫: 次世代シークエンサーとsingle cell sortingを用いた同種抗原反応性T細胞の網羅的解析. 第20回日本がん免疫学会総会,2016,(大阪),[口演]
- 010 赤塚美樹: Basics and development of CAR-T cell therapy and its clinical applications. 第14回日本臨床腫瘍学会総会, 2016,(神戸),[教育講演]
- 011 赤塚美樹, 白石圭子, 楯屋良子, 岡村文子, 太田里永子, 藤原 弘, 葛島清隆, 恵美宣彦: 遺伝子導入TCR/CARへの刺激でインターフェロン $\gamma$ を産生する人工T細胞株の作成. 第8回血液疾患免疫療法学会,2016,(札幌市),[ポスター].
- 012 岡村文子, 赤塚美樹, 葛島清隆: がん細胞では異常なTAP分子によりエピトープを提示する. 第8回血液疾患免疫療法研究会学術集會,2016,(札幌),[口演]
- 013 谷本一史, 藤原 弘, 越智俊元, 東 太地, 竹内一人, 葛島清隆, 安川正貴: 治療抵抗性急性骨髄性白血病に対するAurora Kinase Aペプチドワクチン療法第I/II相臨床試験. 第8回血液疾患免疫療法研究会学術集會,2016,(札幌),[口演]
- 014 上田格弘, 植村靖史, 張 エイ, 喜多山秀一, 安井 裕, 巽 美奈子, 劉 天懿, 葛島清隆, 清井 仁, 金子 新: CD4 遺伝子導入したiPS細胞由来BCR-ABL特異的T細胞はDCを介した白血病特異的CTLを誘導する. 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜),[ポスター]
- 015 喜多山秀一, 張 エイ, 入口翔一, 岩間達章, 溝曾路祥孝, 渡辺 亮, 葛島清隆, 植村靖史, 金子 新: アジュバント効果並びに細胞傷害能を有するヒトiPS細胞由来iNKT細胞の再分化誘導. 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜),[ポスター]
- 016 桑原一彦, 伊藤秀美, 小谷はるる, 角田伸行, 葛島清隆, 岩田広治, 柳野正人, 田中英夫, 松尾恵太郎: 非遺伝性散发性乳癌の発症と悪性進展に影響を与えるganp遺伝子多型の同定. 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜),[口演]
- 017 谷本一史, 藤原 弘, 越智俊元, 東 太地, 竹内一人, 葛島清隆, 安川正貴: 治療抵抗性急性骨髄性白血病に対するAurora Kinaseペプチドワクチン療法. 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜),[口演]
- 018 張 エイ, 上田格弘, 喜多山秀一, 安井 裕, 土屋伸広,



- 劉 天懿, 岩間達章, 葛島清隆, 中面哲也, 清井 仁, 金子 新, 植村靖史: ダサチニブによる急性GVHD治療の可能性. 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜),[ポスター]
- 019 赤塚美樹: 遺伝子改変T細胞療法の開発の歴史と将来. 第78回日本血液学会総会,2016,(横浜),[教育講演]
- 020 上田格弘, 植村靖史, 張 エイ, 喜多山秀一, 安井 裕, 巽 美奈子, 劉 天懿, 葛島清隆, 清井 仁, 金子 新: Generation of BCR-ABL reactive CD4 T lymphocytes by reprogramming and redifferentiation. 第78回日本血液学会学術集會,2016,(横浜),[口演]
- 021 美山貴彦, 川瀬孝和, 北浦一孝, 樗木 鍊, 柴田真志, 大島久美, 浜名 洋, 岸 裕幸, 葛島清隆, 佐治博夫, 鈴木隆二, 一戸辰夫: Stem cell memory T-cells are a reservoir of functional T-cells highly shared among individuals. 第78回日本血液学会学術集會,2016,(横浜),[口演]
- 022 美山貴彦, 田中清人, 柴田真志, 川瀬孝和, 樗木 鍊, 坂本 葵, 北浦一孝, 大島久美, 浜名 洋, 岸 裕幸, 葛島清隆, 田中秀則, 鈴木隆二, 一戸辰夫: サイトメガロウイルス反応性T細胞レパトワ形成に与えるHLA-A\*02の影響の次世代シーケンサーを用いた解析. 第25回日本組織適合性学会,2016,(札幌),[口演]
- 023 川瀬孝和, 坂本 葵, 樗木 鍊, 美山貴彦, 柴田真志, 田中清人, 北浦一孝, 大島久美, 浜名 洋, 岸 裕幸, 葛島清隆, 田中秀則, 鈴木隆二, 一戸辰夫: 次世代シーケンサーとsingle cell sortingを用いた同種抗原反応性T細胞の網羅的解析と高頻度クローンの同定. 第39回日本造血細胞移植学会総会,2017,(松江),[口演]

#### 感染腫瘍学部

- 001 栞原 敦, 小根山千歳: c-Srcによるエクソソームの制御. 第68回日本細胞生物学会大会,2016,(京都),[ポスター]
- 002 疋田智也, 栞原 敦, 小根山千歳: c-Srcによりがん化した細胞から分泌されるエクソソームの制御機構. 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜),[ポスター]
- 003 小根山千歳, 二宮悠一: c-Srcがんに初期でのmicroRNAの発現減少とがん抑制能. 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜),[ポスター]
- 004 小根山千歳: MicroRNA controls Src-induced tumor progression by regulating the focal adhesion-mediated signaling pathway. 第75回日本がん転移学会学術集會・総会,2016,(鳥取),[ポスター]
- 005 疋田智也, 栞原 敦, 小根山千歳: Srcによるエクソソーム形成制御機構の解析. 第38回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム,2016,(名古屋),[口演]
- 006 小根山千歳: 脂質ラフトを介したSrcの空間的制御とがん進展. 第38回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム,2016,(名古屋),[口演]
- 007 小根山千歳: Srcがんモデルによる治療標的microRNA探索. 平成28年度中部地区医療・バイオ系シーズ発表会,2016,(名古屋),[ポスター]

- 008 小根山千歳: Srcがんシグナル制御とがん進展. 岐阜大学連合創薬医療情報研究科特別セミナー,2016,(岐阜),[特別講演]
- 009 小根山千歳: Srcシグナルの制御破綻とがん進展. 金沢医科大学第23回腫瘍病理セミナー,2017,(金沢),[特別講演]
- 010 小根山千歳: Srcによるエクソソームの制御とがん進展. 岡山大学医歯薬総合研究科特別セミナー,2017,(岡山),[特別講演]

#### 分子病態学部

- 001 青木正博, 佐藤清俊, 曾我朋義, 小島 康: 大腸がん自然発症マウスモデルを用いた「がん悪液質」の代謝異常の研究. 第3回日本サルコペニア・悪液質・消耗性疾患研究会,2016,(鹿児島),[口演]
- 002 青木正博: shRNAライブラリーを用いたスクリーニングによる新規大腸がん転移抑制因子HNRNPLLの同定. 第20回日本分子標的治療学会学術集會,2016,(別府),[ワークショップ]
- 003 青木正博, 藤下晃章: MEK阻害剤trametinibによる間質を介した腸管腫瘍形成抑制およびmTOR阻害薬耐性の回避. 第68回日本細胞生物学会大会,2016,(京都),[シンポジウム]
- 004 青木正博, 佐久間圭一郎: Identification of HNRNPLL as a novel metastasis suppressor of colorectal cancer. 第41回内藤コンファレンス,2016,(札幌),[ポスター]
- 005 藤下晃章, 梶野リエ, 小島 康, 武藤 誠, 青木正博: がん微小環境は浸潤性腸がんのmTOR阻害薬抵抗性獲得に関与する. 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜),[口演]
- 006 佐久間圭一郎, 青木正博: 新規大腸がん転移抑制因子HNRNPLLによってスプライシングを受ける遺伝子の同定. 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜),[口演]
- 007 小島 康, 今度ゆりこ, 藤下晃章, 梶野リエ, 武藤 誠, 青木正博: II型脱ヨード酵素の大腸がん進展における役割. 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜),[ポスター]
- 008 梶野リエ, 藤下晃章, 武藤 誠, 青木正博: 腸管腫瘍形成におけるJNK-mTORC1経路活性化と神経伝達物質の関連の解明. 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜),[ポスター]
- 009 園下将大, 青木正博, 大島正伸, 武藤 誠: 大腸がん悪性化機序と予後診断法・治療薬の研究. 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜),[口演]
- 010 泥谷直樹, 塚本善之, 中田知里, 甲斐友喜, 松浦恵子, 猪俣雅史, 白尾國昭, 森 宣, 瀬戸加大, 青木正博, 武川陸寛, 守山正胤: DUSP4の発現低下は腺上皮内癌から浸潤癌への進展に関与する. 第75回日本癌学会学術総会,2016,(横浜),[ポスター]
- 011 梶野リエ, 青木正博: 大腸がんマウスモデルとオルガノイド培養を用いた腫瘍形成における低酸素シグナルの役割の解明. 第14回がんハイポキシア研究会,2016,(岐阜),[ポスター]
- 012 前田章光, 安藤 仁, 宇良 敬, 室 圭, 長谷川彩子, 松崎雅英, 小島 康, 青木正博, 小原真紀子, 水野靖也, 藤村昭夫: レゴラフェニブの肝障害に及ぼすSLC01B1と

ABCG2 遺伝子多型の影響. 第37回日本臨床薬理学会学術  
総会,2016,(米子),[口演]

- 013 青木正博：大腸がんの新規転移抑制因子HNRNPLLは上皮  
間葉転換におけるCD44の選択的スプライシングを制御す  
る. 第39回日本分子生物学会年会,2016,(横浜),[ポスター]

#### 腫瘍医化学部

- 001 牧原弘幸, 吉田憲司, 中山英典, 井上博貴, 後藤明彦, 堀  
部宏茂, 山本 翼, 太田充彦, 福田幸太, 黒岩裕一郎, 栗  
田賢一：Histological bone healing process of bone defects  
performed with Er: YAG laser and steel bur. WFLD2016  
国際レーザー歯学会,2016,(名古屋),[ポスター]
- 002 牧原弘幸, 田中宏樹, 後藤英仁, 猪子誠人, 榎本 篤, 稲  
垣昌樹：Vimentin phospho-deficient mice display  
aneuploidy and skin premature aging. 第75回日本癌学会  
学術総会,2016,(横浜),[ポスター]
- 003 牧原弘幸, 後藤満雄, 稲垣昌樹, 栗田賢一：Generation of  
anti-Desmin phosphorylation specific antibody and its  
application for analyzing mitosis in development or  
tumors. 第61回日本口腔外科学会総会,2016,(千葉),[ポス  
ター]
- 004 牧原弘幸, 稲葉弘哲, 田中宏樹, 榎本 篤, 友野靖子, 後  
藤満雄, 栗田賢一, 後藤英仁, 稲垣昌樹：デスミンの分裂  
期特異的リン酸化部位の同定と機能解析. 第68回日本細胞  
生物学会・第11回日本ケミカルバイオロジー学会 合同大  
会,2016,(京都),[ポスター]
- 005 稲葉弘哲, 後藤英仁, 笠原広介, 熊本香奈子, 米村重信,  
何 東偉, 五島直樹, 山野荘太郎, 鰐淵英機, 広常真治,  
清野 透, 稲垣昌樹：Ndel1は増殖細胞において一次線毛  
形成を抑制する. 第68回日本細胞生物学会・第11回日本ケ  
ミカルバイオロジー学会 合同大会,2016,(京都),[ワー  
クショップ口演]
- 006 猪子誠人, 林 裕子, 清野 透, 稲垣昌樹：Albatross/  
Fbf1蛋白質は中心体動態を統合する. 第68回日本細胞生  
物学会・第11回日本ケミカルバイオロジー学会 合同大会,  
2016,(京都),[ワークショップ口演]
- 007 稲葉弘哲, 後藤英仁, 笠原広介, 熊本香奈子, 米村重信,  
何 東偉, 五島直樹, 山野荘太郎, 鰐淵英機, 広常真治,  
清野 透, 稲垣昌樹：Ndel1はtrichoplein-AuroraA経路の  
制御によって増殖細胞の線毛形成を抑制する. 第75回日本  
癌学会学術総会,2016,(横浜),[ポスター]

## 4. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ（総長）

総長

- 001 *Sawada Y, Yoshikawa T, Ofuji K, Yoshimura M, Tsuchiya N, Takahashi M, Nobuoka D, Gotohda N, Takahashi S, Kato Y, Konishi M, Kinoshita T, Ikeda M, Nakachi K, Yamazaki N, Mizuno S, Takayama T, Yamao K, Uesaka K, Furuse J, Endo I, Nakatsura T*: Phase II Study of the GPC 3-derived Peptide Vaccine as an Adjuvant Therapy for Hepatocellular Carcinoma Patients. *Oncoimmunology*, 5:e1129483,2016.
- 002 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 岩田至紀, 清水泰博, 木下平: 胃癌reduced port surgeryにおける臍切開「zigzag切開と横切開」. *手術雑誌*, 70:797-802,2016.
- 003 林大介, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 小森康司, 安部哲也, 千田嘉毅, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 清水泰博, 木下平: 胃悪性リンパ腫に合併し深達度・リンパ節転移度診断に苦慮した早期胃癌の1例. *日本臨床外科学会雑誌*, 77:2343,2016.
- 004 岩田至紀, 三澤一成, 伊藤友一, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 千田嘉毅, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川上次郎, 清水泰博, 木下平: 腹腔鏡下胃切除術における肝圧排法(PROLENE hanging(PH)法). *日本臨床外科学会雑誌*, 77:2345,2016.
- 005 伊藤友一, 伊藤誠二, 三澤一成, 川上次郎, 大城泰平, 夏目誠治, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博, 木下平: 胃癌内視鏡治療非治癒切除後の追加手術症例に関する検討. *日本臨床外科学会雑誌*, 77:869,2016.
- 006 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 川上次郎, 大城泰平, 夏目誠治, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博, 木下平: 胃癌に対するReduced Port Surgeryの現状と工夫 通常ポート胃切除の手技で行う胃癌Reduced Port Surgery 傾向スコアマッチング解析による短期成績の検討. *日本内視鏡外科学会雑誌*, 21:36-4,2016.
- 007 伊藤友一, 三澤一成, 伊藤誠二, 望月能成, 川上次郎, 大城泰平, 夏目誠治, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博, 木下平: 腹腔鏡下胃切除術の治療成績. *日本内視鏡外科学会雑誌*, 21:124-4,2016.



## 5. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (病院)

病院長

[学会誌への発表]

- 001 *Hamada C, Yamada Y, Azuma M, Nishikawa K, Gotoh M, Bando H, Sugimoto N, Nishina T, Amagai K, Chin K, Niwa Y, Tsuji A, Imamura H, Tsuda M, Yasui H, Fujii H, Yamaguchi K, Yasui H, Hironaka S, Shimada K, Miwa H, Hyodo I* : Meta-analysis supporting noninferiority of oxaliplatin plus S-1 to cisplatin plus S-1 in first-line treatment of advanced gastric cancer (G-SOX study): indirect comparison with S-1 alone. *International Journal of Clinical Oncology*,21(4):668-75,2016.
- 002 *Bando H, Yamada Y, Tanabe S, Nishikawa K, Gotoh M, Sugimoto N, Nishina T, Amagai K, Chin K, Niwa Y, Tsuji A, Imamura H, Tsuda M, Yasui H, Fujii H, Yamaguchi K, Yasui H, Hironaka S, Shimada K, Miwa H, Hamada C, Hyodo I* : Efficacy and safety of S-1 and oxaliplatin combination therapy in elderly patients with advanced gastric cancer. *Gastric Cancer*, 19(3):919-26,2016.

[その他誌上への発表]

- 001 丹羽康正 : 胃がんリスク診断時代にX線検診が求められること これからの胃がん検診のゆくへ(会議録). *日本診療放射線技師会誌*,63(9):1053,2016.
- 002 北川晋二, 水口昌伸, 宮川国久, 入口陽介, 大泉晴史, 大黒隆司, 小川眞広, 小林正夫, 丹羽康正, 藤谷幹浩, 松浦隆志, 平井都始子, 日本消化器がん検診学会全国集計委員会 : 平成26年度消化器がん検診全国集計(解説). *日本消化器がん検診学会雑誌*,55(1):52-83,2017.

消化器内科部

- 001 *Tsutsumi H, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yoshimura K, Shimizu Y, Niwa Y, Sasaki Y, Yamao K* : Clinical impact of preoperative endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration for pancreatic ductal adenocarcinoma. *Endosc Ultrasound*, 5(2):94-100.doi:10.4103/2303-9027.180472,2016.
- 002 *Hara K, Yamao K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Okuno N, Hieda N, Yoshida T, Niwa Y* : Endoscopic ultrasonography-guided biliary drainage: Who, when, which, and how? *World J Gastroenterol*, 22(3):1297-303. doi : 10. 3748/wjg. v22. i 3. 1297.Review,2016.
- 003 *Imaoka H, Shimizu Y, Senda Y, Natsume S, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Hieda N, Tajika M, Tanaka T,*

- Ishihara M, Niwa Y, Yamao K* : Post-adjuvant chemotherapy CA19-9 levels predict prognosis in patients with pancreatic ductal adenocarcinoma: A retrospective cohort study. *Pancreatology*,16(4):658-64. doi:10.1016/j.pan,2016.
- 004 *Sato T, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Yogi T, Tsutsumi H, Fujiyoshi T, Niwa Y, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Kubota K, Nakajima A, Yamao K* : Type of Combined Endoscopic Biliary and Gastroduodenal Stenting Is Significant for Biliary Route Maintenance. *Intern Med*,55(16):2153-61.doi:10. 2169/ internalmedicine.55.6410,2016.
- 005 *Kondo S, Tajika M, Tanaka T, Kodaira T, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Goto H, Yamao K, Niwa Y* : Prognostic factors for salvage endoscopic resection for esophageal squamous cell carcinoma after chemoradiotherapy or radiotherapy alone. *Endosc Int Open*, 4(8):E841-8. doi:10. 1055/s-0042-109609,2016.
- 006 *Hijioka S, Hara K, Mizuno N, Imaoka H, Bhatia V, Mekky MA, Yoshimura K, Yoshida T, Okuno N, Hieda N, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yatabe Y, Shimizu Y, Niwa Y, Yamao K* : Diagnostic performance and factors influencing the accuracy of EUS-FNA of pancreatic neuroendocrine neoplasms. *J Gastroenterol*, 51(9):923-30. doi:10. 1007/s00535-016-1164-6,2016
- 007 *Yoshida T, Hara K, Imaoka H, Hijioka S, Mizuno N, Ishihara M, Tanaka T, Tajika M, Niwa Y, Yamao K* : Benefits of side-by-side deployment of 6-mm covered self-expandable metal stents for hilar malignant biliary obstructions. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 23(9):548-55. doi:10. 1002/jhbp. 372,2016.
- 008 *Imaoka H, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Hieda N, Yoshida T, Okuno N, Shimizu Y, Niwa Y, Yamao K* : Prognostic impact of carcinoembryonic antigen (CEA) on patients with metastatic pancreatic cancer: A retrospective cohort study. *Pancreatology*,16(5): 859-64,2016.
- 009 *Hara K* : Development of a new reagent for endoscopic ultrasound-guided celiac plexus neurolysis and tumor ablation therapy. *Gastrointestinal Intervention*, 2016(5):216-220,2016.
- 010 *Shibuya H, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Yoshida T, Okuno N, Hieda N, Bhanthumkomol P, Shimizu Y, Senda Y, Natsume S, Niwa Y, Yamao K* : Treatment of biliary strictures with fully covered self-expandable metal stents after pancreaticoduodenectomy. *Endoscopy*,49:75-79,2017.

- 011 *Kanno A, Masamune A, Fujishima F, Iwashita T, Kodama Y, Katanuma A, Ohara H, Kitano M, Inoue H, Itoi T, Mizuno N, Miyakawa H, Mikata R, Irisawa A, Sato S, Notohara K, Shimosegawa T* : Diagnosis of autoimmune pancreatitis by EUS-guided FNA using a 22-gauge needle: a prospective multicenter study. *Gastrointest Endosc*.81:797-804,2016.
- 012 *Kubota K, Kamisawa T, Okazaki K, Kawa S, Hirano K, Hirooka Y, Uchida K, Shiomi H, Ohara H, Shimizu K, Arakura N, Kanno A, Sakagami J, Itoi T, Ito T, Ueki T, Nishino T, Inui K, Mizuno N, Yoshida H, Sugiyama M, Iwasaki E, Irisawa A, Shimosegawa T, Takeyama Y, Chiba T* : Low-dose maintenance steroid treatment could reduce the relapse rate in patients with type 1 autoimmune pancreatitis: a long-term Japanese multicenter analysis of 510 patients. *J Gastroenterol*,2017.
- 013 *Yoshida T, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Hieda N, Okuno N, Kinoshita T, Bhatia V, Shimizu Y, Yatabe Y, Yamao K, Niwa Y* : The Features of Colorectal Tumors in a Patient with Li-Fraumeni Syndrome. *Intern Med*,56:295-300,2017.
- 014 *Ioka T, Komatsu Y, Mizuno N, Tsuji A, Ohkawa S, Tanaka M, Iguchi H, Ishiguro A, Kitano M, Satoh T, Yamaguchi T, Takeda K, Kida M, Eguchi K, Ito T, Munakata M, Itoi T, Furuse J, Hamada C, Sakata Y* : Randomised phase II trial of irinotecan plus S-1 in patients with gemcitabine-refractory pancreatic cancer. *Br J Cancer*,116:464-471,2017.
- 015 *Okuno N, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Kuwahara T* : Advanced technique for biliary stricture diagnosis using endoscopic ultrasound(EUS)-guided hepaticogastrostomy. *Endoscopy*,49(S01):E60-E61,2017.
- 016 *Fujita A, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Yoshida T, Okuno N, Hieda N, Hirayama T, Shibuya H, Kondo H, Suzuki H, Toriyama K, Yatabe Y, Yamao K, Niwa Y* : A case of API 2-MALT 1-positive gastric MALT lymphoma with concomitant diffuse large B-cell lymphoma. *Nagoya J Med Sci*,79(2):251-257,2017.
- 017 *Hijioka S, Hara K, Mizuno N, Okuno N, Bhatia V* : Diagnostic performance and factors influencing the accuracy of EUS-FNA of pancreatic neuroendocrine neoplasms. *J Gastroenterol*,52(2):264,2017.
- 018 *Masamune A, Nishimori I, Kikuta K, Tsuji I, Mizuno N, Iiyama T, Kanno A, Tachibana Y, Ito T, Kamisawa T, Uchida K, Hamano H, Yasuda H, Sakagami J, Mitoro A, Taguchi M, Kihara Y, Sugimoto H, Hirooka Y, Yamamoto S, Inui K, Inatomi O, Andoh A, Nakahara K, Miyakawa H, Hamada S, Kawa S, Okazaki K, Shimosegawa T, Research Committee of Intractable Pancreas Diseases in Japan* : Randomised controlled trial of long-term maintenance corticosteroid therapy in patients with autoimmune pancreatitis. *Gut*,66:487-494,2017.
- 019 *Okuno N, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Kuwahara T, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Niwa Y* : Risks of transesophageal endoscopic ultrasonography-guided biliary drainage. *Gastrointestinal intervention*, 6 ( 1 ):82-84,2017.
- 020 脇岡 範, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 原 和生 : 膵消化管神経内分泌がんに対する薬物療法. *腫瘍内科*,19 ( 3 ):314-321,2016.
- 021 奥野のぞみ, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 稗田信弘, 吉田 司, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 藤田 曜, 丹羽康正, 山雄健次 : 【マルチモダリティによるAbdominal Imaging 2016[臨床編] 日常臨床における代表的疾患の画像診断のコツ】 先進技術・診断法の臨床応用の実際 胆膵内視鏡におけるCアームX線TVシステムの使用経験(解説/特集). *INNERVISION*,31(5):66-67,2016.
- 022 脇岡 範, 徳久順也, 近藤 尚, 奥野のぞみ, 水野伸匡, 原 和生 : 膵エコーにおけるSMIの有用性. *映像情報 medical*,48(5):6-10,2016.
- 023 脇岡 範, 渋谷 仁, 水野伸匡, 原 和生 : 膵神経内分泌腫瘍・がんの薬物療法～どう使い分けるか～. *Mebio*,33(5):97-103,2016.
- 024 鳥山和浩, 脇岡 範, 水野伸匡, 田近正洋, 原 和生, 今岡 大, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 丹羽康正, 山雄健次 : 【ガイドラインからみた膵・消化管NETの治療】 膵・消化管神経内分泌腫瘍に対する内視鏡検査(解説/特集). *日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌*,33(2):89-96,2016.
- 025 渋谷 仁, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 平山貴視, 藤田 曜, 岩屋博道, 伊東文子, 松本慎平, 倉岡直亮, 清水泰博, 丹羽康正, 原 和生 : 【膵・胆道癌の治療戦略:こんなときどうするか?—ガイドラインにないエキスパートオピニオン—】 膵神経内分泌腫瘍の治療戦略におけるEUS-FNAの有用性とその限界(解説/特集). *胆と膵*,37(6):567-574,2016.
- 026 原 和生 : EUSによる胆膵領域の内視鏡治療. 第16回日本消化器内視鏡学会東海支部ガイドライン研修会 テキスト, 2016.
- 027 原 和生 : 超音波内視鏡下穿刺を用いた診断・治療の進歩. *Modern Physician*,36(8):896,2016.
- 028 奥野のぞみ, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 藤田 曜 : 【Interventional EUSのすべて】 穿刺用スコープを用いた標準的描出法 胆膵領域(解説/特集). *消化器内視鏡*,28(10):1561-1567,2016.
- 029 岩屋博道, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 藤田 曜, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 田近正洋, 丹羽康正 : 【膵神経内分泌腫瘍の最新の話】 膵神経内分泌腫瘍の画像診断 鑑別を要する疾患(解説/特集). *胆と膵*,37(10):881-889,2016.

- 030 原 和生, 奥野のぞみ, 脇岡 範, 水野伸匡, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 藤田 曜, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 山雄健次: SpyGlass TMDSは胆膵内視鏡の標準診療となり得るか. Boston Scientific Report, 1-2,2016.
- 031 原 和生, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 水野伸匡: 超音波内視鏡ガイド下胆道ドレナージ. 日本消化器内視鏡学会雑誌, 58(10):2141-2153,2016.
- 032 原 和生: S-1 +放射線療法. 消化器癌 化学療法 レジメンブック, 175-177,2016.
- 033 原 和生: GEM+CDDP. 消化器癌 化学療法 レジメンブック,184-186,2016.
- 034 原 和生: EUS 診断の基本とrisk management. 日本消化器内視鏡学会 近畿セミナーテキスト,2016.
- 035 松本慎平, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 藤田 曜, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 原 和生: 【よくわかる消化器神経内分泌腫瘍(NET/NEC)】膵NET/NECの診断 US、EUS、EUS-FNAを中心に(解説/特集). 消化器内視鏡,28(11):1848-1862,2016.
- 036 原 和生, 奥野のぞみ, 脇岡 範, 水野伸匡, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 藤田 曜, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 山雄健次: 【胆膵内視鏡自由自在～基本手技を学び応用力をつける集中講座～】Interventional EUS EUS-BDを安全に行うために. 胆と膵(2016年臨時増刊特大号),37:1387-1392,2016.
- 037 伊東文子, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生: 【膵癌への挑戦】膵IPMNの経過観察(解説/特集). Pharma Medica,35(1):13-18,2017.
- 038 原 和生: 胆膵疾患の内視鏡的治療. 今日の治療指針2017, 510-511,2017.
- 039 松本慎平, 脇岡 範, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 平山貴視, 近藤 尚, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田 曜, 渋谷 仁, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 丹羽康正, 原 和生: 【今日から役立つ肝胆膵疾患の遺伝子診断学】臨床応用中の遺伝子診断 膵神経内分泌腫瘍(pNET)の遺伝子診断(解説/特集). 肝・胆・膵,74(2):191-202,2017.
- 040 鳥山和浩, 脇岡 範, 水野伸匡, 田近正洋, 原 和生: 【膵・消化管神経内分泌腫瘍の診断および治療の進歩】膵・消化管神経内分泌腫瘍におけるEUS-FNA診断の進歩(解説/特集). Mebio,34(3):42-51,2017.
- 041 原 和生: EUS-FNA. 消化器内視鏡の基礎知識と基本テクニック. 消化器内視鏡,29(3):593,2017.
- 042 藤田 曜, 脇岡 範, 清水泰博, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 千田嘉毅, 夏目誠治, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 丹羽康正, 原 和生: 化学療法が著効しconversion surgeryを施行し得たStageIVb膵癌の2例. 膵臓,32(1):78-86,2017.
- 内視鏡部
- 001 *Tsutsumi H, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yoshimura K, Shimizu Y, Niwa Y, Sasaki Y, Yamao K*: Clinical impact of preoperative endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration for pancreatic ductal adenocarcinoma. *Endosc Ultrasound*, 5(2):94-100.doi:10.4103/2303-9027.180472,2016.
- 002 *Tanaka T, Yamamoto H, Elsayed AA, Satou A, Asano N, Kohno K, Kinoshita T, Niwa Y, Goto H, Nakamura S, Kato S*: Clinicopathologic Spectrum of Gastrointestinal T-cell Lymphoma :Reappraisal Based on T-cell Receptor Immunophenotypes. *The American Journal of Surgical Pathology*,40(6):777-785,2016.
- 003 *Hara K, Yamao K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Okuno N, Hieda N, Yoshida T, Niwa Y*: Endoscopic ultrasonography-guided biliary drainage: Who, when, which, and how? *World J Gastroenterol*, 22(3):1297-303. doi: 10. 3748/wjg. v22. i3. 1297.Review,2016.
- 004 *Imaoka H, Shimizu Y, Senda Y, Natsume S, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Hieda N, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Niwa Y, Yamao K*: Post-adjuvant chemotherapy CA19-9 levels predict prognosis in patients with pancreatic ductal adenocarcinoma: A retrospective cohort study. *Pancreatology*,16(4):658-64. doi:10.1016/j.pan,2016.
- 005 *Hamauchi S, Yamazaki K, Masuishi T, Kito Y, Komori A, Tsushima T, Narita Y, Todaka A, Ishihara M, Yokota T, Tanaka T, Machida N, Kadowaki S, Fukutomi A, Ura T, Onozawa Y, Ando M, Tajika M, Muro K, Yasui H, Mori K, Taniguchi H*: Neutropenia as a Predictive Factor in Metastatic Colorectal Cancer Treated With TAS-102. *Clin Colorectal Cancer*, pii: S1533-0028(16)30086-X. doi:10.1016/j.clcc,2016.
- 006 *Sato T, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Yogi T, Tsutsumi H, Fujiyoshi T, Niwa Y, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Kubota K, Nakajima A, Yamao K*: Type of Combined Endoscopic Biliary and Gastroduodenal Stenting Is Significant for Biliary Route Maintenance. *Intern Med*,55(16):2153-61.doi:10.2169/internalmedicine.55.6410,2016.
- 007 *Kondo S, Tajika M, Tanaka T, Kodaira T, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Goto H, Yamao K, Niwa Y*: Prognostic factors for salvage endoscopic resection for esophageal squamous cell carcinoma after chemoradiotherapy or radiotherapy alone. *Endosc Int Open*, 4(8):E841-8. doi:10.1055/s-0042-109609,2016.
- 008 *Masuishi T, Taniguchi H, Hamauchi S, Komori A, Kito Y, Narita Y, Tsushima T, Ishihara M, Todaka A, Tanaka T, Yokota T, Kadowaki S, Machida N, Ura T,*



- Fukutomi A, Ando M, Onozawa Y, Tajika M, Yasui H, Muro K, Mori K, Yamazaki K* : Regorafenib Versus Trifluridine/Tipiracil for Refractory Metastatic Colorectal Cancer: A Retrospective Comparison. Clin Colorectal Cancer, pii: S1533-0028(16)30146-3 .doi:10.1016/j.clcc.2016.
- 009 *Hijioka S, Hara K, Mizuno N, Imaoka H, Bhatia V, Mekky MA, Yoshimura K, Yoshida T, Okuno N, Hieda N, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yatabe Y, Shimizu Y, Niwa Y, Yamao K* : Diagnostic performance and factors influencing the accuracy of EUS-FNA of pancreatic neuroendocrine neoplasms. J Gastroenterol, 51(9):923-30.doi:10.1007/s00535-016-1164-6.2016.
- 010 *Yoshida T, Hara K, Imaoka H, Hijioka S, Mizuno N, Ishihara M, Tanaka T, Tajika M, Niwa Y, Yamao K* : Benefits of side-by-side deployment of 6-mm covered self-expandable metal stents for hilar malignant biliary obstructions. J Hepatobiliary Pancreat Sci,23(9):548-55. doi:10.1002/jhbp.372.2016.
- 011 *Imaoka H, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Hieda N, Yoshida T, Okuno N, Shimizu Y, Niwa Y, Yamao K* : Prognostic impact of carcinoembryonic antigen (CEA) on patients with metastatic pancreatic cancer: A retrospective cohort study. Pancreatology,16(5):859-64. doi:10.1016/j.pan.2016.
- 012 *Shibuya H, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Yoshida T, Okuno N, Hieda N, Bhanthumkomol P, Shimizu Y, Senda Y, Natsume S, Niwa Y, Yamao K* : Treatment of biliary strictures with fully covered self-expandable metal stents after pancreaticoduodenectomy. Endoscopy,49:75-79,2017.
- 013 *Nomura M, Oze I, Kodaira T, Abe T, Komori A, Narita Y, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Andoh M, Tachibana H, Uemura N, Tajika M, Niwa Y, Muto M, Muro K* : Comparison between surgery and definitive chemoradiotherapy for patients with resectable esophageal squamous cell carcinoma : a propensity score analysis. Int J Clin Oncol,21(5):890-898, 2016.
- 014 *Sugiyama K, Narita Y, Kadowaki S, Ura T, Tajika M, Muro K* : Platinum-based Doublet Chemotherapy for Advanced Gastric Cancer with Disseminated Intravascular Coagulation. Anticancer Res,37(1):309-313,2017.
- 015 *Yoshida T, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Hieda N, Okuno N, Kinoshita T, Bhatia V, Shimizu Y, Yatabe Y, Yamao K, Niwa Y* : The Features of Colorectal Tumors in a Patient with Li-Fraumeni Syndrome. Intern Med,56:295-300,2017.
- 016 *Fujita A, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Yoshida T, Okuno N, Hieda N, Hirayama T, Shibuya H, Kondo H, Suzuki H, Toriyama K, Yatabe Y, Yamao K, Niwa Y* : A case of API 2-MALT 1-positive gastric MALT lymphoma with concomitant diffuse large B-cell lymphoma. Nagoya J Med Sci,79(2):251-257,2017.
- 017 *Okuno N, Hara K, Mizuno N, Hijioka H, Kuwahara T, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Niwa Y* : Risks of transesophageal endoscopic ultrasonography-guided biliary drainage. Gastrointestinal intervention, 6(1):82-84,2017.
- 018 鳥山和浩, 脇岡 範, 水野伸匡, 田近正洋, 原 和生, 今岡 大, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 丹羽康正, 山雄健次 : 【ガイドラインからみた膵・消化管NETの治療】膵・消化管神経内分泌腫瘍に対する内視鏡検査(解説/特集). 日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌,33(2):89-96,2016.
- 019 渋谷 仁, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 平山貴視, 藤田 曜, 岩屋博道, 伊東文子, 松本慎平, 倉岡直亮, 清水泰博, 丹羽康正, 原 和生 : 【膵・胆道癌の治療戦略:こんなときどうするか?—ガイドラインにないエキスパートオピニオン—】膵神経内分泌腫瘍の治療戦略におけるEUS-FNAの有用性とその限界(解説/特集).胆と膵,37(6):567-574,2016.
- 020 岩屋博道, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 藤田 曜, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 田近正洋, 丹羽康正 : 【膵神経内分泌腫瘍の最新の話】膵神経内分泌腫瘍の画像診断 鑑別を要する疾患.胆と膵,37(10):881-889,2016.
- 021 原 和生, 奥野のぞみ, 脇岡 範, 水野伸匡, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 藤田 曜, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 山雄健次 : SpyGlass TMDSは胆膵内視鏡の標準診療となり得るか. Boston Scientific Report, 1-2,2016.
- 022 原 和生, 奥野のぞみ, 脇岡 範, 水野伸匡, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 藤田 曜, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 山雄健次 : 【胆膵内視鏡自由自在～基本手技を学び応用力をつける集中講座～】Interventional EUS EUS-BDを安全に行うために. . .胆と膵(2016年臨時増刊特大号),37:1387-1392,2016.
- 023 藤田 曜, 脇岡 範, 清水泰博, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代 : 化学療法が著効しconversion surgeryを施行し得たStageIVb膵癌の2例. 膵臓,32(1):78-86,2017.
- 024 松本慎平, 脇岡 範, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 平山貴視, 近藤 尚, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田 曜, 渋谷 仁, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 丹羽康正, 原 和生 : 【今日から役立つ肝胆膵疾患の遺伝子診断学】臨床応用中の遺伝子診断 膵神経内分泌腫瘍(pNET)の遺伝子診断(解説/特集). 肝・胆・膵,74(2):191-202,2017.
- 025 鳥山和浩, 脇岡 範, 水野伸匡, 田近正洋, 原 和生 : 【膵・

消化管神経内分泌腫瘍の診断および治療の進歩】 脛・消化管神経内分泌腫瘍におけるEUS-FNA診断の進歩(解説/特集). *Mebio*,34(3):42-51,2017.

呼吸器内科部

[原著]

- 001 **Wang Z, Yatabe Y, Hida T, et al.** : Meta-analysis of genome-wide association studies identifies multiple lung cancer susceptibility loci in never-smoking Asian women. *Hum Mol Genet*,25(3):620-9,2016.
- 002 **Nishio M, Goto K, Chikamori K, Hida T, Katakami N, Maemondo M, Ohishi N, Tamura T.** : Analysis of Epidermal Growth Factor Receptor Mutations in Serum Among Japanese Patients Treated With First-Line Erlotinib for Advanced Non-Small-Cell Lung Cancer. *Clin Lung Cancer*,17(1):24-29,2016.
- 003 **Takeuchi K, Togashi Y, Kamihara Y, Fukuyama T, Yoshioka H, Inoue A, Katsuki H, Kiura K, Nakagawa K, Seto T, Maemondo M, Hida T, Harada M, Ohe Y, Nogami N, Yamamoto N, Nishio M, Tamura T.** : Prospective and clinical validation of ALK immunohistochemistry: results from the phase I/II study of alectinib for ALK-positive lung cancer (AF-001JP study). *Ann Oncol*,27(1):185-192,2016.
- 004 **Itoh T, Miwa T, Tsuruta A, Akamatsu T, Izu N, Shin W, Park J, Hida T, Eda T, Setoguchi Y.** : Development of an Exhaled Breath Monitoring System with Semiconductive Gas Sensors, a Gas Condenser Unit, and Gas Chromatograph Columns. *Sensors (Basel)*,16(11):pii: E1891,2016.
- 005 **Yoshida T, Oya Y, Tanaka K, Shimizu J, Horio Y, Kuroda H, Sakao Y, Hida T, Yatabe Y.** : Clinical impact of crizotinib on central nervous system progression in ALK-positive non-small lung cancer. *Lung Cancer*,97:43-7,2016.
- 006 **Yoshida T, Tanaka H, Kuroda H, Shimizu J, Horio Y, Sakao Y, Inaba Y, Iwata H, Hida T, Yatabe Y.** : Standardized uptake value on (18)F-FDG-PET/CT is a predictor of EGFR T790M mutation status in patients with acquired resistance to EGFR-TKIs. *Lung Cancer*,100:14-9,2016
- 007 **Yoshida T, Hida T, Yatabe Y.** : Rapid and dramatic response to alectinib in an ALK rearranged non-small-cell lung cancer patient who is critically ill. *Anticancer Drugs*, 27(6):573-5,2016.
- 008 **Nosaki K, Satouchi M, Kurata T, Yoshida T, Okamoto I, Katakami N, Imamura F, Tanaka K, Yamane Y, Yamamoto N, Kato T, Kiura K, Saka H, Yoshioka H, Watanabe K, Mizuno K, Seto T.** : Re-biopsy status among non-small cell lung cancer patients in Japan: A retrospective study. *Lung Cancer*,101:1-8,2016.
- 009 **Crinò L, Ahn MJ, De Marinis F, Groen HJ, Wakelee H, Hida T, Mok T, Spigel D, Felip E, Nishio M, Scagliotti G, Branle F, meremni C, Quadrigli M, Zhang J, Shaw AT.** : A multicenter phase II study of whole-body and intracranial activity with ceritinib in patients with ALK-rearranged non-small cell lung cancer previously treated with chemotherapy and crizotinib: Results from ASCEND-2. *J Clin Oncol*,34(24):2866-73,2016.
- 010 **Goto K, Ohe Y, Shibata T, Seto T, Takahashi T, Nakagawa K, Tanaka H, Takeda K, Nishio M, Mori K, Satouchi M, Hida T, Yoshimura N, Kozuki T, Imamura F, Kiura K, Okamoto H, Sawa T, Tamura T.** : A Randomized Phase III Study of Combined Therapy with Cisplatin, Etoposide, and Irinotecan vs. Topotecan Monotherapy as Second-Line Chemotherapy in Patients with Sensitive Relapsed Small Cell Lung Cancer (JCOG0605). *Lancet Oncol*,17(8):1147-57,2016.
- 011 **Yoshida T, Oya Y, Tanaka K, Shimizu J, Horio Y, Kuroda H, Sakao Y, Hida T, Yatabe Y.** : Differential Crizotinib Response Duration Among ALK Fusion Variants in ALK-Positive Non-Small-Cell Lung Cancer. *J Clin Oncol*,34(28):3383-9,2016.
- 012 **Park J, Kobayashi Y, Urayama KY, Yamaura H, Yatabe Y, Hida T.** : Imaging characteristics of driver mutations in EGFR, KRAS, and ALK among treatment-naïve patients with advanced lung adenocarcinoma. *PLoS One*,11(8):e0161081,2016.
- 013 **Ryuge S, Masuda N, Yamamoto N, Takahashi T, Murakami H, Takeda K, Daga H, Yonesaka K, Tsukuda H, Nakagawa K, Tanaka K, Kiura K, Takigawa N, Hida T, Seto T, Yokoba M, Kudoh S, Takagaki T, Shono K, Kitagawa H, Kurihara T, Fukuoka M.** : Pharmacokinetics of amrubicin in lung cancer patients with impaired hepatic function. *Cancer Treatment and Research Communications*, 9:81-7,2016.
- 014 **Azuma K, Hirashima T, Yamamoto N, Okamoto I, Takahashi T, Nishio M, Hirata T, Kubota K, Kasahara K, Hida T, Yoshioka H, Nakanishi K, Akinaga S, Nishio K, Mitsudomi T, Nakagawa K.** : Phase II study of erlotinib plus tivantinib (ARQ 197) in patients with locally advanced or metastatic EGFR mutation-positive non-small-cell lung cancer just after progression on EGFR-TKI, gefitinib or erlotinib. *ESMO Open*, 1:e000063,2016.
- 015 **Takahama T, Sakai K, Takeda M, Azuma K, Hida T, Hirabayashi M, Oguri T, Tanaka H, Ebi N, Sawa T, Bessho A, Tachihara M, Akamatsu H, Bandoh S, Himeji D, Ohira T, Shimokawa M, Nakanishi Y, Nakagawa K, Nishio K.** : Detection of the T790M mutation of EGFR in plasma of advanced non-small cell lung cancer patients with acquired resistance to tyrosine

- kinase inhibitors (West Japan oncology group 8014LTR study). *Oncotarget*, 7 (36):58492-58499,2016.
- 016 *Nishio M, Hida T, Atagi S, Sakai H, Nakagawa K, Takahashi T, Nogami N, Saka H, Takenoyama M, Maemondo M, Ohe Y, Nokihara H, Hirashima T, Tanaka H, Fujita S, Takeda K, Goto K, Satouchi M, Isobe H, Minato K, Sumiyoshi N, Tamura T.* : A multicenter phase II study of nivolumab in Japanese patients with advanced or recurrent non-squamous non-small cell lung cancer. *ESMO Open*, 1:e000108,2016.
- 017 *Hida T, Nakagawa K, Seto T, Satouchi M, Nishio M, Hotta K, Takahashi T, Ohe Y, Takeda K, Tatsuno M, Asakawa T, Shimada T, Tanaka T, Tamura T.* : Pharmacologic study (JP28927) of alectinib in Japanese patients with ALK+ NSCLC with or without prior crizotinib therapy. *Cancer Sci*,107(11):1642-1646,2016.
- 018 *Goss G, Tsai CM, Shepherd FA, Bazhenova L, Lee JS, Chang GC, Crino L, Satouchi M, Chu Q, Hida T, Han JY, Juan O, Dunphy F, Nishio M, Kang JH, Majem M, Mann H, Cantarini M, Ghiorghiu S, Mitsudomi T.* : Osimertinib for pre-treated EGFR T790M positive advanced non-small cell lung cancer: a single-arm phase 2 study(AURA 2):. *Lancet Oncol*,17(12):1643-1652, 2016.
- 019 *Kimura T, Taniguchi H, Watanabe N, Saka H, Kogure Y, Shindo J, Ogasawara T, Kojima E, Hasegawa Y, Yamamoto M, Suzuki R, Ando M, Kondo M, Saito H.* : Phase II Study of Carboplatin and Pemetrexed in Advanced EGFR-wild-type Non-squamous Non-small Cell Lung Cancer: The Central Japan Lung Study Group Trial 0906. *Anticancer Res*,36(4):1767-71,2016.
- 020 *Takahashi K, Taniguchi H, Ando M, Sakamoto K, Kondoh Y, Watanabe N, Kimura T, Kataoka K, Suzuki A, Ito S, Hasegawa Y.* : Mean pulmonary arterial pressure as a prognostic indicator in connective tissue disease associated with interstitial lung disease: a retrospective cohort study. *BMC Pulm Med*,16(1):55,2016.
- 021 *Maeda A, Ura T, Asano C, Hasegawa I, Numura M, Komori A, Narita Y, Taniguchi H, Kadowaki S, Muro K, Horio Y, Yoshida T, Oze I, Kajita M, Misutani A.* : A phase II trial of prophylactic olanzapine combined with palonosetron and dexamethasone for preventing nausea and vomiting induced by cisplatin. *Asia Pac J Clin Oncol*, 12(3):254-258,2017.
- 022 *Yamamoto N, Goto K, Nishio M, Chikamori K, Hida T, Maemondo M, Katakami N, Kozuki T, Yoshioka H, Seto T, Tajima K, Tamura T.* : Final overall survival in JO22903, a phase II, open-label study of first-line erlotinib for Japanese patients with EGFR mutation-positive non-small-cell lung cancer. *Int J Clin Oncol*. 22(1):70-78,2017.
- 023 *Rittmeyer A, Barlesi F, Waterkamp D, Park K, Ciardiello F, von Pawel J, Gadgeel SM, Hida T, Kowalski DM, Dols MC, Cortinovis DL, Leach J, Polikoff J, Barrios C, Kabbinavar F, Frontera OA, De Marinis F, Turna H, Lee JS, Ballinger M, Kowanetz M, He P, Chen DS, Sandler A, Gandara DR;* OAK Study Group. Atezolizumab versus docetaxel in patients with previously treated non-small-cell lung cancer (OAK): a phase 3, open-label, multicentre randomised controlled trial. *Lancet*,389:255-265,2017.
- 024 *Yoshida T, Furuta H, Hida T.* : Risk of tumor flare after nivolumab treatment in patients with irradiated field recurrence. *Med Oncol*,34(3):34,2017.
- 025 *Sakumura Y, Koyama Y, Tokutake H, Hida T, Sato K, Itoh T, Akamatsu T, Shin* : W. Diagnosis by Volatile Organic Compounds in Exhaled Breath from Lung Cancer Patients Using Support Vector Machine Algorithm. *Sensors (Basel)*,17(2).pii:E287,2017.
- 026 *Tanaka K, Hida T, Oya Y, Yoshida T, Shimizu J, Mizuno T, Kuroda H, Sakakura N, Yoshimura K, Horio Y, Sakao Y, Yatabe Y.* : Unique prevalence of oncogenic genetic alterations in young patients with lung adenocarcinoma. *Cancer*,123(10):1731-1740,2017.
- 027 *Tanaka K, Osada H, Murakami-Tonami Y, Horio Y, Hida T, Sekido Y.* : The Hippo coactivator YAP mediates CD44 up-regulation; statin blocks YAP/CD44 axis and attenuates cancer stem cell-like properties in malignant mesothelioma. *Cancer Letters*,385:215-224,2017.
- 028 *Kato T, Masuda N, Nakanishi Y, Takahashi M, Hida T, Sakai H, Atagi S, Fujita S, Tanaka H, Takeda K, Satouchi M, Namba Y, Tamura T.* : Nivolumab-induced interstitial lung disease analysis of two phase II studies patients with recurrent or advanced non-small-cell lung cancer. *Lung Cancer*,104:111-118,2017.
- 029 *Katakami N, Hida T, Nokihara H, Imamura F, Sakai H, Atagi S, Nishio M, Kashii T, Satouchi M, Helwig C, Watanabe M, Tamura T.* : *Lung Cancer*, 105:23-30,2017.
- 030 *Tamura T, Kiura K, Seto T, Nakagawa K, Maemondo M, Inoue A, Hida T, Yoshioka H, Harada M, Ohe Y, Nogami N, Murakami H, Kuriki H, Shimada T, Tanaka T, Takeuchi K, Nishio M.* : Three-year Follow-up of an Alectinib phase 1/2 study in ALK-positive non-small-cell lung cancer : AF-001JP. *J Clin Oncol*,35: 1515-1521,2017.
- 031 吉田達哉 : Theme 新しいチロシンキナーゼ阻害薬State of the art reviews and future perspectives 各臓器がんに対する新しいチロシンキナーゼ阻害薬. がん分子標的治療, 14(3):278-283,2016.



血液・細胞療法部

[英文原著]

- 001 *Murakami S, Kato H, Higuchi Y, Yamamoto K, Yamamoto H, Saito T, Taji H, Yatabe Y, Nakamura S, Kinoshita T.* : Prediction of high risk for death in patients with follicular lymphoma receiving rituximab plus cyclophosphamide, doxorubicin, vincristine, and prednisolone in first-line chemotherapy. *Ann Hematol*, 95:1259-1269,2016.
- 002 *Kato H, Yamamoto K, Higuchi Y, Saito T, Taji H, Yatabe Y, Kinoshita T.* : Anti-CCR 4 monoclonal 1 antibody mogamulizumab followed by GDP(gemcitabine, dexamethasone and cisplatin)regimen in primary refractory angioimmunoblastic T-cell lymphoma. *Chemotherapy*,62:19-22,2016.
- 003 *Igarashi T, Ogura M, Itoh K, Taniwaki M, Ando K, Kuroda Y, Yamamoto K, Uike N, Tomita A, Nagai H, Kurosawa M, Mori S, Nawano S, Terauchi T, Ohashi Y, Tobinai K.* : Japanese phase II study of rituximab maintenance for untreated indolent B-cell non-Hodgkin lymphoma with high tumor burden. *Int J Hematol*,104: 700-708,2016(erratum: *Int J Hematol* 105(1):109-110,2017).
- 004 *Miyamura K, Miyamoto T, Tanimoto M, Yamamoto K, Kimura S, Kawaguchi T, Matsumura I, Hata T, Tsurumi H, Saito S, Hino M, Tadokoro S, Meguro K, Hyodo H, Yamamoto M, Kubo K, Tsukada J, Kondo M, Aoki M, Okada H, Yanada M, Ohyashiki K, Taniwaki M.* : Switching to nilotinib in patients with chronic myeloid leukemia in chronic phase with molecular suboptimal response to frontline imatinib: SENSOR final results and BIM polymorphism substudy. *Leuk Res*,51:11-18,2016.

[和文総説]

- 001 加藤春美, 木下朝博 : 【特集 : 臨床血液学—最新情報と今後の展望2016(リンパ系疾患)—】 悪性リンパ腫. *臨床血液*, 57:249-59,2016.
- 002 正木康史, 川端 浩, 高井和江, 塚本憲史, 藤本信乃, 石垣靖人, 黒瀬 望, 小島 勝, 中村栄男, 木下朝博, 青木定夫 : 新規疾患 TAFRO症候群の診断基準・重症度分類・治療指針. *臨床血液*,57:2029-2037,2016.
- 003 山本一仁 : 遺伝子解析に基づく新しい分子標的治療 *News and Topics* 【論文紹介】 思春期・若年成人がん患者. がん分子標的治療,14:157-160,2016.
- 004 山本一仁 : 【特集 リンパ系腫瘍に対するkey clinical trialsの評価】 未治療進行期中高悪性度非ホジキンリンパ腫に対する自家移植併用大量化学療法の比較試験. *血液内科*, 72: 423-428,2016.
- 005 木下朝博 : 【変わりゆくリンパ腫の診断と治療—一般外来での初発症状から最新治療まで】 濾胞性リンパ腫. *内科*, 117:1307-1310,2016.

- 006 樋口悠介, 山本一仁 : 【変わりゆくリンパ腫の診断と治療—一般外来での初発症状から最新治療まで】 粘膜関連濾胞辺縁帯リンパ腫. *内科*,117:1311-1314,2016.
- 007 樋口 悠, 山本一仁 : 【特集 低悪性度血液疾患に対する無治療経過観察と合理的な治療介入基準】 MALTリンパ腫に対する無治療経過観察と合理的な治療介入基準. *血液内科*,73:36-40,2016.
- 008 山本一仁 : 思春期・若年成人(AYA)世代白血病の病態と治療(解説/特集). *日本医師会雑誌*,145:2587-2590,2017.
- 009 入山智沙子, 清井 仁 : 【病気とくすり2017 基礎と実践 Expert's Guide】 病原微生物・悪性新生物とくすり 悪性腫瘍 多発性骨髄腫. *薬局*,68:2034-2042,2017.

[書籍]

- 001 山本一仁 : 濾胞性リンパ腫. 永井良三 総監修, 神田喜伸 責任編集. 研修ノートシリーズ 血液科研修ノート(診断と治療社):302-305,2016.
- 002 山本起代子, 山本一仁 : MALTリンパ腫. 永井良三 総監修, 神田喜伸 責任編集. 研修ノートシリーズ 血液科研修ノート(診断と治療社):306-309,2016.
- 003 山本一仁 : マントル細胞リンパ腫. 永井良三 総監修, 神田喜伸 責任編集. 研修ノートシリーズ 血液科研修ノート(診断と治療社):310-312,2016.
- 004 木下朝博 : 初発びまん性大細胞型B細胞リンパ腫. 白血病・リンパ腫 薬物療法ハンドブック(南江堂):184-189,2016.
- 005 山本一仁 : マントル細胞リンパ腫. 谷脇雅史、横田昇平、黒田純也 編著 造血器腫瘍アトラス 形態、免疫、染色体から分子細胞治療へ 改訂第5版(日本医事新報社):502-509,2016.
- 006 木下朝博, 富田章裕 : びまん性大細胞型B細胞リンパ腫. 造血器腫瘍アトラス 形態、免疫、染色体から分子細胞治療へ 改訂第5版(日本医事新報社):521-533,2016.
- 007 丹下直幸, 木下朝博 : 初発低腫瘍量濾胞性リンパ腫の治療. 金倉讓、木崎昌弘、鈴木律朗、神田喜伸 編集 *EBM血液疾患の治療2017-2018(中外医学社)*:216-219,2016.
- 008 丹下直幸, 山本一仁 : マントル細胞リンパ腫 若年者マントル細胞リンパ腫の治療. 金倉讓、木崎昌弘、鈴木律朗、神田喜伸 編集 *EBM血液疾患の治療2017-2018(中外医学社)*:237-243,2016.
- 009 樋口悠介, 山本一仁 : MALTリンパ腫. 小澤敬也、中尾眞二、松村到 編集 *血液疾患 最新の治療2017-2019(南江堂)*:164-167,2017.
- 010 木下朝博 : 濾胞性リンパ腫. 小澤敬也、中尾眞二、松村到 編集 *血液疾患 最新の治療2017-2019(南江堂)*:168-171,2017.

薬物療法部

- 001 *Al-Batran SE, Van Cutsem E, Cheul Oh S, Bodoky G, Shimada Y, Hironaka S, Sugimoto N, Lipatov ON, Kim TY, Cunningham D, Rougier P, Muro K, Liepa AM, Chandrawansa K, Emig M, Ohtsu A, Wilke H :*

Quality-of-life and performance status results from the phase 3 RAINBOW study of ramucirumab plus paclitaxel versus placebo plus paclitaxel in patients with previously treated gastric or gastroesophageal junction adenocarcinoma. *Ann Oncol* 27(4):673-9,2016.

- 002 **Muro K, Chung HC, Shankaran V, Geva R, Catenacci D, Gupta S, Eder JP, Golan T, Le DT, Burtness B, McRee AJ, Lin CC, Pathiraja K, Lunceford J, Emancipator K, Juco J, Koshiji M, Bang YJ** : Pembrolizumab for patients with PD-L1-positive advanced gastric cancer(KEYNOTE-012): a multicentre, open-label, phase 1 b trial. *Lancet Oncol* 17(6):717-26, 2016.
- 003 **Del Campo JM, Birrer M, Davis C, Fujiwara K, Gollerkeri A, Gore M, Houk B, Lau S, Poveda A, González-Martín A, Muller C, Muro K, Pierce K, Suzuki M, Vermette J, Oza A** : A randomized phase II non-comparative study of PF-04691502 and gedatolisib (PF-05212384) in patients with recurrent endometrial cancer. *Gynecol Oncol* 142(1):62-9,2016.
- 004 **Shitara K, Muro K, Shimada Y, Hironaka S, Sugimoto N, Komatsu Y, Nishina T, Yamaguchi K, Segawa Y, Omuro Y, Tamura T, Doi T, Yukisawa S, Yasui H, Nagashima F, Gotoh M, Esaki T, Emig M, Chandrawansa K, Liepa AM, Wilke H, Ichimiya Y, Ohtsu A** : Subgroup analyses of the safety and efficacy of ramucirumab in Japanese and Western patients in RAINBOW: a randomized clinical trial in second-line treatment of gastric cancer. *Gastric Cancer* 19(3):927-38, 2016.
- 005 **Bando H, Doi T, Muro K, Yasui H, Nishina T, Yamaguchi K, Takahashi S, Nomura S, Kuno H, Shitara K, Sato A, Ohtsu A** : A multicenter phase II study of TAS-102 monotherapy in patients with pre-treated advanced gastric cancer (EPOC1201). *Eur J Cancer* 62:46-53,2016.
- 006 **Raizer JJ, Chandler JP, Ferrarese R, Grimm SA, Levy RM, Muro K, Rosenow J, Helenowski I, Rademaker A, Paton M, Bredel M** : A phase II trial evaluating the effects and intra-tumoral penetration of bortezomib in patients with recurrent malignant gliomas. *J Neurooncol* 129(1):139-46,2016.
- 007 **Yamazaki K, Nagase M, Tamagawa H, Ueda S, Tamura T, Murata K, Eguchi Nakajima T, Baba E, Tsuda M, Moriwaki T, Esaki T, Tsuji Y, Muro K, Taira K, Denda T, Funai S, Shinozaki K, Yamashita H, Sugimoto N, Okuno T, Nishina T, Umeki M, Kurimoto T, Takayama T, Tsuji A, Yoshida M, Hosokawa A, Shibata Y, Suyama K, Okabe M, Suzuki K, Seki N, Kawakami K, Sato M, Fujikawa K, Hirashima T, Shimura T, Taku K, Otsuji T, Tamura F, Shinozaki E, Nakashima K, Hara H, Tsushima T, Ando M, Morita S, Boku N, Hyodo I** : Randomized phase III study of bevacizumab plus FOLFIRI and bevacizumab plus mFOLFOX 6 as first-line treatment for patients with metastatic colorectal cancer (WJOG4407G). *Ann Oncol* 27(8):1539-46,2016.
- 008 **Van Cutsem E, Cervantes A, Adam R, Sobrero A, Van Krieken JH, Aderka D, Aranda Aguilar E, Bardelli A, Benson A, Bodoky G, Ciardiello F, D'Hoore A, Diaz-Rubio E, Douillard JY, Ducreux M, Falcone A, Grothey A, Gruenberger T, Haustermans K, Heinemann V, Hoff P, Köhne CH, Labianca R, Laurent-Puig P, Ma B, Maughan T, Muro K, Normanno N, Österlund P, Oyen WJ, Papamichael D, Pentheroudakis G, Pfeiffer P, Price TJ, Punt C, Ricke J, Roth A, Salazar R, Scheithauer W, Schmoll HJ, Tabernero J, Taïeb J, Tejpar S, Wasan H, Yoshino T, Zaanan A, Arnold D** : ESMO consensus guidelines for the management of patients with metastatic colorectal cancer. *Ann Oncol* 27(8):1386-422,2016.
- 009 **Yamanaka T, Oki E, Yamazaki K, Yamaguchi K, Muro K, Uetake H, Sato T, Nishina T, Ikeda M, Kato T, Kanazawa A, Kusumoto T, Chao C, Lopatin M, Krishnakumar J, Bailey H, Akagi K, Ochiai A, Ohtsu A, Ohashi Y, Yoshino T** : 12-Gene Recurrence Score Assay Stratifies the Recurrence Risk in Stage II/III Colon Cancer With Surgery Alone: The SUNRISE Study. *J Clin Oncol* 34(24):2906-13,2016.
- 010 **Maeda A, Ura T, Asano C, Haegawa I, Nomura M, Komori A, Narita Y, Taniguchi H, Kadowaki S, Muro K, Horio Y, Yoshida T, Oze I, Kajita M, Mizutani A** : A phase II trial of prophylactic olanzapine combined with palonosetron and dexamethasone for preventing nausea and vomiting induced by cisplatin. *Asia Pac J Clin Oncol* 12(3):254-8,2016.
- 011 **Nishina T, Moriwaki T, Shimada M, Higashijima J, Sakai Y, Masuishi T, Ozeki M, Amagai K, Negoro Y, Indo S, Denda T, Sato M, Yamamoto Y, Nakajima G, Mizuta M, Takahashi I, Hiroshima Y, Ishida H, Maeba T, Hyodo I**. *Uracil-Tegafur and Oral Leucovorin Combined With Bevacizumab in Elderly Patients (Aged ≥ 75 Years) With Metastatic Colorectal Cancer* : A Multicenter, Phase II Trial (Joint Study of Bevacizumab, Oral Leucovorin, and Uracil-Tegafur in Elderly Patients [J-BLUE] Study). *Clin Colorectal Cancer* 15(3):236-42,2016.
- 012 **Koide Y, Kimura K, Yoshida M, Ito M, Makita C, Tomita N, Tachibana H, Kodaira T, Abe T, Muro K, Tajika M, Niwa Y** : Clinical Outcome of Definitive Radiation Therapy for Superficial Esophageal Cancer. *Int J Radiat Oncol Biol Phys* 96(2S):E139-E140,2016.
- 013 **Ito M, Koide Y, Yoshida M, Kimura K, Makita C, Tomita N, Tachibana H, Kodaira T, Tajika M, Niwa**

- Y, Abe T, Hasegawa Y, Muro K* : Clinical Results of Definitive Chemoradiation Therapy for Cervical Esophageal Cancer: Comparison of Failure Pattern and Toxicities Between Intensity Modulated Radiation Therapy and 3-Dimensional Chemoradiation Therapy Group. *Int J Radiat Oncol Biol Phys* 96(2S):E145-E146, 2016.
- 014 *Nomura M, Oze I, Kodaira T, Abe T, Komori A, Narita Y, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Andoh M, Tachibana H, Uemura N, Tajika M, Niwa Y, Muto M, Muro K* : Comparison between surgery and definitive chemoradiotherapy for patients with resectable esophageal squamous cell carcinoma: a propensity score analysis. *Int J Clin Oncol* 21(5):890-898,2016.
- 015 *Yoshino T, Uetake H, Fujita N, Furuta T, Katori J, Hara N, Muro K* : TAS-102 Safety in Metastatic Colorectal Cancer: Results From the First Postmarketing Surveillance Study. *Clin Colorectal Cancer* 15(4):e205-e211,2016.
- 016 *Okusaka T, Otsuka T, Ueno H, Mitsunaga S, Sugimoto R, Muro K, Saito I, Tadayasu Y, Inoue K, Loembé AB, Ikeda M* : Phase I study of nintedanib in Japanese patients with advanced hepatocellular carcinoma and liver impairment. *Cancer Sci* 107(12):1791-1799,2016.
- 017 *Shitara K, Yonesaka K, Denda T, Yamazaki K, Moriwaki T, Tsuda M, Takano T, Okuda H, Nishina T, Sakai K, Nishio K, Tokunaga S, Yamanaka T, Boku N, Hyodo I, Muro K* : A Randomized Study of FOLFIRI plus either Panitumumab or Bevacizumab for Wild-Type KRAS Colorectal Cancer-WJOG 6210G. *Cancer Sci* 107(12):1843-1850,2016.
- 018 *Nomura M, Iwasa S, Tsushima T, Kato K, Yasui H, Boku N, Muto M, Muro K* : Active salvage chemotherapy versus best supportive care for patients with recurrent or metastatic squamous cell carcinoma of the esophagus refractory or intolerable to fluorouracil, platinum, and taxane. *Cancer Chemother Pharmacol* 78(6):1209-1216,2016.
- 019 *Kotaka M, Xu R, Muro K, Park YS, Morita S, Iwasa S, Uetake H, Nishina T, Nozawa H, Matsumoto H, Yamazaki K, Han SW, Wang W, Ahn JB, Deng Y, Cho SH, Ba Y, Lee KW, Zhang T, Satoh T, Buyse ME, Ryoo BY, Shen L, Sakamoto J, Kim TW* : Study protocol of the Asian XELIRI Project (AXEPT): a multinational, randomized, non-inferiority, phase III trial of second-line chemotherapy for metastatic colorectal cancer, comparing the efficacy and safety of XELIRI with or without bevacizumab versus FOLFIRI with or without bevacizumab. *Chin J Cancer* 35(1):102,2016.
- 020 *Hasegawa H, Taniguchi H, Mitani S, Masuishi T, Komori A, Narita Y, Kadowaki S, Ura T, Ando M, Yatabe Y, Muro K* : Efficacy of Second-Line Bevacizumab-Containing Chemotherapy for Patients with Metastatic Colorectal Cancer following First-Line Treatment with an Anti-Epidermal Growth Factor Receptor Antibody. *Oncology* 92(4):205-212,2017.
- 021 *Sugiyama K, Narita Y, Kadowaki S, Ura T, Tajika M, Muro K* : Platinum-based Doublet Chemotherapy for Advanced Gastric Cancer with Disseminated Intravascular Coagulation. *Anticancer Res* 37(1):309-313,2017.
- 022 *Nishikawa K, Takahashi T, Takaishi H, Miki A, Noshiro H, Yoshikawa T, Nishida Y, Iwasa S, Miwa H, Masuishi T, Boku N, Yamada Y, Kodera Y, Yoshida K, Morita S, Sakamoto J, Saji S, Kitagawa Y* : Phase II study of the effectiveness and safety of trastuzumab and paclitaxel for taxane- and trastuzumab-naïve patients with HER2-positive, previously treated, advanced, or recurrent gastric cancer (JFMC45-1102). *Int J Cancer* 140(1):188-196,2017.
- 023 *Narita Y, Muro K* : Challenges in molecular targeted therapy for gastric cancer: considerations for efficacy and safety. *Expert Opin Drug Saf* 16(3):319-327,2017.
- 024 *Baba H, Yamada Y, Takahari D, Matsumoto H, Yoshida K, Nakamura M, Yoshida M, Iwamoto S, Shimada K, Komatsu Y, Sasaki Y, Satoh T, Takahashi K, Mishima H, Muro K, Watanabe M, Sakata Y, Morita S, Shimada Y, Sugihara K* : S-1 and oxaliplatin (SOX) plus bevacizumab versus mFOLFOX 6 plus bevacizumab as first-line treatment for patients with metastatic colorectal cancer: updated overall survival analyses of the open-label, non-inferiority, randomised phase III: SOFT study. *ESMO Open* 2:1-8,2017.
- 025 *Hamauchi S, Yamazaki K, Masuishi T, Kito Y, Komori A, Tsushima T, Narita Y, Todaka A, Ishihara M, Yokota T, Tanaka T, Machida N, Kadowaki S, Fukutomi A, Ura T, Onozawa Y, Ando M, Tajika M, Muro K, Yasui H, Mori K, Taniguchi H* : Neutropenia as a Predictive Factor in Metastatic Colorectal Cancer Treated With TAS-102. *Clin Colorectal Cancer* 16(1):51-57,2017.
- 026 三谷誠一郎, 門脇重憲 : ①大量腹水を有する胃がんに対する薬物療法 Strategy② 第7章臨床力を鍛えるCase Study. うまく続ける! 消化器がん薬物療法の基本とコツ : 249-251,2016.
- 027 成田有季哉, 高張大亮 : ①高齢者大腸がんに対する薬物療法 症例提示 第7章臨床力を鍛えるCase Study. うまく続ける! 消化器がん薬物療法の基本とコツ : 257-258,2016.
- 028 室 圭 : 抗PD-1抗体pembrolizumabの国際共同第Ib相臨床試験(KEYNOTE-012). 胃がんperspective : 67-68,2016.
- 029 舩石俊樹, 室 圭 : [Current Progress and Feasibility of Using Molecular-Targeted Agent Combinations for



- Metastatic Colorectal Cancer]. 癌と化学療法,43(4):408-12,2016.
- 030 三谷誠一郎, 谷口浩也: 大腸がんに対する免疫チェックポイント阻害薬の可能性. 腫瘍内科,17(5):480-484,2016.
- 031 長谷川裕子, 門脇重憲: バイオマーカーにより選択した胃癌患者に対する臨床試験の動向. 腫瘍内科,17(5):485-492, 2016.
- 032 室 圭, 谷口浩也: 大腸癌における免疫機構とImmune Checkpoint阻害薬の可能性について. 大腸がんperspective, 3(1):10-17,2016.
- 033 室 圭: 胃癌治療ガイドラインを根本的に見直したい(インタビュー). 日経メディカルCR,2016.6:6-9,2016.
- 034 室 圭: 大腸癌化学療法における制吐療法(総説). 癌化学療法と制吐薬使用マニュアル:36-43,2016.
- 035 谷口浩也, 室 圭: 大腸がん・メラノーマに対するMAPKシグナル阻害剤を用いた併用療法. 腫瘍内科,18(1):13-18,2016.
- 036 室 圭: 免疫チェックポイント阻害薬の基礎知識(インタビュー). GC Expert, 4:17-20,2016.
- 037 室 圭: 消化管がん(食道・胃がん)における免疫チェックポイント阻害薬の可能性(特集:抗PD-1抗体の基礎と臨床). 癌と化学療法,43(9):1041-1047,2016.
- 038 室 圭: 進行再発大腸癌updatedガイドライン. Pharma Medica,34(12):33-38,2016.
- 039 杉山圭司, 成田有季哉, 室 圭: 胃癌(State of the art reviews and future perspectives/Theme●新しい分子標的). がん分子標的治療,14(4):28-34,2016.
- 040 三谷誠一郎, 室 圭: 消化器がん(胃がん, 大腸がんなど)に対する免疫チェックポイント阻害薬. 腫瘍内科,19(1):64-69,2017.
- 041 三谷誠一郎, 室 圭: 1. 概説(Ⅲ臨床試験から見た切除不能大腸癌化学療法). 大腸疾患NOW2017-2018:56,2017.
- 042 三谷誠一郎, 室 圭: 4. 二次治療におけるFOLFIRI療法vs. IRIS療法(Ⅲ臨床試験から見た切除不能大腸癌化学療法). 大腸疾患NOW2017-2018:69-73,2017.
- 043 成田有季哉, 室 圭: 消化器がんに対する治療(特集:がん免疫療法Ⅱ各論 免疫チェックポイント阻害薬). 日本臨床 75(2):229-233,2017.
- 044 舛石俊樹, 室 圭: 消化器系がんに対する免疫チェックポイント阻害療法(特集:がん免疫療法の最新動向-免疫チェックポイント阻害剤の将来展望). CURRENT THERAPY,35(2):38-44,2017.
- 045 舛石俊樹, 室 圭: 大腸癌治療ガイドライン—化学療法・放射線療法—(消化器腫瘍性疾患治療ガイドラインのポイント～大腸癌～). 成人病と生活習慣病 47(2):東京医学社, 2017.

臨床検査部・遺伝子病理診断部

- 001 Camargo MC, Kim KM, Matsuo K, Torres J, Liao LM, Morgan DR, Michel A, Waterboer T, Zabaleta J,

- Dominguez RL, Yatabe Y, Kim S, Rocha-Guevara ER, Lissowska J, Pawlita M, Rabkin CS: Anti-Helicobacter pylori Antibody Profiles in Epstein-Barr virus (EBV)-Positive and EBV-Negative Gastric Cancer. Helicobacter,21(2):153-7,2016.
- 002 Hosono S, Ito H, Oze I, Watanabe M, Komori K, Yatabe Y, Shimizu Y, Tanaka H, Matsuo K: A risk prediction model for colorectal cancer using genome-wide association study-identified polymorphisms and established risk factors among Japanese: results from two independent case-control studies. Eur J Cancer Pre,25(6):500-7,2016.
- 003 Fujita S, Masago K, Katakami N, Yatabe Y: Transformation to SCLC after Treatment with the ALK Inhibitor Alectinib. J Thorac Oncol,11(6):e67-72,2016.
- 004 Hijioka S, Hara K, Mizuno N, Imaoka H, Bhatia V, Mekky MA, Yoshimura K, Yoshida T, Okuno N, Hieda N, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yatabe Y, Shimizu Y, Niwa Y, Yamao K: Diagnostic performance and factors influencing the accuracy of EUS-FNA of pancreatic neuroendocrine neoplasms. J Gastroenterol, 51(9):923-30,2016.
- 005 Sholl LM, Aisner DL, Allen TC, Beasley MB, Borczuk AC, Cagle PT, Capelozzi V, Dacic S, Hariri L, Kerr KM, Lantuejoul S, Mino-Kenudson M, Raparia K, Rekhtman N, Roy-Chowdhuri S, Thunnissen E, Tsao MS, Yatabe: Programmed Death Ligand-1 Immunohistochemistry--A New Challenge for Pathologists: A Perspective From Members of the Pulmonary Pathology Society. Arch Pathol Lab Med,140(4):341-4,2016.
- 006 Kawakita D, Oze I, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Yatabe Y, Hasegawa Y, Murakami S, Tanaka H, Matsuo K: Prognostic Value of Drinking Status and Aldehyde Dehydrogenase 2 Polymorphism in Patients With Head and Neck Squamous Cell Carcinoma. J Epidemiol, 5:26(6):292-9,2016.
- 007 Guerini-Rocco E, Piscuoglio S, Ng CK, Geyer FC, De Filippo MR, Eberle CA, Akram M, Fusco N, Ichihara S, Sakr RA, Yatabe Y, Vincent-Salomon A, Rakha EA, Ellis IO, Wen YH, Weigelt B, Schnitt SJ, Reis-Filho JS: Microglandular adenosis associated with triple-negative breast cancer is a neoplastic lesion of triple-negative phenotype harbouring TP53 somatic mutations. J Pathol,238(5):677-88,2016.
- 008 Yoshida T, Hida T, Yatabe Y: Rapid and dramatic response to alectinib in an anaplastic lymphoma kinase rearranged non-small-cell lung cancer patient who is critically ill. Anticancer Drugs,27(6):573-5,2016.
- 009 Hasegawa T, Kondo C, Sato Y, Inaba Y, Yamaura H, Kato M, Murata S, Onoda Y, Kuroda H, Sakao Y, Yatabe Y: Diagnostic Ability of Percutaneous Needle

- Biopsy Immediately After Radiofrequency Ablation for Malignant Lung Tumors: An Initial Experience. *Cardiovasc Intervent Radiol*, 39(8):1187-92,2016.
- 010 **Sakakura N, Inaba Y, Yatabe Y, Mizuno T, Kuroda H, Yoshimura K, Sakao Y** : Estimation of the pathological invasive size of pulmonary adenocarcinoma using high-resolution computed tomography of the chest: A consideration based on lung and mediastinal window settings. *Lung Cancer*,95:51-6,2016.
- 011 **Roy-Chowdhuri S, Aisner DL, Allen TC, Beasley MB, Borczuk A, Cagle PT, Capelozzi V, Dacic S, da Cunha Santos G, Hariri LP, Kerr KM, Lantuejoul S, Mino-Kenudson M, Moreira A, Raparia K, Rekhman N, Sholl L, Thunnissen E, Tsao MS, Vivero M, Yatabe Y** : Biomarker Testing in Lung Carcinoma Cytology Specimens: A Perspective From Members of the Pulmonary Pathology Society. *Arch Pathol Lab Med*, Epub ahead of print,2016.
- 012 **Travis WD, Asamura H, Bankier AA, Beasley MB, Detterbeck F, Flieder DB, Goo JM, MacMahon H, Naidich D, Nicholson AG, Powell CA, Prokop M, Rami-Porta R, Rusch V, van Schil P, Yatabe Y** : The IASLC Lung Cancer Staging Project: Proposals for Coding T Categories for Subsolid Nodules and Assessment of Tumor Size in Part-Solid Tumors in the Forthcoming Eighth Edition of the TNM Classification of Lung Cancer. *J Thorac Oncol*,11(8):1204-23,2016.
- 013 **Kuroda H, Sakao Y, Mun M, Motoi N, Ishikawa Y, Nakagawa K, Yatabe Y, Okumura S** : Therapeutic value of lymph node dissection for right middle lobe non-small-cell lung cancer. *J Thorac Dis*, 8(5):795-802,2016.
- 014 **Ito K, Hataji O, Katsuta K, Kobayashi T, Gabazza EC, Yatabe Y, Taguchi O, Yamamoto N** : "Pseudoprogression" of Pulmonary Pleomorphic Carcinoma during Nivolumab Therapy. *J Thorac Oncol*,11(10):e117-9,2016.
- 015 **Sholl LM, Aisner DL, Allen TC, Beasley MB, Cagle PT, Capelozzi VL, Dacic S, Hariri LP, Kerr KM, Lantuejoul S, Mino-Kenudson M, Raparia K, Rekhman N, Roy-Chowdhuri S, Thunnissen E, Tsao M, Vivero M, Yatabe Y** : Liquid Biopsy in Lung Cancer: A Perspective From Members of the Pulmonary Pathology Society. *Arch Pathol Lab Med*,140(8):825-9, 2016.
- 016 **Hida T, Oya Y, Tanaka K, Yoshida T, Shimizu J, Horio Y, Yatabe Y, Itoh T, Shin W** : 12P Volatolomic signatures of anaplastic lymphoma kinase gene rearrangement in adenocarcinoma. *J Thorac Oncol*,11(4 Suppl),2016.
- 017 **Murakami S, Kato H, Higuchi Y, Yamamoto K, Yamamoto H, Saito T, Taji H, Yatabe Y, Nakamura S, Kinoshita T** : Prediction of high risk for death in patients with follicular lymphoma receiving rituximab plus cyclophosphamide, doxorubicin, vincristine, and prednisolone in first-line chemotherapy. *Ann Hematol*, 95(8):1259-69,2016.
- 018 **Kato H, Yamamoto K, Higuchi Y, Yamamoto H, Saito T, Taji H, Yatabe Y, Nakamura S, Kinoshita T** : Anti-CCR 4 Monoclonal Antibody Mogamulizumab Followed by the GDP (Gemcitabine, Dexamethasone and Cisplatin) Regimen in Primary Refractory Angioimmunoblastic T-Cell Lymphoma. *Chemotherapy*,62(1):19-22,2016.
- 019 **Tan DS, Yom SS, Tsao MS, Pass HI, Kelly K, Peled N, Yung RC, Wistuba II, Yatabe Y, Unger M, Mack PC, Wynes MW, Mitsudomi T, Weder W, Yankelevitz D, Herbst RS, Gandara DR, Carbone DP, Bunn PA Jr, Mok TS, Hirsch FR** : The International Association for the Study of Lung Cancer Consensus Statement on Optimizing Management of EGFR Mutation-Positive Non-Small Cell Lung Cancer : Status in 2016. *J Thorac Oncol*, 11(7):946-63,2016.
- 020 **Wang YW, Ma X, Zhang YA, Wang MJ, Yatabe Y, Lam S, Girard L, Chen JY, Gazdar AF** : ITPKA Gene Body Methylation Regulates Gene Expression and Serves as an Early Diagnostic Marker in Lung and Other Cancers. *J Thorac Oncol*,11(9):1469-81,2016.
- 021 **Yoshida T, Oya Y, Tanaka K, Shimizu J, Horio Y, Kuroda H, Sakao Y, Hida T, Yatabe Y** : Clinical impact of crizotinib on central nervous system progression in ALK-positive non-small lung cancer. *Lung Cancer*,97:43-7, 2016.
- 022 **Yoshida T, Oya Y, Tanaka K, Shimizu J, Horio Y, Kuroda H, Sakao Y, Hida T, Yatabe Y** : Differential Crizotinib Response Duration Among ALK Fusion Variants in ALK-Positive Non-Small-Cell Lung Cancer. *J Clin Oncol*, 1;34(28):3383-9,2016.
- 023 **Mizuno T, Yatabe Y, Kuroda H, Sakakura N, Sakao Y** : Impact of the oncogenic status on the mode of recurrence in resected non-small cell lung cancer. *Jpn J Clin Oncol*,46(10):928-934,2016.
- 024 **Miura K, Hirakawa H, Uemura H, Yoshimoto S, Shiotani A, Sugawara M, Homma A, Yokoyama J, Tsukahara K, Yoshizaki T, Yatabe Y, Matsuo K, Ohkura Y, Kosuda S, Hasegawa Y** : Sentinel node biopsy for oral cancer: A prospective multicenter Phase II trial. *Auris Nasus Larynx*,44(3):319-326,2016.
- 025 **Park J, Kobayashi Y, Urayama KY, Yamaura H, Yatabe Y, Hida T** : Imaging Characteristics of Driver Mutations in EGFR, KRAS, and ALK among Treatment-Naïve Patients with Advanced Lung Adenocarcinoma. *PLoS One*,12;11(8):e0161081,2016.
- 026 **Hisada T, Sawaki M, Ishiguro J, Adachi Y, Kotani H, Yoshimura A, Hattori M, Yatabe Y, Iwata H** : Impact of intraoperative specimen mammography on margins in

- breast-conserving surgery. *Mol Clin Oncol*,5(3):269-272,2016.
- 027 **Yoshida T, Tanaka H, Kuroda H, Shimizu J, Horio Y, Sakao Y, Inaba Y, Iwata H, Hida T, Yatabe Y** : Standardized uptake value on (18)F-FDG-PET/CT is a predictor of EGFR T790M mutation status in patients with acquired resistance to EGFR-TKIs. *Lung Cancer*,100:14-9,2016.
- 028 **Roden AC, Aisner DL, Allen TC, Aubry MC, Barrios RJ, Beasley MB, Cagle PT, Capelozzi VL, Dacic S, Ge Y, Hariri LP, Lantuejoul S, Miller RA, Mino-Kenudson M, Moreira AL, Raparia K, Rekhtman N, Sholl L, Smith ML, Tsao MS, Vivero M, Yatabe Y** : Diagnosis of Acute Cellular Rejection and Antibody-Mediated Rejection on Lung Transplant Biopsies: A Perspective From Members of the Pulmonary Pathology Society. *Arch Pathol Lab Med*,141(3):437-444,2016.
- 029 **Oze I, Shimada S, Nagasaki H, Akiyama Y, Watanabe M, Yatabe Y, Matsuo K, Yuasa Y** : Plasma microRNA-103, microRNA-107, and microRNA-194 levels are not biomarkers for human diffuse gastric cancer. *J Cancer Res Clin Oncol*,143(3):551-554,2016.
- 030 **Thunnissen E, Borczuk AC, Flieder DB, Witte B, Beasley MB, Chung JH, Dacic S, Lantuejoul S, Russell PA, den Bakker M, Botling J, Brambilla E, de Cuba E, Geisinger KR, Hiroshima K, Marchevsky AM, Minami Y, Moreira A, Nicholson AG, Yoshida A, Tsao MS, Warth A, Duhig E, Chen G, Matsuno Y, Travis WD, Butnor K, Cooper W, Mino-Kenudson M, Motoi N, Poleri C, Pelosi G, Kerr K, Aisner SC, Ishikawa Y, Buettner RH, Keino N, Yatabe Y, Noguchi M** : The Use of Immunohistochemistry Improves the Diagnosis of Small Cell Lung Cancer and Its Differential Diagnosis. An International Reproducibility Study in a Demanding Set of Cases. *J Thorac Oncol*,12(2):334-346,2016.
- 031 木下敬史, 小森康司, 木村賢哉, 岩田至紀, 清水泰博, 谷田部 恭 : S状結腸原発悪性黒色腫の1例. *臨床外科*,71(4):496-499,2017.
- 032 谷田部 恭 : 【肺癌II】腺扁平上皮癌の診断(切除組織). *病理と臨床*,34(4):351-35,2016.
- 033 藤田奈央, 植田菜々絵, 太田裕子, 青山千得子, 谷田部 恭 : 新WHO肺癌分類における改訂点 細胞診断にかかわる部分を中心に. *検査と技術*,44(6):458-461,2016.
- 034 谷田部 恭 : 【癌の分子病理学 病理診断から治療標的探索まで】(第3部)癌の分子病理診断の現状と将来 肺癌(EGFR、ALK). *病理と臨床*,34(臨増):287-290,2016.
- 035 森 俊輔, 谷田部 恭 : 個別化医療の推進 リキッドバイオプシー 将来展望と課題 肺癌におけるリキッドバイオプシーの応用. *臨床病理*,64(4):407-411,2016.
- 036 小谷はるる, 服部正也, 瀧 由美子, 水野愛弓, 安立弥生, 久田知可, 石黒淳子, 吉村章代, 澤木正孝, 谷田部 恭, 岩田広治 : 原発性乳癌におけるアンドロゲンレセプター発現についての検討. *乳癌の臨床*,31(3):215-221,2016.
- 037 谷田部 恭 : 悪性腫瘍に対する分子標的治療薬 現状と今後(第2回) 肺癌領域のコンパニオン診断. *病理と臨床*,34(5):523-527,2016.
- 038 景山拓海, 小倉友二, 兵藤伊久夫, 谷田部 恭, 曾我倫久人 : 陰嚢内脂肪肉腫の1例. *泌尿器科紀要*,62(9):495-500,2016.
- 039 谷田部 恭, 安藤正志 : 【原発不明がんの病理診断】【原発不明がんの診断】 原発不明がんにおける病理診断の基本的考え方. *病理と臨床*,35(2):129-136,2017.
- 040 谷田部 恭 : 【呼吸器病学TOPICS 2016-17】腫瘍免疫チェックポイント阻害薬におけるPD-L1免疫染色開発の現状. *分子呼吸器病*,21(1):45-47,2017.

#### 頭頸部外科部

- 001 **Hirokawa M, Sugitani I, Kakudo K, Sakamoto A, Higashiyama T, Sugino K, Toda K, Ogasawara S, Yoshimoto S, Hasegawa Y, Imai T, Onoda N, Orita Y, Kammori M** : Histopathological analysis of anaplastic thyroid carcinoma cases with long-term survival: A report from the anaplastic thyroid carcinoma research consortium of Japan. *Endocrine Journal*,63(5):441-447,2016.
- 002 **Hirakawa H, Hanai N, Ozawa T, Suzuki H, Nishikawa D, Matayoshi S, Suzuki M, Hasegawa Y** : Prognostic impact of pathological response to neoadjuvant chemotherapy followed by definitive surgery in sinonasal squamous cell carcinoma. *Head Neck*,38 Suppl 1 :E1305-11,2016.
- 003 **Fukuda Y, Suzuki H, Hanai N, Hirakawa H, Ozawa T, Sasak E, Yatabe Y, Yamashita H, Hasegawa Y** : Prediction of Positive Surgical Margins in Sinonasal Tract Squamous Cell Carcinoma. *Arch Otolaryngol Rhinol*,2(1):056-060,2016.
- 004 **Homma A, Hayashi R, Kawabata K, Fujii T, Iwae S, Hasegawa Y, Nibu K, Kato T, Shiga K, Matsuura K, Monden N, Fujii M** : Association of impaired renal function and poor prognosis in oropharyngeal squamous cell carcinoma. *Head Neck*,38(10):1495-500,2016.
- 005 **Suzuki H, Hanai N, Nishikawa D, Fukuda Y, Koide Y, Kodaira T, Tachibana H, Tomita N, Makita C, Hasegawa Y** : The Charlson comorbidity index is a prognostic factor in sinonasal tract squamous cell carcinoma. *Jpn J Clin Oncol*,46(7):646-51,2016.
- 006 **Suzuki H, Nishio M, Nakanishi H, Hanai N, Hirakawa H, Kodaira T, Tamaki T, Hasegawa Y** : Impact of total lesion glycolysis measured by 18F-FDG-PET/CT for overall survival and distant metastasis in hypopharyngeal cancer. *Oncology Letters*,12(2):1493-1500,2016.



- 007 *Suzuki H, Matoba T, Hanai N, Nishikawa D, Fukuda Y, Koide Y, Hasegawa Y* : Lymph node ratio predicts survival in hypopharyngeal cancer with positive lymph node metastasis. *Eur Arch Otorhinolaryngol*,273(12):4595-4600,2016.
- 008 *Zenda S, Kojima T, Kato K, Izumi S, Ozawa T, Kiyota N, Katada C, Tsushima T, Ito Y, Akimoto T, Hasegawa Y, Kanamaru M, Daiko H* : Multicenter Phase 2 Study of Cisplatin and 5-Fluorouracil With Concurrent Radiation Therapy as an Organ Preservation Approach in Patients With Squamous Cell Carcinoma of the Cervical Esophagus. *Int J Radiat Oncol Biol Phys*, 96(5):976-984,2016.
- 009 *Nakata Y, Ijichi K, Hanai N, Nishikawa D, Suzuki H, Hirakawa H, Kodaira T, Fujimoto Y, Fujii T, Miyazaki T, Shimizu T, Hasegawa Y* : Treatment results of alternating chemoradiotherapy with early assessment for advanced laryngeal cancer: A multi-institutional phase II study. *Auris Nasus Larynx*,44(1):104-110,2017.
- 010 加藤広行, 宮崎達也, 松塚 崇, 藤井博文, 鈴木秀典, 秋元哲夫, 長谷川泰久 : 気管食道領域の重複癌治療 : ケースカンファレンス. *日気食会報*,67(2):145-153,2016.
- 011 花井信広 : 頭頸部外科領域におけるエナジーデバイス. *専門医通信*,119-1328,2016.
- 012 花井信広 : 特集 頸部郭清術のNew Concept《手術手技》上 縦隔郭清. *耳鼻咽喉科・頭頸部外科*,88(11):858-866,2016.
- 013 本間明宏, 水町貴論, 花井信広, 西川大輔 : 米国における Transoral Robotic Surgery (TORS) の 現 況 ~ 2nd International TransOral Robotic Surgery (TORS) Conferenceに参加して日気食会報,67(4):319-319,2016.
- 014 古江浩樹, 山本憲幸, 西川雅也, 萩原純孝, 日比英晴 : 妊娠中に増悪した舌動脈奇形の1例. *日本口腔外科学会雑誌*,62(7):330-335,2016.
- 015 松塚 崇, 長谷川泰久 : 耳鼻咽喉科医療最前線 第78回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会シンポジウム要旨 4. 口腔癌におけるセンチネルリンパ節ナビゲーション手術. *耳鼻臨床*,109(12):826-827,2016.
- 016 寺田星乃, 花井信広 : 頭頸部癌治療効果判定. *JOHNS*,32(10):1494-1498,2016.
- 017 花井信広, 的場拓磨, 鈴木秀典, 西川大輔, 福田裕次郎, 長谷川泰久 : 導入化学療法を行った下咽頭癌の治療成績. *耳鼻と臨床*,62(補1):S51-S57,S70-S72,2016.
- 018 西川大輔 : 【がんの栄養管理と栄養指導エキスパートガイド】 進行・再発がん治療時の栄養管理 頭頸部癌の放射線治療と栄養管理. *臨床栄養*,129(4):500-506,2016.
- 019 花井信広 : VI. ガイドラインによる臓器別頭頸部癌の診断・治療 : 概論 喉頭癌. *日本臨床, 増刊号 頭頸部癌学*,75(Suppl 2):218-222,2017.
- 020 長谷川泰久 : VIII. 頭頸部癌の治療 頭頸部癌の外科治療 頸部郭清術式の変遷と今後の展望. *日本臨床, 増刊号 頭頸部癌学*,75(Suppl 2):412-415,2017.
- 021 西川大輔, 花井信広, 鈴木秀典, 福田裕次郎, 小出悠介, 寺田星乃, 高野 学, 小栗恵介, 長谷川泰久 : 当科における分化型甲状腺癌喉頭気管浸潤例の検討. *頭頸部外科*,26(3):347-351,2017.
- 022 長谷川泰久 : 愛知県がんセンター頸部郭清術. *金芳堂, 京都*, 1-136,2016.
- 023 花井信広 : 臨床頭頸部癌学 第Ⅲ章 治療 2. 外科治療 5)下咽頭. *南江堂, 東京*,127-130,2017.

#### 形成外科部

- 001 *Kohyama K, Hyodo I, Hasegawa Y, Fuwa N, Kato H* : Selection of recipient vessels for free flap following intra-arterial chemoradiotherapy. *J Plast Reconstr Aesthet Surg*,70(1):25-30,2017.
- 002 兵藤伊久夫 : 頭頸部癌の治療 頭頸部癌の外科治療 頭頸部癌の外科治療(低侵襲・機能保存)口腔癌 口腔癌切除後の舌・口腔底の再建法 *日本臨床 75巻増刊 2 頭頸部癌学*,309-312,2017.

#### 呼吸器外科部

- 001 *Shiono S, Okumura T, Boku N, Hishida T, Ohde Y, Sakao Y, Yoshiya K, Hyodo I, Mori K, Kondo H* : Outcomes of segmentectomy and wedge resection for pulmonary metastases from colorectal cancer. *Eur J Cardiothorac Surg*,51(3):504-510,2017
- 002 *Maniwa T, Mori K, Ohde Y, Okumura T, Boku N, Hishida T, Sakao Y, Yoshiya K, Hyodo I, Kondo H* : Heterogeneity of Tumor Sizes in Multiple Pulmonary Metastases of Colorectal Cancer as a Prognostic Factor. *Ann Thorac Surg*,103(1):254-260,2017.
- 003 *Hishida T, Tsuboi M, Okumura T, Boku N, Ohde Y, Sakao Y, Yoshiya K, Hyodo I, Mori K, Kondo H* : Does Repeated Lung Resection Provide Long-Term Survival for Recurrent Pulmonary Metastases of Colorectal Cancer? Results of a Retrospective Japanese Multicenter Study. *Ann Thorac Surg*,103(2):399-405,2016.
- 004 *Yoshida T, Tanaka H, Kuroda H, Shimizu J, Horio Y, Sakao Y, Inaba Y, Iwata H, Hida T, Yatabe Y* : Standardized uptake value on(18)F-FDG-PET/CT is a predictor of EGFR T790M mutation status in patients with acquired resistance to EGFR-TKIs. *Lung Cancer*,100:14-19,2016.
- 005 *Yoshida T, Oya Y, Tanaka K, Shimizu J, Horio Y, Kuroda H, Sakao Y, Hida T, Yatabe Y* : Differential Crizotinib Response Duration Among ALK Fusion Variants in ALK-Positive Non-Small-Cell Lung Cancer. *J Clin Oncol*, 1 :34(28):3383-9,2016.
- 006 *Yoshida T, Oya Y, Tanaka K, Shimizu J, Horio Y,*

- Kuroda H, Sakao Y, Hida T, Yatabe Y* : Clinical impact of crizotinib on central nervous system progression in ALK-positive non-small lung cancer. *Lung Cancer*,97:43-7, 2016.
- 007 *Hasegawa T, Kondo C, Sato Y, Inaba Y, Yamaura H, Kato M, Murata S, Onoda Y, Kuroda H, Sakao Y, Yatabe Y* : Diagnostic Ability of Percutaneous Needle Biopsy Immediately After Radiofrequency Ablation for Malignant Lung Tumors: An Initial Experience. *Cardiovasc Intervent Radiol*,39(8):1187-92,2016.
- 008 *Sakakura N, Inaba Y, Yatabe Y, Mizuno T, Kuroda H, Yoshimura K, Sakao* : Estimation of the pathological invasive size of pulmonary adenocarcinoma using igh-resolution computed tomography of the chest: A consideration based on lung and mediastinal window settings. *Lung Cancer*,95:51-6,2016.
- 009 *Sakakura N, Mizuno T, Kuroda H, Sakao Y, Uchida T* : Surgical treatment of empyema after pulmonary resection using pedicle skeletal muscle plompage, thoracoplasty, and continuous cavity ablation procedures: a report on three cases. *J Thorac Dis*, 8(6):1333-9,2016.
- 010 *Kuroda H, Dejima H, Mizuno T, Sakakura N, Sakao Y* : A new LigaSure technique for the formation of segmental plane by intravenous indocyanine green fluorescence during thoracoscopic anatomical segmentectomy. *J Thorac Dis*,; 8(6):1210-6,2016.
- 011 *Kuroda H, Sakao Y, Mun M, Motoi N, Ishikawa Y, Nakagawa K, Yatabe Y, Okumura S* : Therapeutic value of lymph node dissection for right middle lobe non-small-cell lung cancer. *J Thorac Dis*, 8(5):795-802,2016.
- 012 *Mizuno T, Yatabe Y, Kuroda H, Sakakura N, Sakao Y* : Impact of the oncogenic status on the mode of recurrence in resected non-small cell lung cancer. *Jpn J Clin Oncol*,46(10):928-934,8(5):985-91,2016.
- 013 *Seto K, Kuroda H, Mizuno T, Sakakura N, Sakao Y* : Postoperative chylothorax after pulmonary wedge resection in two patients who underwent radical neck dissection: A case report. *Asian J Endosc Surg*, 9(4):322-324,2016.
- 014 *Iizuka S, Kuroda H, Yoshimura K, Dejima H, Seto K, Naomi A, Mizuno T, Sakakura N, Sakao Y* : Predictors of indocyanine green visualization during fluorescence imaging for segmental plane formation in thoracoscopic anatomical segmentectomy. *J Thorac Dis*, 8(5):985-91, 2016.
- 015 直海 晃, 黒田浩章, 水野鉄也, 坂倉範昭, 坂尾幸則 : 孤立結節陰影を呈し肺癌との鑑別を要した慢性肺コクシジオイデス症の1切除例. *日本呼吸器外科学会雑誌*,30(4):476-481,2016.
- 016 瀬戸克年, 黒田浩章, 水野鉄也, 坂倉範昭, 坂尾幸則 : 食道癌術後、原発性肺癌に対して完全胸腔鏡下右上葉切除を施行した一例. *日本呼吸器外科学会雑誌*,30(5):628-632, 2016.
- 乳腺科部
- 001 *Adachi Y, Ishiguro J, Kotani H, Hisada T, M, Ichikawa M, Gondo N, Yoshimura A, Kondo N, Hattori M, Sawaki M, Fujita T, Kikumori T, Yatabe Y, Kodera Y, Iwata H* : Comparison of clinical outcomes between luminal invasive ductal carcinoma and luminal invasive lobular carcinoma. *BMC Cancer* May 25;16:248. 2016,2016.
- 002 *Harbeck. N, Lyer S, Turner. N, Cristofanilli. M, Ro. J, Andre. F, Loi. S, Verma. S, Iwata. H, Bhattachryya. H, Puyana Theall. K, Bartlett. H, Loible. S* : Quality of life with palbociclib plus fulvestrant in previously treated hormone receptor-positive, HER 2-negative metastatic breast cancer: patients-reported outcomes from the PALOMA-3 trial. . *Annals of Oncology* Jun 27(6):1047-1054,2016,2016.
- 003 *Enokido K, Watanabe C, Nakamura S, Ogiya A, Osako T, Akiyama F, Yoshimura A, Iwata H, Ohono S, Kojima Y, Tsugawa K, Motomura K, Hayashi N, Yamauchi H, Sato N* : Sentinel Lymph Node Biopsy After Neoadjuvant Chemotherapy in Patients With an Initial Diagnosis of Cytology-Proven Lymph Node-Positive Breast Cancer. *Clin Breast Cancer*. 2016 Aug;16(4):299-304,2016.
- 004 *Verma S, Bartlett. H, Schenell P, Demichele AM, Loi. S, Ro. J, Colleoni M, Iwata H, Harbeck. N, Cristofanilli. M, Zhang KE, Thiele A, Turner. N, Rugo HS* : PalbociclibCombinationWith Fulvestrantin Women With Hormone Receptor-Positive/HER 2-Negative Advanced Metastatic Breast Cancer: Detailed Safety Analysis Froma Multicenter, Randomized, Placebo Controlled, PhaseIIIStudy (PALOMA-3). *The Oncologist*, Oct 21(10):1165-1175,2016.
- 005 *Iwata H, Masuda N, Yamamoto D, Sagara Y, Sato N, Yamamoto Y, Saito M, Fujita T, Oura S, Watanabe J, Tsukabe M, Horiguchi H, Hattori S, Matsuura Y, Kuroi K* : Circulating tumor cells as a prognostic marker for efficacy in the randomized phase III JO21095 trial in Japanese patients with HER 2-negative metastatic breast cancer. *Breast Cancer Res and Treat*. 2017. Jan 10. 1007/s10549-017-4138-3,2017.
- 006 *Iwata H, Im Seock-Ah, Masuda N, Im Young-Hyuck, Inoue K, Rai Y, Nakamura R, Kim Jee Hyun, Hoffman J, Zhang K, Giorgetti C, Yer S, Schnel P, Huang Bartlett C, Ro J* : Phase 3 Trial of Fulvestrant With or Without Palbociclib in Premenopausal and Postmenopausal Women With Hormone Receptor-Positive, HER 2-Negative Metastatic Breast Cancer That

- Progressed on Prior Endocrine Therapy Safety and Efficacy in Asian Patients. JGO 2017 Feb.,2017.
- 007 澤木正孝：高齢者乳がん治療の現状と臨床試験。腫瘍内科, 18(3):226-233,2016.
- 008 澤木正孝：術後化学療法の適応と課題。オンコロジークリニカルガイド第2:83-88,2016.
- 009 澤木正孝：第24回日本乳癌学会報告。がん分子標的治療 14(3):83-85,2016.
- 010 澤木正孝：乳がんの術後補助療法とバイオマーカー。HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY.; 27-32,2016.
- 011 小谷はるる, 服部正也, 瀧 由美子, 水野愛弓, 安立弥生, 久田知可, 石黒淳子, 吉村章代, 澤木正孝, 谷田部 恭, 岩田広治：原発性乳癌におけるアンドロゲンレセプター発現についての検討。乳癌の臨床,31(3):215-221,2016.
- 012 服部正也, 岩田広治：ペルツスマブ：臨床試験と実際の投与方法。オンコロジークリニカルガイド乳癌薬物療法改訂2:304,2016.
- 013 服部正也, 岩田広治：HER2陽性乳癌に対する治療戦略。乳癌診療のための分子病理エッセンシャル:206,2016.
- 014 服部正也, 岩田広治：乳がんに対する抗HER2療法。腫瘍内科,18(1):19,2016.
- 015 服部正也, 岩田広治：CDK4/6阻害薬。腫瘍内科,19(3):328,2017.

消化器外科部

[原著論文]

- 001 *Komori K, Kimura K, Kinoshita T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Natsume S, Kawai R, Shimizu Y* : Necessary circumferential resection margins to prevent rectal cancer relapse after abdomino-peranal(intersphincteric)resection. Langenbecks Arch Surg,401:189-194,2016.
- 002 *Abe T, Kawai R, Uemura N, Kawakami J, Ito S, Komori K, Senda Y, Misawa K, Shinoda M, Shimizu Y* : Chylous leakage from a remaining duplicated left-sided thoracic duct after esophagectomy was successfully treated by ligation of the left-sided thoracic duct with left-sided video-assisted thoracoscopic surgery(VATS)in the prone position. Asian J Endosc Surg, 9(2):138-141, 2016.
- 003 *Hayashi Y, Misawa K, David J. Hawkes, Mori K* : Progressive internal landmark registration for surgical navigation in laparoscopic gastrectomy for gastric cancer. International Journal of Computer Assisted Radiology and Surgery,11(5):837-845,2016
- 004 *Hayashi Y, Misawa K, Oda M, David J. Hawkes, Mori K* : Clinical application of a surgical navigation system based on virtual laparoscopy in laparoscopic gastrectomy for gastric cancer. International Journal of Computer Assisted Radiology and Surgery,11(5):827-836,2016
- 005 *Kataoka K, Takeuchi H, Mizusawa J, Igaki H, Ozawa S, Abe T, Nakamura K, Kato K, Ando N, Kitagawa Y* : Prognostic Impact of Postoperative Morbidity After Esophagectomy for Esophageal Cancer Exploratory Analysis of JCOG9907. Ann Surg,265(6):1152-1157,2016.
- 006 *Abe T, Kawakami J, Uemura N, Kawai R, Sato Y, Inaba Y, Ito S, Komori K, Fukaya M, Shinoda M, Shimizu Y* : Therapeutic strategy for chylous leakage after esophagectomy; focusing on lymphangiography using lipiodol. Esophagus,13:237-244,2016.
- 007 *Uemura N, Kondo T* : Current status of proteomics of esophageal carcinoma. Expert Rev Proteomics. 2016 Oct 8:1-12.[Epub ahead of print]
- 008 *Fahdi Kanavati, Tong Tong, Misawa K, Fujiwara M, Mori M, Rueckert D, Glocker B* : Supervoxel classification forests for estimating pairwise image correspondences. Pattern Recognition,63:561-569,2016
- 009 *Asano T, Natsume S, Senda Y, Sano T, Matsuo K, Kodera Y, Hara K, Ito S, Yamao K, Shimizu Y* : Incidence and risk factors for anastomotic stenosis of continuous hepaticojejunostomy after pancreaticoduodenectomy. J Hepatobiliary Pancreat Sci., 23(10):628-635,2016.
- 010 *Ito S, Sano T, Mizusawa J, Takahari D, Katayama H, Katai H, Kawashima Y, Kinoshita T, Terashima M, Nashimoto A, Nakamori M, Onaya H, Sasako M* : A phase II study of preoperative chemotherapy with docetaxel, cisplatin, and S-1 followed by gastrectomy with D2 plus para-aortic lymph node dissection for gastric cancer with extensive lymph node metastasis: JCOG1002. Gastric Cancer,20(2):322-331,2016.
- 011 *Ito Y, Yoshikawa T, Fujiwara M, Kojima H, Matsui T, Mochizuki Y, Cho H, Aoyama T, Ito S, Misawa K, Nakayama H, Morioka Y, Ishiyama A, Tanaka C, Morita S, Sakamoto J, Kodera Y* : Quality of life and nutritional consequences after aboral pouch reconstruction following total gastrectomy for gastric cancer: randomized controlled trial CCG1101. Gastric Cancer,19(3):977-985,2016.
- 012 *Hosono S, Ito H, Oze I, Watanabe M, Komori K, Yatabe Y, Shimizu Y, Tanaka H, Matsuo K* : A risk prediction model for colorectal cancer using GWAS-identified polymorphisms and established risk factors among Japanese: Results from two independent casecontrol studies. European Journal of Cancer Prevention,25(6):500-507,2016.
- 013 *Imaoka H, Kou T, Tanaka M, Egawa S, Mizuno N, Hijioka S, Hara K, Yazumi S, Shimizu Y, Yamao K* : Clinical outcome of elderly patients with unresectable pancreatic cancer treated with gemcitabine plus S-1, S-1 alone, or gemcitabine alone: subgroup analysis of a randomized phase III trial; GEST study. European Journal



Of Cancer,54:96-103,2016.

- 014 *Hijioka S, Hara K, Mizuno N, Imaoka H, Bhatia V, Mekky MA, Yoshimura K, Yoshida T, Okuno N, Hieda N, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yatabe Y, Shimizu Y, Niwa Y, Yamao K* : Diagnostic performance and factors influencing accuracy of EUS-FNA of pancreatic neuroendocrine neoplasms. *Journal of Gastroenterology*,51(9):923-930,2016.
- 015 *Eguchi H, Yamaue H, Unno M, Mizuma M, Hamada S, Igarashi H, Kuroki T, Satoi S, Shimizu Y, Tani M, Tanno S, Hirooka Y, Fujii T, Masamune A, Mizumoto K, Itoi T, Egawa S, Kodama Y, Tanaka M, Shimosegawa T* : Clinicopathological Characteristics of Young Pancreatic Cancer Patients: An Analysis of Data from Pancreatic Cancer Registry of Japan Pancreas Society. *Pancreas*,45(10):1411-1417,2016.
- 016 *Tsutsumi H, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yoshimura K, Shimizu Y, Niwa Y, Sasaki Y, Yamao K* : Clinical impact of preoperative endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration for pancreatic ductal adenocarcinoma. *Endosc Ultrasound*. , 5 ( 2 ):94-100,2016.
- 017 *Okada K, Kawai M, Hirono S, Fujii T, Kodera Y, Sho M, Nakajima Y, Satoi S, Kwon AH, Shimizu Y, Ambo Y, Kondo N, Murakami Y, Ohuchida J, Eguchi H, Nagano H, Oba MS, Morita S, Sakamoto J, Yamaue H* : JAPAN-PD Investigators: Evaluation of the efficacy of daikenchuto(TJ -100)for the prevention of paralytic ileus after pancreaticoduodenectomy: A multicenter, double-blind, randomized, placebo-controlled trial. *Surgery*,159 ( 5 ):1333-1341,2016.
- 018 *Imaoka H, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Hieda N, Yoshida T, Okuno N, Shimizu Y, Niwa Y, Yamao K* : Prognostic impact of carcinoembryonic antigen(CEA)on patients with metastatic pancreatic cancer: a retrospective cohort study. *Pancreatology*,16(5):850-864,2016.
- 019 *Uesaka K, Boku N, Fukutomi A, Okamura Y, Konishi M, Matsumoto I, Kaneoka Y, Shimizu Y, Nakamori S, Sakamoto H, Morinaga S, Kainuma O, Imai K, Sata N, Hishinuma S, Ojima H, Yamaguchi R, Hirano S, Sudo T, Ohashi Y* : JASPAC 01 Study Group: Adjuvant chemotherapy of S-1 versus gemcitabine for resected pancreatic cancer: a phase 3, open-label, randomised, non-inferiority trial (JASPAC 01). *Lancet*,388:248-257,2016.
- 020 *Imaoka H, Shimizu Y, Senda Y, Natsume S, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Hieda N, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Niwa Y, Yamao K* : Post-adjuvant chemotherapy CA19-9 levels predict prognosis in patients with pancreatic ductal adenocarcinoma: A retrospective cohort study. *Pancreatology*,16(4):658-664,2016.
- 021 *Matsushima S, Sato Y, Yamaura H, Kato M, Onoda Y, Murata S, Shimizu S, Kinoshita Y, Nishiofuku H, Inaba Y* : Preoperative Evaluation of Posthepatectomy Liver Failure Using MRI-Based Liver Function Indices in Child-Pugh Class A Patient. *Open Journal of Radiology*, 6 : 147-156,2016.
- 022 *Jang JY, Park T, Lee S, Kim Y, Lee SY, Kim SW, Kim SC, Song KB, Yamamoto M, Hatori T, Hirono S, Satoi S, Fujii T, Hirano S, Hashimoto Y, Shimizu Y, Choi DW, Choi SH, Heo JS, Motoi F, Matsumoto I, Lee WJ, Kang CM, Han HS, Yoon YS, Sho M, Nagano H, Honda G, Kim SG, Yu HC, Chung JC, Nagakawa Y, Seo HI, Yamaue H* : Proposed Nomogram Predicting the Individual Risk of Malignancy in the Patients with Branch Duct Type Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms of the Pancreas. *Annals of Surgery* 2016 Sep 9 Epub ahead of print
- 023 *Komori K, Kinoshita T, Oshiro T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura U, Natsume S, Kawakami J, Ouchi A, Tsutsuyama M, Hosoi T, Shigeyoshi I, Akazawa T, Hayashi D, Tanaka H, Shimizu Y* : Aggressive resection of frequent peritoneal recurrences in colorectal cancer contributes to long-term survival. *Nagoya J. Med. Sci.* ,78:501-506,2016.
- 024 *Komori K, Kimura K, Kinoshita T, Shimizu Y* : Cutaneous Metastases from Colorectal Cancer: Oncological Behavior and Surgical Strategy. *The American Surgeon*,82(12):359-360,2016.
- 025 *Ueno H, Kobayashi H, Konishi T, Ishida F, Yamaguchi T, Hinoi T, Kanemitsu Y, Inoue Y, Tomita N, Matsubara N, Komori K, Ozawa H, Nagasaka T, Hasegawa H, Koyama M, Akagi Y, Yatsuoka T, Kumamoto K, Kurachi K, Tanakaya K, Yoshimatsu K, Watanabe T, Sugihara K, Ishida H* : Prevalence of laparoscopic surgical treatment and its clinical outcomes in patients with familial adenomatous polyposis in Japan. *International Journal of Clinical Oncology*,21(4):713-722,2016.
- 026 *Taniguchi H, Komori A, Narita Y, Kadowaki S, Ura T, Andoh M, Yatabe Y, Komori K, Kimura K, Kinoshita T, Muro K* : A short interval between bevacizumab and anti-epithelial growth factor receptor therapy interferes with efficacy of subsequent anti-EGFR therapy for refractory colorectal cancer. *Japanese Journal of Clinical Oncology*, 46(3):228-233,2016.
- 027 *Sasaki Y, Akasu T, Saito N, Kojima H, Matsuda K, Nakamori S, Komori K, Amagai K, Yamaguchi T, Ohue M, Nagashima K, Yamada Y* : Prognostic and predictive value of extended RAS mutation and mismatch repair status in stage III colorectal cancer. *Cancer Science*,107(7):1006-1012,2016.

- 028 *Saito Y, Hinoi T, Ueno H, Kobayashi H, Konishi T, Ishida F, Yamaguchi T, Inoue Y, Kanemitsu Y, Tomita N, Matsubara N, Komori K, Kotake K, Nagasaka T, Hasegawa H, Koyama M, Ohdan H, Watanabe T, Sugihara K, Ishida H* : Risk Factors for the Development of Desmoid Tumor After Colectomy in Patients with Familial Adenomatous Polyposis: Multicenter Retrospective Cohort Study in Japan. . The Annals of Surgical Oncology,23(4):559-565,2016.
- 029 *Saito S, Fujita S, Mizusawa J, Kanemitsu Y, Saito N, Kinugasa Y, Akazai Y, Ota M, Ohue M, Komori K, Shiozawa M, Yamaguchi T, Akasu T, Moriya Y* : Colorectal Cancer Study Group of Japan Clinical Oncology Group.: Male sexual dysfunction after rectal cancer surgery: Results of a randomized trial comparing mesorectal excision with and without lateral lymph node dissection for patients with lower rectal cancer: Japan Clinical Oncology Group Study JCOG0212. . European Society of Surgical Oncology,42(12):1851-1858,2016.
- 030 *Katsuno H, Shiomi A, Ito M, Koide Y, Maeda K, Yatsuoka T, Hase K, Komori K, Minami K, Sakamoto K, Saida Y, Saito N* : Comparison of symptomatic anastomotic leakage following laparoscopic and open low anterior resection for rectal cancer: a propensity score matching analysis of 1014 consecutive patients. Surgical Endoscopy,30(7):2848-2956,2016.
- 031 *Fukaya M, Abe T, Nagino M* : Rapid progressive long esophageal stricture caused by gastroesophageal reflux disease after pylorus-preserving pancreatoduodenectomy. BMC Surgery,16:19,2016.
- 032 *Nomura M, Oze I, Kodaira T, Abe T, Komori A, Narita Y, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Andoh M, Tachibana H, Uemura N, Tajika M, Niwa Y, Muto M, Muro K* : Comparison between surgery and definitive chemoradiotherapy for patients with resectable esophageal squamous cell carcinoma: a propensity score analysis. Int J Clin Oncol,21(5):890-898,2016.
- 033 *Uemura N, Abe T, Kawakami J, Hosoi T, Ito S, Shimizu Y* : Clinical Impact of Intrathoracic Herniation of Gastric Tube Pull-Up via the Retrosternal Route following Esophagectomy. Dig Surg,2017[Epub ahead of print]
- 034 *Komori K, Kinoshita T, Taihei O, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Natsume S, Kawakami J, Ouchi A, Tsutsuyama M, Hosi T, Shigeyoshi I, Akazawa T, Hayashi D, Tanaka H, Shimizu Y* : Coincident Port-site and Functional End-to-end Anastomotic Recurrences after Laparoscopic Surgery for Colon Cancer: A case report and literature review. J Med Invest,64:177-180,2017.
- 035 木下敬史, 小森康司, 木村賢哉, 岩田至紀, 清水泰博, 谷田部 恭 : S上結腸原発悪性黒色腫の1例. 臨床外科, 71(4):496-499,2016.
- 036 夏目誠治, 江畑智希, 横山幸浩, 伊神 剛, 菅原 元, 水野隆史, 榎野雅人 : 胆道癌手術に必要な外科解剖. 消化器外科,39(7):1049-1057,2016.
- 037 林 雄一郎, 森田千尋, 三澤一成, 森 健策 : 腹腔鏡下手術ナビゲーションシステムにおける剛体と非剛体レジストレーションを用いた臓器表面形状による位置合わせ手法の検討. MEDICAL IMAGING TECHNOLOGY, Suppl,np523- np527,2016.
- 038 柴田睦実, 森田千尋, 林 雄一郎, 小田昌宏, 三澤一成, 森 健策 : 腹腔鏡下胃切除術のための手術ナビゲーションシステムにおけるステレオ内視鏡画像からの臓器形状復元に関する検討. MEDICAL IMAGING TECHNOLOGY, Suppl,64-70,2016.
- 039 寶珠山 裕, 二村幸孝, 小田昌宏, 三澤一成, 藤原道隆, 森 健策 : Structured Random Forestを用いた3次元腹部CT像からのリンパ節自動検出に関する初期的検討. MEDICAL IMAGING TECHNOLOGY, Suppl,np261- np267,2016.
- 040 清水南月, 小田昌宏, 三澤一成, 藤原道隆, 森 健策 : Regression Forestを用いた膵臓領域の局所化に関する初期的検討. MEDICAL IMAGING TECHNOLOGY, Suppl, np327- np332,2016.
- [症例報告]
- 001 *Komori K, Takahari D, Kimura K, Kinoshita T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Natsume S, Kawakami J, Iwata Y, Tsutsuyama M, Shigeyoshi I, Akazawa T, Hayashi D, Ouchi A, Shimizu Y* : Recovery from choriocarcinoma syndrome associated with a metastatic extragonadal germ cell tumor hemorrhage. Case Reports in gastroenterology,10: 193-198,2016.
- 002 藤田 曜, 脇岡 範, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 平山貴志, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 岩屋博道, 伊東文字, 倉岡直亮, 松本慎平, 丹羽康正, 原 和生 : 症例報告 : 化学療法が著効し conversion surgeryを施行し得たStage IVb膵癌の2例. 膵臓,32(1):78-86,2017.
- [解説]
- 001 伊藤誠二, 伊藤友一, 三澤一成, 清水泰博, 木下 平 : 【Stage IV胃癌に対する外科治療戦略】 切除可能なStage IV胃癌に対する外科治療 腹部大動脈周囲リンパ節転移例に対する外科治療. 外科,78(4):353-356,2016.
- 002 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也 : 特集 膵切除・膵再建を再考する Ⅲ. 膵再建11. 陥入法による膵空腸吻合-手術手技(コツ)と成績. 手術,70(7): 973-976,2016.
- 003 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 岩田至紀, 清水泰博, 木

下 平：手術手技 胃癌 reduced port surgery における臍切開—「zigzag切開と横切開—」. 手術,70(6):797-802,2016.

- 004 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久, 大城泰平, 川上次郎, 脇岡 範, 原 和生：主膵管型IPMNの治療成績—膵切除範囲と膵全摘の要否について—. 外科,78(11):1179-1185,2016.
- 005 千田嘉毅, 清水泰博, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久, 大城泰平, 川上次郎, 脇岡 範, 原 和生：IPMNの診断と治療はどう変わったか？外科治療：標準手術について—とくに腹腔鏡下手術の適応は？. 胆と膵(11):1495-1501,2016.
- 006 藤原道隆, 三澤一成, 森 健策, 川嶋紘一郎, 田中由浩, 小寺泰弘：【画像ナビゲーションによる消化器癌手術】胃癌手術におけるナビゲーションの現状と新しい取り組み. 手術,70(10):1275-1286,2016.
- 007 岩屋博道, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 平山貴視, 近藤 尚, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田 曜, 渋谷 仁, 伊東文子, 松本慎平, 倉岡直亮, 清水泰博, 丹羽康正, 原 和生：【膵神経内分泌腫瘍の最新の話】膵神経内分泌腫瘍の画像診断 鑑別を要する疾患. 胆と膵,37(10):881-889,2016.
- 008 渋谷 仁, 水野 伸匡, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 平山貴視, 近藤 尚, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田 曜, 岩屋博道, 伊東文子, 松本慎平, 倉岡直亮, 清水泰博, 丹羽康正, 原 和生：【膵・胆道癌の治療戦略：こんなときどうするか？—ガイドラインにないエキスパートオピニオン—】膵神経内分泌腫瘍の治療戦略におけるEUS-FNAの有用性とその限界. 胆と膵,37(6):567-574,2016.
- 009 三澤一成：胃癌腹腔鏡下手術に必要な画像診断と解剖(解説). 日本外科学会雑誌,18(2):239-240,2017.
- 010 菅野 敦, 正宗 淳, 花田敬士, 真口宏介, 清水泰博, 植木敏晴, 長谷部 修, 大塚隆生, 仲村雅史, 竹中 完, 北野雅之, 菊山正隆, 蒲田敏文, 吉田浩司, 佐々木民人, 芹川正浩, 古川 徹, 柳澤昭夫, 下瀬川 徹：【膵癌の早期診断最前線】膵癌早期診断の現状 膵癌早期診断研究会における多施設研究の結果をもとに. 膵臓,32(1):16-22,2017.

#### [記念誌]

- 001 小森康司：「日本オストミー協会愛知県支部(JOA)」創立50周年に寄せて—大腸外科医としての使命—. 愛知のオストメイト活動 50周年記念誌,16-17,2016.

#### 整形外科部

- 001 Nakamura T, Matsumine A, Yamada S, Tsukushi S, Kawanami K, Ohno T, Katagiri H, Sugiura H, Yamada K, Yamada Y, Sudo A, Nishida Y：Oncological outcome after lung metastasis in patients presenting with localized chondrosarcoma at extremities: Tokai

Musculoskeletal Oncology Consortium study. Onco Targets Ther,29(9):4747-4751,2016.

- 002 筑紫 聡：悪性骨腫瘍の診断と治療の最前線 上肢悪性骨腫瘍の患肢温存手術と術後機能. 整形・災害外科,59(8):1051-1058,2016.

#### リハビリテーション部

- 001 Takatsu J, Hanai N, Suzuki H, Nishikawa D, Fukuda Y, Yoshida M, Tanaka Y, Tanaka S, Hasegawa Y, Yamamoto M：Phonologic and acoustic analysis of speech following glossectomy and the effect of rehabilitation on speech outcomes. J oral maxillofac surg, 75(1):1530-1541,2016.
- 002 吉田雅博, 杉浦英志：転移性大腿骨骨腫瘍の病的骨折に対する手術治療と術後歩行能力. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine JARM2016,I454,2016.
- 003 杉浦英志, 吉田雅博：上腕骨病的骨折に対する保存治療と手術治療のQOLの比較検討. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine JARM2016,I454,2016.

#### 泌尿器科部

- 001 Sato S, Katsushima K, Shinjo K, Hatanaka A, Ohka F, Suzuki S, Naiki-Ito A, Soga N, Takahashi S, Kondo Y：Histone deacetylase inhibition in prostate cancer triggers miR-320-mediated suppression of the androgen receptor. Cancer Res 76:4192-4204,2016.
- 002 Tomita N, Soga N, Ogura Y, Hayashi N, Kageyama T, Ito M, Koide Y, Yoshida M, Kimura K, Makita C, Tachibana H, Kodaira T：High-dose radiotherapy with helical tomotherapy and long-term androgen deprivation therapy for prostate cancer: 5-year outcomes. J Cancer Res Clin Oncol 142:1609-1161,2016.
- 003 Masaoka H, Ito H, Soga N, Hosono S, Oze I, Watanabe M, Tanaka H, Yokomizo A, Hayashi N, Eto M, Matsuo K：Aldehyde dehydrogenase 2(ALDH 2) and alcohol dehydrogenase 1 B (ADH 1 B) polymorphisms exacerbate bladder cancer risk associated with alcohol drinking: Gene-environment interaction. Carcinogenesis 37:583-588, 2016.
- 004 景山拓海, 小倉友二, 兵藤伊久夫, 谷田部 恭, 曾我倫久人：陰嚢内脂肪肉腫の1例. 泌尿器科紀要 62:495-500,2016.

#### 婦人科部

- 001 Sugiyama T, Mizuno M, Aoki Y, Sakurai M, Nishikawa T, Ueda E, Tajima K, Takeshima N：A single-arm study evaluating bevacizumab, cisplatin, and



paclitaxel followed by single-agent bevacizumab in Japanese patients with advanced cervical cancer. *Jpn J Clin Oncol*,47(1):39-46,2017.

- 002 **Tamauchi S, Kajiyama H, Sakata J, Sekiya R, Suzuki S, Mizuno M, Utsumi F, Niimi K, Kotani T, Shibata K, Kikkawa F** : Oncologic and obstetric outcomes of early stage cervical cancer with abdominal radical trachelectomy: Single-institution experience. *J Obstet Gynaecol Res*,42(12):1796-1801,2016.
- 003 **Maeda O, Miyata-Takata T, Shibata K, Kajiyama H, Mizuno M, Tamakoshi K, Shimoyama Y, Nakamura S, Kikkawa F** : Comparison of prognoses according to non-positive and positive spectrin  $\alpha$ II expression detected immunohistochemically in epithelial ovarian carcinoma: a retrospective study. *Cancer Med*, 5(6):1081-1092,2016.
- 004 **Mori M, Iwase A, Osuka S, Kondo M, Nakamura T, Nakahara T, Goto M, Kikkawa F** : Choosing the optimal therapeutic strategy for placental polyps using power Doppler color scoring: Transarterial embolization followed by hysteroscopic resection or expectant management? *Taiwan J Obstet Gynecol*,55(4):534-538,2016.
- 005 **Utsumi F, Kajiyama H, Niimi K, Sekiya R, Sakata J, Suzuki S, Shibata K, Mizuno M, Kikkawa F** : Clinical significance and predicting indicators of post-cancer-treatment survival in terminally ill patients with ovarian cancer. *J Obstet Gynaecol Res*,43(2):365-370,2017.
- 006 景山拓海, 曾我倫久人, 小倉友二, 近藤紳司 : 突発性膀胱タンポナーデの原因が、尿管カテーテル留置に伴う外腸骨動脈-尿管瘻であった1例. *泌尿器科紀要*,63(3):125,2017.
- 007 景山拓海, 曾我倫久人, 小倉友二, 近藤紳司 : 自然消退した膀胱浸潤性骨盤内腫瘍の1例. *泌尿器科紀要*,63(2):94,2017.

#### 放射線診断・I V R部

- 001 **Sato Y, Inaba Y, Hara K, Yamaura H, Kato M, Murata S, Onoda Y** : Multiple metallic stents placement for malignant hilar biliary obstruction: perspective of a radiologist. *Gastrointest Interv*, 5:52-59,2016.
- 002 **Sakakura N, Inaba Y, Yatabe Y, Mizuno T, Kuroda H, Yoshimura K, Sakao Y** : Estimation of the pathological invasive size of pulmonary adenocarcinoma using high-resolution computed tomography of the chest: a consideration based on lung and mediastinal window settings. *Lung Cancer*,95:51-6,2016.
- 003 **Matsushima S, Sato T, Nishiofuku H, Sato Y, Murata S, Kinoshita Y, Era S, Inaba Y** : Equivalent cross-relaxation rate imaging and diffusion weighted imaging for early prediction of response to bevacizumab-containing treatment in colorectal liver metastases-

preliminary study. *Clinical Imaging* 41,1-6,2016.

- 004 **Hasegawa T, Kondo C, Sato Y, Inaba Y, Yamaura H, Kato M, Murata S, Onoda Y, Kuroda H, Sakao Y, Yatabe Y** : Diagnostic ability of percutaneous needle biopsy immediately after radiofrequency ablation for malignant lung tumors: an initial experience. *Cardiovasc Intervent Radiol*,39:1187-92,2016.
- 005 **Murata S, Sato Y, Inaba Y, Yamaura H, Kato M, Kawada H, Hasegawa T, Asai T, Aramaki T** : Intrahepatic portosystemic venous shunt via the right adrenal vein: treatment with vascular plug. *Minimally Invasive Therapy & Allied Technologies*,26:51-5,2017.
- 006 加藤弥菜, 山浦秀和, 佐藤洋造, 小野田 結, 村田慎一, 長谷川貴章, 金原佑樹, 守永広征, 山口久志, 稲葉吉隆 : 大腸癌肝転移—最新の治療ストラテジー治療の実際 肝動注療法. *臨床外科*,71(4):426-31,2016.
- 007 佐藤洋造 : C Vカテーテル(ポート)トラブル. *胃がん・大腸がん薬物療法ハンドブック*, 南江堂,271-275,2016.
- 008 加藤弥菜 : 大腸癌肝転移に対する局所治療について(RFA, RI治療を含め). *大腸がんPerspective* 3(2):62-5,2016.
- 009 村田慎一, 米澤祐司, 稲葉吉隆 : 放射線科領域におけるAngio CTの有用性. *Rad Fan* 14(12):51-3,2016.
- 010 加藤弥菜 : レジメン+症例 肝臓がん ソラフェニブ. *消化器がん化学療法レジメンブック第3版*, 日本医事新報社, 187-90,2016.

#### 放射線治療部

[学会誌への発表]

- 001 **Shimizu H, Sasaki K, Iwata M, Kawai M, Nakashima K, Kubota T, Osaki H, Nakayama M, Yoshimoto M, Kodaira T** : Rotational output and beam quality evaluations for helical tomotherapy with use of a third-party quality assurance tool. *Radiol Phys Technol*, 9(1):53-9,2016.
- 002 **Suzuki H, Hanai N, Nishikawa D, Fukuda Y, Koide Y, Kodaira T, Tachibana H, Tomita N, Makita C, Hasegawa Y** : The Charlson comorbidity index is a prognostic factor in sinonasal tract squamous cell carcinoma. *Jpn J Clin Oncol*,46(7):646-51,2016.
- 003 **Tomita N, Soga N, Ogura Y, Hayashi N, Kageyama T, Ito M, Koide Y, Yoshida M, Kimura K, Makita C, Tachibana H, Kodaira T** : High-dose radiotherapy with helical tomotherapy and long-term androgen deprivation therapy for prostate cancer: 5-year outcomes. *J Cancer Res Clin Oncol*,142(7):1609-19,2016.
- 004 **Nomura M, Oze I, Kodaira T, Abe T, Komori A, Narita Y, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Andoh M, Tachibana H, Uemura N, Tajika M, Niwa Y, Muto M, Muro K** : Comparison between surgery and definitive chemoradiotherapy for patients

with resectable esophageal squamous cell carcinoma: a propensity score analysis. *Int J Clin Oncol*,21(5):890-898, 2016.

- 005 **Takehana K, Kodaira T, Tachibana H, Kimura K, Shimizu A, Makita C, Tomita N, Nishikawa D, Suzuki H, Hirakawa H, Hanai N, Hasegawa Y** : Retrospective analysis of the clinical efficacy of definitive chemoradiotherapy for patients with hypopharyngeal cancer. *Jpn J Clin Oncol*,46(4):344-9,2016.
- 006 **Suzuki H, Nishio M, Nakanishi H, Hanai N, Hirakawa H, Kodaira T, Tamaki T, Hasegawa Y** : Impact of total lesion glycolysis measured by 18F-FDG-PET/CT on overall survival and distant metastasis in hypopharyngeal cancer. *Oncol Lett*,12(2):1493-1500,2016.
- 007 **Kondo S, Tajika M, Tanaka T, Kodaira T, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Goto H, Yamao K, Niwa Y** : Prognostic factors for salvage endoscopic resection for esophageal squamous cell carcinoma after chemoradiotherapy or radiotherapy alone. *Endosc Int Open*, 4(8):E841-8,2016.
- 008 **Yokota T, Tachibana H, Konishi T, Yurikusa T, Hamauchi S, Sakai K, Nishikawa M, Suzuki M, Naganawa Y, Hagihara T, Tsumaki H, Kubo T, Sato M, Taguri M, Morita S, Eguchi T, Kubota K, Zenda S** : Multicenter phase II study of an oral care program for patients with head and neck cancer receiving chemoradiotherapy. *Support Care Cancer*,24(7):3029-36, 2016.
- 009 **Zenda S, Ota Y, Tachibana H, Ogawa H, Ishii S, Hashiguchi C, Akimoto T, Ohe Y, Uchitomi Y** : A prospective picture collection study for a grading atlas of radiation dermatitis for clinical trials in head-and-neck cancer patients. *J Radiat Res*,57(3):301-6,2016.
- 010 **Nibu KI, Hayashi R, Asakage T, Ojiri H, Kimata Y, Kodaira T, Nagao T, Nakashima T, Fujii T, Fujii H, Homma A, Matsuura K, Monden N, Beppu T, Hanai N, Kirita T, Kamei Y, Otsuki N, Kiyota N, Zenda S, Omura K, Omori K, Akimoto T, Kawabata K, Kishimoto S, Kitano H, Tohnai I, Nakatsuka T** : Japanese Clinical Practice Guideline for Head and Neck Cancer. *Auris Nasus Larynx*,44(4):375-380,2017.
- 011 **Ohba Akihiro, Kato Ken, Ito Yoshinori, Katada Chikatoshi, Ishiyama Hiromichi, Yamamoto Sachiko, Ura Takashi, Kodaira Takeshi, Kudo Shigehiro, Tamaki Yoshio** : Chemoradiation therapy with docetaxel in elderly patients with stage II/III esophageal cancer: A phase 2. *Advances in Radiation Oncology* in press.
- 012 **Hidenori Suzuki, Katsuhiko Kato, Masami Nishio, Tsuneo Tamaki, Yasushi Fujimoto, Mariko Hiramatsu, Nobuhiro Hanai, Takeshi Kodaira, Yoshiyuki Itoh, Shinji Naganawa, Michihiko Sone, Yasuhisa Hasegawa** : FDG-PET/CT predicts survival

and lung metastasis of hypopharyngeal cancer in a multi-institutional retrospective study. *Annals of Nuclear Medicine* in press.

- 013 **Nakata Y, Hanai N, Nishikawa D, Suzuki H, Koide Y, Fukuda Y, Nomura M, Kodaira T, Shimizu T, Hasegawa Y** : Comparison between chemoselection and definitive radiotherapy in patients with cervical esophageal squamous cell carcinoma. In press.
- 014 古平 毅, 伊藤 誠 : 頸部食道癌に対するIMRT IMRTの応用で何がかわるか? 医学のあゆみ,257(1):77-83,2016.
- 015 古平 毅 : 特集 下咽頭癌・喉頭癌はここまで来た 下咽頭癌・喉頭癌に対する放射線治療. *ENTON*,195:44-50,2016.
- 016 古平 毅 : Radiotherapy Today III 強度変調放射線治療(IMRT)の現状と今後の展望 3. トモセラピーによるIMRTの実践. *INNERVISION*,31(11):31-34,2016.
- 017 清水秀年, 佐々木浩二, 岩田 学, 中林 匡, 今村浩志, 杉 健太郎, 久保田隆士, 横井和志, 中島地康, 古平 毅 : ヘリカルトモセラピーのビームモデル更新に伴うコミッション手順の確立. *日本放射線技術学会雑誌*(72)7:602-9,2016.

#### [その他誌上への発表]

- 001 古平 毅 : 臨床頭頸部癌学 系統的に頭頸部癌を学ぶために 田原 信、林 隆一、秋元哲夫 編. 南江堂 第III章 治療 3. 放射線療法 b. 外部照射 : 165-174,2016.
- 002 古平 毅 : 放射線治療計画ガイドライン. 日本放射線腫瘍学会 金原出版 頭頸部 IV 上咽頭癌, 97-104, XII CTVアトラス : 137-141,2016.
- 003 古平 毅 : 日本臨床増刊 頭頸部癌学 診断と治療の最終研究動向 林 隆一 編. 日本臨床社 VIII章 頭頸部癌の治療 2 放射線治療・薬物療法(4)口腔・咽頭・喉頭癌 ①(癌薬物)同時併用療法 : 441-445,2017.

#### 外来部

- 001 堀尾芳嗣 : 免疫チェックポイント阻害剤の有害事象対策 (総説) 癌と化学療法 (0385-0684)44(3):185-190,2017.

#### 緩和ケア部

- 001 小森康永 : 社会構成主義のリジリアンス. 家族療法研究, 33(1):21-26,2016.
- 002 小森康永 : がん医療におけるリジリアンス. 家族療法研究, 33(3):269-273,2016.
- 003 小森康永 : 家族療法 私の5冊. 家族療法研究, 33(3):338-339,2016.
- 004 **D. デンボロウ**(小森康永, 奥野 光訳) : ふだん使いのナラティブ・セラピー. 北大路書房,2016.
- 005 **M. ホワイトとD. エプストン**(小森康永訳) : 物語として家族(新訳版). 金剛出版,2017.

## 看護部

[原稿執筆]

- 001 南谷志野, 藤原奈佳子, 柳澤理子, 深田順子: 一般病棟で勤務するフルタイム勤務看護師の短時間勤務看護師との協働意識尺度の開発. 日本看護科学学会誌,36巻: 189-197, 2017.
- 002 濱口由美子: 患者入力型タブレット端末によるベッドサイドシステムの看護業務効率化と展望, 月刊新医療, 第43巻: 月刊新医療,46-49,2016.
- 003 中山衣代, 福嶋敬子: 検査手術オリエンテーションの外来中央化、業務効率化を実現した先進インの仕掛け! 外來業務改善事例, 日総研出版,164-173,2016.
- 004 山口真由美: もう怖くない急変対応, 照林社, 46-47,50-51, 68-69,74-75,78-81,84-85,106-107,112-113,116-117,2016.
- 005 山口真由美: パスに乗らないバリエーションはどうすればいい? 今聞きたい術前・術後ケアQ&A, 月間ナーシング11月号, 学研メディカル秀潤社,65-73,2016.
- 006 向井未年子: Q&A支持療法 抗がん剤と麻薬(オピオイド鎮痛薬)は併用可能か? またどのような点に注意が必要か?, 消化器がん化学療法レジメンブック 3版, 日本医事新報社,333-336,2016.
- 007 向井未年子: 看護師が教える患者と接するときの注意点, 調剤と情報, 22巻: じほう,55-56,2016.
- 008 向井未年子: がん看護実践ガイド がん看護の日常にある倫理 迅速に導入が必要な治療におき意思決定, 医学書院: 98-108,2016.
- 009 向井未年子: 緩和ケア患者説明ガイド 骨転移, プロフェッショナルがんナーシング, 39巻、2017春季増刊: メディ出版,48-53,2017.
- 010 南谷志野, 宮谷美智子, 野口見知子, 山本由香理, 村木真紀: 応援業務報告書分析に基づく応援体制マニュアル遵守率向上の取り組みと評価, 看護実践の科学, 42巻: 看護の科学社,16-23,2017.

## 薬剤部

- 001 *Maeda A, Ura T, Asano C, Hasegawa I, Nomura M, Komori A, Narita Y, Taniguchi H, Kadowaki S, Muro K, Horio Y, Yoshida T, Oze I, Kajita M, Mizutani A*: A phase II trial of prophylactic olanzapine combined with palonosetron and dexamethasone for preventing nausea and vomiting induced by cisplatin. *Asia Pac J Clin Oncol*, 12(3):254-258,2016.
- 002 *Maeda A, Ando H, Ura T, Komori A, Hasegawa A, Taniguchi H, Kadowaki S, Muro K, Tajika M, Kobara M, Matsuzaki M, Hashimoto N, Maeda M, Kojima Y, Aoki M, Kondo E, Mizutani A, Fujimura A*: Association between ABCG2 and SLCO1B1 polymorphisms and adverse drug reactions to regorafenib: a preliminary study. *Int J Clin Pharmacol*

*Ther*,55(5):409-415,2017.

- 003 高橋新次, 前田章光, 松崎雅英, 梶田正樹, 岩田修一: 新規閉鎖式混合調製器具「TEVADAPTOR®」のシクロホスファミド調製時の曝露防止に対する有用性. 日本病院薬剤師会雑誌,52:703-706,2016.
- 004 立松三千子: 医看薬連携で実現する患者を中心としたチーム医療. 薬事新報,2946: 9-15,2016.



## 6. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (研究所)

疫学・予防部

- 001 *Yuri Ishii JI, Ribeka Takachi, Yurie Shinozawa, Nahomi Imaeda, Chiho Goto, Kenji Wakai, Toshiaki Takahashi, Hiroyasu Iso, Kazutoshi Nakamura, Junta Tanaka, Taichi Shimazu, Taiki Yamaji, Shizuka Sasazuki, Norie Sawada, Motoki Iwasaki, Haruo Mikami, Kiyonori Kuriki, Mariko Naito, Naoko Okamoto, Fumi Kondo, Satoyo Hosono, Naoko Miyagawa, Etsuko Ozaki, Sakurako Katsuura-Kamano, Keizo Ohnaka, Hinako Nanri, Noriko Tsunematsu Nakahata, Takamasa Kayama, Ayako Kurihara, Shiomi Kojima, Hideo Tanaka, and Shoichiro Tsugane* : Comparison of weighed food record procedures for the reference methods in two validation studies of food frequency questionnaires. *Journal of epidemiology*,2016(in press).
- 002 *Taniguchi C, Sakakibara H, Saka H, Oze I, Tanaka H* : Japanese Nurses' Perceptions Toward Tobacco Use Intervention for Hospitalized Cancer Patients Who Entered End of Life. *Cancer Nurs*,39:E45-E51,2016.
- 003 *Okada R, Naito M, Hattori Y, Seiki T, Wakai K, Nanri H, Watanabe M, Suzuki S, Kairupan TS, Takashima N, Mikami H, Ohnaka K, Watanabe Y, Katsuura-Kamano S, Kubo M, Hamajima N, Tanaka H, Japan Multi-institutional Collaborative Cohort Study G* : Matrix metalloproteinase 9 gene polymorphisms are associated with a multiple family history of gastric cancer. *Gastric Cancer*,20:246-53,2017.
- 004 *Nakagawa H, Ito H, Hosono S, Oze I, Mikami H, Hattori M, Nishino Y, Sugiyama H, Nakata K, Tanaka H* : Changes in trends in colorectal cancer incidence rate by anatomic site between 1978 and 2004 in Japan. *Eur J Cancer Prev*,2016.
- 005 *Kogure M, Tsuchiya N, Hozawa A, Nakaya N, Nakamura T, Miyamatsu N, Tanaka H, Wakabayashi I, Higashiyama A, Okuda N, Takashima N, Fujiyoshi A, Kadota A, Ohkubo T, Okamura T, Ueshima H, Okayama A, Miura K* : Does the flushing response modify the relationship between alcohol intake and hypertension in the Japanese population? *NIPPON DATA2010. Hypertens Res*,39:670-9,2016.
- 006 *Nishida Y, Hara M, Sakamoto T, Shinchi K, Kawai S, Naito M, Hamajima N, Kadota A, Suzuki S, Ibusuki R, Hirata A, Yamaguchi M, Kuriyama N, Oze I, Mikami H, Kubo M, Tanaka H, Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study G* : Influence of cigarette smoking and inflammatory gene polymorphisms on glycosylated hemoglobin in the Japanese general population. *Prev Med Rep*, 3 :288-95, 2016.
- 007 *Idota A, Sawaki M, Yoshimura A, Hattori M, Inaba Y, Oze I, Kikumori T, Koderu Y, Iwata H* : Bone Scan Index predicts skeletal-related events in patients with metastatic breast cancer. *Springerplus*, 5 :1095,2016.
- 008 *Higashibata T, Wakai K, Naito M, Morita E, Hishida A, Hamajima N, Hara M, Suzuki S, Hosono S, Takashima N, Ohnaka K, Takada A, Mikami H, Watanabe Y, Uemura H, Kubo M, Tanaka H* : Effects of self-reported calorie restriction on correlations between SIRT 1 polymorphisms and body mass index and long-term weight change. *Gene*,594:16-22,2016.
- 009 *Nanri H, Nishida Y, Nakamura K, Tanaka K, Naito M, Yin G, Hamajima N, Takashima N, Suzuki S, Nindita Y, Kohno M, Uemura H, Koyama T, Hosono S, Mikami H, Kubo M, Tanaka H* : Associations between Dietary Patterns, ADRbeta 2 Gln27Glu and ADRbeta 3 Trp64Arg with Regard to Serum Triglyceride Levels: J-MICC Study. *Nutrients*,8,2016.
- 010 *Tajiri H, Takano T, Tanaka H, Ushijima K, Inui A, Miyoshi Y, Ozono K, Abukawa D, Endo T, Brooks S, Tanaka Y* : Hepatocellular carcinoma in children and young patients with chronic HBV infection and the usefulness of alpha-fetoprotein assessment. *Cancer Med*, 5 :3102-10,2016.
- 011 *Ninomiya K, Ichihara E, Hotta K, Sone N, Murakami T, Harada D, Oze I, Kubo T, Tanaka H, Kuyama S, Kishino D, Bessho A, Harita S, Katsui K, Tanimoto M, Kiura K* : Three-Arm Randomized Trial of Sodium Alginate for Preventing Radiation-Induced Esophagitis in Locally Advanced Non-Small Cell Lung Cancer Receiving Concurrent Chemoradiotherapy: The OLCSG1401 Study Protocol. *Clin Lung Cancer*,18:245-9,2016.
- 012 *Oze I, Shimada S, Nagasaki H, Akiyama Y, Watanabe M, Yatabe Y, Matsuo K, Yuasa Y* : Plasma microRNA-103, microRNA-107, and microRNA-194 levels are not biomarkers for human diffuse gastric cancer. *J Cancer Res Clin Oncol*,143:551-4,2016.
- 013 *Taniguchi C, Tanaka H, Saka H, Oze I, Tachibana K, Nozaki Y, Suzuki Y, Sakakibara H* : Cognitive, behavioural and psychosocial factors associated with successful and maintained quit smoking status among patients who received smoking cessation intervention with nurses' counselling. *J Adv Nurs*,2017(in press).
- 014 *Takano T, Tajiri H, Hosono S, Inui A, Murakami J, Ushijima K, Miyoshi Y, Etani Y, Abukawa D, Suzuki M, Brooks S* : Natural history of chronic hepatitis B virus infection in children in Japan: a comparison of mother-to-child transmission with horizontal transmission. *J*

## 分子腫瘍学部

- 001 *Tanaka K, Osada H, Murakami-Tonami Y, Horio Y, Hida T, Sekido Y* : Statin suppresses Hippo pathway-inactivated malignant mesothelioma cells and blocks the YAP/CD44 growth stimulatory axis. *Cancer Lett*,385:215-224,2017.
- 002 *Wang S, Jiang L, Han Y, Hwu Chew S, Ohara Y, Akatsuka S, Weng L, Kawaguchi K, Fukui T, Sekido Y, Yokoi K, Toyokuni S* : Urokinase-type plasminogen activator receptor promotes proliferation and invasion with reduced cisplatin sensitivity in malignant mesothelioma. *Oncotarget*, 7 :69565-69578,2016.
- 003 *Kakumu T, Sato M, Goto D, Kato T, Yogo N, Hase T, Morise M, Fukui T, Yokoi K, Sekido Y, Girard L, Minna JD, Byers LA, Heymach JV, Coombes KR, Kondo M, Hasegawa Y* : Identification of Proteasomal Catalytic Subunit PSMA 6 as a Therapeutic Target for Lung Cancer. *Cancer Sci*, In press,2017.
- 004 *Ito T, Matsubara D, Tanaka I, Makiya K, Tanei ZI, Kumagai Y, Shiu SJ, Nakaoka HJ, Ishikawa S, Isagawa T, Morikawa T, Shinozaki-Ushiku A, Goto Y, Nakano T, Tsuchiya T, Tsubochi H, Komura D, Aburatani H, Dobashi Y, Nakajima J, Endo S, Fukayama M, Sekido Y, Niki T, Murakami Y* : Loss of YAP 1 defines neuroendocrine differentiation of lung tumors. *Cancer Sci*, 107:1527-1538,2016.
- 005 *Murakami-Tonami Y, Ikeda H, Yamagishi R, Inayoshi M, Inagaki S, Kishida S, Komata Y, Jan Koster, Takeuchi I, Kondo Y, Maeda T, Sekido Y, Murakami H, Kadomatsu K* : SGO 1 is involved in the DNA damage response in MYCN-amplified neuroblastoma cells. *Sci Rep*,19; 6 :31615,2016.
- 006 *Fukushima K, Wang M, Naito Y, Uchihashi T, Kato Y, Mukai S, Yabuta N, Nojima H* : GAK is phosphorylated by c-Src and translocated from the centrosome to chromatin at the end of telophase. *Cell Cycle*,31: 1 -13,2017.
- 007 *Yabuta N, Yoshida K, Mukai S, Kato Y, Torigata K, Nojima H* : Large tumor suppressors 1 and 2 regulate Aurora-B through phosphorylation of INCENP to ensure completion of cytokinesis. *Heliyon*,20:2,2016.
- 008 *Torigata K, Okuzaki D, Mukai S, Hatanaka A, Ohka F, Motooka D, Nakamura S, Ohkawa Y, Yabuta N, Kondo Y, Nojima H* : LATS 2 Positively Regulates Polycomb Repressive Complex. *PLoS One*,19:11,2016.
- 001 *Akter S, Kashino I, Mizoue T, Matsuo K, Ito H, Wakai K, Nagata C, Nakayama T, Sadakane A, Tanaka K, Tamakoshi A, Sugawara Y, Sawada N, Inoue M, Tsugane S, Sasazuki S* : Coffee drinking and colorectal cancer risk: an evaluation based on a systematic review and meta-analysis among the Japanese population. *Japanese journal of clinical oncology*,46( 8): 781-7,2016.
- 002 *Asano T, Natsume S, Senda Y, Sano T, Matsuo K, Kodera Y, Hara K, Ito S, Yamao K, Shimizu Y* : Incidence and risk factors for anastomotic stenosis of continuous hepaticojejunostomy after pancreaticoduodenectomy. *Journal of hepato-biliary-pancreatic sciences*,23(10):628-35,2016.
- 003 *Camargo MC, Kim KM, Matsuo K, Torres J, Liao LM, Morgan DR, Michel A, Waterboer T, Zabaleta J, Dominguez RL, Yatabe Y, Kim S, Rocha-Guevara ER, Lissowska J, Pawlita M, Rabkin CS* : Anti-Helicobacter pylori Antibody Profiles in Epstein-Barr virus (EBV)-Positive and EBV-Negative Gastric Cancer. *Helicobacter*,21( 2 ):153-7,2016.
- 004 *Campa D, Pastore M, Gentiluomo M, Talar-Wojnarowska R, Kupcinskas J, Malecka-Panas E, Neoptolemos JP, Niesen W, Vodicka P, Delle Fave G, Bueno-de-Mesquita HB, Gazouli M, Pacetti P, Di Leo M, Ito H, Kluter H, Soucek P, Corbo V, Yamao K, Hosono S, Kaaks R, Vashist Y, Gioffreda D, Strobel O, Shimizu Y, Dijk F, Andriulli A, Ivanauskas A, Bugert P, Tavano F, Vodickova L, Zambon CF, Lovecek M, Landi S, Key TJ, Boggi U, Pezzilli R, Jamrozjak K, Mohelnikova-Duchonova B, Mambrini A, Bambi F, Busch O, Paziienza V, Valente R, Theodoropoulos GE, Hackert T, Capurso G, Cavestro GM, Pasquali C, Basso D, Sperti C, Matsuo K, Buchler M, Khaw KT, Izbicki J, Costello E, Katzke V, Michalski C, Stepien A, Rizzato C, Canzian F* : Functional single nucleotide polymorphisms within the cyclin-dependent kinase inhibitor 2 A/ 2 B region affect pancreatic cancer risk. *Oncotarget*, 7 (35):57011-20,2016.
- 005 *Cannioto R, LaMonte MJ, Risch HA, Hong CC, Sucheston-Campbell LE, Eng KH, Brian Szender J, Chang-Claude J, Schmalefeldt B, Klapdor R, Gower E, Minlikeeva AN, Zirpoli GR, Bandera EV, Berchuck A, Cramer D, Doherty JA, Edwards RP, Fridley BL, Goode EL, Goodman MT, Hogdall E, Hosono S, Jensen A, Jordan S, Kjaer SK, Matsuo K, Ness RB, Olsen CM, Olson SH, Leigh Pearce C, Pike MC, Anne Rossing M, Szamreta EA, Thompson PJ, Tseng CC, Vierkant RA, Webb PM, Wentzensen N, Wicklund KG, Winham SJ, Wu AH, Modugno F, Schildkraut*

- JM, Terry KL, Kelemen LE, Moysich KB* : Chronic Recreational Physical Inactivity and Epithelial Ovarian Cancer Risk: Evidence from the Ovarian Cancer Association Consortium. *Cancer epidemiology, biomarkers & prevention: a publication of the American Association for Cancer Research, cosponsored by the American Society of Preventive Oncology*,25(7):1114-24,2016.
- 006 *Cannioto RA, LaMonte MJ, Kelemen LE, Risch HA, Eng KH, Minlikeeva AN, Hong CC, Szender JB, Sucheston-Campbell L, Joseph JM, Berchuck A, Chang-Claude J, Cramer DW, DeFazio A, Diergaarde B, Dork T, Doherty JA, Edwards RP, Fridley BL, Friel G, Goode EL, Goodman MT, Hillemanns P, Hogdall E, Hosono S, Kelley JL, Kjaer SK, Klapdor R, Matsuo K, Odunsi K, Nagle CM, Olsen CM, Paddock LE, Pearce CL, Pike MC, Rossing MA, Schmalefeldt B, Segal BH, Szamreta EA, Thompson PJ, Tseng CC, Vierkant R, Schildkraut JM, Wentzensen N, Wicklund KG, Winham SJ, Wu AH, Modugno F, Ness RB, Jensen A, Webb PM, Terry K, Bandera EV, Moysich KB* : Recreational physical inactivity and mortality in women with invasive epithelial ovarian cancer: evidence from the Ovarian Cancer Association Consortium. *British journal of cancer*,115(1): 95-101,2016.
- 007 *Chen Y, Wu F, Saito E, Lin Y, Song M, Luu HN, Gupta PC, Sawada N, Tamakoshi A, Shu XO, Koh WP, Xiang YB, Tomata Y, Sugiyama K, Park SK, Matsuo K, Nagata C, Sugawara Y, Qiao YL, You SL, Wang R, Shin MH, Pan WH, Pednekar MS, Tsugane S, Cai H, Yuan JM, Gao YT, Tsuji I, Kanemura S, Ito H, Wada K, Ahn YO, Yoo KY, Ahsan H, Chia KS, Boffetta P, Zheng W, Inoue M, Kang D, Potter JD* : Association between type 2 diabetes and risk of cancer mortality: a pooled analysis of over 771,000 individuals in the Asia Cohort Consortium. *Diabetologia*,60(6):1022-32, 2017.
- 008 *Darabi H, Beesley J, Droit A, Kar S, Nord S, Moradi Marjaneh M, Soucy P, Michailidou K, Ghoussaini M, Fues Wahl H, Bolla MK, Wang Q, Dennis J, Alonso MR, Andrulis IL, Anton-Culver H, Arndt V, Beckmann MW, Benitez J, Bogdanova NV, Bojesen SE, Brauch H, Brenner H, Broeks A, Bruning T, Burwinkel B, Chang-Claude J, Choi JY, Conroy DM, Couch FJ, Cox A, Cross SS, Czene K, Devilee P, Dork T, Easton DF, Fasching PA, Figueroa J, Fletcher O, Flyger H, Galle E, Garcia-Closas M, Giles GG, Goldberg MS, Gonzalez-Neira A, Guenel P, Haiman CA, Hallberg E, Hamann U, Hartman M, Hollestelle A, Hopper JL, Ito H, Jakubowska A, Johnson N, Kang D, Khan S, Kosma VM, Krieger M, Kristensen V, Lambrechts D, Le Marchand L, Lee SC, Lindblom A, Lophatananon A, Lubinski J, Mannermaa A, Manoukian S, Margolin S, Matsuo K, Mayes R, McKay J, Meindl A, Milne RL, Muir K, Neuhausen SL, Nevanlinna H, Olsowold C, Orr N, Peterlongo P, Pita G, Pylkas K, Rudolph A, Sangrajrang S, Sawyer EJ, Schmidt MK, Schmutzler RK, Seynaeve C, Shah M, Shen CY, Shu XO, Southey MC, Stram DO, Surowy H, Swerdlow A, Teo SH, Tessier DC, Tomlinson I, Torres D, Truong T, Vachon CM, Vincent D, Winqvist R, Wu AH, Wu PE, Yip CH, Zheng W, Pharoah PD, Hall P, Edwards SL, Simard J, French JD, Chenevix-Trench G, Dunning AM* : Fine scale mapping of the 17q22 breast cancer locus using dense SNPs, genotyped within the Collaborative Oncological Gene-Environment Study (COGS). *Scientific reports*, 6 :32512,2016.
- 009 *Dunning AM, Michailidou K, Kuchenbaecker KB, Thompson D, French JD, Beesley J, Healey CS, Kar S, Pooley KA, Lopez-Kowles E, Dicks E, Barrowdale D, Sinnott-Armstrong NA, Sallari RC, Hillman KM, Kaufmann S, Sivakumaran H, Moradi Marjaneh M, Lee JS, Hills M, Jarosz M, Drury S, Canisius S, Bolla MK, Dennis J, Wang Q, Hopper JL, Southey MC, Broeks A, Schmidt MK, Lophatananon A, Muir K, Beckmann MW, Fasching PA, Dos-Santos-Silva I, Peto J, Sawyer EJ, Tomlinson I, Burwinkel B, Marme F, Guenel P, Truong T, Bojesen SE, Flyger H, Gonzalez-Neira A, Perez JI, Anton-Culver H, Eunjung L, Arndt V, Brenner H, Meindl A, Schmutzler RK, Brauch H, Hamann U, Aittomaki K, Blomqvist C, Ito H, Matsuo K, Bogdanova N, Dork T, Lindblom A, Margolin S, Kosma VM, Mannermaa A, Tseng CC, Wu AH, Lambrechts D, Wildiers H, Chang-Claude J, Rudolph A, Peterlongo P, Radice P, Olson JE, Giles GG, Milne RL, Haiman CA, Henderson BE, Goldberg MS, Teo SH, Yip CH, Nord S, Borresen-Dale AL, Kristensen V, Long J, Zheng W, Pylkas K, Winqvist R, Andrulis IL, Knight JA, Devilee P, Seynaeve C, Figueroa J, Sherman ME, Czene K, Darabi H, Hollestelle A, van den Ouweland AM, Humphreys K, Gao YT, Shu XO, Cox A, Cross SS, Blot W, Cai Q, Ghoussaini M, Perkins BJ, Shah M, Choi JY, Kang D, Lee SC, Hartman M, Kabisch M, Torres D, Jakubowska A, Lubinski J, Brennan P, Sangrajrang S, Ambrosone CB, Toland AE, Shen CY, Wu PE, Orr N, Swerdlow A, McGuffog L, Healey S, Lee A, Kapuscinski M, John EM, Terry MB, Daly MB, Goldgar DE, Buys SS, Janavicius R, Tihomirova L, Tung N, Dorfling CM, van Rensburg EJ, Neuhausen SL, Ejlertsen B, Hansen TV, Osorio A, Benitez J, Rando R, Weitzel JN, Bonanni B, Peissel B, Manoukian S, Papi L, Ottini L, Konstantopoulou I,*



- Apostolou P, Garber J, Rashid MU, Frost D, Izatt L, Ellis S, Godwin AK, Arnold N, Niederacher D, Rhiem K, Bogdanova-Markov N, Sagne C, Stoppa-Lyonnet D, Damiola F, Sinilnikova OM, Mazoyer S, Isaacs C, Claes KB, De Leeneer K, de la Hoya M, Caldes T, Nevanlinna H, Khan S, Mensenkamp AR, Hooning MJ, Rookus MA, Kwong A, Olah E, Diez O, Brunet J, Pujana MA, Gronwald J, Huzarski T, Barkardottir RB, Laframboise R, Soucy P, Montagna M, Agata S, Teixeira MR, Park SK, Lindor N, Couch FJ, Tischkowitz M, Foretova L, Vijai J, Offit K, Singer CF, Rappaport C, Phelan CM, Greene MH, Mai PL, Rennert G, Imyanitov EN, Hulick PJ, Phillips KA, Piedmonte M, Mulligan AM, Glendon G, Bojesen A, Thomassen M, Caligo MA, Yoon SY, Friedman E, Laitman Y, Borg A, von Wachenfeldt A, Ehrencrona H, Rantala J, Olopade OI, Ganz PA, Nussbaum RL, Gayther SA, Nathanson KL, Domchek SM, Arun BK, Mitchell G, Karlan BY, Lester J, Maskarinec G, Woolcott C, Scott C, Stone J, Apicella C, Tamimi R, Luben R, Khaw KT, Helland A, Haakensen V, Dowsett M, Pharoah PD, Simard J, Hall P, Garcia-Closas M, Vachon C, Chenevix-Trench G, Antoniou AC, Easton DF, Edwards SL* : Breast cancer risk variants at 6q25 display different phenotype associations and regulate ESR1, RMND1 and CCDC170. *Nature genetics*,48(4):374-86,2016.
- 010 *Easton DF, Lesueur F, Decker B, Michailidou K, Li J, Allen J, Luccarini C, Pooley KA, Shah M, Bolla MK, Wang Q, Dennis J, Ahmad J, Thompson ER, Damiola F, Pertesi M, Voegelé C, Mebirouk N, Robinot N, Durand G, Forey N, Luben RN, Ahmed S, Aittomäki K, Anton-Culver H, Arndt V, Baynes C, Beckman MW, Benitez J, Van Den Berg D, Blot WJ, Bogdanova NV, Bojesen SE, Brenner H, Chang-Claude J, Chia KS, Choi JY, Conroy DM, Cox A, Cross SS, Czene K, Darabi H, Devilee P, Eriksson M, Fasching PA, Figueroa J, Flyger H, Fostira F, Garcia-Closas M, Giles GG, Glendon G, Gonzalez-Neira A, Guenel P, Haiman CA, Hall P, Hart SN, Hartman M, Hooning MJ, Hsiung CN, Ito H, Jakubowska A, James PA, John EM, Johnson N, Jones M, Kabisch M, Kang D, Kosma VM, Kristensen V, Lambrechts D, Li N, Lindblom A, Long J, Lophatananon A, Lubinski J, Mannermaa A, Manoukian S, Margolin S, Matsuo K, Meindl A, Mitchell G, Muir K, Nevelsteen I, van den Ouweland A, Peterlongo P, Phuap SY, Pylkas K, Rowley SM, Sangrajrang S, Schmutzler RK, Shen CY, Shu XO, Southey MC, Surowy H, Swerdlow A, Teo SH, Tollenaar RA, Tomlinson I, Torres D, Truong T, Vachon C, Verhoef S, Wong-Brown M, Zheng W, Zheng Y, Nevanlinna H, Scott RJ, Andrulis IL, Wu AH, Hopper JL, Couch FJ, Winquist R, Burwinkel B, Sawyer EJ, Schmidt MK, Rudolph A, Dork T, Brauch H, Hamann U, Neuhausen SL, Milne RL, Fletcher O, Pharoah PD, Campbell IG, Dunning AM, Le Calvez-Kelm F, Goldgar DE, Tavtigian SV, Chenevix-Trench G* : No evidence that protein truncating variants in BRIP1 are associated with breast cancer risk: implications for gene panel testing. *Journal of medical genetics*,53(5):298-309,2016.
- 011 *Fujisawa S, Mizuta S, Akiyama H, Ueda Y, Aoyama Y, Hatta Y, Kakihana K, Dobashi N, Sugiura I, Onishi Y, Maeda T, Imai K, Ohtake S, Miyazaki Y, Ohnishi K, Matsuo K, Naoe T* : Phase II study of imatinib-based chemotherapy for newly diagnosed BCR-ABL-positive acute lymphoblastic leukemia. *American journal of hematology*,92(4):367-74,2017.
- 012 *Ghoussaini M, French JD, Michailidou K, Nord S, Beesley J, Canisus S, Hillman KM, Kaufmann S, Sivakumaran H, Moradi Marjaneh M, Lee JS, Dennis J, Bolla MK, Wang Q, Dicks E, Milne RL, Hopper JL, Southey MC, Schmidt MK, Broeks A, Muir K, Lophatananon A, Fasching PA, Beckmann MW, Fletcher O, Johnson N, Sawyer EJ, Tomlinson I, Burwinkel B, Marme F, Guenel P, Truong T, Bojesen SE, Flyger H, Benitez J, Gonzalez-Neira A, Alonso MR, Pita G, Neuhausen SL, Anton-Culver H, Brenner H, Arndt V, Meindl A, Schmutzler RK, Brauch H, Hamann U, Tessier DC, Vincent D, Nevanlinna H, Khan S, Matsuo K, Ito H, Dork T, Bogdanova NV, Lindblom A, Margolin S, Mannermaa A, Kosma VM, Wu AH, Van Den Berg D, Lambrechts D, Floris G, Chang-Claude J, Rudolph A, Radice P, Barile M, Couch FJ, Hallberg E, Giles GG, Haiman CA, Le Marchand L, Goldberg MS, Teo SH, Yip CH, Borresen-Dale AL, Zheng W, Cai Q, Winquist R, Pylkas K, Andrulis IL, Devilee P, Tollenaar RA, Garcia-Closas M, Figueroa J, Hall P, Czene K, Brand JS, Darabi H, Eriksson M, Hooning MJ, Koppert LB, Li J, Shu XO, Zheng Y, Cox A, Cross SS, Shah M, Rhenius V, Choi JY, Kang D, Hartman M, Chia KS, Kabisch M, Torres D, Luccarini C, Conroy DM, Jakubowska A, Lubinski J, Sangrajrang S, Brennan P, Olswold C, Slager S, Shen CY, Hou MF, Swerdlow A, Schoemaker MJ, Simard J, Pharoah PD, Kristensen V, Chenevix-Trench G, Easton DF, Dunning AM, Edwards SL* : Evidence that the 5p12 Variant rs10941679 Confers Susceptibility to Estrogen-Receptor-Positive Breast Cancer through FGF10 and MRPS30 Regulation. *American journal of human genetics*, 99(4):903-11,2016.
- 013 *Hampras SS, Sucheston-Campbell LE, Cannioto R, Chang-Claude J, Modugno F, Dork T, Hillemanns P,*

- Preus L, Knutson KL, Wallace PK, Hong CC, Friel G, Davis W, Nesline M, Pearce CL, Kelemen LE, Goodman MT, Bandera EV, Terry KL, Schoof N, Eng KH, Clay A, Singh PK, Joseph JM, Aben KK, Anton-Culver H, Antonenkova N, Baker H, Bean Y, Beckmann MW, Bisogna M, Bjorge L, Bogdanova N, Brinton LA, Brooks-Wilson A, Bruinsma F, Butzow R, Campbell IG, Carty K, Cook LS, Cramer DW, Cybulski C, Dansonka-Mieszkowska A, Dennis J, Despierre E, Dicks E, Doherty JA, du Bois A, Durst M, Easton D, Eccles D, Edwards RP, Ekici AB, Fasching PA, Fridley BL, Gao YT, Gentry-Maharaj A, Giles GG, Glasspool R, Gronwald J, Harrington P, Harter P, Hasmad HN, Hein A, Heitz F, Hildebrandt MA, Hogdall C, Hogdall E, Hosono S, Iversen ES, Jakubowska A, Jensen A, Ji BT, Karlan BY, Kellar M, Kelley JL, Kiemeny LA, Klapdor R, Kolomeyevskaya N, Krakstad C, Kjaer SK, Kruszka B, Kupryjanczyk J, Lambrechts D, Lambrechts S, Le ND, Lee AW, Lele S, Leminen A, Lester J, Levine DA, Liang D, Lissowska J, Liu S, Lu K, Lubinski J, Lundvall L, Massuger LF, Matsuo K, McGuire V, McLaughlin JR, McNeish I, Menon U, Moes-Sosnowska J, Narod SA, Nedergaard L, Nevanlinna H, Nickels S, Olson SH, Orlow I, Weber RP, Paul J, Pejovic T, Pelttari LM, Perkins B, Permuth-Wey J, Pike MC, Plisiecka-Halasa J, Poole EM, Risch HA, Rossing MA, Rothstein JH, Rudolph A, Runnebaum IB, Rzepecka IK, Salvesen HB, Schernhammer E, Schmitt K, Schwaab I, Shu XO, Shvetsov YB, Siddiqui N, Sieh W, Song H, Southey MC, Tangen IL, Teo SH, Thompson PJ, Timorek A, Tsai YY, Tworoger SS, Tyrer J, van Altena AM, Vergote I, Vierkant RA, Walsh C, Wang-Gohrke S, Wentzensen N, Whittemore AS, Wicklund KG, Wilkens LR, Wu AH, Wu X, Woo YL, Yang H, Zheng W, Ziogas A, Gayther SA, Ramus SJ, Sellers TA, Schildkraut JM, Phelan CM, Berchuck A, Chenevix-Trench G, Cunningham JM, Pharoah PP, Ness RB, Odunsi K, Goode EL, Moysich KB : Assessment of variation in immunosuppressive pathway genes reveals TGFBR2 to be associated with risk of clear cell ovarian cancer. *Oncotarget*, 7 (43):69097-110,2016.
- 014 Han MR, Long J, Choi JY, Low SK, Kweon SS, Zheng Y, Cai Q, Shi J, Guo X, Matsuo K, Iwasaki M, Shen CY, Kim MK, Wen W, Li B, Takahashi A, Shin MH, Xiang YB, Ito H, Kasuga Y, Noh DY, Matsuda K, Park MH, Gao YT, Iwata H, Tsugane S, Park SK, Kubo M, Shu XO, Kang D, Zheng W : Genome-wide association study in East Asians identifies two novel breast cancer susceptibility loci. *Human molecular genetics*, 25(15):3361-71,2016.
- 015 Hidaka A, Sasazuki S, Matsuo K, Ito H, Charvat H, Sawada N, Shimazu T, Yamaji T, Iwasaki M, Inoue M, Tsugane S : CYP1A1, GSTM1 and GSTT1 genetic polymorphisms and gastric cancer risk among Japanese: A nested case-control study within a large-scale population-based prospective study. *International journal of cancer*, 139(4):759-68,2016.
- 016 Hori H, Kudoh T, Nishimura S, Oda M, Yoshida M, Hara J, Tawa A, Usami I, Tanizawa A, Yumura-Yagi K, Kato K, Kobayashi R, Komada Y, Matsuo K, Horibe K : Acute and late toxicities of pirarubicin in the treatment of childhood acute lymphoblastic leukemia: results from a clinical trial by the Japan Association of Childhood Leukemia Study. *International journal of clinical oncology*, 22(2):387-96,2017.
- 017 Horibe K, Yumura-Yagi K, Kudoh T, Nishimura S, Oda M, Yoshida M, Komada Y, Hara J, Tawa A, Usami I, Tanizawa A, Kato K, Kobayashi R, Matsuo K, Hori H : Long-term Results of the Risk-adapted Treatment for Childhood B-Cell Acute Lymphoblastic Leukemia: Report From the Japan Association of Childhood Leukemia Study ALL-97 Trial. *Journal of pediatric hematology/oncology*, 39(2):81-9,2017.
- 018 Horne HN, Chung CC, Zhang H, Yu K, Prokunina-Olsson L, Michailidou K, Bolla MK, Wang Q, Dennis J, Hopper JL, Southey MC, Schmidt MK, Broeks A, Muir K, Lophatananon A, Fasching PA, Beckmann MW, Fletcher O, Johnson N, Sawyer EJ, Tomlinson I, Burwinkel B, Marme F, Guenel P, Truong T, Bojesen SE, Flyger H, Benitez J, Gonzalez-Neira A, Anton-Culver H, Neuhausen SL, Brenner H, Arndt V, Meindl A, Schmutzler RK, Brauch H, Hamann U, Nevanlinna H, Khan S, Matsuo K, Iwata H, Dork T, Bogdanova NV, Lindblom A, Margolin S, Mannermaa A, Kosma VM, Chenevix-Trench G, Wu AH, Ven den Berg D, Smeets A, Zhao H, Chang-Claude J, Rudolph A, Radice P, Barile M, Couch FJ, Vachon C, Giles GG, Milne RL, Haiman CA, Marchand LL, Goldberg MS, Teo SH, Taib NA, Kristensen V, Borresen-Dale AL, Zheng W, Shrubsole M, Winqvist R, Jukkola-Vuorinen A, Andrulis IL, Knight JA, Devilee P, Seynaeve C, Garcia-Closas M, Czene K, Darabi H, Hollestelle A, Martens JW, Li J, Lu W, Shu XO, Cox A, Cross SS, Blot W, Cai Q, Shah M, Luccarini C, Baynes C, Harrington P, Kang D, Choi JY, Hartman M, Chia KS, Kabisch M, Torres D, Jakubowska A, Lubinski J, Sangrajrang S, Brennan P, Slager S, Yannoukakos D, Shen CY, Hou MF, Swerdlow A, Orr N, Simard J, Hall P, Pharoah PD, Easton DF, Chanock SJ, Dunning AM, Figueroa JD : Fine-Mapping of the 1p11.2 Breast Cancer Susceptibility Locus. *PLoS one*, 11(8):e0160316,2016.

- 019 *Hosono S, Ito H, Oze I, Watanabe M, Komori K, Yatabe Y, Shimizu Y, Tanaka H, Matsuo K* : A risk prediction model for colorectal cancer using genome-wide association study-identified polymorphisms and established risk factors among Japanese: results from two independent case-control studies. *European journal of cancer prevention: the official journal of the European Cancer Prevention Organisation (ECP)*,25(6):500-7,2016.
- 020 *Idota A, Sawaki M, Yoshimura A, Hattori M, Inaba Y, Oze I, Kikumori T, Kodera Y, Iwata H* : Bone Scan Index predicts skeletal-related events in patients with metastatic breast cancer. *SpringerPlus*,5(1):1095,2016.
- 021 *Kakiuchi T, Takahara T, Kasugai Y, Arita K, Yoshida N, Karube K, Suguro M, Matsuo K, Nakanishi H, Kiyono T, Nakamura S, Osada H, Sekido Y, Seto M, Tsuzuki S* : Modeling mesothelioma utilizing human mesothelial cells reveals involvement of phospholipase-C beta 4 in YAP-active mesothelioma cell proliferation. *Carcinogenesis*,2016.
- 022 *Kar SP, Beesley J, Amin Al Olama A, Michailidou K, Tyrer J, Kote-Jarai Z, Lawrenson K, Lindstrom S, Ramus SJ, Thompson DJ, Kibel AS, Dansonka-Mieszkowska A, Michael A, Dieffenbach AK, Gentry-Maharaj A, Whittemore AS, Wolk A, Monteiro A, Peixoto A, Kierzek A, Cox A, Rudolph A, Gonzalez-Neira A, Wu AH, Lindblom A, Swerdlow A, Ziogas A, Ekici AB, Burwinkel B, Karlan BY, Nordestgaard BG, Blomqvist C, Phelan C, McLean C, Pearce CL, Vachon C, Cybulski C, Slavov C, Stegmaier C, Maier C, Ambrosone CB, Hogdall CK, Teerlink CC, Kang D, Tessier DC, Schaid DJ, Stram DO, Cramer DW, Neal DE, Eccles D, Flesch-Janys D, Edwards DR, Wokozorczyk D, Levine DA, Yannoukakos D, Sawyer EJ, Bandera EV, Poole EM, Goode EL, Khusnutdinova E, Hogdall E, Song F, Bruinsma F, Heitz F, Modugno F, Hamdy FC, Wiklund F, Giles GG, Olsson H, Wildiers H, Ulmer HU, Pandha H, Risch HA, Darabi H, Salvesen HB, Nevanlinna H, Gronberg H, Brenner H, Brauch H, Anton-Culver H, Song H, Lim HY, McNeish I, Campbell I, Vergote I, Gronwald J, Lubinski J, Stanford JL, Benitez J, Doherty JA, Permuth JB, Chang-Claude J, Donovan JL, Dennis J, Schildkraut JM, Schleutker J, Hopper JL, Kupryjanczyk J, Park JY, Figueroa J, Clements JA, Knight JA, Peto J, Cunningham JM, Pow-Sang J, Batra J, Czene K, Lu KH, Herkommer K, Khaw KT, Matsuo K, Muir K, Offitt K, Chen K, Moysich KB, Aittomaki K, Odunsi K, Kiemenev LA, Massuger LF, Fitzgerald LM, Cook LS, Cannon-Albright L, Hooning MJ, Pike MC, Bolla MK, Luedeke M, Teixeira MR, Goodman MT, Schmidt MK, Riggan M, Aly M, Rossing MA, Beckmann MW, Moisse M, Sanderson M, Southey MC, Jones M, Lush M, Hildebrandt MA, Hou MF, Schoemaker MJ, Garcia-Closas M, Bogdanova N, Rahman N, Le ND, Orr N, Wentzensen N, Pashayan N, Peterlongo P, Guenel P, Brennan P, Paulo P, Webb PM, Broberg P, Fasching PA, Devilee P, Wang Q, Cai Q, Li Q, Kaneva R, Butzow R, Kopperud RK, Schmutzler RK, Stephenson RA, MacInnis RJ, Hoover RN, Winqvist R, Ness R, Milne RL, Travis RC, Benlloch S, Olson SH, McDonnell SK, Tworoger SS, Maia S, Berndt S, Lee SC, Teo SH, Thibodeau SN, Bojesen SE, Gapstur SM, Kjaer SK, Pejovic T, Tammela TL, Dork T, Bruning T, Wahlfors T, Key TJ, Edwards TL, Menon U, Hamann U, Mitev V, Kosma VM, Setiawan VW, Kristensen V, Arndt V, Vogel W, Zheng W, Sieh W, Blot WJ, Kluzniak W, Shu XO, Gao YT, Schumacher F, Freedman ML, Berchuck A, Dunning AM, Simard J, Haiman CA, Spurdle A, Sellers TA, Hunter DJ, Henderson BE, Kraft P, Chanock SJ, Couch FJ, Hall P, Gayther SA, Easton DF, Chenevix-Trench G, Eeles R, Pharoah PD, Lambrechts D* : Genome-Wide Meta-Analyses of Breast, Ovarian, and Prostate Cancer Association Studies Identify Multiple New Susceptibility Loci Shared by at Least Two Cancer Types. *Cancer discovery*,6(9):1052-67, 2016.
- 023 *Kasugai Y, Yoshida N, Ohshima K, Matsuo K, Seto M, Tsuzuki S* : New mouse model of acute adult T-cell leukemia generated by transplantation of AKT, BCLxL, and HBZ-transduced T cells. *Cancer science*,107(8):1072-8,2016.
- 024 *Kawakita D, Oze I, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Yatabe Y, Hasegawa Y, Murakami S, Tanaka H, Matsuo K* : Prognostic Value of Drinking Status and Aldehyde Dehydrogenase 2 Polymorphism in Patients With Head and Neck Squamous Cell Carcinoma. *Journal of epidemiology*,26(6):292-9,2016.
- 025 *Koyanagi YN, Ito H, Oze I, Hosono S, Tanaka H, Abe T, Shimizu Y, Hasegawa Y, Matsuo K* : Development of a prediction model and estimation of cumulative risk for upper aerodigestive tract cancer on the basis of the aldehyde dehydrogenase 2 genotype and alcohol consumption in a Japanese population. *European journal of cancer prevention : the official journal of the European Cancer Prevention Organisation (ECP)*,26(1):38-47,2017.
- 026 *Koyanagi YN, Matsuo K, Ito H, Wakai K, Nagata C, Nakayama T, Sadakane A, Tanaka K, Tamakoshi A, Sugawara Y, Mizoue T, Sawada N, Inoue M, Tsugane S, Sasazuki S, Sasazuki S, Tsugane S, Inoue M, Iwasaki M, Otani T, Sawada N, Shimazu T, Yamaji T, Tsuji I, Tsubono Y, Nishino Y, Tamakoshi A, Matsuo K, Ito H, Wakai K, Nagata C, Mizoue T, Tanaka K, Nakayama T, Sadakane A* : Cigarette



smoking and the risk of head and neck cancer in the Japanese population: a systematic review and meta-analysis. *Japanese journal of clinical oncology*,46( 6 ):580-95, 2016.

- 027 *Kuwahara K, Yamamoto-Ibusuki M, Zhang Z, Phimsen S, Gondo N, Yamashita H, Takeo T, Nakagata N, Yamashita D, Fukushima Y, Yamamoto Y, Iwata H, Saya H, Kondo E, Matsuo K, Takeya M, Iwase H, Sakaguchi N* : GANP protein encoded on human chromosome 21/mouse chromosome 10 is associated with resistance to mammary tumor development. *Cancer science*,107( 4 ):469-77,2016.
- 028 *Lawrenson K, Kar S, McCue K, Kuchenbaecker K, Michailidou K, Tyrer J, Beesley J, Ramus SJ, Li Q, Delgado MK, Lee JM, Aittomaki K, Andrulis IL, Anton-Culver H, Arndt V, Arun BK, Arver B, Bandera EV, Barile M, Barkardottir RB, Barrowdale D, Beckmann MW, Benitez J, Berchuck A, Bisogna M, Bjorge L, Blomqvist C, Blot W, Bogdanova N, Bojesen A, Bojesen SE, Bolla MK, Bonanni B, Borresen-Dale AL, Brauch H, Brennan P, Brenner H, Bruinsma F, Brunet J, Buhari SA, Burwinkel B, Butzow R, Buys SS, Cai Q, Caldes T, Campbell I, Cannioto R, Chang-Claude J, Chiquette J, Choi JY, Claes KB, Cook LS, Cox A, Cramer DW, Cross SS, Cybulski C, Czene K, Daly MB, Damiola F, Dansonka-Mieszkowska A, Darabi H, Dennis J, Devilee P, Diez O, Doherty JA, Domchek SM, Dorfling CM, Dork T, Dumont M, Ehrencrona H, Ejlertsen B, Ellis S, Engel C, Lee E, Evans DG, Fasching PA, Feliubadalo L, Figueroa J, Flesch-Janys D, Fletcher O, Flyger H, Foretova L, Fostira F, Foulkes WD, Fridley BL, Friedman E, Frost D, Gambino G, Ganz PA, Garber J, Garcia-Closas M, Gentry-Maharaj A, Ghousaini M, Giles GG, Glasspool R, Godwin AK, Goldberg MS, Goldgar DE, Gonzalez-Neira A, Goode EL, Goodman MT, Greene MH, Gronwald J, Guenel P, Haiman CA, Hall P, Hallberg E, Hamann U, Hansen TV, Harrington PA, Hartman M, Hassan N, Healey S, Heitz F, Herzog J, Hogdall E, Hogdall CK, Hogervorst FB, Hollestelle A, Hopper JL, Hulick PJ, Huzarski T, Imyanitov EN, Isaacs C, Ito H, Jakubowska A, Janavicius R, Jensen A, John EM, Johnson N, Kabisch M, Kang D, Kapuscinski M, Karlan BY, Khan S, Kiemeny LA, Kjaer SK, Knight JA, Konstantopoulou I, Kosma VM, Kristensen V, Kupryjanczyk J, Kwong A, de la Hoya M, Laitman Y, Lambrechts D, Le N, De Leeneer K, Lester J, Levine DA, Li J, Lindblom A, Long J, Lophatananon A, Loud JT, Lu K, Lubinski J, Mannermaa A, Manoukian S, Le Marchand L, Margolin S, Marme F, Massuger LF, Matsuo K, Mazoyer S, McGuffog L, McLean C, McNeish I,*

*Meindl A, Menon U, Mensenkamp AR, Milne RL, Montagna M, Moysich KB, Muir K, Mulligan AM, Nathanson KL, Ness RB, Neuhausen SL, Nevanlinna H, Nord S, Nussbaum RL, Odunsi K, Offit K, Olah E, Olopade OI, Olson JE, Olsword C, O'Malley D, Orlow I, Orr N, Osorio A, Park SK, Pearce CL, Pejovic T, Peterlongo P, Pfeiler G, Phelan CM, Poole EM, Pylkas K, Radice P, Rantala J, Rashid MU, Rennert G, Rhenius V, Rhiem K, Risch HA, Rodriguez G, Rossing MA, Rudolph A, Salvesen HB, Sangrajrang S, Sawyer EJ, Schildkraut JM, Schmidt MK, Schmutzler RK, Sellers TA, Seynaeve C, Shah M, Shen CY, Shu XO, Sieh W, Singer CF, Sinilnikova OM, Slager S, Song H, Soucy P, Southey MC, Stenmark-Askmal M, Stoppa-Lyonnet D, Sutter C, Swerdlow A, Tchatchou S, Teixeira MR, Teo SH, Terry KL, Terry MB, Thomassen M, Tibiletti MG, Tihomirova L, Tognazzo S, Toland AE, Tomlinson I, Torres D, Truong T, Tseng CC, Tung N, Tworoger SS, Vachon C, van den Ouweland AM, van Doorn HC, van Rensburg EJ, Van't Veer LJ, Vanderstichele A, Vergote I, Vijai J, Wang Q, Wang-Gohrke S, Weitzel JN, Wentzensen N, Whittemore AS, Wildiers H, Winqvist R, Wu AH, Yannoukakos D, Yoon SY, Yu JC, Zheng W, Zheng Y, Khanna KK, Simard J, Monteiro AN, French JD, Couch FJ, Freedman ML, Easton DF, Dunning AM, Pharoah PD, Edwards SL, Chenevix-Trench G, Antoniou AC, Gayther SA* : Functional mechanisms underlying pleiotropic risk alleles at the 19p13. 1 breast-ovarian cancer susceptibility locus. *Nature communications*, 7 :12675,2016.

- 029 *Leoncini E, Edefonti V, Hashibe M, Parpinel M, Cadoni G, Ferraroni M, Serraino D, Matsuo K, Olshan AF, Zevallos JP, Winn DM, Moysich K, Zhang ZF, Morgenstern H, Levi F, Kelsey K, McClean M, Bosetti C, Schantz S, Yu GP, Boffetta P, Lee YC, Chuang SC, Decarli A, La Vecchia C, Boccia S* : Carotenoid intake and head and neck cancer: a pooled analysis in the International Head and Neck Cancer Epidemiology Consortium. *European journal of epidemiology*,31( 4 ):369-83,2016.
- 030 *Liu J, Loncar I, Collee JM, Bolla MK, Dennis J, Michailidou K, Wang Q, Andrulis IL, Barile M, Beckmann MW, Behrens S, Benitez J, Blomqvist C, Boeckx B, Bogdanova NV, Bojesen SE, Brauch H, Brennan P, Brenner H, Broeks A, Burwinkel B, Chang-Claude J, Chen ST, Chenevix-Trench G, Cheng CY, Choi JY, Couch FJ, Cox A, Cross SS, Cuk K, Czene K, Dork T, Dos-Santos-Silva I, Fasching PA, Figueroa J, Flyger H, Garcia-Closas M, Giles GG, Glendon G, Goldberg MS, Gonzalez-Neira A, Guenel P, Haiman CA, Hamann U, Hart SN,*

- Hartman M, Hatse S, Hopper JL, Ito H, Jakubowska A, Kabisch M, Kang D, Kosma VM, Kristensen VN, Le Marchand L, Lee E, Li J, Lophatananon A, Jan L, Mannermaa A, Matsuo K, Milne RL, Neuhausen SL, Nevanlinna H, Orr N, Perez JI, Peto J, Putti TC, Pylkas K, Radice P, Sangrajrang S, Sawyer EJ, Schmidt MK, Schneeweiss A, Shen CY, Shrubsole MJ, Shu XO, Simard J, Southey MC, Swerdlow A, Teo SH, Tessier DC, Thanasitthichai S, Tomlinson I, Torres D, Truong T, Tseng CC, Vachon C, Winqvist R, Wu AH, Yannoukakos D, Zheng W, Hall P, Dunning AM, Easton DF, Hooning MJ, van den Ouweland AM, Martens JW, Hollestelle A* : rs2735383, located at a microRNA binding site in the 3'UTR of NBS1, is not associated with breast cancer risk. *Scientific reports*,6 : 36874,2016.
- 031 *Machiela MJ, Zhou W, Karlins E, Sampson JN, Freedman ND, Yang Q, Hicks B, Dagnall C, Hautman C, Jacobs KB, Abnet CC, Aldrich MC, Amos C, Amundadottir LT, Arslan AA, Beane-Freeman LE, Berndt SI, Black A, Blot WJ, Bock CH, Bracci PM, Brinton LA, Bueno-de-Mesquita HB, Burdett L, Buring JE, Butler MA, Canzian F, Carreon T, Chaffee KG, Chang IS, Chatterjee N, Chen C, Chen C, Chen K, Chung CC, Cook LS, Crous Bou M, Cullen M, Davis FG, De Vivo I, Ding T, Doherty J, Duell EJ, Epstein CG, Fan JH, Figueroa JD, Fraumeni JF, Friedenreich CM, Fuchs CS, Gallinger S, Gao YT, Gapstur SM, Garcia-Closas M, Gaudet MM, Gaziano JM, Giles GG, Gillanders EM, Giovannucci EL, Goldin L, Goldstein AM, Haiman CA, Hallmans G, Hankinson SE, Harris CC, Henriksson R, Holly EA, Hong YC, Hoover RN, Hsiung CA, Hu N, Hu W, Hunter DJ, Hutchinson A, Jenab M, Johansen C, Khaw KT, Kim HN, Kim YH, Kim YT, Klein AP, Klein R, Koh WP, Kolonel LN, Kooperberg C, Kraft P, Krogh V, Kurtz RC, LaCroix A, Lan Q, Landi MT, Marchand LL, Li D, Liang X, Liao LM, Lin D, Liu J, Lissowska J, Lu L, Magliocco AM, Malats N, Matsuo K, McNeill LH, McWilliams RR, Melin BS, Mirabello L, Moore L, Olson SH, Orloff I, Park JY, Patino-Garcia A, Peplonska B, Peters U, Petersen GM, Pooler L, Prescott J, Prokunina-Olsson L, Purdue MP, Qiao YL, Rajaraman P, Real FX, Riboli E, Risch HA, Rodriguez-Santiago B, Ruder AM, Savage SA, Schumacher F, Schwartz AG, Schwartz KL, Seow A, Wendy Setiawan V, Severi G, Shen H, Sheng X, Shin MH, Shu XO, Silverman DT, Spitz MR, Stevens VL, Stolzenberg-Solomon R, Stram D, Tang ZZ, Taylor PR, Teras LR, Tobias GS, Van Den Berg D, Visvanathan K, Wacholder S, Wang JC, Wang Z, Wentzensen N, Wheeler W, White E, Wiencke JK, Wolpin BM, Wong MP, Wu C, Wu T, Wu X, Wu YL, Wunder JS, Xia L, Yang HP, Yang PC, Yu K, Zanetti KA, Zeleniuch-Jacquotte A, Zheng W, Zhou B, Ziegler RG, Perez-Jurado LA, Caporaso NE, Rothman N, Tucker M, Dean MC, Yeager M, Chanock SJ* : Female chromosome X mosaicism is age-related and preferentially affects the inactivated X chromosome. *Nature communications*,7 :11843,2016.
- 032 *Maeda A, Ura T, Asano C, Haegawa I, Nomura M, Komori A, Narita Y, Taniguchi H, Kadowaki S, Muro K, Horio Y, Yoshida T, Oze I, Kajita M, Mizutani A* : A phase II trial of prophylactic olanzapine combined with palonosetron and dexamethasone for preventing nausea and vomiting induced by cisplatin. *Asia-Pacific journal of clinical oncology*,12(3):254-8,2016.
- 033 *Masaoka H, Gallus S, Ito H, Watanabe M, Yokomizo A, Eto M, Matsuo K* : Aldehyde Dehydrogenase 2 Polymorphism Is a Predictor of Smoking Cessation. *Nicotine & tobacco research: official journal of the Society for Research on Nicotine and Tobacco*,2016.
- 034 *Masaoka H, Ito H, Soga N, Hosono S, Oze I, Watanabe M, Tanaka H, Yokomizo A, Hayashi N, Eto M, Matsuo K* : Aldehyde dehydrogenase 2 (ALDH2) and alcohol dehydrogenase 1B (ADH1B) polymorphisms exacerbate bladder cancer risk associated with alcohol drinking: gene-environment interaction. *Carcinogenesis*,37(6): 583-8,2016.
- 035 *Matsuo K* : Message from the new Editor-in-Chief. *Journal of epidemiology*,27(1):1,2017.
- 036 *Miura K, Hirakawa H, Uemura H, Yoshimoto S, Shiotani A, Sugawara M, Homma A, Yokoyama J, Tsukahara K, Yoshizaki T, Yatabe Y, Matsuo K, Ohkura Y, Kosuda S, Hasegawa Y* : Sentinel node biopsy for oral cancer: A prospective multicenter Phase II trial. *Auris, nasus, larynx*,44(3):319-26,2017.
- 037 *Morishima S, Kashiwase K, Matsuo K, Azuma F, Yabe T, Sato-Otsubo A, Ogawa S, Shiina T, Satake M, Saji H, Kato S, Kodera Y, Sasazuki T, Morishima Y* : High-risk HLA alleles for severe acute graft-versus-host disease and mortality in unrelated donor bone marrow transplantation. *Haematologica*,101(4):491-8,2016.
- 038 *Nakao H, Wakai K, Ishii N, Kobayashi Y, Ito K, Yoneda M, Mori M, Nojima M, Kimura Y, Endo T, Matsuyama M, Ishii H, Ueno M, Kuruma S, Egawa N, Matsuo K, Hosono S, Ohkawa S, Nakamura K, Tamakoshi A, Takahashi M, Shimada K, Nishiyama T, Kikuchi S, Lin Y* : Associations between polymorphisms in folate-metabolizing genes and pancreatic cancer risk in Japanese subjects. *BMC gastroenterology*,16(1):83,2016.
- 039 *Ninomiya K, Ichihara E, Hotta K, Sone N, Murakami T, Harada D, Oze I, Kubo T, Tanaka H, Kuyama S,*

- Kishino D, Bessho A, Harita S, Katsui K, Tanimoto M, Kiura K* : Three-Arm Randomized Trial of Sodium Alginate for Preventing Radiation-Induced Esophagitis in Locally Advanced Non-Small Cell Lung Cancer Receiving Concurrent Chemoradiotherapy: The OLCSG1401 Study Protocol. *Clinical lung cancer*,18( 2):245-9,2017.
- 040 *Nishida Y, Hara M, Sakamoto T, Shinchi K, Kawai S, Naito M, Hamajima N, Kadota A, Suzuki S, Ibusuki R, Hirata A, Yamaguchi M, Kuriyama N, Oze I, Mikami H, Kubo M, Tanaka H* : Influence of cigarette smoking and inflammatory gene polymorphisms on glycated hemoglobin in the Japanese general population. *Preventive medicine reports*, 3:288-95,2016.
- 041 *Nomura M, Oze I, Kodaira T, Abe T, Komori A, Narita Y, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Andoh M, Tachibana H, Uemura N, Tajika M, Niwa Y, Muto M, Muro K* : Comparison between surgery and definitive chemoradiotherapy for patients with resectable esophageal squamous cell carcinoma: a propensity score analysis. *International journal of clinical oncology*,21( 5 ):890-8,2016.
- 042 *Otsu H, Imori M, Ando K, Saeki H, Aishima S, Oda Y, Morita M, Matsuo K, Kitao H, Oki E, Maehara Y* : Gastric Cancer Patients with High PLK 1 Expression and DNA Aneuploidy Correlate with Poor Prognosis. *Oncology*,91(1 ):31-40,2016.
- 043 *Oze I, Shimada S, Nagasaki H, Akiyama Y, Watanabe M, Yatabe Y, Matsuo K, Yuasa Y* : Plasma microRNA-103, microRNA-107, and microRNA-194 levels are not biomarkers for human diffuse gastric cancer. *Journal of cancer research and clinical oncology*,143( 3): 551-4,2017.
- 044 *Permuth JB, Pirie A, Ann Chen Y, Lin HY, Reid BM, Chen Z, Monteiro A, Dennis J, Mendoza-Fandino G, Anton-Culver H, Bandera EV, Bisogna M, Brinton L, Brooks-Wilson A, Carney ME, Chenevix-Trench G, Cook LS, Cramer DW, Cunningham JM, Cybulski C, D'Aloisio AA, Anne Doherty J, Earp M, Edwards RP, Fridley BL, Gayther SA, Gentry-Maharaj A, Goodman MT, Gronwald J, Hogdall E, Iversen ES, Jakubowska A, Jensen A, Karlan BY, Kelemen LE, Kjaer SK, Kraft P, Le ND, Levine DA, Lissowska J, Lubinski J, Matsuo K, Menon U, Modugno R, Moysich KB, Nakanishi T, Ness RB, Olson S, Orlov I, Pearce CL, Pejovic T, Poole EM, Ramus SJ, Anne Rossing M, Sandler DP, Shu XO, Song H, Taylor JA, Teo SH, Terry KL, Thompson PJ, Tworoger SS, Webb PM, Wentzensen N, Wilkens LR, Winham S, Woo YL, Wu AH, Yang H, Zheng W, Ziogas A, Phelan CM, Schildkraut JM, Berchuck A, Goode EL, Pharoah PD, Sellers TA* : Exome genotyping arrays to identify rare and low frequency variants associated with epithelial ovarian cancer risk. *Human molecular genetics*,25(16): 3600-12,2016.
- 045 *Praud D, Rota M, Pelucchi C, Bertuccio P, Rosso T, Galeone C, Zhang ZF, Matsuo K, Ito H, Hu J, Johnson KC, Yu GP, Palli D, Ferraroni M, Muscat J, Lunet N, Peleteiro B, Malekzadeh R, Ye W, Song H, Zaridze D, Maximovitch D, Aragonés N, Castano-Vinyals G, Vioque J, Navarrete-Munoz EM, Pakseresht M, Pourfarzi F, Wolk A, Orsini N, Bellavia A, Hakansson N, Mu L, Pastorino R, Kurtz RC, Derakhshan MH, Laggiou A, Laggiou P, Boffetta P, Boccia S, Negri E, La Vecchia C* : Cigarette smoking and gastric cancer in the Stomach Cancer Pooling (StoP) Project. *European journal of cancer prevention: the official journal of the European Cancer Prevention Organisation (ECP)*,2016.
- 046 *Sawabe M, Ito H, Oze I, Hosono S, Kawakita D, Tanaka H, Hasegawa Y, Murakami S, Matsuo K* : Heterogeneous impact of alcohol consumption according to treatment method on survival in head and neck cancer: A prospective study. *Cancer science*,108( 1 ):91-100,2017.
- 047 *Seow WJ, Matsuo K, Hsiung CA, Shiraishi K, Song M, Kim HN, Wong MP, Hong YC, Hosgood HD, 3rd, Wang Z, Chang IS, Wang JC, Chatterjee N, Tucker M, Wei H, Mitsudomi T, Zheng W, Kim JH, Zhou B, Caporaso NE, Albanes D, Shin MH, Chung LP, An SJ, Wang P, Zheng H, Yatabe Y, Zhang XC, Kim YT, Shu XO, Kim YC, Bassig BA, Chang J, Ho JC, Ji BT, Kubo M, Daigo Y, Ito H, Momozawa Y, Ashikawa K, Kamatani Y, Honda T, Sakamoto H, Kunitoh H, Tsuta K, Watanabe SI, Nokihara H, Miyagi Y, Nakayama H, Matsumoto S, Tsuboi M, Goto K, Yin Z, Shi J, Takahashi A, Goto A, Minamiya Y, Shimizu K, Tanaka K, Wu T, Wei F, Wong JY, Matsuda F, Su J, Kim YH, Oh IJ, Song F, Lee VH, Su WC, Chen YM, Chang GC, Chen KY, Huang MS, Yang PC, Lin HC, Xiang YB, Seow A, Park JY, Kweon SS, Chen CJ, Li H, Gao YT, Wu C, Qian B, Lu D, Liu J, Jeon HS, Hsiao CF, Sung JS, Tsai YH, Jung YJ, Guo H, Hu Z, Wang WC, Chung CC, Lawrence C, Burdett L, Yeager M, Jacobs KB, Hutchinson A, Berndt SI, He X, Wu W, Wang J, Li Y, Choi JE, Park KH, Sung SW, Liu L, Kang CH, Hu L, Chen CH, Yang TY, Xu J, Guan P, Tan W, Wang CL, Siho AD, Chen Y, Choi YY, Hung JY, Kim JS, Yoon HI, Cai Q, Lin CC, Park IK, Xu P, Dong J, Kim C, He Q, Perng RP, Chen CY, Vermeulen R, Wu J, Lim WY, Chen KC, Chan JK, Chu M, Li YJ, Li J, Chen H, Yu CJ, Jin L, Lo YL, Chen YH, Fraumeni JF, Jr. , Liu J, Yamaji T, Yang Y, Hicks B, Wyatt K, Li SA, Dai J, Ma H, Jin G, Song B, Wang Z, Cheng S, Li X, Ren Y, Cui P, Iwasaki M, Shimazu T, Tsugane S, Zhu J, Jiang G, Fei K, Wu G,*



- Chien LH, Chen HL, Su YC, Tsai FY, Chen YS, Yu J, Stevens VL, Laird-Offringa IA, Marconett CN, Lin D, Chen K, Wu YL, Landi MT, Shen H, Rothman N, Kohno T, Chanock SJ, Lan Q* : Association between GWAS-identified lung adenocarcinoma susceptibility loci and EGFR mutations in never-smoking Asian women, and comparison with findings from Western populations. *Human molecular genetics*,26( 2):454-65,2017.
- 048 *Shi J, Park JH, Duan J, Berndt ST, Moy W, Yu K, Song L, Wheeler W, Hua X, Silverman D, Garcia-Closas M, Hsiung CA, Figueroa JD, Cortessis VK, Malats N, Karagas MR, Vineis P, Chang IS, Lin D, Zhou B, Seow A, Matsuo K, Hong YC, Caporaso NE, Wolpin B, Jacobs E, Petersen GM, Klein AP, Li D, Risch H, Sanders AR, Hsu L, Schoen RE, Brenner H, Stolzenberg-Solomon R, Gejman P, Lan Q, Rothman N, Amundadottir LT, Landi MT, Levinson DF, Chanock SJ, Chatterjee N* : Winner's Curse Correction and Variable Thresholding Improve Performance of Polygenic Risk Modeling Based on Genome-Wide Association Study Summary-Level Data. *PLoS genetics*,12(12):e1006493,2016.
- 049 *Shi J, Zhang Y, Zheng W, Michailidou K, Ghoussaini M, Bolla MK, Wang Q, Dennis J, Lush M, Milne RL, Shu XO, Beesley J, Kar S, Andrulis IL, Anton-Culver H, Arndt V, Beckmann MW, Zhao Z, Guo X, Benitez J, Beeghly-Fadiel A, Blot W, Bogdanova NV, Bojesen SE, Brauch H, Brenner H, Brinton L, Broeks A, Bruning T, Burwinkel B, Cai H, Canisius S, Chang-Claude J, Choi JY, Couch FJ, Cox A, Cross SS, Czene K, Darabi H, Devilee P, Droit A, Dork T, Fasching PA, Fletcher O, Flyger H, Fostira F, Gaborieau V, Garcia-Closas M, Giles GG, Guenel P, Haiman CA, Hamann U, Hartman M, Miao H, Hollestelle A, Hopper JL, Hsiung CN, Ito H, Jakubowska A, Johnson N, Torres D, Kabisch M, Kang D, Khan S, Knight JA, Kosma VM, Lambrechts D, Li J, Lindblom A, Lophatananon A, Lubinski J, Mannermaa A, Manoukian S, Le Marchand L, Margolin S, Marme F, Matsuo K, McLean C, Meindl A, Muir K, Neuhausen SL, Nevanlinna H, Nord S, Borresen-Dale AL, Olson JE, Orr N, van den Ouweland AMW, Peterlongo P, Putti TC, Rudolph A, Sangrajrang S, Sawyer EJ, Schmidt MK, Schmutzler RK, Shen CY, Hou MF, Shrubsole MJ, Southey MC, Swerdlow A, Teo SH, Thienpont B, Toland AE, Tollenaar R, Tomlinson I, Truong T, Tseng CC, Wen W, Winqvist R, Wu AH, Yip CH, Zamora PM, Zheng Y, Floris G, Cheng CY, Hoening MJ, Martens JWM, Seynaeve C, Kristensen VN, Hall P, Pharoah PDP, Simard J, Chenevix-Trench G, Dunning AM, Antoniou AC, Easton DF, Cai Q, Long J* : Fine-scale mapping of 8q24 locus identifies multiple independent risk variants for breast cancer. *International journal of cancer*,139( 6):1303-17,2016.
- 050 *Shiraishi K, Okada Y, Takahashi A, Kamatani Y, Momozawa Y, Ashikawa K, Kunitoh H, Matsumoto S, Takano A, Shimizu K, Goto A, Tsuta K, Watanabe S, Ohe Y, Watanabe Y, Goto Y, Nokihara H, Furuta K, Yoshida A, Goto K, Hishida T, Tsuboi M, Tsuchihara K, Miyagi Y, Nakayama H, Yokose T, Tanaka K, Nagashima T, Ohtaki Y, Maeda D, Imai K, Minamiya Y, Sakamoto H, Saito A, Shimada Y, Sunami K, Saito M, Inazawa J, Nakamura Y, Yoshida T, Yokota J, Matsuda F, Matsuo K, Daigo Y, Kubo M, Kohno T* : Association of variations in HLA class II and other loci with susceptibility to EGFR-mutated lung adenocarcinoma. *Nature communications*, 7:12451,2016.
- 051 *Soh J, Okumura N, Nakata M, Nakamura H, Fukuda M, Kataoka M, Kajiwara S, Sano Y, Aoe M, Kataoka K, Hotta K, Matsuo K, Toyooka S, Date H* : Randomized feasibility study of S-1 for adjuvant chemotherapy in completely resected Stage IA non-small-cell lung cancer: results of the Setouchi Lung Cancer Group Study 0701. *Japanese journal of clinical oncology*, 46( 8):741-7,2016.
- 052 *Takahara T, Matsuo K, Seto M, Nakamura S, Tsuzuki S* : Synergistic activity of Card11 mutant and Bcl 6 in the development of diffuse large B-cell lymphoma in a mouse model. *Cancer science*,107(11):1572-80,2016.
- 053 *Takenaka K, Shimoda K, Uchida N, Shimomura T, Nagafuji K, Kondo T, Shibayama H, Mori T, Usuki K, Azuma T, Tsutsumi Y, Tanaka J, Dairaku H, Matsuo K, Ozawa K, Kurokawa M, Arai S, Akashi K* : Clinical features and outcomes of patients with primary myelofibrosis in Japan: report of a 17-year nationwide survey by the Idiopathic Disorders of Hematopoietic Organs Research Committee of Japan. *International journal of hematology*,105( 1):59-69,2017.
- 054 *Taniguchi C, Sakakibara H, Saka H, Oze I, Tanaka H* : Japanese Nurses' Perceptions Toward Tobacco Use Intervention for Hospitalized Cancer Patients Who Entered End of Life. *Cancer nursing*,39( 6):E45-e51,2016.
- 055 *Uchino K, Mizuno S, Mizutani M, Horio T, Hanamura I, Espinoza JL, Matsuo K, Onizuka M, Kashiwase K, Morishima Y, Fukuda T, Kodera Y, Doki N, Miyamura K, Mori TM, Takami A* : Toll-like receptor 1 variation increases the risk of transplant-related mortality in hematologic malignancies. *Transplant immunology*,38:60-6,2016.
- 056 *Uemura H, Katsuura-Kamano S, Yamaguchi M, Arisawa K, Hamajima N, Hishida A, Kawai S, Oze I, Shinchi K, Takashima N, Suzuki S, Nakahata N, Mikami H, Ohnaka K, Kuriyama N, Kubo M, Tanaka H* : Variant of the clock circadian regulator (CLOCK)

gene and related haplotypes are associated with the prevalence of type 2 diabetes in the Japanese population. *Journal of diabetes*, 8 (5):667-76,2016.

- 057 *Wen W, Shu XO, Guo X, Cai Q, Long J, Bolla MK, Michailidou K, Dennis J, Wang Q, Gao YT, Zheng Y, Dunning AM, Garcia-Closas M, Brennan P, Chen ST, Choi JY, Hartman M, Ito H, Lophatananon A, Matsuo K, Miao H, Muir K, Sangrajrang S, Shen CY, Teo SH, Tseng CC, Wu AH, Yip CH, Simard J, Pharoah PD, Hall P, Kang D, Xiang Y, Easton DF, Zheng W* : Prediction of breast cancer risk based on common genetic variants in women of East Asian ancestry. *Breast cancer research: BCR*, 18(1):124,2016.
- 058 *Wyszynski A, Hong CC, Lam K, Michailidou K, Lytle C, Yao S, Zhang Y, Bolla MK, Wang Q, Dennis J, Hopper JL, Southey MC, Schmidt MK, Broeks A, Muir K, Lophatananon A, Fasching PA, Beckmann MW, Peto J, Dos-Santos-Silva I, Sawyer EJ, Tomlinson I, Burwinkel B, Marme F, Guenel P, Truong T, Bojesen SE, Nordestgaard BG, Gonzalez-Neira A, Benitez J, Neuhausen SL, Brenner H, Dieffenbach AK, Meindl A, Schmutzler RK, Brauch H, Nevanlinna H, Khan S, Matsuo K, Ito H, Dork T, Bogdanova NV, Lindblom A, Margolin S, Mannermaa A, Kosma VM, Wu AH, Van Den Berg D, Lambrechts D, Wildiers H, Chang-Claude J, Rudolph A, Radice P, Peterlongo P, Couch FJ, Olson JE, Giles GG, Milne RL, Haiman CA, Henderson BE, Dumont M, Teo SH, Wong TY, Kristensen V, Zheng W, Long J, Winqvist R, Pylkas K, Andrulis IL, Knight JA, Devilee P, Seynaeve C, Garcia-Closas M, Figueroa J, Klevebring D, Czene K, Hooning MJ, van den Ouweland AM, Darabi H, Shu XO, Gao YT, Cox A, Blot W, Signorello LB, Shah M, Kang D, Choi JY, Hartman M, Miao H, Hamann U, Jakubowska A, Lubinski J, Sangrajrang S, McKay J, Toland AE, Yannoukakos D, Shen CY, Wu PE, Swerdlow A, Orr N, Simard J, Pharoah PD, Dunning AM, Chenevix-Trench G, Hall P, Bandera E, Amos C, Ambrosone C, Easton DF, Cole MD* : An intergenic risk locus containing an enhancer deletion in 2 q35 modulates breast cancer risk by deregulating IGFBP 5 expression. *Human molecular genetics*, 25(17):3863-76,2016.
- 059 *Yabe M, Yabe H, Morimoto T, Fukumura A, Ohtsubo K, Koike T, Yoshida K, Ogawa S, Ito E, Okuno Y, Muramatsu H, Kojima S, Matsuo K, Hira A, Takata M* : The phenotype and clinical course of Japanese Fanconi Anaemia infants is influenced by patient, but not maternal ALDH 2 genotype. *British journal of haematology*, 175(3):457-61,2016.
- 060 *Yasuda T, Tsuzuki S, Kawazu M, Hayakawa F, Kojima S, Ueno T, Imoto N, Kohsaka S, Kunita A, Doi K, Sakura T, Yujiri T, Kondo E, Fujimaki K, Ueda Y, Aoyama Y, Ohtake S, Takita J, Sai E, Taniwaki M, Kurokawa M, Morishita S, Fukayama M, Kiyoi H, Miyazaki Y, Naoe T, Mano H* : Recurrent DUX 4 fusions in B cell acute lymphoblastic leukemia of adolescents and young adults. *Nature genetics*, 48(5): 569-74, 2016.
- 061 *Zeng C, Guo X, Long J, Kuchenbaecker KB, Droit A, Michailidou K, Ghoussaini M, Kar S, Freeman A, Hopper JL, Milne RL, Bolla MK, Wang Q, Dennis J, Agata S, Ahmed S, Aittomaki K, Andrulis IL, Anton-Culver H, Antonenkova NN, Arason A, Arndt V, Arun BK, Arver B, Bacot F, Barrowdale D, Baynes C, Beeghly-Fadiel A, Benitez J, Bermisheva M, Blomqvist C, Blot WJ, Bogdanova NV, Bojesen SE, Bonanni B, Borresen-Dale AL, Brand JS, Brauch H, Brennan P, Brenner H, Broeks A, Bruning T, Burwinkel B, Buys SS, Cai Q, Caldes T, Campbell I, Carpenter J, Chang-Claude J, Choi JY, Claes KB, Clarke C, Cox A, Cross SS, Czene K, Daly MB, de la Hoya M, De Leeneer K, Devilee P, Diez O, Domchek SM, Doody M, Dorfling CM, Dork T, Dos-Santos-Silva I, Dumont M, Dwek M, Dworniczak B, Egan K, Eilber U, Einbeigi Z, Ejlertsen B, Ellis S, Frost D, Lalloo F, Fasching PA, Figueroa J, Flyger H, Friedlander M, Friedman E, Gambino G, Gao YT, Garber J, Garcia-Closas M, Ghrig A, Daniola F, Lesueur F, Mazoyer S, Stoppa-Lyonnet D, Giles GG, Godwin AK, Goldgar DE, Gonzalez-Neira A, Greene MH, Guenel P, Haeberle L, Haiman CA, Hallberg E, Hamann U, Hansen TV, Hart S, Hartikainen JM, Hartman M, Hassan N, Healey S, Hogervorst FB, Verhoef S, Hendricks CB, Hillemanns P, Hollestelle A, Hulick PJ, Hunter DJ, Imyanitov EN, Isaacs C, Ito H, Jakubowska A, Janavicius R, Jaworska-Bieniek K, Jensen UB, John EM, Joly Beauparlant C, Jones M, Kabisch M, Kang D, Karlan BY, Kauppila S, Kerin MJ, Khan S, Khusnutdinova E, Knight JA, Konstantopoulou I, Kraft P, Kwong A, Laitman Y, Lambrechts D, Lazaro C, Le Marchand L, Lee CN, Lee MH, Lester J, Li J, Liljegren A, Lindblom A, Lophatananon A, Lubinski J, Mai PL, Mannermaa A, Manoukian S, Margolin S, Marme F, Matsuo K, McGuffog L, Meindl A, Menegaux F, Montagna M, Muir K, Mulligan AM, Nathanson KL, Neuhausen SL, Nevanlinna H, Newcomb PA, Nord S, Nussbaum RL, Offit K, Olah E, Olopade OI, Olsowold C, Osorio A, Papi L, Park-Simon TW, Paulsson-Karlsson Y, Peeters S, Peissel B, Peterlongo P, Peto J, Pfeiler G, Phelan CM, Presneau N, Radice P, Rahman N, Ramus SJ, Rashid MU, Rennert G, Rhiem K, Rudolph A, Salani R, Sangrajrang S, Sawyer EJ, Schmidt MK, Schmutzler RK, Schoemaker MJ,*

- Schurmann P, Seynaeve C, Shen CY, Shrubsole MJ, Shu XO, Sigurdson A, Singer CF, Slager S, Soucy P, Southey M, Steinemann D, Swerdlow A, Szabo CI, Tchatchou S, Teixeira MR, Teo SH, Terry MB, Tessier DC, Teule A, Thomassen M, Tihomirova L, Tischkowitz M, Toland AE, Tung N, Turnbull C, van den Ouweland AM, van Rensburg EJ, Ven den Berg D, Vijai J, Wang-Gohrke S, Weitzel JN, Whittemore AS, Winqvist R, Wong TY, Wu AH, Yannoukakos D, Yu JC, Pharoah PD, Hall P, Chenevix-Trench G, Dunning AM, Simard J, Couch FJ, Antoniou AC, Easton DF, Zheng W* : Identification of independent association signals and putative functional variants for breast cancer risk through fine-scale mapping of the 12p11 locus. *Breast cancer research: BCR*,18(1):64,2016.
- 062 *Zeng C, Matsuda K, Jia WH, Chang J, Kweon SS, Xiang YB, Shin A, Jee SH, Kim DH, Zhang B, Cai Q, Guo X, Long J, Wang N, Courtney R, Pan ZZ, Wu C, Takahashi A, Shin MH, Matsuo K, Matsuda F, Gao YT, Oh JH, Kim S, Jung KJ, Ahn YO, Ren Z, Li HL, Wu J, Shi J, Wen W, Yang G, Li B, Ji BT, Brenner H, Schoen RE, Kury S, Gruber SB, Schumacher FR, Stenzel SL, Casey G, Hopper JL, Jenkins MA, Kim HR, Jeong JY, Park JW, Tajima K, Cho SH, Kubo M, Shu XO, Lin D, Zeng YX, Zheng W* : Identification of Susceptibility Loci and Genes for Colorectal Cancer Risk. *Gastroenterology*,150(7):1633-45,2016.
- 腫瘍免疫学部
- [原著]
- 001 *Kuwahara K<sup>#</sup>, Yamamoto-Ibusuki M<sup>#</sup>, Zhang Z<sup>#</sup>, Phimsen S, Gondo N, Yamashita H, Takeo T, Nakagata N, Yamashita D, Fukushima Y, Yamamoto Y, Iwata H, Saya H, Kondo E, Matsuo K, Takeya M, Iwase H, Sakaguchi N. (<sup>#</sup>Equal contribution)* : GANP protein encoded on human chromosome 21/mouse chromosome 10 is associated with resistance in mammary tumor development. *Cancer Sci*.107:469-477,2016.
- 002 *Yanada M, Yamamoto Y, Iba S, Okamoto A, Inaguma Y, Tokuda M, Morishima S, Kanie T, Mizuta S, Akatsuka Y, Okamoto M, Emi N* : TP53 mutations in older adults with acute myeloid leukemia. *Int J Hematol*. 103:429-435,2016.
- 003 *Ueda N, Zhang R, Tatsumi M, Liu TY, Kitayama S, Yasui Y, Sugai S, Iwama T, Senju S, Okada S, Nakatsura T, Kuzushima K, Kiyoi H, Naoe T, Kaneko S, Uemura Y* : BCR-ABL-specific CD4+ T-helper cells promote the priming of antigen-specific cytotoxic T cells via dendritic cells. *Cell Mol Immunol*. 2016 May 16. doi: 10.1038/cmi.2016.7.[Epub ahead of print]
- 004 *Wang Q<sup>#</sup>, Zhang L<sup>#</sup>, Kuwahara K<sup>#</sup>, Li L, Liu Z, Li T, Zhu H, Liu J, Xu Y, Xie J, Morioka H, Sakaguchi N, Qin C, Liu G. (<sup>#</sup>Equal contribution)* : SARS-coronavirus epitopes appeared in immunodominant in human elicited both enhancing and preventive effects on infection in non-human primates. *ACS Infect Dis*. 2:361-376,2016.
- 005 *Casey NP, Fujiwara H, Tanimoto K, Okamoto S, Mineno J, Kuzushima K, Shiku H, Yasukawa M* : A Functionally Superior Second-Generation Vector Expressing an Aurora Kinase-A-Specific T-Cell Receptor for Anti-Leukaemia Adoptive Immunotherapy. : *PLoS One*. 11:e0156896,2016.
- 006 *Kataoka K, Shiraishi Y, Takeda Y, Sakata S, Matsumoto M, Nagano S, Maeda T, Nagata Y, Kitanaka A, Mizuno S, Tanaka H, Chiba K, Ito S, Watatani Y, Kakiuchi N, Suzuki H, Yoshizato T, Yoshida K, Sanada M, Itonaga H, Imaizumi Y, Totoki Y, Munakata W, Nakamura H, Hama N, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Masuda K, Minato N, Kashiwase K, Izutsu K, Takaori-Kondo A, Miyazaki Y, Takahashi S, Shibata T, Kawamoto H, Akatsuka Y, Shimoda K, Takeuchi K, Seya T, Miyano S, Ogawa S* : Aberrant PD-L1 expression through 3'-UTR disruption in multiple cancers. *Nature*.534:402-406, 2016.
- 007 *Shimizu K, Yamasaki S, Shinga J, Sato Y, Watanabe T, Ohara O, Kuzushima K, Yagita H, Komuro Y, Asakura M, Fujii S* : Systemic DC Activation Modulates the Tumor Microenvironment and Shapes the Long-Lived Tumor-Specific Memory Mediated by CD8+ T Cells. *Cancer Res*.76:3756-3766,2016.
- 008 *Takamatsu H, Araki R, Nishimura R, Yachie A, Espinoza JL, Okumura H, Yoshida T, Kuzushima K, Nakao S. Epstein-Barr virus-associated leukemic lymphoma after allogeneic stem cell transplantation.* : *J Clin Virol*.80:82-86,2016.
- 009 *Tanaka H, Fujiwara H, Ochi F, Tanimoto K, Casey N, Okamoto S, Mineno J, Kuzushima K, Shiku H, Sugiyama T, Barrett J, Yasukawa M* : Development of engineered T cells expressing a chimeric CD16-CD3 ζ receptor to improve the clinical efficacy of mogamulizumab therapy against adult T cell leukemia. *Clin Cancer Res*.22:4405-4416,2016.
- [その他]
- 001 葛島清隆 : がん免疫療法における免疫モニタリング. *実験医学*,34:226-230,2016.



感染腫瘍学部

[学会誌への発表]

- 001 *Komiya Y, Onodera Y, Kuroiwa M, Nomimura S, Kubo Y, Nam JM, Kajiwara K, Nada S, Oneyama C, Sabe H, Okada M* : The Rho exchange factor ARHGEF 5 promotes tumor malignancy via epithelial-mesenchymal transition. *Oncogenesis*, 5 ( 9 ):e258,2016.
- 002 *Hashimoto A, Oikawa T, Hashimoto S, Sugino H, Yoshikawa A, Otsuka Y, Handa H, Onodera Y, Nam JM, Oneyama C, Okada M, Fukuda M, Sabe H* : H. P53- and mevalonate pathway-driven malignancies require Arf6 for metastasis and drug resistance. *J Cell Biol*, 213( 1 ):81-95,2016.
- 003 *Oneyama C, Yoshikawa Y, Ninomiya Y, Iino T, Tsukita S, Okada M* : Fer tyrosine kinase oligomer mediates and amplifies Src-induced tumor progression. *Oncogene*,35( 4 ):501-512,2016.
- 004 *Matsuyama R, Okuzaki D, Okada M, Oneyama C* : miR-27b suppresses tumor progression by regulating ARFGEF 1 and the focal adhesion signaling. *Cancer Science*,107( 1 ):28-35,2016.

分子病態学部

[原著]

- 001 *Simmons AN, Kajino-Sakamoto R, Ninomiya-Tsuji J* : TAK 1 regulates Paneth cell integrity partly through blocking necroptosis. *Cell Death Dis*, 7 :e2196,2016.
- 002 *Hashimoto K, Simmons AN, Kajino-Sakamoto R, Tsuji Y, Ninomiya-Tsuji J* : TAK 1 regulates the Nrf2 antioxidant system through modulating p62/SQSTM1. *Antioxid Redox Signal*.25(17):953-964,2016.
- 003 *Sakuma K, Sasaki E, Kimura K, Komori K, Shimizu Y, Yatabe Y, Aoki M* : HNRNPLL, a newly identified colorectal cancer metastasis suppressor, modulates alternative splicing of CD44 during epithelial-mesenchymal transition. *Gut*, 2017 Mar 30. doi:10. 1136/gutjnl-2016-312927.[Epub ahead of print]

腫瘍医化学部

- 001 *Makihara H, Inaba H, Enomoto A, Tanaka H, Tomono Y, Ushida K, Goto M, Kurita K, Nishida Y, Kasahara K, Goto H, Inagaki M* : Desmin phosphorylation by Cdk 1 is required for efficient separation of desmin intermediate filaments in mitosis and detected in murine embryonic/newborn muscle and human rhabdomyosarcoma tissues. *Biochem. Biophys. Res. Commun*, 478:1323-1329,2016.

- 002 *Inaba H, Goto H, Kasahara K, Kumamoto K, Yonemura S, Inoko A, Yamano S, Wanibuchi H, He D, Goshima N, Kiyono T, Hirotsune S, Inagaki M* : Ndel1 suppresses ciliogenesis in proliferating cells by regulating the trichoplein-Aurora A pathway. *J. Cell Biol*, 212:409-423,2016.
- 003 *Akiyama T, Inoko A, Kaji Y, Yonemura S, Kakiguchi K, Segawa H, Ishitsuka K, Yoshida M, Numata O, Leproux P, Couderc V, Oshika T, Kano H* : SHG-specificity of cellular Rootletin filaments enables naïve imaging with universal conservation. *Sci. Rep.* , 7 :39967, 2017.

